

2017

教育要項

(医学科)

香川大学医学部

目 次

香川大学医学部の基本理念	1
教育目標・人材養成上の目的	1
香川大学医学部履修要項	2
香川大学医学部医学科編入学生の在学期間の通算等の取扱いに関する要項	25
香川大学医学部開設科目に係る欠席取扱い申合せ	37
GPAによる成績評価について	45
附属病院における実習中の学生の針刺し等汚染事故発生時の対応について	46
平成28年度行事予定表	47
平成28年度授業時間割表(1～6年次生用)	49
ディプロマ・ポリシー(DP)とDPコードについて	59

シラバス

1年次生

医用物理学	63
医用化学Ⅰ	65
医科生物学	67
微分積分学	70
医用統計学	72
医療心理学	74
医学概論	76
早期体験学習	79
早期医学実習Ⅰ	81
医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅰ	83
国際交流活動	87

2年次生

医用化学Ⅱ	91
細胞生物学	93
自然科学実習(物理学)	95
自然科学実習(化学)	97
自然科学実習(生物学)	99
分子遺伝学	101
分子生物学	103
医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅱ	106
解剖学Ⅰ	109
解剖学Ⅱ	116
生理学Ⅰ	122
生理学Ⅱ	127
生化学	133
早期医学実習Ⅱ	137

3年次生

医学英語Ⅰ	139
医学英語Ⅱ	141
内分泌学	143
病理学Ⅰ	146
病理学Ⅱ	149
免疫学	152
薬理学	156
微生物学	160
医動物学	164
生理・薬理実習	168
臨床総論講義	172
症候論	175
消化器ユニット	178
脳神経筋骨格ユニット	185
精神神経ユニット	191
内分泌代謝ユニット	197
麻酔ユニット	202
救急ユニット	204
放射線ユニット	206
呼吸器系	209
循環器ユニット	214
課題実習	219

4年次生

衛生学	223
公衆衛生学	227
法医学	232
膠原病ユニット	236
生殖系ユニット	239
小児科ユニット	243
感染症ユニット	247
腎・泌尿器ユニット	251
血液系ユニット	255
皮膚感覚系ユニット	259
PBLチュートリアル	268
医療管理学・診断学	279

5年次生

児童精神医学Ⅱ	275
臨床病理検討会	277
医療管理学・診断学	279

6 年次生	
医療総合講義	283
講義・実習時間割表	
1 年次生	288
2 年次生	293
3 年次生	306
4 年次生	321
5 年次生	337
6 年次生	352

香川大学医学部の基本理念

- 1 世界に通ずる医学及び看護学の教育研究を目指す。
- 2 人間性の豊かな医療人並びに医学及び看護学の研究者を養成する。
- 3 医学及び看護学の進歩並びに人類の福祉に貢献すると共に地域医療の充実発展に寄与する。

教 育 目 標

- 1 医学に関する問題を的確に把握し、その問題を自主的、積極的かつ総合的に解決するために必要な基本的知識及び基本的技術を修得する。
- 2 生涯を通じて自己学習する基本的態度・習慣を身につけ、自らを正しく評価できる客観的判断能力を養う。
- 3 医療を単に疾病の治療として把握するにとどまらず、予防・リハビリテーションをも含む包括的なものとしてとらえ、その背景にある精神的・社会的諸問題と関係づけて考える総合的な視野を養う。

人 材 養 成 上 の 目 的

- 1 幅広い教養と高い倫理観を備えた人間性豊かな医師・医学研究者を育成する。
- 2 自ら課題を探求し、それを解決できる高度な専門知識と技術、科学的思考力、判断力をもった医師・医学研究者を育成する。
- 3 地域に根ざした医療人として地域医療に貢献し、かつ地域における医学・医療の中核としての指導的役割を担うことのできる医師・医学研究者を育成する。
- 4 国際交流や国際貢献のための幅広いコミュニケーション能力と国際的視野を持った医師・医学研究者を育成する。

香川大学医学部履修要項

(趣旨)

第1 この要項は、香川大学学則(以下「学則」という。)、香川大学医学部規程及び香川大学追試験及び再試験に関する規則に定めるもののほか、履修に関し必要な事項を定める。

(授業科目等)

第2 開設する授業科目、単位数及び履修年次は、医学科にあつては別表1、看護学科にあつては別表2のとおりとする。ただし、必要がある場合には教授会の議を経て、各年次配当及び単位数を変更することがある。

(授業科目の履修)

第3 授業科目は、原則として別表1及び別表2に定める年次配当順に履修するものとする。

2 学生は、別表1又は別表2に掲げる授業科目を履修しようとするときは、履修届を所定の期日までに総務課学務室(以下「学務室」という。)に提出しなければならない。

3 前項の履修届を提出したのち、履修すべき授業科目の変更又は取消しをする場合は、履修科目変更(取消)届を所定の期日までに学務室に提出しなければならない。

4 医学科の学生は、臨床実習開始前の学生評価のための共用試験(CBT 及び OSCE) (以下「共用試験」という。)に合格し、一般社団法人全国医学部長病院長会議から Student Doctor に認定されなければ、医学実習 I 及び医学実習 II を履修できない。

(単位の認定)

第4 履修した授業科目については、試験又はその他の審査を行い、合格した科目について所定の単位を認定する。また、2学年以上にまたがる科目については、それぞれ履修途中における学年末に履修段階判定を行うことがある。

(試験)

第5 試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

2 定期試験は、原則として学期末に一定の期間を定めて行う。

3 追試験は、定期試験終了後に、再試験は、定期試験及び追試験終了後に期間を定めて行う。

4 前2項に定める試験のほか、担当教員は学習成果の評価を随時に行うことができる。

5 医学科の学生は、学部開設科目の講義については時間数の3分の2以上、実験及び実習については原則としてすべて出席しなければその授業科目の試験を受けることができない。

6 看護学科の学生は、学部開設科目の講義及び演習については3分の2以上、臨地実習については5分の4以上出席しなければその授業科目の試験を受けることができない。

7 次の各号のいずれかの事由により定期試験に欠席した者に対しては、追試験を行う。

(1) 天災その他の非常災害(事由書添付)

(2) 交通機関の突発事故(事由書添付)

(3) 負傷又は疾病(医師の診断書添付)

(4) 3親等内の親族の死亡による忌引き(事由書添付)

(5) 就職試験の受験(事由書添付)

(6) その他医学部長が相当と認める事由(事由書添付)

8 前項による追試験の許可を受けようとする者は、欠席した試験が行われた日の翌日から起算して7日以内に、前項各号に掲げる書類を添えて医学部長に願出しなければならない。

9 再試験は、定期試験又は追試験を受験し、不合格になった場合、願出により科目担当教員の承認を得て受けることができる。

(成績の評価)

第6 成績の評価は、次表のとおりの評点及び評語をもって表し、秀、優、良又は可を合格、不可を不合格とする。

評点	評語
90点以上	秀
80点以上 90点未満	優
70点以上 80点未満	良
60点以上 70点未満	可
60点未満	不可

ただし、医学実習Ⅱ、課題実習、早期医学実習Ⅰ、早期医学実習Ⅱ、国際交流活動はこれらの評点及び評語によらず合格のときは了と評価することができる。

- 2 再試験の合格者の評価は、原則として可とする。
- 3 2か年以上の年次にわたって開講する科目については、その途中の各年次ごとに合又は否の履修段階判定を行うことができる。
- 4 成績の評価に疑義がある場合は、成績調査依頼ができる。

(医学科の履修段階判定及び進級判定)

- 第7 1年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格となった授業科目がある場合は、2年次に進級できない。ただし、不合格科目が全学共通科目のみのときは進級できる。
- 2 2年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格となった授業科目がある場合は、3年次に進級できない。ただし、不合格科目が全学共通科目のみのときは進級できる。
 - 3 3年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格又は否となった授業科目がある場合は、4年次に進級できない。全学共通科目についても、所定の単位以上修得していない場合は進級できない。
 - 4 4年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格若しくは否となった授業科目がある場合、又は共用試験に不合格となった場合は、5年次に進級できない。
 - 5 5年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格若しくは否となった授業科目がある場合は、6年次に進級できない。

(看護学科の進級判定)

- 第8 各学年次末において、該当学年次末までに履修しなければならない必修科目について、不合格となった授業科目がある場合は進級できない。ただし、1年次末において、全学共通科目は進級判定から除くものとし、2年次末までに修得しなければならない。
- 2 3年次末において、1年次から3年次までに履修しなければならない選択科目について、所定の単位以上修得していない場合は進級できない。
 - 3 3年次編入学生については、前2項の規定は適用しない。

(成績の認定)

第9 成績の総合認定は、教授会において審議する。

(再履修)

- 第10 1、2、3、4、5年次に留め置かれた場合は、不合格又は否となった授業科目(実習を含む。)を再履修するものとする。ただし、選択科目については該当する授業科目のうちから再履修するものとする。
- 2 前項の再履修の方法は、担当教員の指示による。

(聴講)

第11 既に合格となった授業科目の聴講を希望する者は、当該授業科目担当教員に聴講願を出して、許可を得た上で講義を聴講することができる。

なお、聴講できる授業科目は、聴講する学生の該当する学年次以下において開講されている授業科目とする。

(試験における不正行為)

第12 試験において不正行為があったときは、教授会の議を経て、不正行為があった学期のすべての授業科目の成績を無効とし、原級に留め置き、学則第84条により懲戒する。

(その他)

第13 その他この履修要項の定めにより処理し難い事項及び不合理な事例が生じた場合は、学務委員会の議を経て処理する。

附 則

- 1 この要項は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 平成15年9月30日に香川医科大学(以下「旧香川医科大学」という。)に在学し、かつ平成16年3月31日に旧香川医科大学に在学する者(以下「在学者」という。)及び在学者の属する年次に編入学等する者が在学しなくなるまでの間、旧香川医科大学を卒業するために必要とされる教育課程その他教育に必要な事項は、旧香川医科大学の医学部規程その他の規程等の定めるところによる。

附 則

この要項は、平成17年3月1日から施行する。ただし、改正後の要項第14及び別表1については、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成21年4月1日から施行する。ただし、平成21年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成21年10月21日から施行する。

附 則

この要項は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成23年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成23年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成25年4月1日から施行する。ただし、平成25年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成26年4月1日から施行する。ただし、平成26年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成26年4月1日から施行する。ただし、平成26年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成27年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。ただし、平成28年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成29年4月1日から施行する。

別表1 (平成29年度入学～)

授業科目等	単位数	履修年次						備 考			
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次				
全学共通科目	主題科目A	1	1					1単位修得	8単位以上修得	14単位以上修得 29単位以上修得	
	主題科目B	4	4					4単位以上修得			
	主題科目C-基礎科目	1	1					1単位修得			
	主題科目C-講義型科目	(2)	(2)					(2単位)(注1)			
	主題科目C-実践型科目	(2)	(2)					(2単位)(注1)			
	学問基礎科目(文系科目)	4	4					4単位以上修得			
	学問基礎科目(理系科目)	(2)	(2)					(2単位)(注1)			
	高度教養教育科目・広範教養教育科目	(2)	(2)					(2単位)(注1)			
	コミュニケーション科目	大学入門ゼミ	2	2					2単位修得		
		情報リテラシー	2	2					2単位修得		
既修外国語		5	4	1				5単位以上修得			
初修外国語		4	4					4単位以上修得			
健康・スポーツ実技		2	2					2単位修得			
専門基礎科目	医用物理学	2	2					必修			
	医用化学Ⅰ	2	2								
	医用化学Ⅱ	2		2							
	医科生物学	2	2								
	細胞生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	微分積分学	2	2								
	医用統計学	2	2								
	分子遺伝学	2		2							
	分子生物学	2		2							
医療心理学	2	2									
早期医学	医学概論	1	1					必修			
	早期体験学習	1	1								
	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅰ	2	2								
	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ	2		2				自由			
	早期医学実習Ⅰ	1	1								
早期医学実習Ⅱ	1		1								
学際医学	医学英語Ⅰ	1			1			必修			
	医学英語Ⅱ	1			1						
	国際交流活動	1			1			自由			
基礎医学	解剖学	6		6				必修			
	生理学	4		4							
	生化学	2		2							
	内分泌学	2			2						
	病理学	4			4						
	免疫学	2			2						
	薬理学	2			2						
	生理・薬理実習	1			1						
	微生物学	2			2						
	医動物学	2			2						
社会医学	衛生学	2				2		必修			
	公衆衛生学	2				2					
	法医学	2				2					

授業科目等	単位数	履修年次						備考
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
統合講義等	臨床総論講義	2		2				必修
	症候論・PBLチュートリアル	2		2				
	消化器ユニット	3		3				
	循環器ユニット	3		3				
	呼吸器ユニット	3		3				
	腎泌尿器ユニット	2			2			
	小児科ユニット	3			3			
	脳神経筋骨格ユニット	3		3				
	精神神経ユニット	3		3				
	生殖系ユニット	2			2			
	内分泌代謝ユニット	3		3				
	血液系ユニット	2			2			
	膠原病ユニット	2			2			
	皮膚感覚系ユニット	4			4			
	麻酔ユニット・救急災害ユニット	1		1				
	感染症ユニット	1			1			
	放射線ユニット	1		1				
課題実習	2		2					
臨床医学	医学実習Ⅰ	14			14			必修
	内科学	3			3			
	小児科学	1			1			
	精神神経医学	1			1			
	皮膚科学	1			1			
	放射線科学	1			1			
	放射線腫瘍学	1			1			
	外科学	3			3			
	脳神経外科学	1			1			
	整形外科	1			1			
	形成外科学	1			1			
	泌尿器科学	1			1			
	眼科学	1			1			
	耳鼻咽喉科学	1			1			
	周産期学婦人科学	1			1			
	小児外科学	1			1			
	麻酔学	1			1			
	救急災害医学	1			1			
	歯科口腔外科学	1			1			
	内分泌代謝・臨床検査医学	1			1			
	総合診療医学	1			1			
	地域医療学	1			1			
	児童精神医学	1				1		
	漢方医学	1				1		
	臨床病理検討会	2				2		
	医療管理学・診断学	2				2		
	医学実習Ⅱ	8				8		
医療総合講義	1					1		
計							卒業要件188単位以上	

(注1) ()内の単位数を上限として卒業要件単位数の単位として認定する。

別表1 (平成28年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備考			
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次				
全学共通科目	主題科目A	2	2						2単位修得			
	主題科目B	12	12						4単位以上修得	6単位以上修得	12単位以上修得	29単位以上修得
	主題科目C-講義型科目								(2単位)(注1)			
	主題科目C-実践型科目								(2単位)(注1)			
	学問基礎科目								4単位以上修得			
	高学年向け教養科目								(2単位)(注1)			
	大学入門ゼミ			2	2					2単位修得		
	コミュニケーション科目	情報リテラシー	2	2					2単位修得			
		既修外国語	5	4	1				5単位以上修得			
		初修外国語	4	4					4単位以上修得			
健康・スポーツ実技		2	2					2単位修得				
専門基礎科目	医用物理学	2	2						必修			
	医用化学Ⅰ	2	2									
	医用化学Ⅱ	2		2								
	医科生物学	2	2									
	細胞生物学	2		2								
	自然科学実習	2		2								
	微分積分学	2	2									
	医用統計学	2	2									
	分子遺伝学	2		2								
	分子生物学	2		2								
	医療心理学	2	2									
早期医学	医学概論	1	1						必修			
	早期体験学習	1	1									
	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅰ	2	2									
	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ	2		2								
	早期医学実習Ⅰ	1	1									自由
早期医学実習Ⅱ	1		1									
学際医	医学英語Ⅰ	1			1				必修			
	医学英語Ⅱ	1			1							
	国際交流活動	1			1							自由
基礎医学	解剖学	6		6					必修			
	生理学	4		4								
	生化学	2		2								
	内分泌学	2			2							
	病理学	4			4							
	免疫学	2			2							
	薬理学	2			2							
	生理・薬理実習	1			1							
	微生物学	2			2							
	医動物学	2			2							
社会医	衛生学	2				2			必修			
	公衆衛生学	2				2						
	法医学	2				2						

授業科目等	単位数	履修年次						備考
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
統合講義等	臨床総論講義	2		2				必修
	症候論・PBLチュートリアル	2		2				
	消化器ユニット	3		3				
	循環器ユニット	3		3				
	呼吸器ユニット	3		3				
	腎泌尿器ユニット	2			2			
	小児科ユニット	3			3			
	脳神経筋骨格ユニット	3		3				
	精神神経ユニット	3		3				
	生殖系ユニット	2			2			
	内分泌代謝ユニット	3		3				
	血液系ユニット	2			2			
	膠原病ユニット	2			2			
	皮膚感覚系ユニット	4			4			
	麻酔ユニット・救急災害ユニット	1		1				
	感染症ユニット	1			1			
	放射線ユニット	1		1				
	課題実習	2		2				
臨床医学	医学実習Ⅰ	14			14			必修
	内科学	3			3			
	小児科学	1			1			
	精神神経医学	1			1			
	皮膚科学	1			1			
	放射線科学	1			1			
	放射線腫瘍学	1			1			
	外科学	3			3			
	脳神経外科学	1			1			
	整形外科	1			1			
	形成外科学	1			1			
	泌尿器科学	1			1			
	眼科学	1			1			
	耳鼻咽喉科学	1			1			
	周産期学婦人科学	1			1			
	小児外科学	1			1			
	麻酔学	1			1			
	救急災害医学	1			1			
	歯科口腔外科学	1			1			
	内分泌代謝・臨床検査医学	1			1			
	総合診療医学	1			1			
	地域医療学	1			1			
	児童精神医学	1				1		
	漢方医学	1				1		
	臨床病理検討会	2				2		
	医療管理学・診断学	2				2		
	医学実習Ⅱ	8				8		
	医療総合講義	1					1	
計							卒業要件188単位以上	

(注1) ()内の単位数を上限として卒業要件単位数の単位として認定する。

別表1 (平成27年度入学～)

授業科目等	単位数	履修年次						備考			
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次				
全学共通科目	主題科目A	2	2					2単位修得		29単位以上修得	
	主題科目B	12	12					6単位以上修得	12単位以上修得		
	学問基礎科目							4単位以上修得			
	コミュニケーション科目	大学入門ゼミ	2	2					2単位修得		
		情報リテラシー	2	2					2単位修得		
		既修外国語	5	4	1				5単位以上修得		
		初修外国語	4	4					4単位以上修得		
		健康・スポーツ実技	2	2					2単位修得		
高学年向け教養科目											
専門基礎科目	医用物理学	2	2					必修			
	医用化学Ⅰ	2	2								
	医用化学Ⅱ	2		2							
	医科生物学	2	2								
	細胞生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	微分積分学	2	2								
	医用統計学	2	2								
	分子遺伝学	2		2							
	分子生物学	2		2							
	医療心理学	2	2								
早期医学	医学概論	1	1					必修			
	早期体験学習	1	1								
	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅰ	2	2								
	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ	2		2				自由			
	早期医学実習Ⅰ	1	1								
	早期医学実習Ⅱ	1		1							
	医療と法規	2	2								
学際医	医学英語Ⅰ	1			1			必修			
	医学英語Ⅱ	1			1						
	国際交流活動	1			1			自由			
基礎医学	解剖学	6		6				必修			
	生理学	4		4							
	生化学	2		2							
	内分泌学	2			2						
	病理学	4			4						
	免疫学	2			2						
	薬理学	2			2						
	生理・薬理実習	1			1						
	微生物学	2			2						
	医動物学	2			2						
社会医	衛生学	2			2			必修			
	公衆衛生学	2			2						
	法医学	2			2						

授業科目等	単位数	履修年次						備 考	
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次		
統合講義等	臨床総論講義	2		2				必修	
	症候論	2		2					
	消化器ユニット	3		3					
	循環器ユニット	3		3					
	呼吸器ユニット	3		3					
	腎泌尿器ユニット	2			2				
	小児科ユニット	3			3				
	脳神経筋骨格ユニット	3		3					
	精神神経ユニット	3		3					
	生殖系ユニット	2			2				
	内分泌代謝ユニット	3		3					
	血液系ユニット	2			2				
	アレルギー・膠原病ユニット	2			2				
	皮膚感覚系ユニット	4			4				
	麻酔・救急ユニット	1		1					
	感染症ユニット	1			1				
	放射線ユニット	1		1					
	課題実習	2		2					
臨床医学	医学実習Ⅰ	14			14			必修	
	内科学	3				3			
	小児科学	1				1			
	精神神経医学	1				1			
	皮膚科学	1				1			
	放射線科学	1				1			
	放射線腫瘍学	1				1			
	外科学	3				3			
	脳神経外科学	1				1			
	整形外科	1				1			
	形成外科学	1				1			
	泌尿器科学	1				1			
	眼科学	1				1			
	耳鼻咽喉科学	1				1			
	周産期学婦人科学	1				1			
	小児外科学	1				1			
	麻酔学	1				1			
	救急災害医学	1				1			
	歯科口腔外科学	1				1			
	臨床検査医学	1				1			
	総合診療医学	1				1			
	地域医療学	1				1			
	児童精神医学	1				1			
	漢方医学	1				1			
	臨床病理検討会	2					2		
	医療管理学・診断学	2				2			
	医学実習Ⅱ	8					8		
	医療総合講義	1					1		
	計								卒業要件188単位以上

別表1 (平成26年度入学～)

授業科目等	単位数	履修年次						備 考		
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
全学共通科目	主題科目A	2	2					2単位修得	29単位以上修得	
	主題科目B	12	12					6単位以上修得		
	学問基礎科目							4単位以上修得		
	コミュニケーション科目	大学入門ゼミ	2	2						2単位修得
		情報リテラシー	2	2						2単位修得
		既修外国語	5	4	1					5単位以上修得
		初修外国語	4	4						4単位以上修得
	健康・スポーツ実技	2	2					2単位修得		
高学年向け教養科目										
専門基礎科目	医用物理学	2	2					必修		
	医用化学Ⅰ	2	2							
	医用化学Ⅱ	2		2						
	医科生物学	2	2							
	細胞生物学	2		2						
	自然科学実習	2		2						
	微分積分学	2	2							
	医用統計学	2	2							
	分子遺伝学	2		2						
	分子生物学	2		2						
	医療心理学	2	2							
早期医学	医学概論	1	1					必修		
	早期体験学習	1	1							
	医療プロフェッショナルの実践Ⅰ	2	2							
	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ	2		2						
	早期医学実習	1	1					自由		
学際医学	医学英語Ⅰ	1			1			必修		
	医学英語Ⅱ	1			1			必修		
	国際交流活動	1			1			自由		
基礎医学	解剖学	6		6				必修		
	生理学	4		4						
	生化学	2		2						
	内分泌学	2			2					
	病理学	4			4					
	免疫学	2			2					
	薬理学	2			2					
	生理・薬理実習	1			1					
	微生物学	2			2					
医動物学	2			2						
社会医学	衛生学	2			2			必修		
	公衆衛生学	2			2					
	法医学	2			2					

授業科目等	単位数	履修年次						備 考
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
統合講義等	臨床総論講義	2			2			必修
	症候論	2			2			
	消化器ユニット	3			3			
	循環器ユニット	3				3		
	呼吸器ユニット	3				3		
	腎泌尿器ユニット	2				2		
	小児科ユニット	3				3		
	神経筋骨格ユニット	3			3			
	精神神経ユニット	3			3			
	生殖系ユニット	2				2		
	内分泌代謝ユニット	3			3			
	血液系ユニット	2				2		
	アレルギー・膠原病ユニット	2				2		
	皮膚感覚系ユニット	4				4		
	麻酔・救急ユニット	1			1			
	感染症ユニット	1				1		
	放射線ユニット	1			1			
課題実習	2			2				
臨床医学	医学実習 I	14				14		必修
	内科学	3				3		
	小児科学	1				1		
	精神神経医学	1				1		
	皮膚科学	1				1		
	放射線科学	1				1		
	放射線腫瘍学	1				1		
	外科学	3				3		
	脳神経外科学	1				1		
	整形外科	1				1		
	形成外科学	1				1		
	泌尿器科学	1				1		
	眼科学	1				1		
	耳鼻咽喉科学	1				1		
	周産期学婦人科学	1				1		
	小児外科学	1				1		
	麻酔学	1				1		
	救急災害医学	1				1		
	歯科口腔外科学	1				1		
	臨床検査医学	1				1		
	総合診療医学	1				1		
	地域医療学	1				1		
	児童精神医学	1					1	
	漢方医学	1					1	
臨床病理検討会	2					2		
医療管理学・診断学	2				2			
医学実習 II	8					8		
医療総合講義	1					1		
計							卒業要件188単位以上	

別表1 (平成25年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考		
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
全学共通科目	主題科目A	2	2						2単位修得	14単位以上修得 29単位以上修得	
	主題科目B	6	6						6単位以上修得		
	学問基礎科目	6	6						6単位以上修得		
	コミュニケーション科目	大学入門ゼミ	2	2							2単位修得
		情報リテラシー	2	2							2単位修得
		既修外国語	5	4	1						5単位以上修得
		初修外国語	4	4							4単位以上修得
		健康・スポーツ実技	2	2							2単位修得
	高学年向け教養科目										
専門基礎科目	医用物理学Ⅰ	2	2						必修		
	医用物理学Ⅱ	2		2							
	医用化学	2	2								
	生命物質化学	2		2							
	生命有機化学	2		2							
	医科生物学基礎	2	2								
	細胞生物科学	2		2							
	形態機能生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	微分積分学	2	2								
	医用統計学	2	2								
	分子遺伝学	2		2							
	分子生物学	2		2							
	児童精神医学Ⅰ	2			2						
早期医学	医学概論	1	1						必修		
	早期体験学習	2	2								
	早期医学実習	1	1						自由		
総合保健福祉医療学	21世紀の社会・環境と医学・医療	1	1						必修		
	保健指導・福祉・カウンセリング・チーム医療の基礎	2		2							
	児童精神医学Ⅱ	1					1				
	ボランティア体験学習	1			1					自由	
学際医学	医学英語	1			1				必修		
	臨床英語	1				1					
	国際交流活動	1			1					自由	
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6		6				必修		
		生理学	4		4						
		生化学	2		2						
	臨床基礎医学	内分泌学	2			2					
		病理学	4			4					
		免疫学	2			2					
		薬理学	2			2					
		微生物学	2			2					
	医動物学	2			2						

授業科目等		単位数	履修年次						備考
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
社会医学	衛生学	2				2			必修
	公衆衛生学	2				2			
	法医学	2				2			
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6				必修
	内分泌・栄養・代謝系	3			3				
	循環器系、腎・尿路系	6				6			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4			
	呼吸器系	3				3			
	消化器系	3			3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4			
	臨床総論講義	3			3				
	生理・薬理実習	1				1			
	課題実習	2			2				
臨床医学	医学実習Ⅰ	17					17		必修
	内科学	3					3		
	小児科学	1					1		
	精神神経医学	1					1		
	皮膚科学	1					1		
	放射線科学	1					1		
	放射線腫瘍学	1					1		
	外科学	3					3		
	脳神経外科学	1					1		
	整形外科	1					1		
	形成外科学	1					1		
	泌尿器科学	1					1		
	眼科学	1					1		
	耳鼻咽喉科学	1					1		
	周産期学婦人科学	1					1		
	小児外科学	1					1		
	麻酔学	1					1		
	救急災害医学	1					1		
	歯科口腔外科学	1					1		
	臨床検査医学	1					1		
	総合診療医学	1					1		
	地域医療学	1					1		
	臨床病理検討会	2					2		
医療管理学・診断学	2					2			
医学実習Ⅱ	4						4		
医療総合講義	2						2		
計								卒業要件188単位以上	

別表1 (平成24年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考		
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
全学共通科目	主題科目A	2	2						2単位修得	22単位以上修得 37単位以上修得	
	主題科目B	6	6						6単位以上修得		
	学問基礎科目	14	14						14単位以上修得		
	コミュニケーション科目	大学入門ゼミ	2	2							2単位修得
		情報リテラシー	2	2							2単位修得
		既修外国語	5	4	1						5単位以上修得
		初修外国語	4	4							4単位以上修得
		健康・スポーツ実技	2	2							2単位修得
高学年向け教養科目											
専門基礎科目	医用物理学	2		2					必修		
	生命物質化学	2		2							
	生命有機化学	2		2							
	応用生物科学	2		2							
	神経生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	医用統計学	2	2								
	分子遺伝学	2		2							
	分子生物学	2		2							
	児童精神医学Ⅰ	2			2						
早期医学	医学概論	1	1						必修		
	早期体験学習	2	2								
	早期医学実習	1	1						自由		
総合保健福祉 医療学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修		
	21世紀の社会・環境と医学・医療	1	1								
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1							
	児童精神医学Ⅱ	1					1				
	ボランティア体験学習	1			1				自由		
学際医学	医学英語	1			1				必修		
	臨床英語	1				1					
	国際交流活動	1			1				自由		
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6		6				必修		
		生理学	4		4						
		生化学	2		2						
	臨床基礎医学	内分泌学	2			2					
		病理学	4			4					
		免疫学	2			2					
		薬理学	2			2					
		微生物学	2			2					
医動物学	2			2							
社会医学	衛生学	2				2			必修		
	公衆衛生学	2				2					
	法医学	2				2					

授業科目等	単位数	履修年次						備 考
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学 医学実習Ⅰ	内科学	6					6	必修
	小児科学	2					2	
	精神神経医学	2					2	
	皮膚科学	2					2	
	放射線医学	2					2	
	外科学	6					6	
	脳神経外科学	2					2	
	整形外科	2					2	
	形成外科学	1					1	
	泌尿器科学	2					2	
	眼科学	2					2	
	耳鼻咽喉科学	2					2	
	周産期学婦人科学	2					2	
	小児外科学	1					1	
	麻酔学	2					2	
	救急災害医学	1					1	
	歯科口腔外科学	1					1	
	臨床検査医学	1					1	
	総合診療医学	2					2	
	地域医療実習	1					1	
臨床病理検討会	2					2		
医療管理学・診断学	2					2		
医学実習Ⅱ	4					4		
医療総合講義	2					2		
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6			必修
	内分泌・栄養・代謝系	3			3			
	循環器系、腎・尿路系	6				6		
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4		
	呼吸器系	3				3		
	消化器系	3			3			
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3		
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4		
	臨床総論講義	3			3			
	生理・薬理実習	1				1		
	課題実習	2			2			
計							卒業要件188単位以上	

別表1 (平成23年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考		
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
全学共通科目	主題科目A	2	2						2単位修得	24単位以上修得 35単位以上修得	
	主題科目B	6	6						6単位以上修得		
	教養ゼミナール	2	2						選択		
	学問基礎科目	14	14						14単位以上修得		
	コミュニケーション科目	既修外国語	5	4	1						5単位以上修得
		初修外国語	4	4							4単位以上修得
		健康・スポーツ実技	2	2							2単位修得
高学年向け教養科目											
専門基礎科目	医用物理学	2		2					必修		
	生命物質化学	2		2							
	生命有機化学	2		2							
	応用生物科学	2		2							
	神経生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	情報科学実習	1	1								
	医用統計学	2	2								
	分子遺伝学	2		2							
	分子生物学	2		2							
	児童精神医学Ⅰ	2			2						
医学早期	医学概論	1	1						必修		
	早期体験学習	3	3								
総合保健福祉医療学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修		
	21世紀の社会・環境と医学・医療	1	1								
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1							
	児童精神医学Ⅱ	1					1				
	ボランティア体験学習	1			1				自由		
医学際	医学英語	1			1				必修		
	臨床英語	1				1					
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6		6				必修		
		生理学	4		4						
		生化学	2		2						
	臨床基礎医学	内分泌学	2			2					
		病理学	4			4					
		免疫学	2			2					
		薬理学	2			2					
		微生物学	2			2					
医動物学	2			2							
社会医学	衛生学	2				2		必修			
	公衆衛生学	2				2					
	法医学	2				2					

授業科目等		単位数	履修年次						備 考
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	内科学	6				6			必修 医療総合講義及び医学実習Ⅰを含む。
	小児科学	2				2			
	精神神経医学	2				2			
	皮膚科学	2				2			
	放射線医学	2				2			
	外科学	6				6			
	脳神経外科学	2				2			
	整形外科	2				2			
	形成外科学	1				1			
	泌尿器科学	2				2			
	眼科学	2				2			
	耳鼻咽喉科学	2				2			
	周産期学婦人科学	2				2			
	小児外科学	1				1			
	麻酔学	2				2			
	救急災害医学	1				1			
	歯科口腔外科学	1				1			
	臨床検査医学	1				1			
	総合診療医学	2				2			
	臨床医学	臨床病理検討会	2					2	必修
医療管理学・診断学		2				2			
医学実習Ⅱ		6					6		
地域医療実習		1				1			
(医療総合講義)							○		
臨床医学	(医学実習Ⅰ)					○	○	必修	
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6			必修	
	内分泌・栄養・代謝系	3			3				
	循環器系、腎・尿路系	7				7			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4			
	呼吸器系	3				3			
	消化器系	3			3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4			
	臨床総論講義	3			3				
	課題実習	2			2				
計								卒業要件188単位以上	

別表1 (平成21年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考	
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次		
全学 共通科目	教養ゼミナール	2	2						選択	24単位 以上修得 35単位 以上修得
	主題科目	8	8						8単位以上修得	
	共通科目	14	14						14単位以上修得	
	健康・スポーツ科目	2	2						2単位修得	
	高学年向け教養科目									
	外国語科目	既修外国語	5	4	1					
初修外国語		4	4						4単位以上修得	
専門 基礎科目	医用物理学	2		2					必修	
	生命物質化学	2		2						
	生命有機化学	2		2						
	応用生物科学	2		2						
	神経生物学	2		2						
	自然科学実習	2		2						
	情報科学実習	1		1						
	数学解析入門	1	1							
	医用統計学	1		1						
	分子遺伝学	2		2						
	分子生物学	2		2						
	児童・思春期医学	2			2					
医 早 学期	医学概論	1	1						必修	
	早期体験学習	3	3							
総合 保健 福祉 医療 学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修	
	21世紀の社会・環境と保健医療福祉	1	1							
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1						
	臨床心理／家族・チームケア	1					1		自由	
	時事医学	1						1		
	ボランティア体験学習	1			1					
医 学 際	医学英語	1			1				必修	
	臨床英語	1				1				
基礎 医学系	基礎 医学	解剖学	6		6				必修	
		生理学	4		4					
		生化学	2		2					
	臨床 基礎 医学	内分泌学	2			2				
		病理学	4			4				
		免疫学	2			2				
		薬理学	2			2				
		微生物学	2			2				
医動物学	2			2						
社会 医学	衛生学	2				2		必修		
	公衆衛生学	2				2				
	法医学	2				2				

授業科目等		単位数	履修年次						備 考
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	内科学	6				6			必修 医療総合講義及び医学実習Ⅰを含む。
	小児科学	2				2			
	精神神経医学	2				2			
	皮膚科学	2				2			
	放射線医学	2				2			
	外科学	6				6			
	脳神経外科学	2				2			
	整形外科	2				2			
	形成外科学	1				1			
	泌尿器科学	2				2			
	眼科学	2				2			
	耳鼻咽喉科学	2				2			
	周産期学婦人科学	2				2			
	小児外科学	1				1			
	麻酔学	2				2			
	救急災害医学	1				1			
	歯科口腔外科学	1				1			
	臨床検査医学	1				1			
	総合診療医学	2				2			
	臨床医学	臨床病理検討会	2					2	必修
医療管理学		2					2		
医学実習Ⅱ		6					6	必修	
地域医療実習		1				1			
(医療総合講義)							○		
(医学実習Ⅰ)					○				
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6			必修	
	内分泌・栄養・代謝系	3			3				
	循環器系、腎・尿路系	7				7			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4			
	呼吸器系	3				3			
	消化器系	3			3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4			
	臨床総論講義	3			3				
	課題実習	2			2				
	計								

別表1 (平成20年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備考	
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次		
全学共通科目	教養ゼミナール	2	2						選択	24単位以上修得 35単位以上修得
	主題科目	8	8						8単位以上修得	
	共通科目	14	14						14単位以上修得	
	健康・スポーツ科目	2	2						2単位修得	
	外国語科目	既修外国語	5	4	1					
初修外国語		4	4						4単位以上修得	
専門基礎科目	医用物理学	2		2					必修	
	生命物質化学	2		2						
	生命有機化学	2		2						
	応用生物科学	2		2						
	神経生物学	2		2						
	自然科学実習	2		2						
	情報科学実習	1		1						
	数学解析入門	1	1							
	医用統計学	1		1						
	分子遺伝学	2		2						
	児童・思春期医学	2			2					
医 早 学期	医学概論	1	1						必修	
	早期体験学習	3	3							
総合保健福祉医療学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修	
	21世紀の社会・環境と保健医療福祉	1	1							
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1						
	臨床心理／家族・チームケア	1					1		自由	
	時事医学	1						1		
	ボランティア体験学習	1			1					
医学 際	医学英語	1			1				必修	
	臨床英語	1				1				
基礎 医学系	基礎 医学	解剖学	6		6				必修	
		生理学	4		4					
		生化学	2		2					
	臨床 基礎 医学	内分泌学	2			2				
		病理学	4			4				
		免疫学	2			2				
		薬理学	2			2				
		微生物学	2			2				
		医動物学	2			2				
分子生物学	1		1							
社会 医学	衛生学	3				3			必修	
	公衆衛生学	3				3				
	法医学	3					3			

授業科目等		単位数	履修年次						備 考
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	内科学	6				6			必修 医療総合講義及び医学実習Ⅰを含む。
	小児科学	2				2			
	精神神経医学	2				2			
	皮膚科学	2				2			
	放射線医学	2				2			
	外科学	6				6			
	脳神経外科学	2				2			
	整形外科	2				2			
	形成外科学	1				1			
	泌尿器科学	2				2			
	眼科学	2				2			
	耳鼻咽喉科学	2				2			
	周産期学婦人科学	2				2			
	小児外科学	1				1			
	麻酔学	2				2			
	救急災害医学	1				1			
	歯科口腔外科学	1				1			
	臨床検査医学	1				1			
	総合診療医学	2				2			
	臨床病理検討会	2					2		必修
医療管理学	2					2			
医学実習Ⅱ	6						6		
	(医療総合講義)							○	必修
	(医学実習Ⅰ)						○		
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6				必修
	内分泌・栄養・代謝系	3			3				
	循環器系、腎・尿路系	7				7			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4			
	呼吸器系	3				3			
	消化器系	3			3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4			
	臨床総論講義	2			2				必修
	課題実習	2			2				必修
計									卒業要件188単位以上

別表1 (平成18年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考	
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次		
全学共通科目	教養ゼミナール	2	2						選択	24単位以上修得 35単位以上修得
	主題科目	8	8						8単位以上必修	
	共通科目	14	14						14単位以上必修	
	健康・スポーツ科目	2	2						2単位必修	
	外国語科目	既修外国語	5	4	1					
初修外国語		4	4						4単位以上必修	
専門基礎科目	医用物理学Ⅰ	2		2					必修	
	医用物理学Ⅱ	2		2						
	生命物質化学	2		2						
	生命有機化学	2		2						
	応用生物科学	2		2						
	神経生物学	2		2						
	自然科学実習	2		2						
	情報科学実習	1		1						
	数学解析入門	1	1							
	医用統計学	1		1						
児童・思春期医学	2			2						
医 早 学期	医学概論	1	1						必修	
	早期体験学習	3	3							
総合保健福祉医療学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修	
	21世紀の社会・環境と保健医療福祉	1	1							
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1						
	臨床心理／家族・チームケア	1					1		自由	
	時事医学	1						1		
ボランティア体験学習	1			1						
医学際	医学英語	1			1				必修	
	臨床英語	1				1				
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6		6				必修	
		生理学	4		4					
		生化学	2		2					
	臨床基礎医学	内分泌学	2			2				
		病理学	4			4				
		免疫学	2			2				
		薬理学	2			2				
		微生物学	2			2				
		医動物学	2			2				
分子生物学	1		1							
社会医学	衛生学	3				3			必修	
	公衆衛生学	3				3				
	法医学	3					3			

授業科目等		単位数	履修年次						備 考
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	内科学	6				6			必修 医療総合講義及び医学実習Ⅰを含む。
	小児科学	2				2			
	精神神経医学	2				2			
	皮膚科学	2				2			
	放射線医学	2				2			
	外科学	6				6			
	脳神経外科学	2				2			
	整形外科	2				2			
	形成外科学	1				1			
	泌尿器科学	2				2			
	眼科学	2				2			
	耳鼻咽喉科学	2				2			
	周産期学婦人科学	2				2			
	小児外科学	1				1			
	麻酔・救急医学	2				2			
	歯科口腔外科学	1				1			
	臨床検査医学	1				1			
	総合診療医学	2				2			
	臨床病理検討会	2					2		
	医療管理学	2					2		
医学実習Ⅱ	7						7		
	(医療総合講義)						○	必修	
	(医学実習Ⅰ)					○			
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6				必修
	内分泌・栄養・代謝系	3			3				
	循環器系、腎・尿路系	7			7				
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4			
	呼吸器系	3				3			
	消化器系	3				3			
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4			
	臨床総論講義	2			2				
	課題実習	2			2				
計									卒業要件188単位以上

香川大学医学部医学科第2年次編入学生の在学期間の 通算等の取扱いに関する要項

(趣旨)

第1 この要項は、香川大学医学部規程第8条第2項の規定に基づき、香川大学医学部医学科における第2年次編入学生(以下「編入学生」という。)の在学期間等について必要な事項を定める。

(修業年限)

第2 編入学生の修業年限は、香川大学学則(以下「学則」という。)第25条の規定にかかわらず5年とする。

(在学期間)

第3 編入学生の在学期間は、学則第26条第1項の規定にかかわらず10年を超えることができない。

ただし、第2年次、第3年次及び第4年次については6年、第5年次及び第6年次について4年をそれぞれ超えることができない。

(卒業要件)

第4 編入学生の卒業要件は、学則第59条の規定にかかわらず5年以上在学し、別表に定めるところにより、143単位以上を修得し、その修了の認定を受けるものとする。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。ただし、平成28年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成29年4月1日から施行する。ただし、平成29年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

別表 (平成29年度入学～)

授業科目等	単位数	履修年次					備考
		2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
専門基礎科目	医用化学Ⅱ	2	2				必修
	細胞生物学	2	2				
	自然科学実習	2	2				
	分子遺伝学	2	2				
	分子生物学	2	2				
早期医学	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ	2	2				必修
	早期医学実習Ⅱ	1	1				自由
学際医学	医学英語Ⅰ	1		1			必修
	医学英語Ⅱ	1		1			
	国際交流活動	1	1				自由
基礎医学	解剖学	6	6				必修
	生理学	4	4				
	生化学	2	2				
	内分泌学	2		2			
	病理学	4		4			
	免疫学	2		2			
	薬理学	2		2			
	生理・薬理実習	1		1			
	微生物学	2		2			
	医動物学	2		2			
社会医学	衛生学	2			2		必修
	公衆衛生学	2			2		
	法医学	2			2		
統合講義等	臨床総論講義	2		2			必修
	症候論・PBLチュートリアル	2		2			
	消化器ユニット	3		3			
	循環器ユニット	3		3			
	呼吸器ユニット	3		3			
	腎泌尿器ユニット	2			2		
	小児科ユニット	3			3		
	脳神経筋骨格ユニット	3		3			
	精神神経ユニット	3		3			
	生殖系ユニット	2			2		
	内分泌代謝ユニット	3		3			
	血液系ユニット	2			2		
	膠原病ユニット	2			2		
	皮膚感覚系ユニット	4			4		
	麻酔ユニット・救急災害ユニット	1		1			
	感染症ユニット	1			1		
	放射線ユニット	1		1			
課題実習	2		2				

授業科目等	単位数	履修年次					備考
		2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	医学実習Ⅰ	14			14		必修
	内科学	3			3		
	小児科学	1			1		
	精神神経医学	1			1		
	皮膚科学	1			1		
	放射線科学	1			1		
	放射線腫瘍学	1			1		
	外科学	3			3		
	脳神経外科学	1			1		
	整形外科	1			1		
	形成外科学	1			1		
	泌尿器科学	1			1		
	眼科学	1			1		
	耳鼻咽喉科学	1			1		
	周産期学婦人科学	1			1		
	小児外科学	1			1		
	麻酔学	1			1		
	救急災害医学	1			1		
	歯科口腔外科学	1			1		
	内分泌代謝・臨床検査医学	1			1		
	総合診療医学	1			1		
	地域医療学	1			1		
	児童精神医学	1			1		
	漢方医学	1			1		
臨床病理検討会	2			2			
医療管理学・診断学	2			2			
医学実習Ⅱ	8			8			
医療総合講義	1			1			
計	145	卒業要件143 単位以上					

別表 (平成28年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次					備考
			2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
専門基礎科	医用化学Ⅱ	2	2					必修
	細胞生物学	2	2					
	自然科学実習	2	2					
	分子遺伝学	2	2					
	分子生物学	2	2					
医早期	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ	2	2					必修
	早期医学実習Ⅱ	1	1					自由
学際医	医学英語Ⅰ	1		1				必修
	医学英語Ⅱ	1		1				
	国際交流活動	1	1					自由
基礎医学	解剖学	6	6					必修
	生理学	4	4					
	生化学	2	2					
	内分泌学	2		2				
	病理学	4		4				
	免疫学	2		2				
	薬理学	2		2				
	生理・薬理実習	1		1				
	微生物学	2		2				
医動物学	2		2					
社会学	衛生学	2			2			必修
	公衆衛生学	2			2			
	法医学	2			2			
統合講義等	臨床総論講義	2		2				必修
	症候論	2		2				
	消化器ユニット	3		3				
	循環器ユニット	3		3				
	呼吸器ユニット	3		3				
	腎泌尿器ユニット	2			2			
	小児科ユニット	3			3			
	脳神経筋骨格ユニット	3		3				
	精神神経ユニット	3		3				
	生殖系ユニット	2			2			
	内分泌代謝ユニット	3		3				
	血液系ユニット	2			2			
	アレルギー・膠原病ユニット	2			2			
	皮膚感覚系ユニット	4			4			
	麻酔・救急ユニット	1		1				
	感染症ユニット	1			1			
	放射線ユニット	1		1				
	課題実習	2		2				

授業科目等	単位数	履修年次					備 考
		2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	医学実習Ⅰ	14			14	1	
	内科学	3			3	3	
	小児科学	1			1	1	
	精神神経医学	1				1	
	皮膚科学	1			1	1	
	放射線科学	1			1	1	
	放射線腫瘍学	1			1	1	
	外科学	3			3	3	
	脳神経外科学	1			1	1	
	整形外科学	1			1	1	
	形成外科学	1			1	1	
	泌尿器科学	1			1	1	
	眼科学	1			1	1	
	耳鼻咽喉科学	1			1	1	
	周産期学婦人科学	1			1	1	
	小児外科学	1			1	1	
	麻酔学	1			1	1	
	救急災害医学	1			1	1	
	歯科口腔外科学	1			1	1	
	臨床検査医学	1			1	1	
	総合診療医学	1			1	1	
	地域医療学	1			1	1	
	児童精神医学	1				1	
	漢方医学	1				1	
	臨床病理検討会	2				2	1
	医療管理学・診断学	2			2	1	
医学実習Ⅱ	8					8	
医療総合講義	1					1	
計							卒業要件143単位以上

別表 (平成27年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次					備考
			2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
専門基礎科目	医用化学Ⅱ	2	2					必修
	細胞生物学	2	2					
	自然科学実習	2	2					
	分子遺伝学	2	2					
	分子生物学	2	2					
早期医学	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ	2	2					必修
学際医学	医学英語Ⅰ	1		1				必修
	医学英語Ⅱ	1		1				必修
	国際交流活動	1			1			自由
基礎医学	解剖学	6	6					必修
	生理学	4	4					
	生化学	2	2					
	内分泌学	2		2				
	病理学	4		4				
	免疫学	2		2				
	薬理学	2		2				
	生理・薬理実習	1		1				
	微生物学	2		2				
医動物学	2		2					
社会医学	衛生学	2			2			必修
	公衆衛生学	2			2			
	法医学	2			2			
統合講義等	臨床総論講義	2		2				必修
	症候論	2		2				
	消化器ユニット	3		3				
	循環器ユニット	3			3			
	呼吸器ユニット	3			3			
	腎泌尿器ユニット	2			2			
	小児科ユニット	3			3			
	神経筋骨格ユニット	3		3				
	精神神経ユニット	3		3				
	生殖系ユニット	2			2			
	内分泌代謝ユニット	3		3				
	血液系ユニット	2			2			
	アレルギー・膠原病ユニット	2			2			
	皮膚感覚系ユニット	4			4			
	麻酔・救急ユニット	1		1				
	感染症ユニット	1			1			
	放射線ユニット	1		1				
課題実習	2		2					

授業科目等	単位数	履修年次					備考
		2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	医学実習Ⅰ	14			14		必修
	内科学	3			3		
	小児科学	1			1		
	精神神経医学	1			1		
	皮膚科学	1			1		
	放射線科学	1			1		
	放射線腫瘍学	1			1		
	外科学	3			3		
	脳神経外科学	1			1		
	整形外科学	1			1		
	形成外科学	1			1		
	泌尿器科学	1			1		
	眼科学	1			1		
	耳鼻咽喉科学	1			1		
	周産期学婦人科学	1			1		
	小児外科学	1			1		
	麻酔学	1			1		
	救急災害医学	1			1		
	歯科口腔外科学	1			1		
	臨床検査医学	1			1		
	総合診療医学	1			1		
	地域医療学	1			1		
	児童精神医学	1				1	
	漢方医学	1				1	
	臨床病理検討会	2				2	
	医療管理学・診断学	2			2		
医学実習Ⅱ	8				8		
医療総合講義	1					1	
計							卒業要件143 単位以上

香川大学医学部医学科第2年次第2学期編入学生の 在学期間の通算等の取扱いに関する要項

(趣旨)

第1 この要項は、香川大学医学部規程第8条第2項の規定に基づき、香川大学医学部医学科における第2年次第2学期編入学生（以下「編入学生」という。）の在学期間等について必要な事項を定める。

(修業年限)

第2 編入学生の修業年限は、香川大学学則（以下「学則」という。）第25条の規定にかかわらず4年6月とする。

(在学期間)

第3 編入学生の在学期間は、学則第26条第1項の規定にかかわらず9年を超えることができない。ただし、第2年次第2学期、第3年次及び第4年次については5年、第5年次及び第6年次については4年をそれぞれ超えることはできない。

(卒業要件)

第4 編入学生の卒業要件は、学則第59条の規定にかかわらず4年6月以上在学し、別表に定めるところにより、127単位以上を習得し、その修了の認定を受けるものとする。

附則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

附則

この要項は、平成22年4月1日から施行する。ただし、平成22年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附則

この要項は、平成24年4月1日から施行する。

附則

この要項は、平成25年4月1日から施行する。

附則

この要項は、平成26年4月1日から施行する。

別表（平成26度入学～）

授業科目等		単位数	履修年次					備考
			2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
専門基礎科目	児童精神医学Ⅰ	2		2				必修
総合保健福祉医療学	児童精神医学Ⅱ	1				1		必修
	ボランティア体験学習	1		1				自由
学際医学	医学英語	1		1				必修
	臨床英語	1			1			
	国際交流活動	1	1					自由
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6	6				必修
		生理学	4	4				
		生化学	2	2				
	臨床基礎医学	内分泌学	2		2			
		病理学	4		4			
		免疫学	2		2			
		薬理学	2		2			
		微生物学	2		2			
医動物学	2		2					
社会医学	衛生学	2			2		必修	
	公衆衛生学	2			2			
	法医学	2			2			
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6		6			必修	
	内分泌・栄養・代謝系	3		3				
	循環器系、腎・尿路系	6			6			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4			4			
	呼吸器系	3			3			
	消化器系	3		3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3			3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4			4			
	臨床総論講義	3		3				
	生理・薬理実習	1			1			
	課題実習	2		2				
医学実習Ⅰ	17				17			
内科学	3				3			
小児科学	1				1			
精神神経医学	1				1			
皮膚科学	1				1			
放射線科学	1				1			
放射線腫瘍学	1				1			
外科学	3				3			
脳神経外科学	1				1			
整形外科学	1				1			
形成外科学	1				1			

授業科目等	単位数	履修年次					備考
		2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	泌尿器科学	1				1	必修
	眼科学	1				1	
	耳鼻咽喉科学	1				1	
	周産期学婦人科学	1				1	
	小児外科学	1				1	
	麻酔学	1				1	
	救急災害医学	1				1	
	歯科口腔外科学	1				1	
	臨床検査医学	1				1	
	総合診療医学	1				1	
	地域医療学	1				1	
	臨床病理検討会	2				2	
	医療管理学・診断学	2				2	
	医学実習Ⅱ	4				4	
	医療総合講義	2				2	
計	129	129					卒業要件127単位以上

別表（平成25年度入学～）

授業科目等		単位数	備考						
			2年次	3年次	4年次	5年次	6年次		
専門基礎科目	児童精神医学Ⅰ	2		2				必修	
総合保健福祉医療学	児童精神医学Ⅱ	1				1		必修	
	ボランティア体験学習	1		1				自由	
学際医学	医学英語	1		1				必修	
	臨床英語	1			1				
	国際交流活動	1	1					自由	
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6	6					必修
		生理学	4	4					
		生化学	2	2					
	臨床基礎医学	内分泌学	2		2				
		病理学	4		4				
		免疫学	2		2				
		薬理学	2		2				
		微生物学	2		2				
	医動物学	2		2					
社会医学	衛生学	2			2			必修	
	公衆衛生学	2			2				
	法医学	2			2				
臨床医学	医学実習Ⅰ	内科学	6		6			必修	
		小児科学	2		2				
		精神神経医学	2		2				
		皮膚科学	2		2				
		放射線医学	2		2				
		外科学	6		6				
		脳神経外科学	2		2				
		整形外科	2		2				
		形成外科学	1		1				
		泌尿器科学	2		2				
		眼科学	2		2				
		耳鼻咽喉科学	2		2				
		周産期学婦人科学	2		2				
		小児外科学	1		1				
		麻酔学	2		2				
		救急災害医学	1		1				
		歯科口腔外科学	1		1				
		臨床検査医学	1		1				
	総合診療医学	2		2					
	地域医療実習	1				1		必修	
	臨床病理検討会	2				2			
	医療管理学・診断学	2				2			
	医学実習Ⅱ	4					4		
医療総合講義	2					2			

授業科目等		単位数	備 考					
			2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6		6				必修
	内分泌・栄養・代謝系	3		3				
	循環器系、腎・尿路系	7			7			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4			4			
	呼吸器系	3			3			
	消化器系	3		3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3			3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4			4			
	臨床総論講義	3		3				
	課題実習	2		2				
計		129						卒業要件127単位以上

平成 23 年 12 月 13 日
医学部学務委員会

香川大学医学部の学生の通学が困難となる事由が発生した場合における医学部開設授業（定期試験を含む。以下同じ。）の欠席の取扱いについて、次のとおり定める。

（定義）

第 1 この取扱いにおける各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

- (1) 欠席とは、授業に出席しない場合をいう。
- (2) 休講とは、授業を取りやめることをいう。
- (3) 公欠とは、一定の条件を満たすことにより、授業に出席したものとみなす取扱いとする授業の欠席をいう。なお、公欠として取り扱う授業については、原則として補講は行わず、授業担当教員（以下「担当教員」という。）が当該授業に相当する学習を課すものとする。
- (4) 準公欠とは、担当教員の判断により、前号の取扱いに準じて授業に出席したものとみなす取扱いとする授業の欠席をいう。
- (5) 出席停止とは、学校保健安全法第 19 条に規定する出席停止をいう。

（学生が感染症に罹患した場合の取扱い）

第 2 学生が感染症に罹患した場合及び感染の拡大を防止するために医学部開設授業の一部又は全部を休講又は欠席する場合は、出席停止又は公欠とし、その取扱いは別紙 1 に定めるとおりとする。

（気象に関する警報の発表等の場合における取扱い）

第 3 気象に関する警報の発表等の場合は平成 26 年 2 月 24 日付け（全学）教務委員会申合せの定めるところにより取扱い、地震その他の非常災害により交通が困難となっている場合は休講又は公欠とし、その取扱いは別紙 2 に定めるとおりとする。

（学生の親族が死亡した場合の取扱い）

第 4 学生の親族が死亡した場合で、学生が葬儀、服喪その他親族の死亡に伴う忌引きのために通学できない場合は公欠とし、その取扱いは別紙 3 に定めるとおりとする。

（準公欠に該当する場合の取扱い）

第 5 第 1 第 4 号に該当する準公欠とは、次の各号に定めるとおりとする。ただし、実験・実習はすべて出席することを原則とし、その欠席は準公欠から除外する。なお、当該事由による欠席の取扱いについては担当教員に一任する。

- (1) 負傷又は疾病（医師の診断書を添付する。）
- (2) 就職試験の受験（事由書を添付する。）
- (3) 国際大会、全国体育大会、西日本医科学生総合体育大会、西日本コメディカル総合体育大会、及び前 2 者の西日本大会に種目のないサークルは、当該大会に相当する大会（本大会に選手登録されている場合のみを対象とし、地区大会は認めない。選手登録されている事由書を添付する。）

（欠席届の提出）

第6 学生は、公欠または準公欠の事由に該当し授業を欠席する場合は、事前（事前に届出ができないときは事後）に別紙様式「欠席届」を速やかに医学部学務室へ提出するものとする。

（一授業科目当たりの公欠及び準公欠の制限）

第7 第2から第5までの規定にかかわらず、一の授業科目についての公欠及び準公欠の扱いとすることができる回数は、当該授業科目の授業回数の5分の1を超えることができないものとする。

（その他）

第8 第2から第5までに定めるもののほか、学生の通学が困難となる事由が発生した場合であって、学務委員長が特別の事情があると認めるときの授業等の取扱いについては、医学部学務委員会の議により学務委員長が判断し措置する。

附 則

この申合せは、平成23年12月13日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

この申合せは、平成25年4月1日から適用する。

この申合せは、平成26年5月15日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

この申合せは、平成27年2月18日から施行し、平成27年1月1日から適用する。

この申合せは、平成29年1月10日から施行し、平成29年1月1日から適用する。

別紙1 第2関係 (出席停止、公欠)

1. 学生が感染症に罹患した場合

(1) 学生が次表の感染症に罹患した場合は、医師の診断に基づき、出席停止とする。

感染症の種類	学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症の病名
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。）、特定鳥インフルエンザ（病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであってその血清亜型が新型インフルエンザ等感染症の病原体に変異するおそれが高いものの血清亜型として政令で定めるものであるものに限る。以下「特定鳥インフルエンザ」という。）、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症
第二種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く。）、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

(2) 出席停止の期間は、学校保健安全法施行規則第19条に規定する出席停止の期間を基準に、医師に治癒したと診断されるまでとし、医師の発行する次の項目が記載された診断書（治癒証明書）に基づき措置する。

- 一 病名
- 二 罹患期間

【学校保健安全法施行規則第19条に規定する出席停止の期間】

- 1) 第一種の感染症にかかった者については、治癒するまで。
- 2) 第二種の感染症（結核及び髄膜炎菌性髄膜炎を除く。）にかかった者については、次の期間。ただし、病状により学校医、保健管理センター医師その他の医師において感染のおそれがないと認めるときは、この限りでない。

イ インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）にあつては、発症した後五日を経過し、かつ、解熱した後二日を経過するまで。

ロ 百日咳にあつては、特有の咳が消失するまで又は五日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。

ハ 麻しんにあつては、解熱した後三日を経過するまで。

ニ 流行性耳下腺炎にあつては、耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹 が発現した

後五日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。

ホ 風しんにあつては、発しんが消失するまで。

ヘ 水痘にあつては、すべての発しんが痂皮化するまで。

ト 咽頭結膜熱にあつては、主要症状が消退した後二日を経過するまで。

- 3) 結核、髄膜炎菌性髄膜炎及び第三種の感染症にかかった者については、病状により学校医、保健管理センター医師その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。
- 4) 第一種若しくは第二種の感染症患者のある家に居住する者又はこれらの感染症にかかっている疑いがある者については、予防処置の施行の状況その他の事情により学校医、保健管理センター医師その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。
- 5) 第一種又は第二種の感染症が発生した地域から通学する者については、その発生状況により必要と認めたとき、学校医、保健管理センター医師の意見を聞いて適当と認める期間。
- 6) 第一種又は第二種の感染症の流行地を旅行した者については、その状況により必要と認めたとき、学校医、保健管理センター医師の意見を聞いて適当と認める期間。

2. 出席停止となった期間の授業の取扱い

学生が、出席停止となった期間に出席できなかった授業については、届出により公欠扱いとする。

3. 公欠の届出

感染症に罹患した場合は、学生が医学部学務室へ電話連絡を行い、公欠の届出は、治癒後、別紙様式「欠席届」により、学生が医学部学務室へ医師の診断書（治癒証明書（コピー可））とともに提出するものとする。

届出を受理した場合は、その写しにより担当教員へ連絡するものとする。

4. 感染の拡大を防止するために医学部開設授業の一部又は全部を休業する場合

感染症罹患者の発生に伴い、感染の拡大を防止する目的で行う休業措置は医学部長が決定するものとする。

5. 学生への連絡

休業の周知は、学内掲示、本学医学部ホームページ掲載、メール送信等により、学内及び学外実習中の学生に速やかに行うものとする。

別紙2 第3関係 (出席停止、公欠)

気象に関する警報の発表等の場合における休講措置の基準について

平成26年2月24日(全学)教務委員会申合せ
平成26年11月17日(全学)教務委員会一部改正

全ての学部及び研究科の開講科目並びに全学共通教育の開講科目に関して、特別警報及び気象警報の発表等の場合における休講の措置は、次の基準による。

なお、休講の措置については、掲示及びホームページへの掲載等により周知する。

1. 特別警報の発表による場合

各キャンパスの所在する地域に特別警報の発表があった場合は、当該キャンパスの全ての授業を直ちに中止する。

2. 気象警報の発表による場合

(1) 昼間の授業について

指定する地域に、大雨、洪水、暴風又は大雪の警報が、午前6時30分に発表されている場合は休講とする。午前6時30分以降に発表された場合は、発表された時刻以降に開始する授業を休講とする。

ただし、午前10時30分の時点で警報が解除されている場合で、かつ、それ以降に発表されないときは、午後1時以降に開始される授業を実施する。

(2) 夜間の授業(午後6時以降に開始する授業)について

指定する地域に、大雨、洪水、暴風又は大雪の警報が、午後3時に発表されている場合は休講とする。午後3時以降に発表された場合は、発表された時刻以降に開始する授業を休講とする。

(3) 前2号の指定する地域を次のとおり定める。

幸町キャンパス及び林町キャンパスは高松市とし、医学部キャンパス及び農学部キャンパスは、高松市又は三木町とする。

なお、居住地の気象状況又は交通機関の運休等により、登校できなかった学生については、補講等により個別に対応するものとする。

(4) 教育実習、臨床実習、臨地実習及びフィールドワーク科目等の授業で前各号によりがたい場合は、その都度、その授業を開講する部局の長が判断し措置する。

3. その他非常時の場合

学部、研究科及び全学共通教育の開講科目については、学部長等が判断し措置する。

附 則

- 1 この申合せは、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この申合せの施行により、気象警報の発令等の場合における休講措置の基準について(平成22年1月6日制定)は、廃止する。
- 3 この申合せは、平成27年1月1日から施行する。

1. 公欠の届出

公欠の届出は、後日、別紙様式「欠席届」により、学生が医学部学務室へ交通機関の運行休止、道路遮断を明らかにする書類とともに提出するものとする。

教務係は、届出を受理した場合は、その写しにより担当教員へ連絡するものとする。

2. 学生への連絡

休業の周知は、学内掲示、本学医学部ホームページ掲載、メール送信等により、学内及び学外実習中の学生に速やかに行うものとする。

別紙3 第4関係 (公欠)

I. 学生が葬儀、服喪その他親族の死亡に伴う忌引きのために通学できない場合

1. 忌引きの対象となる親族の範囲

- ① 配偶者
- ② 1親等(親、子)
- ③ 2親等(兄弟姉妹、祖父母、孫)
- ④ 3親等(本人・配偶者の曾祖父母、伯父叔伯母、曾祖父母・伯父叔伯母の配偶者、甥姪、甥姪の配偶者、曾孫)

2. 忌引きの日数

- ① 配偶者の場合は、死亡した日以降の連続する7日以内(土、日、休日を含む。)
- ② 1親等の場合は、死亡した日以降の連続する7日以内(土、日、休日を含む。)
- ③ 2親等の場合は、死亡した日以降の連続する3日以内(土、日、休日を含む。)
- ④ 3親等の場合は、死亡した日若しくは死亡した翌日以降の1日(土、日、休日を含む。)

3. 公欠の届出

公欠の届出は、後日、別紙様式「欠席届」により、学生が医学部学務室へ会葬礼状等裏付ける書類とともに提出するものとする。

届出を受理した場合は、その写しにより担当教員へ連絡するものとする。

別紙様式

欠 席 届

平成 年 月 日

香川大学医学部長 殿

医学部 学科

第 年次

学籍番号 番

氏 名

連絡先TEL

下記事由により欠席します（しました）のでお届けします。

記

期間 平成 年 月 日から

平成 年 月 日まで

理由 _____

授業科目名及び担当教員

授業科目名	担当教員名	授業科目名	担当教員名
	教員		教員
	教員		教員
	教員		教員
	教員		教員
	教員		教員
	教員		教員

提出書類等（欠席届裏面）

以下の事項については、各事項に定められた証明書類を添付の上、事前（事前に届出ができないときは事後）に、この「欠席届」を速やかに医学部学務室教務係へ提出すること。

教務係は、届出を受理した場合は、その写しにより授業担当教員へ連絡する。

1. 学生が学校保健安全法施行規則第 18 条に規定する感染症に罹患した場合
 - (1) 医師の診断に基づき、出席停止とする。学生が、出席停止となった期間に出席できなかった授業については、届出により公欠扱いとする。
 - (2) 医師の診断に基づき感染症に罹患したことが判明したときは、学生が医学部学務室学生係へ届出の電話連絡を行うこと。
 - (3) 出席停止の期間は、学校保健安全法施行規則第 19 条に規定する出席停止の期間を基準に、医師に治癒したと診断されるまでとする。なお、医師の発行する診断書は次の項目が記載された診断書（治癒証明書）とする。
 - 一 病名、二 罹患期間、三 治癒したことの証明
 - (4) 公欠の届出は、治癒後、この「欠席届」に医師の診断書（治癒証明書（コピー可））を添付すること。
2. 気象に関する警報の発表等により休講となる場合には、この「欠席届」の提出はしなくてよい。地震、その他の非常災害により交通が困難となる場合の公欠の届出は、この「欠席届」に交通機関の運行休止、道路遮断を明らかにする書類を添付すること。
3. 学生が葬儀、服喪その他親族の死亡に伴う忌引きのために通学できない場合の公欠の届出は、この「欠席届」に会葬礼状等裏付ける書類を添付するとともに、死亡した親族の続柄、葬儀場所の住所（都道府県名、郡区市名）、葬祭日を明記すること。
4. 次の準公欠の事由により授業に欠席した場合は、各号の書類を添付すること。ただし、実験・実習の欠席は準公欠の取扱いから除外するものとする。
 - (1) 負傷又は疾病（医師の診断書を添付する。）
 - (2) 就職試験の受験（事由書を添付する。）
 - (3) 国際大会、全国体育大会、西日本医科学生総合体育大会、西日本コメディカル総合体育大会、及び前 2 者の西日本大会に種目のないサークルは、当該大会に相当する大会（本大会に選手登録されている場合のみを対象とし、地区大会は認めない。選手登録されている事由書を添付する。）

G P Aによる成績評価について

G P A (Grade Point Average) 制度は、アメリカの大学において、一般的に用いられている学生の成績評価システムである。1人の学生が修得してきた授業科目の成績評語(評価)ごとに、以下の表のようにG P (Grade Point)を与え、それを平均したものをG P A (Grade Point Average)という。

医学部においては、平成28年4月1日入学者から適用する。

評語(評価)	秀(S)	優(A)	良(B)	可(C)	不可(X)
評点	90点以上	80点以上 90点未満	70点以上 80点未満	60点以上 70点未満	60点未満
GP	4	3	2	1	0

【GPA算出式】

$$\text{GPA} = \frac{\text{秀の修得単位数} \times 4 + \text{優の修得単位数} \times 3 + \text{良の修得単位数} \times 2 + \text{可の修得単位数} \times 1}{\text{※履修登録単位数総数}}$$

※不可・履修放棄・試験放棄の単位を含む。また同じ科目を何度も再履修した場合は、再履修の都度の履修登録単位を含む。

【対象科目】

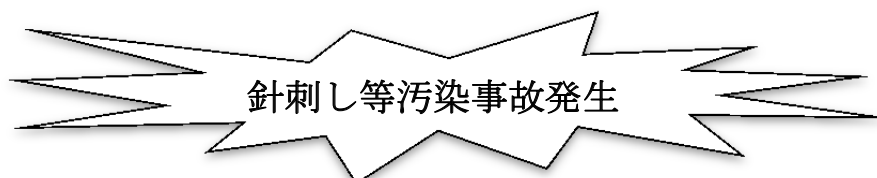
GPAの対象科目となる科目は、本学開講科目を対象とするが、成績が「合」・「了」と標記される科目や医学部以外の他学部開講科目、他大学開講科目は除外する。

認定英語(TOEIC など)、初修外国語(単位認定)、再履修科目は対象科目とする。

附属病院における実習中の学生の針刺し等汚染事故発生時の対応について

- ① 針刺事故用検査、その後の診療までの対応は、当該学生の実習を担当している指導教員が責任をもって行う。
- ② 学生教育研究災害傷害保険（学研災）の手続きは、学務室学生係が担当する。

針刺し等汚染事故発生時のフローチャート



速やかに指導教員に報告！

学生

- 皮膚の切創、粘膜汚染→石けんと流水で丁寧に洗う
- 目に曝露→コンタクトレンズを外し、水道水で洗い流す、擦らない
- 口腔→十分な含嗽を行う

指導教員は病院感染予防マニュアルに基づき迅速に以下の措置をとる

指導教員

- 感染対策室（3058）に連絡
- 汚染源患者の3ヶ月以内のHCV抗体、HBs抗原、HIV抗体を確認
- 医事課外来係(3023, 3024)に連絡し、検査部へ受付を依頼
- 3ヶ月内の検査結果がない場合→患者の同意を得て「針刺事故用検査伝票」で検査実施
- 受傷者はただちに「針刺事故用検査伝票」で検査実施
- 検体と「針刺事故用検査伝票」を検査部に提出(時間内 3676、時間外 5880)
- 指導教員は汚染源患者の感染症検査結果を確認、検査結果に応じた対応を行う
 - HBs抗原(+)またはHCV抗体(+): 消化器内科受診
 - HIV抗体(+): HIV診療担当医師受診

学生

受診・処置後、医事課の支払い（保険診療）を終え、学務室学生係に報告

学務室学生係（2061）に事故報告書を提出。学生教育研究災害傷害保険（学研災）の手続きについて説明をうける。

平成29年度 行事予定表(医学科)

学期 学年	1	2	3	
前期	4	1 土 学年始 第1学期開始 3 月 入学式・ガイダンス 4 火 新入生ガイダンス 5 水 新入生修学相談会・履修登録 6 木 新入生修学相談会 7 金 新入生修学相談会・定期健康診断 8 土 新入生合宿研修 9 日 10 月 授業開始	4	1 土 学年始 第1学期開始 3 月 授業開始・授業ガイダンス
			11 火 定期健康診断(午後休講)	
	5	1 月 木曜日授業振替日 2 火 金曜日授業振替日 27 土 授業予備日	5	
	6	10 土 2年次編入学試験1次	6	10 土 2年次編入学試験1次
	7	8 土 2年次編入学試験2次 15 土 授業予備日	7	8 土 2年次編入学試験2次
		20 木 月曜日授業振替日 22 土 授業予備日 28 金 第1学期定期試験(7/28~8/3)	18 火 夏季休業開始	18 火 前期定期試験 21 金 夏季休業開始
	8	2 水 医学科オープンキャンパス 3 木 4 金 授業・定期試験予備日(8/4~8/10) 6 日 夏季休業開始 10 木	8	2 水 医学科オープンキャンパス
			27 日 夏季休業終了 28 月 授業開始・前期定期試験	
	9		9	3 日 夏季休業終了 4 月 授業開始・前期定期試験
		30 土 夏季休業終了・第1学期終了	30 土 第1学期終了	30 土 第1学期終了
後期	10	1 日 第2学期開始 大学記念日(休業) 2 月 授業開始 4 水 授業ガイダンス	10	1 日 第2学期開始 大学記念日(休業) 2 月 授業ガイダンス
		7 土 医学部祭 8 日	6 金 前夜祭(午後休講) 7 土 医学部祭 8 日	
		28 土 授業予備日 1 水 金曜日授業振替日 3 金 香大祭前夜祭 4 土 香大祭 5 日 6 月 香大祭撤収日(臨時休業) 7 火 月曜日授業振替日	17 火 防災訓練	
	11	11 土 授業予備日	24 火 慰霊祭(予定)	
		18 土 推薦入試(医学科)	17 金 入試設営(午後休講) 18 土 推薦入試(医学科)	
	12		12	
		25 月 冬季休業開始	25 月 冬季休業開始	25 月 冬季休業開始
	1	7 日 冬季休業終了 9 火 授業開始	3 水 冬季休業終了 4 木 授業開始	7 日 冬季休業終了 9 火 授業開始
		12 金 センター試験設営(臨時休業) 13 土 大学入試センター試験 14 日	12 金 センター試験設営(午後休講) 13 土 大学入試センター試験 14 日	12 金 センター試験設営(午後休講) 13 土 大学入試センター試験 14 日
	2	3 土 授業予備日 6 火 第2学期定期試験(2/6~2/13) 13 火 月曜日試験・授業振替日 14 水 授業・定期試験予備日(2/14~2/20) 20 火 25 日 入学者選抜試験(前期) 26 月	2	13 火 後期定期試験 22 木 25 日 入学者選抜試験(前期) 26 月 補講期間開始 27 火 補講期間終了
3		3		
	11 日 春季休業開始 12 月 入学者選抜試験(後期・医学科) 13 火	11 日 春季休業開始 12 月 入学者選抜試験(後期・医学科) 13 火	11 日 春季休業開始 12 月 入学者選抜試験(後期・医学科) 13 火	
	31 土 春季休業終了・第2学期終了 学年終	31 土 春季休業終了・第2学期終了 学年終	31 土 春季休業終了・第2学期終了 学年終	

平成29年度 行事予定表(医学科)

学期 学年	4		5		6	
前期	4	1 土 学年始 第1学期開始 授業開始	4	1 土 学年始 第1学期開始 授業開始	4	1 土 学年始 第1学期開始 授業開始
		3 月		3 月		3 月
		12 水 定期健康診断(午前休講)		11 火 定期健康診断(午後休講)		12 水 定期健康診断(午後休講)
	5		5		5	
	6	10 土 2年次編入学試験1次	6	10 土 2年次編入学試験1次	6	10 土 2年次編入学試験1次
	7	8 土 2年次編入学試験2次	7	8 土 2年次編入学試験2次	7	24 土 PCC (Advanced) OSCE試験 8 土 2年次編入学試験2次
	8	31 月 夏季休業開始 2 水 医学科オープンキャンパス	8	31 月 夏季休業開始 2 水 医学科オープンキャンパス	8	18 火 夏季休業開始 2 水 医学科オープンキャンパス
		24 木 夏季休業終了 25 金 授業開始		20 日 夏季休業終了 21 月 授業開始		27 日 夏季休業終了 28 月 授業開始
	9		9		9	4 月 卒業試験開始
		30 土 第1学期終了		30 土 第1学期終了		30 土 第1学期終了
後期	10	1 日 第2学期開始 大学記念日(休業)	10	1 日 第2学期開始 大学記念日(休業)	10	1 日 第2学期開始 大学記念日(休業)
		7 土 医学部祭 8 日		7 土 医学部祭 8 日		7 土 医学部祭 8 日
		17 火 防災訓練				
	11		11		11	
		14 火 CBT				10 金 卒業試験終了
		18 土 推薦入試(医学科)		18 土 推薦入試(医学科)		18 土 推薦入試(医学科)
	12	2 土 OSCE 4 月 OSCE追・再試験期間(12/4から12/8) 12 火 CBT追・再試験 22 金 臨床実習開始式 25 月 冬季休業開始	12	25 月 冬季休業開始	12	25 月 冬季休業開始
	1	7 日 冬季休業終了 9 火 授業開始	1	7 日 冬季休業終了 9 火 授業開始	1	7 日 冬季休業終了
		13 土 大学入試センター試験 14 日		13 土 大学入試センター試験 14 日		13 土 大学入試センター試験 14 日
	2		2		2	
	25 日 入学者選抜試験(前期) 26 月		25 日 入学者選抜試験(前期) 26 月		25 日 入学者選抜試験(前期) 26 月	
3		3	5 月 総合試験(医学実習Ⅰ) 6 火 春季休業開始	3	1 木 卒業認定日	
	12 月 入学者選抜試験(後期・医学科) 13 火		12 月 入学者選抜試験(後期・医学科) 13 火		12 月 入学者選抜試験(後期・医学科) 13 火	
	19 月 春季休業開始					
	3 土 春季休業終了・第2学期終了 学年終		31 土 春季休業終了・第2学期終了 学年終		24 土 卒業式	

平成29年度 医学科授業時間割表 (1年次生)

前期 (4月10日 ~ 8月4日)

曜日	I時限 8:50~10:20	II時限 10:30~12:00	III時限 13:00~14:30	IV時限 14:40~16:10	V時限 16:20~17:50
月	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
水	大学入門ゼミ (宮武 他) A, D, 小D, 小E, 301, 303	医学概論 (新井・今井田) D	微分積分学 (上原) D	早期体験学習 (チュートリアル) (出口) D	
木	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
金	医用物理学 (久富) D	医用化学 I (和田) D	医用物理学 (久富) D	医科生物学 (山本 (融)) D	

(備考)

1. 前期定期試験 7月28日(金)~8月3日(木)
〔授業・定期試験予備日 8月4日(金)~8月10日(木)〕

後期 (10月1日 ~ 3月10日)

曜日	I時限 8:50~10:20	II時限 10:30~12:00	III時限 13:00~14:30	IV時限 14:40~16:10	V時限 16:20~17:50
月	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
水	医療プロフェッショナリズムの実践 I (岡田 他) D	早期医学実習 I Aコース (自由科目)		情報リテラシー (横井) マルチ	
木	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)		医療心理学 (黒河内) D	医科生物学 (山本 (融)) D	医用化学 I (和田) D
	医療と法 (柴田) 医学部キャンパス (全学共通科目) D				
	全学共通科目 (幸町キャンパス)				

■は医学部キャンパスで授業を実施する。

(備考)

1. 10月4日(水)授業ガイダンス
2. 後期定期試験 2月6日(火)~2月13日(火)
〔授業・定期試験予備日 2月14日(水)~2月20日(火)〕
3. 教室名 A…大講義室A(講義棟1階) D…大講義室D(講義棟2階)
小D…小講義室D(講義棟2階) 小E…小講義室E(講義棟2階)
マルチ…マルチメディア実習室(看護学科棟2階)
301…301講義室(看護学科棟3階)
303…303講義室(看護学科棟3階)

平成29年度 医学科授業時間割表 (2年次生)

前 期 (4月1日 ~ 5月26日)

曜日	I 時限 8:50~10:20	II 時限 10:30~12:00	III 時限 13:00~14:30	IV 時限 14:40~16:10	V 時限 16:20~17:50
月	分子遺伝学 (竹崎) C	医用化学Ⅱ (和田) C	自然科学実習 (物理学・化学・生物学) 実		
火	分子生物学 (神鳥) C	解剖学Ⅱ (荒木) C, 実1			
水	分子生物学 (神鳥) C	分子遺伝学 (竹崎) C	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ (岡田 他) C		
木	細胞生物学 (山本 (融)) C	医用化学Ⅱ (和田) C	自然科学実習 (物理学・化学・生物学) 実		
金	(全学共通科目) 英語 (長井 他) A, C, 小D, 小E	細胞生物学 (山本 (融)) C	早期医学実習Ⅱ (自由科目)		

前 期 (5月29日 ~ 6月30日)

曜日	I 時限 8:50~10:20	II 時限 10:30~12:00	III 時限 13:00~14:30	IV 時限 14:40~16:10	V 時限 16:20~17:50
月	生化学 (上田) C		自然科学実習 (物理学・化学・生物学) 実		
火	生理学Ⅰ (徳田) C	解剖学Ⅰ (三木) C, 実1			
水	分子生物学 (神鳥) C	分子遺伝学 (竹崎) C	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ (岡田 他) C		
木	分子生物学 (神鳥) C	生理学Ⅱ (平野) C	自然科学実習 (物理学・化学・生物学) 実		
金	(全学共通科目) 英語 (長井 他) A, C, 小D, 小E	解剖学Ⅰ (三木) C	早期医学実習Ⅱ (自由科目)		
		細胞生物学 (山本 (融)) C	早期医学実習Ⅱ (自由科目)		

※ 金曜日 上段：5月29日～6月9日、下段：6月12日～6月30日

前 期 (7月3日 ~ 7月14日)

曜日	I 時限 8:50~10:20	II 時限 10:30~12:00	III 時限 13:00~14:30	IV 時限 14:40~16:10	V 時限 16:20~17:50
月	生化学 (上田) C		生理学Ⅱ (平野) C		
火	生理学Ⅰ (徳田) C	解剖学Ⅰ (三木) C, 実1			
水	分子生物学 (神鳥) C	分子遺伝学 (竹崎) C	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ (岡田 他) C		
木	分子遺伝学 (竹崎) C	生理学Ⅱ (平野) C	生理学Ⅰ (徳田) C		
金	(全学共通科目) 英語 (長井 他) A, C, 小D, 小E	細胞生物学 (山本 (融)) C	早期医学実習Ⅱ (自由科目)		

(備考)

1. 4月12日(水)午後定期健康診断 (午後休講)
2. 全学共通科目英語は7月21日 (金) 授業あり
3. 前期定期試験…9月4日(月)～9月22日(金)

後 期 (10月1日 ~ 11月24日)

曜日	I時限 8:50~10:20	II時限 10:30~12:00	III時限 13:00~14:30	IV時限 14:40~16:10	V時限 16:20~17:50
月	補講又は試験等	生化学 (上田)		実5	
火	生理学II (平野) C	生化学 (上田)		実5	
水	生理学I (徳田) C	解剖学I (三木)			C, 実1
木	生理学I (徳田) C	解剖学II (荒木)			C, 実6
金	生化学 (上田) C	解剖学II (荒木)			C, 実6

後 期 (11月27日 ~ 12月15日) (1月4日 ~ 2月9日)

曜日	I時限 8:50~10:20	II時限 10:30~12:00	III時限 13:00~14:30	IV時限 14:40~16:10	V時限 16:20~17:50
月	補講又は試験等	生理学II (平野) C	解剖学I (三木)		C
火	生理学II (平野) C		生化学 (上田) C		
水	生理学I (徳田) C	解剖学I (三木)			C, 実1
木	生理学I (徳田) C	解剖学II (荒木)			C, 実6
金	生化学 (上田) C	解剖学II (荒木)			C, 実6

(備考)

- 10月2日(月)授業ガイダンス
- 防災訓練…10月17日(火)
- 後期定期試験…2月13日(火)~2月22日(木)
- 教室名 A … 大講義室A(講義棟1階) C … 大講義室C(講義棟2階)
小D … 小講義室D(講義棟2階)、小E … 小講義室E(講義棟2階)
実1…実習室1(実習棟1階) 実5…実習室5(実習棟3階) 実6…実習室6(実習棟3階)

※ 2年次生の時間割は週によって変わりますので、巻末「平成29年度講義・実習時間割2年次生」のP〇〇~P〇〇を確認して下さい。

平成29年度 医学科授業時間割表 (3年次生)

前 期 (4月1日～7月7日)

曜日	I時限 8:50～10:20	II時限 10:30～12:00	III時限 13:00～14:30	IV時限 14:40～16:10	V時限 16:20～17:50
月	免疫学 (星野) B	病理学 I (今井田) B	内分泌学 (中村 (隆)) B	微生物学(前半) (桑原) B 内分泌学(後半) (中村(隆)) B	(全学共通科目) Academic English I 医学部キャンパス (Willey) B
火	医動物学 (新井) B	医学英語 I (Willey他) BD	実習 (※実習日程参照)		
			病理学 I (今井田) (5月) B	医動物学 (新井) (5月) B	
水	微生物学 (桑原) B	免疫学 (星野) (4月・5月・6月) B 微生物学 (桑原) (6月・7月) B	実習 (※実習日程参照)		
木	病理学 II (上野) B 医動物学 (新井) (5月、6月) B	医動物学 (新井) (4、5、6月) B 病理学 II (上野) (5、6、7月) B	実習 (※実習日程参照)		
			病理学 I (今井田) (6月) B	病理学 I (今井田) (6月) B	
金	薬理学 (西山成) B	薬理学 (西山成) B	実習 (※実習日程参照)		
			微生物学 (桑原) (6月) B 医動物学 (新井) (6月、7月) B	微生物学 (桑原) (6月) B 医動物学 (新井) (6月、7月) B	

(備 考)

1. 4月11日(火) 午後定期健康診断 (午後休講)
2. Academic English I は7月20日(木)、7月24日(月) 授業あり
3. 医学英語 I は7月11日 (火) 授業あり
4. 前期定期試験期間は7月18日 (火) ～7月21日 (金)、8月28日 (月) ～9月8日 (金)
5. 9月8日(金) 授業ガイダンス

* 実習日程		() 書きは講義等			
週		火	水	木	金
第1週	(4/3～)	生理・薬理 実3・4	生理・薬理 実3・4	内分泌学 実5	内分泌学 実5
第2週	(4/10～)	定期健康診断	生理・薬理 実3・4	内分泌学 実5	内分泌学 実5
第3週	(4/17～)	生理・薬理 実3・4	生理・薬理 実3・4	内分泌学 実5	内分泌学 実5
第4週	(4/24～)	生理・薬理 実3・4	生理・薬理 実3・4	内分泌学 実5	内分泌学 実5
第5週	(5/1～)	生理・薬理 実3・4	憲法記念日	みどりの日	こどもの日
第6週	(5/8～)	生理・薬理 実3・4	生理・薬理 実3・4	生理・薬理 実3・4	
第7週	(5/15～)	(病理学 I・医動物学) 大B	講義・実習 (予備)	微生物学 実4	微生物学 実4
第8週	(5/22～)	(病理学 I・医動物学) 大B	講義・実習 (予備)	微生物学 実4	微生物学 実4
第9週	(5/29～)	(免疫学) 大B	免疫学 実4	免疫学 実4	講義・実習 (予備)
第10週	(6/5～)	(免疫学) 大B	免疫学 実4	免疫学 実4	(微生物学) 大B
第11週	(6/12～)	医動物学 実4	講義・実習 (予備)	(病理学 I) 大B	(微生物学) 大B
第12週	(6/19～)	医動物学 実4	病理学 II 実6	病理学 II 実6	(医動物学) 大B
第13週	(6/26～)	医動物学 実4	病理学 II 実6	病理学 II 実6	(医動物学) 大B
第14週	(7/3～)	(病理学 I) 大B	実習 (予備)	医動物学 実4	(薬理) 大B 実習 (予備)

前 期 (9月11日～9月22日)

曜日	I時限 8:30～9:30	II時限 9:40～10:40	III時限 10:50～11:50	IV時限 12:50～13:50	V時限 14:00～15:00	VI時限 15:10～16:10	VII時限 16:20～17:20
月	臨床総論講義						B
火	臨床総論講義				B	医学英語II 14:00-15:15 Willey 他	臨床総論講義 B
水	臨床総論講義						B
木	臨床総論講義						B
金	臨床総論講義						B

前 期 (9月25日～9月29日) 後 期 (10月2日～10月6日)

曜日	I時限 8:30～9:30	II時限 9:40～10:40	III時限 10:50～11:50	IV時限 12:50～13:50	V時限 14:00～15:00	VI時限 15:10～16:10	VII時限 16:20～17:20
月	症候論						(全学共通科目) Academic English II 16:20～17:50 (Willey) B 医学部キャンパス B
火	症候論				B	医学英語II 14:00-15:15 Willey 他	症候論 B
水	症候論						B
木	症候論						B
金	症候論						B

(備 考)

1. Academic English IIは10月2日から授業開始

後 期 (10月10日～12月22日、1月9日～2月2日) ※11月7日(火)は全学共通科目振替授業(月)

曜日	I時限 8:30～9:30	II時限 9:40～10:40	III時限 10:50～11:50	IV時限 12:50～13:50	V時限 14:00～15:00	VI時限 15:10～16:10	VII時限 16:20～17:20
月	統合講義						(全学共通科目) Academic English II 16:20～17:50 (Willey) B 医学部キャンパス B
火	統合講義				B	医学英語II 14:00-15:15 Willey 他	統合講義 B
水	統合講義						B
木	統合講義						B
金	統合講義						B

後 期 (2月5日～3月2日)

曜日	I時限 8:30～9:30	II時限 9:40～10:40	III時限 10:50～11:50	IV時限 12:50～13:50	V時限 14:00～15:00	VI時限 15:10～16:10	VII時限 16:20～17:20
月	課 題 実 習 (講座配属)						
火	課 題 実 習 (講座配属)						
水	課 題 実 習 (講座配属)						
木	課 題 実 習 (講座配属)						
金	課 題 実 習 (講座配属)						

(備 考)

1. 教室名 A … 大講義室A(講義棟1階) B … 大講義室 B(講義棟1階)
実1… 実習室1(実習棟1階) 実3… 実習室3(実習棟2階) 実4… 実習室4(実習棟2階)
実5… 実習室5(実習棟3階) 実6… 実習室6(実習棟3階)

平成29年度 医学科授業時間割表 (3年次生)

前 期 (4月1日～5月1日、5月22日～6月23日、7月3日～7月27日)

曜日	I 時限 8:30～9:30	II 時限 9:40～10:40	III 時限 10:50～11:50	IV 時限 12:50～13:50	V 時限 14:00～15:00	VI 時限 15:10～16:10	VII 時限 16:20～17:20
月	統 合 講 義						臨 1
火	統 合 講 義						臨 1
水	統 合 講 義						臨 1
木	統 合 講 義						臨 1
金	衛生学 (宮武) ・ 公衆衛生学 (平尾)						臨1、実5

(備考)

- 4月12日(水) 午前定期健康診断 (午前休講)

前 期 (9月4日～9月29日) 後期 (10月2日～10月13日)

曜日	I 時限 8:30～9:30	II 時限 9:40～10:40	III 時限 10:50～11:50	IV 時限 12:50～13:50	V 時限 14:00～15:00	VI 時限 15:10～16:10	VII 時限 16:20～17:20
月	統 合 講 義						臨 1
火	統 合 講 義						臨 1
水	統 合 講 義						臨 1
木	統 合 講 義						臨 1
金	法医学 (木下)						臨1、実5

前 期 (5月8日～5月12日、6月26日～6月30日、8月25日～9月1日) 後期 (10月16日～10月20日)

曜日	I 時限 8:30～9:30	II 時限 9:40～10:40	III 時限 10:50～11:50	IV 時限 12:50～13:50	V 時限 14:00～15:00	VI 時限 15:10～16:10	VII 時限 16:20～17:20
月	P B L チュートリアル						臨 1
火	P B L チュートリアル						臨 1
水	P B L チュートリアル						臨 1
木	P B L チュートリアル						臨 1
金	衛生学 (宮武) ・ 公衆衛生学 (平尾) (5月・6月)						臨1、実5
金	法医学 (木下) (9月・10月)						臨1、実5

(備考)

- 防災訓練…10月17日(火)

後 期 (10月23日～10月27日)

曜日	I 時限 8 : 30～9:30	II 時限 9:40～10:40	III 時限 10:50～11:50	IV 時限 12:50～13:50	V 時限 14:00～15:00	VI 時限 15:10～16:10	VII 時限 16:20～17:20
月	共用試験準備						
火	共用試験準備						
水	共用試験準備						
木	共用試験準備						
金	法医学 (木下) 臨1、実5						

後 期 (10月30日～11月13日)

曜日	I 時限 8 : 30～9:30	II 時限 9:40～10:40	III 時限 10:50～11:50	IV 時限 12:50～13:50	V 時限 14:00～15:00	VI 時限 15:10～16:10	VII 時限 16:20～17:20
月	共用試験準備						
火	共用試験準備						
水	共用試験準備						
木	共用試験準備						
金	共用試験準備						

(備考)

- 11月14日 (火) CBT試験

後 期 (11月15日～12月2日)

曜日	I 時限 8 : 30～9:30	II 時限 9:40～10:40	III 時限 10:50～11:50	IV 時限 12:50～13:50	V 時限 14:00～15:00	VI 時限 15:10～16:10	VII 時限 16:20～17:20
月	臨床実習講義						
火	臨床実習講義						
水	臨床実習講義						
木	臨床実習講義						
金	臨床実習講義						

(備考)

- 12月2日 (土) OSCE
- 教室名 臨1…臨床講義棟1階講義室
実5…実習室5 (実習棟3階)

平成29年度 医学科授業時間割表(4年次生)

後期(12月4日～12月12日)

曜日	I時限 8:30～9:30	II時限 9:40～10:40	III時限 10:50～11:50	IV時限 12:50～13:50	V時限 14:00～15:00	VI時限 15:10～16:10	VII時限 16:20～17:20
月	共用試験再試験期間						
火	共用試験再試験期間						
水	共用試験再試験期間						
木	共用試験再試験期間						
金	共用試験再試験期間						

後期(12月13日～12月21日)

曜日	I時限 8:30～9:30	II時限 9:40～10:40	III時限 10:50～11:50	IV時限 12:50～13:50	V時限 14:00～15:00	VI時限 15:10～16:10	VII時限 16:20～17:20
月	臨床手技						臨1
火	臨床手技						臨1
水	臨床手技						臨1
木	臨床手技						臨1
金	臨床手技						臨1

(備考)

1. 教室名 臨1…臨床講義棟1階講義室
2. 12月22日(金)臨床実習開始式

後期(1月8日～3月16日)

曜日	I時限 8:30～9:45	II時限 9:55～11:10	III時限 11:20～12:35	IV時限 13:30～14:45	V時限 14:55～16:10	VI時限 16:20～17:35
月	臨床実習(医学実習I)			医療管理学・ 診断学 (岡田 他)A		
火	臨床実習(医学実習I)					
水	臨床実習(医学実習I)					
木	臨床実習(医学実習I)					
金	臨床実習(医学実習I)					

(備考)

1. 教室名 A…大講義室A(講義棟1階)

平成29年度 医学科授業時間割表 (5年次生)

前期 (4月3日～7月28日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～18:00
月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学(岡田 他)A ※2. 「薬害被害者の声を直接聞く特別講義」	※1. 臨床病理検討会 (5・6年生合同 7回 臨2)
火	臨床実習 (医学実習 I)					
水	臨床実習 (医学実習 I)					
木	臨床実習 (医学実習 I)					
金	臨床実習 (医学実習 I)					

(備考)

1. 4月11日(火) 午後定期健康診断 (午後休講)
2. ※1. 5月8日、15日、22日、29日、6月5日、12日、19日の計7回の月曜日は、6年次生と合同で「臨床病理検討会(CPC)」を臨2で(18:00まで)実施する。
その他の月曜日は、「医療管理学・診断学」をAで(17:35まで)実施する。
3. ※2. V時限目に6年次生と合同で「薬害被害者の声を直接聞く特別講義」を1回実施する。(予定)

前期 (8月21日～9月29日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～17:35
月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 (岡田 他)A	児童精神医学Ⅱ (中村(祐) 他)A
火	臨床実習 (医学実習 I)					
水	臨床実習 (医学実習 I)					
木	臨床実習 (医学実習 I)					
金	臨床実習 (医学実習 I)					

後期 (10月2日～12月22日, 1月8日～3月2日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～17:35
月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 (岡田 他) A	児童精神医学Ⅱ (中村(祐) 他)A
火	臨床実習 (医学実習 I)					
水	臨床実習 (医学実習 I)					
木	臨床実習 (医学実習 I)					
金	臨床実習 (医学実習 I)					

(備考)

1. 3月5日(月)に総合試験(医学実習 I)を実施する。
2. 教室名 臨2…臨床講義棟2階講義室 A…大講義室A(講義棟1階)

平成29年度 医学科授業時間割表 (6年次生)

前期 (4月3日～4月21日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～18:00
月	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					
火	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					
水	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					
木	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					
金	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					

前期 (4月24日～6月30日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～18:00
月	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)				※2. 「薬害被害者の声を直接聞く特別講義」	※1. 臨床病理検討会 計8回 臨2 (5・6年生合同7回)
火	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					
水	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					
木	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					
金	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					

(備 考)

1. 4月12日(水)午後定期健康診断(午後休講)
2. ※1. 「臨床病理検討会(CPC)」は、2回目以降を5年生と合同で実施する。
3. ※2. V時限目に5年次生と合同で「薬害被害者の声を直接聞く特別講義」を1回実施する。(予定)
4. 6月24日(土)にPCC(Advanced) OSCEを実施する。

前期 (7月3日～7月14日)、(8月28日～9月1日)

曜日	I 時限 8:30～10:10	II 時限 10:40～12:20	III 時限 13:30～15:10	IV 時限 15:20～17:00
月	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2
火	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2
水	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2
木	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2
金	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2

(備 考)

1. 教室名 臨2…臨床講義棟2階講義室
2. 卒業試験 9月4日(月)～11月10日(金)

ディプロマ・ポリシー（DP）と DP コードについて

ディプロマ・ポリシー（DP）とは、大学ごとに設定している卒業認定・学位授与に関する方針（卒業までに身につけるべき能力）のことです。

香川大学では DP を「本学の学士課程を修了し、21世紀市民として巣立つ学士に対して保証する最低限の素養」と再定義し、その素養を以下の5つに分類している。あわせてその DP を示すアルファベットを以下のとおり定義している。

〈DP と DP を示すアルファベット〉

- a : 言語運用能力
- b : 知識・理解
- c : 問題解決・課題探求能力
- d : 倫理観・社会的責任
- e : 地域理解

医学部医学科における卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー（DP）

香川大学医学部医学科では、その教育理念に基づき、医学を学ぶ上で必要な幅広い基礎的知識を基に、疾病の予防、診断、そして適切な治療ができる最新の医学的知識と診療能力・技能を身につけ、崇高な倫理観と人間性に富み、地域を理解し、世界に通用する医師並びに医学研究者を育成します。本学科を修了し、本学が送り出す学士（医学）・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は、次のとおりです。

a : 言語運用能力

- *医療現場・研究領域において適切なコミュニケーションを実践できる。
- *患者に対して傾聴・共感の姿勢を持ち、患者中心の医療を実践できる。
- *医療チーム・研究グループの一員として、時としてリーダーシップを発揮し、多職種連携による医療・研究を実践できる。
- *国際的視野を持ち、世界標準の医療・医学研究に関する情報を収集できる。

b : 知識・理解（21世紀型市民及び学士（医学）として）

- *特定分野にとらわれない幅広い教養、基礎科学・社会環境・病態生理に立脚した医学的知識を有している。
- *症候から鑑別診断・確定診断にいたる、根拠に基づいた臨床推論を実践できる。
- *医療現場における安全・安心に立脚した基本的診療能力・技能を有している。

c : 問題解決・課題探求能力

*医学の学びの中、あるいは臨床現場において、自ら問題点を見出し、解決することができる。

*積極性・向上心を持ち、自己主導型学習を实践できる。

d : 倫理観・社会的責任

*医師・医学研究者として、倫理観・使命感・責任感を持ち、省察的態度をもって行動ができる。

*専門職として生涯にわたり研鑽に努める姿勢を持っている。

*法令・社会的規範を遵守し、社会の一員として行動ができる。

e : 地域理解

*地域の保健・医療・福祉の実情を理解し、介護・福祉施設と緊密に連携して地域医療に積極的に参加できる。

DP コードについて

DP コードは、4桁で構成され、上記の DP を示すアルファベットと授業開設学部を示すアルファベット大文字1文字を並べたものです。医学部を示すアルファベットは『M』です。

シラバスに記載されており、その授業と関連のある DP を最大3つ重要なものから順にして並べて表示しています。(関連する DP が2つ以下の場合は、残った部分に x を記載します。)

シラバス

1 年次生

医用物理学

医用化学 I

医科生物学

微分積分学

医用統計学

医療心理学

医学概論

早期体験学習

早期医学実習 I

医療プロフェッショナリズムの実践 I

国際交流活動

※全学共通科目（英語）については web シラバスを参照すること

授業科目名

医用物理学

(英文併記 Physics for Medicine)

科目区分 専門基礎科目

授業コード 703200

DPコード bcxMED

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

准教授 久富 信之

授業の概要

自然科学の基礎の一つである物理学に基づいた自然界の法則を理解し、生命科学および医学に関連した事象を理解するための基礎学力の習得を目標とします。具体的には質点力学、剛体力学、流体力学、波動、光学、熱統計力学、電磁気学、原子物理学について講義を行います。例えば、静力学、慣性モーメント、変形力学は整形外科に関連しており、また流体力学は血行力学と関連しています。熱統計力学、電磁気学、および原子物理学は化学、生物学、生化学、神経信号伝達や、生体膜の力学に関連しています。また最近の、先進医療機器では物理法則に基づいた測定手法などが応用されており、その動作原理が理解できるように解説を行います。

授業の目的

将来医学を習得するにあたり、様々な臓器の働きや検査の原理について、必要に応じて物理学的な観点から説明できるように、基本法則を習得する。(DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」)

達成目標

1. 質点、剛体の力学や運動について理解し、関連する事象について説明することができる。
2. 静止流体と運動する流体力学の基礎を学び、流体に関連する事象について説明することができる。
3. 単振動、波動の基礎を学び、その応用として音波に関連する事象について説明することができる。
4. 電磁気学の基本法則を理解し、生体事象の説明をすることができる。
5. 熱力学的観点から熱現象を説明することができる。
6. 原子物理学や放射線科学等の基本を理解し、これらを応用した検査機器の動作原理を説明することができる。

成績評価の方法と基準

講義ごとのレポート、学期末の試験、受講態度など総合的に評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

講義を中心にします。講義理解度を把握するため課題レポートの出題を行います。

回	大項目	項目	内 容
1	はじめに	概論	物理学と医学
2	一般力学	質点の力学	運動方程式、保存則
3,4		静力学	力の釣り合いと力のモーメント、静力学の医学への応用
5,6		剛体の運動	慣性モーメント
7	固体変形	弾性変形・塑性変形	ヤング率, 体積弾性率, 生体への応用
8,9	流体力学	静止流体	自由表面、静水圧と空気圧、連続の式
10		運動流体	ニュートン流体と粘性流体、ベルヌーイの定理、ハーゲン-ポアズイユの法則
11	振動と波動	単振動	単振動、単振動の合成、強制振動
12,13		波動	波動に関する基礎的知識、波の診断利用
14,15	音波	音波	音の3要素、音速と音圧、共鳴、音の生体への応用
16,17	振動と波動	光学	光の干渉、回折、光学器械
18,19	熱と熱力学	熱現象、熱力学	温度と熱、熱の伝達、熱力学第1、2法則、エントロピー
20		分子運動論	分子の運動と熱分布、比熱
21		熱力学の応用	自由エネルギー、化学ポテンシャルと化学平衡
22	電磁気学	電場と電位	クーロンの法則、ガウスの法則、電気双極子、電気容量
23		電流現象、静磁場、電流と磁場	オームの法則、キルヒホッフの法則、熱起電力、ジュール熱、磁気双極子、磁性体
24,25		電磁誘導、電磁波	ファラデーの法則、インダクタンス、インピーダンス、共振回路、変位電流とMaxwellの方程式
26	原子	原子と原子核	黒体放射、光電効果
27		電子と原子	エネルギー準位、角運動量、粒子の波動性
28,29		原子核と素粒子	原子核、核融合、核磁気共鳴
30		X線、放射線	発生、利用、原子核の崩壊

教科書・参考書等

医歯系の物理学 赤野松太郎他著 東京教学社

オフィスアワー

月曜日午前中、火曜日終日、水曜日2限目以降、木曜日午前

メールアドレス kudomi@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

医用化学 I

(英文併記 Chemistry for Medicine I)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703215 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 通年 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

教授 和田 健司

授業の概要

我々の生活は、100あまりの元素から構成される物質に囲まれている。生命体もその例外ではなく、生命現象は多様な化学反応が高度に調和し、連鎖することから成り立っている。生命現象を分子レベルで正確に理解するためには、こうした多様な物質の構造や一般的性質、物質間の相互作用や反応について、系統的に学ぶ必要がある。医用化学 I の授業では、主に物理化学や無機化学、および基礎的な有機化学の側面から、医学の基盤となる化学の系統的理解を図る。

授業の目的

授業を通じて、医学を志す諸君に必要とされる基礎化学について理解を深める。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応) 特に、原子・分子の概念と構造、化学結合の様式、気体、液体および固体の性質、熱力学、化学平衡、酸と塩基、酸化と還元、化学反応の速度、有機化合物の構造と性質、有機化合物の反応、および立体化学の基礎について、正確かつ十分な知識を習得し、生命現象を分子レベルで理解するための能力を身につける。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

- 1) SI 基本単位系の定義と意義を説明できる
- 2) 原子や放射性同位元素、分子と分子量、モルとアボガドロ数の定義を説明できる
- 3) 周期律に従って原子の諸物性を説明できる
- 4) 原子の構造と量子数を説明できる
- 5) 化学結合の種類を説明できる
- 6) 理想気体の法則、熱力学第一・第二法則、相平衡と化学平衡、電解質溶液と電離平衡を説明できる
- 7) 一次反応、二次反応等の反応速度や、ミカエリス・メンテンの式等の速度式が説明できる
- 8) 有機化合物における結合の様式や混成軌道を説明できる
- 9) 環状構造や主な官能基の性質を説明できる
- 10) 有機化合物の命名法を説明できる
- 11) 有機化合物の立体化学について説明できる

成績評価の方法と基準

中間及び学期末に試験を実施する。試験の成績に加えて、授業への出席、宿題の提出状況と成績、小テストの成績等を総合的に評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

教科書を使用する。また、必要に応じてより高度な解説および演習問題等のプリントを配布する。なお、原則として、毎回小テストを行い、宿題を出す。

回	大項目	項目	内容
1	概論		科目概要の説明、化学を学ぶ意義、科学倫理、
2	化学の基礎	量と単位	元素と元素記号、同位体、原子量とモル、 化学反応式、単位と測定値の扱い
3, 4	原子	原子の構造と性質	ボーアのモデル、電子の波動性、不確定性原理、軌道関数と電子配置、周期表、電子式
5, 6	分子	原子から分子へ	共有結合 (σ 、 π 結合)、軌道混成、配位結合、極性、水素結合
7	結晶	様々な結晶と半導体	イオン結晶、電子配置の安定性、金属結合、共有結合結晶、半導体
8	物質の状態	気体	相図、超臨界、気体の特徴、分圧、気体拡散の法則、理想気体、モル分率、実在気体
9		液体と固体	固体、液体、濃度単位、蒸気圧、理想溶液、蒸留、非理想溶液、共沸、凝固点降下、沸点上昇、浸透圧
10, 11	物質の変化	熱力学の基礎	熱力学第一法則、内部エネルギー、エンタルピー、エントロピー、ギブスの自由エネルギー変化
12, 13		化学平衡	動的平衡、平衡定数、ギブスエネルギーとの関連、平衡定数の温度依存性、ルシャトリエの原理
14		酸と塩基	酸と塩基の定義、水の解離、pH、酸解離定数、酸・塩基強度、中和、滴定、加水分解、指示薬、
15	中間まとめ		
16	物質の変化	反応速度	反応速度 (式)、反応機構、反応速度の温度依存性 触媒、酵素、核化学
17	電気と化学	酸化と還元	酸化と還元の定義、酸化数、標準電極電位、ネルンストの式、濃淡電池、溶解度積
18	有機化合物の構造と性質	原子の構造と化学結合	原子の構造と化学結合、酸と塩基
19, 20		アルカンとその立体化学	命名法、異性体、反応性、立体配座
21, 22	有機化合物の反応 (1)	アルケンとアルキンの化学	命名法、電子構造、反応と反応機構
23, 24		芳香族化合物	ベンゼンの構造、命名法、反応と反応機構
25, 26	立体化学	有機化合物の立体化学	分子の対掌性、工学活性、順位則、自然界におけるキラリティー
27, 28	有機化合物の反応 (2)	ハロゲン化アルキル	ハロゲン化アルキルの命名法、求核置換反応、脱離反応、生体内における置換反応
29, 30		アルコール、フェノール、エーテル	アルコール、フェノール、エーテルの命名法、水素結合、酸性度、合成と反応

教科書

浅野、上野、大賀著、「Freshman 化学 第2版」(学術図書出版)：平易な教科書である。

講義前に予習し内容を理解しておくこと

McMurry ほか著、伊東ほか訳「マクマリー有機化学概説 第6版」(東京化学同人)

参考書

Rosenberg ほか著、一國訳「マグローヒル大学演習 一般化学」(オーム社)

化学教科書研究会著「基礎化学」(化学同人)

東京大学教養学部化学部会編「化学の基礎 77 講」(東京大学出版)

Atkins ほか著「アトキンス物理化学 (上) (下)」(東京化学同人)

Warren ほか著、野依ほか訳「ウォーレン有機化学 (上) (下)」(東京化学同人)

オフィスアワー

水曜日 午後6時～7時 ただし、事前にアポイントメントをとる場合には、随時受け付ける。

授業科目名

医科生物学

(英文併記 Medical Biology)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703226 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 通年 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

教授 山本 融 非常勤講師 永尾 幸 (保健管理センター医学部分室 講師)

授業の概要

「生命」とは何か、「生きている」とはどういうことか、を物質的側面から考察し、生命の成り立ちの必然性を概説する。次いで、生命が比較的少ない種類のパーツにより構成されていることを理解し、その物理化学的特性を把握する。さらに、これら分子群がどのように構成されて、生命の基本単位たる「細胞」を構築しているかを、その物理化学的特性に基づいて理解し、一つの動物細胞を例にして、その機能維持がどのように成し遂げられているのかを概説する。こうして得られた生命現象の物質的基盤と生命の最小単位である細胞の基本的な成り立ちについての理解を踏まえ、これら細胞群がどのように協調して組織を構築し、個体というシステムを形成していくのか、その基本について概説するとともに、この惑星上に共に生きる仲間である種々の生物相の相互作用により形成される生態系のあらましにふれる。

授業の目的

「社会人」として踏まえておくべき生物学のエッセンスと「医」の専門家として必要な現代生物学の概念および知識を習得することを目的とする。中でも、生命が現在あるシステムをとるようになっている必然性を生体分子の物性に基づいて理解し、生命の基本単位である「細胞」が採用しているシステムの実態と、細胞分裂にはじまり組織構築から個体形成にいたるメカニズムの概略を分子レベルで把握するとともに、細胞間の相互作用に基づいて形成された組織の特徴と、これがどのように維持されているのかを理解する。さらに、これら個体群の有機的な集合体としての生態系のあらましを把握する(DP「知識・理解」)。これにより、原子・分子レベルから地球環境レベルまで、時と必要に応じた視点から、医学の広範にわたる諸問題に対処していくのに必要な素養を身につけていく上での足がかりを作ることを本授業科目の目標とする(DP「問題解決・課題探求能力」)。なお、本講義で概説した事項を含む各生命現象の具体的な詳細については次年度以降の基礎医学系の講義で詳述されるので、それまでの楽しみとされたい。

達成目標

1. 生命の成り立ちを理解し、その有り様を概説できる。
2. 生命を構成している主要な物質を列記し、その構造と特性について説明できる。
3. 真核動物細胞がどのように成り立っているかを描述できる。
4. 生命維持に必要なエネルギーがどのように産生されているのかを概説できる。
5. 核酸の構造とその複製機構を説明できる。

6. 遺伝情報の複製がどのように制御されているのかを説明できる。
7. 細胞分裂の仕組みと細胞周期進行の制御機構を説明できる。
8. 細胞内の主要な情報伝達機構を説明できる。
10. 遺伝情報の発現とその制御機構を説明できる。
11. エピジェネティックな遺伝子発現制御機構とその意義について説明できる。
12. 能動的な細胞死の分子機構とその生物学的な意義について説明できる。
13. 細胞と細胞および細胞外マトリックスとの相互作用について説明できる。
14. 1個の受精卵から3種の胚葉が生じ、頭尾・背腹軸が定まる仕組みを概説できる。
15. 生命科学研究に用いられる主要なモデル生物の特徴を概説できる。

成績評価の方法と基準

中間（第8回）期末（前期・後期それぞれの終了後）におこなうテストにより、上記目標の達成を判定する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

次回の講義で講述する内容の参考書における該当領域を提示するので、あらかじめ目を通しておくとよい。なお、講義においては、講述される内容を、課題を参考にしつつ的確に把握した上で、ノート等に整理し、以下に記す参考文献等にあたってその理解を期すことが求められる。

回	大項目	項目	内 容
1	生命の物質的基礎	イントロダクション	イントロダクション - 生物学は暗記ではない -
2		細胞の基本構造	細胞の成り立ち - 生命の基本単位と「細胞」を作った日本人
3		生命の成り立ち	生命の誕生 - H ₂ O に育まれて -
4		生体物質	生命を構成する主要な物質 - たったこれだけ？
5		タンパク質の構造	タンパク質の高次構造と機能 - 体は名を表す -
6		エネルギー産生	エネルギー問題とその解決 - 勝ったのはどっち？
7		核酸の構造	核酸の構造 - 拙速がもたらした挫折と栄光 -
8		中間テスト	基本事項の確認
9	細胞の基礎生物学	これまでのまとめ	基本事項の復習
10		遺伝子の構造	遺伝子とその構造 - 君の DNA に過去の戦いの記憶が残る -
11		遺伝情報の複製	遺伝子の複製 - DNA を増やすのに RNA が要るって？ -
12		遺伝情報の発現	セントラルドグマ - 原則のあるところ例外あり -
13			転写とその制御 - 必要な情報を必要な時に -
14			RNA プロセッシングと翻訳 - RNA 修飾と翻訳の深い関係 - -
15		遺伝情報の修飾	エピジェネティクス - 氏も育ちも -

回	大項目	項目	内 容
16		前期のまとめ	前期末試験
17		細胞内情報伝達	細胞内情報伝達の基本原理 - 触ってみなけりゃわからない -
18			GPCRとRTK - この略号がわかればあなたも仲間 -
19			情報伝達と制御 - 使ってみると「足場」は便利 -
20		細胞骨格形成と制御	細胞骨格とその機能 - とても柔軟な細胞の「骨」 -
21			細胞骨格の形成制御 - 機能が似てれば仕様も類似 -
22		細胞周期と細胞分裂	DNA複製の開始制御 - DNA複製のライセンス -
23			細胞周期とチェックポイント - その先に進んで大丈夫? -
24	細胞から組織へ	非対称細胞分裂	単細胞から多細胞へ - トンビがタカを生む方法 -
25		細胞間相互作用	細胞間コミュニケーション - 「敵」から「仲間」へ -
26		細胞死	アポトーシスとその制御機構 - ほんとうに「自殺」か? -
27		初期発生	原腸陥入 - 1個の受精卵から個体形成への第一歩 -
28	個体と環境	群集と生態系	種の多様性とその維持機構 - 短絡的思考の墓場 -
29	生命科学と創薬	創薬科学	「おくすり」の創りかた - 「合理的」探索とセレンディピティ -
30	特別講義	漢方医学概論	漢方医学とは - 日本の伝統医学を知ろう - (担当: 永尾)

教科書・参考書等

「1」を参考書・図版集として随時利用するので持参されたい。

「2」は、本講義で取り上げる内容の相当部分を網羅しているのみならず、触れることができない詳細についても独習可能なように平易に解説されている。生物履修の有無にかかわらず、1～4章を、巻頭の「学生のみなさんへ」にある著者からのアドバイスに従いつつ「読」んで、あらかじめ理解に努めておくことを強く勧める。

「3」はやや高度な内容まで含まれた世界標準の参考書であり、講義で用いる図版等は、その多くをこの参考書から利用している。本講義や参考書2に物足りない諸君は、原文で関連項目を読破されることをお勧めする。訳書も存在するが高価である。なお、現在は原書第6版が刊行されている。

1. 「理系総合のための生命科学・第3版」羊土社 ISBN:978-4-7581-2039-5
2. 「プロッパ 細胞生物学」化学同人 ISBN:978-4-7598-1533-7
(原書:「Principles of Cell Biology」 ISBN:978-1-4496-3751-4)
3. 「Molecular Biology of the Cell 5th edition」Garland Science ISBN:978-0-8153-4106-2
(訳書:「細胞の分子生物学 第5版」ニュートンプレス ISBN:978-4-3155-1867-2)

オフィスアワー

随時受け付けるので、講義棟3Fの居室へ気軽に立ち寄られたい。なお、不在の場合も多いので、あらかじめ在室をメール (tohru@med.kagawa-u.ac.jp) で確認されると確実である。

授業科目名

微分積分学

(英文併記 Calculus)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703204 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

非常勤講師 上原 正宏 (前香川大学 准教授)

授業の概要

微積分の基本的な概念について、演習を交えながら講義する。この授業の前半では、ほぼ同じ内容の高校での一変数関数の微積分であるが、見方、考え方を少し変えるだけでおおざっぱな思考から微積分の精密さに気付く、と同時に数学の理論の奥深さが理解できる。また、後期の医用統計学への準備の一部である二変数関数の微積分の簡単な事項について具体的に紹介する。

授業の目的

取り扱う内容が同じでも、少し角度を変えて考えると、簡単な事柄から、高度な数学が理解できることを知る。また、数学の持つ厳しさ、美しさを体験する。(DP「知識・理解」に対応)

決められた約束(定義)を守り、与えられた条件から、新しい概念や結果を得るために、指示された通りに実践できるかどうかということは、専門性を追求するすべての分野に通じる手法である。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応) 何事にも、初心者が自分流の理論を展開しては、ほとんどの場合に失敗する。その典型がこの微分積分学にある。結果として、新しい概念についての、定義、定理の理解を優先することの重要性を知り、与えられた問題の解決が円滑になることを理解できる。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

- Landau 記号が理解できる。
- 微分の意味が分かる。
- 平均値の定理が理解でき、極限值が求められる。
- 微分積分学の基本定理が理解できる。
- 積分計算が出来る。
- 二変数関数の微分が分かる。
- 偏微分、全微分が計算できる。
- 条件付きの境値問題が解ける。
- 二重積分の計算ができる。
- 縦線型の領域での積分や、積分の変数変換ができる。
- 線積分が計算できる。
- Gauss-Green の定理が理解できる。

成績評価の方法と基準

レポート、演習、中間試験、定期試験などにより総合的に判断する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

これまでに学習した微積分の基本的な概念を本質から見直し、改めて、数学の基礎概念を理解し、知識の拡充を図る。随時、演習の時間を設けるので、その日のうちに習ったことは、その日のうちに理解するように努力すること。演習の時間は、友達と話し、数学の理解を深める事も許される。

一変数の微積分については、導入部分を除いては特別に目新しい内容は含んでいないが、それが自然に二変数関数の微積分の理解に有効であることを確認する。理論を理解する事で、知識を知性に広げて行く事が望まれる。

期末試験の前にはプレ試験を設けることがある。

改めて言う必要もないと思うが、数学の理解には演習が基本である。王道はない。地道な演習の努力が理論の理解を早める。

回	大項目	項目	内容	担当者
1~6	一変数関数の 微分積分学		微分とは何か、微分積分学の基本定理など	上原
7			前半のまとめと中間試験	上原
8~15	二変数関数の 微分積分学		偏微分と全微分、条件付き極値問題の解法、二重積分の概念と計算	上原
16			学期末試験	上原

教科書・参考書等

教科書

特にはない。授業前に関連するプリントを配布する。

参考書

試験前には、自分のノートが最善の参考書になる。

オフィスアワー

特には設けない。時間のある時にアポイントメントを取り来室すること。

講義実習棟 3F 306 非常勤講師室

e-mail: uehara@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

医用統計学

(英文併記 Medical Statistics)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703250 DPコード bcdM

単位数 2 時間割 後期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

非常勤講師 上原 正宏 (前香川大学 准教授)

授業の概要

現代はある意味で、情報との戦いである。就中、情報処理への関心度は、従来に比して非常に高まるであろう。適当にサンプリングされたデータから、客観的な事実を指摘し、データの本質的な中身を知る推定や、従来データとの比較である検定の手法は欠かせないものになる。推定や検定の基本的な概念を理解することは、その情報との戦いにとって非常に有効な手段である。確率変数、積率母函数の例を二項分布、正規分布に見て、推定、検定の理論を具体的な演習問題を交えながら統計学の初歩を手短かに講義する。積率母函数は、他の本には余り見られない内容であるが、多くの利便性を有する函数であるので、微積分の延長の意味も込めて取り扱っている。

授業の目的

統計学の数学的理論を理解し、実践的な能力を涵養するために、基本的な数学の概念を含む、統計の基本的な事項を修得し、統計学の必要性を理解して、具体的なデータの客観的な評価の仕方、方法、特に様々な検定の仕方を身につける。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

今後、医師、医学研究者として、取り扱うデータについて、責任をいかに負っているかについて認識する。データの修正や棄却は捏造となり社会的問題にも直結することを喚起する。(DP「倫理観・社会的責任」に対応)

達成目標

- ・ 統計における基本的な概念を説明し、それらの相互関係を示すことができる。
- ・ 確率変数の意味が分かる。
- ・ 二項分布、正規分布の基本的な性質が分かる。
- ・ どの統計量がどの分布に従うかが理解できる。
- ・ 推定、検定の初等的な内容を知り、演習を通じて、基本的な操作に慣れることができる。
- ・ 積率母函数の意味が分かり、積率の計算ができる。
- ・ 不偏分散の意味がわかる。
- ・ 平均、分散などの区間推定ができる。
- ・ 両側検定、片側検定の違いがわかる。
- ・ 平均の検定、カイ二乗検定、t 検定、F 検定ができる。
- ・ 適合度・独立性の検定ができる。
- ・ データの取り扱いに付いての重要性を理解し、慎重かつ正直な応接ができる。

成績評価の方法と基準

レポート、演習、中間試験、定期試験などにより総合的に判断する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

基礎的な数学の概念を用いて、統計学の理論、定理の内容、公式の意味を理解するための講義をする。講義内容の理解を深めさらなる関心を持つために、また、統計学に現れる基本的な概念の具体的な利用法を身につけるために、適宜、演習問題を課す。

演習時には速やかな計算のため、電卓を使用する。各自忘れないように準備すること。試験時にも必ず持参すること。電卓の貸与はしない。

期末試験前にプレ試験を実施する事もある。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1～6	統 計 学	確 率 分 布	確率変数、確率分布の基本的な性質	上原
7			前半のまとめと中間試験	上原
8～15	推 測 統 計 学	推 定 と 検 定	推定と検定の基礎とそれらの応用	上原
16			学期末試験	上原

教科書・参考書等

教科書

新統計入門 小寺平治著 裳華房

授業前に関連するプリントを配布する。

参考書

ゼロから学ぶ統計解析 小寺平治著 講談社

基礎数学統計学通論（第2版） 北川敏男、稲葉三男共著 共立出版

オフィスアワー

特には設けない。時間のある時にアポイントメントを取り来室すること。

講義実習棟 3F 306 非常勤講師室

e-mail: uehara@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

医療心理学

(英文併記 Medical Psychology)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703432 DPコード bdxM

単位数 2 時間割 後期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

非常勤講師 黒河内 美鈴 (臨床心理士)

授業の概要

心理学は「心」を科学的に探求する学問である。それでは、「心」とは一体どのようなもので、どのようにして外界とのつながりを持っているのだろうか。日々の他者との関わりのなかで、私たちは、ときに、その違いや共通点を感じ、あるいは、自分自身について想いを巡らす。しかし、「心」は目に見えないので、その心的活動や心的過程における「心」の表れとしての、感覚、思考、言語、そして、行動などが、その研究対象となる。それらは、また、脳の働きと深いつながりがある。

本講義ではまず「心」がいかんして構成され、いかなる過程をたどって、行動や言語でどのように表出されるか、人間に共通してみられる規則性を学習する。その上でその共通性が、社会や個人をとりまく環境によって、いかに影響を受け、それぞれの人格を形成していくかを、社会的な視点と発達の視点からみつめることで、独自性を持つ人間というものを理解することを習得する。

今後、職業人として、家庭人として、そしてひとり人間として生きていく上でも、今、心理学について学ぶことが、自分自身の心の特性や人格形成の成り立ち、社会や身近な人たちとの関わりあいについて深く考える機会となり、それぞれの将来のあり方に資することを期する。

授業の目的

人間の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶ。(DP「知識・理解」, 「倫理観・社会的責任」に対応)

達成目標

- 1) 行動と知覚, 学習, 記憶, 認知, 言語, 思考, 性格との関連を概説できる。
- 2) 様々な学習行動とその過程について説明できる。
- 3) 動機づけを例示し, 欲求と葛藤の関連や, 防衛を概説できる。
- 4) こころの発達の原理とライフサイクルの各段階における特徴を概説できる。
- 5) 人格理論の諸説について説明できる。
- 6) 集団や対人関係における諸問題, コミュニケーションの様相について概説できる。

成績評価の方法と基準

出席，講義内レポート，小テスト，学期末試験により総合的に評価。

授業計画並びに授業及び学習の方法

主に指定の教科書を使用しながら参考資料などで補足して講義を進める。

1. オリエンテーション～心とは何か
2. 知覚 ～刺激の受容と選別
3. 記憶 ～記銘・保持・想起そして忘却
4. 学習① ～無意識的反応と意識的反応
5. 学習② ～経験による学習の変化
6. 認知・思考 ～問題解決と概念形成
7. 動機づけ ～行動の源泉
8. ストレス① ～ストレス反応とは
9. ストレス② ～適応にむけて
10. 人格① ～パーソナリティとは
11. 人格② ～臨床上の問題と対応
12. 発達① ～発達理論と乳児期から幼児期
13. 発達② ～学童期から老年期
14. 対人関係① ～コミュニケーション
15. 対人関係② ～集団

教科書・参考書等

講義は教科書を使用しながら進める。参考書は必要に応じた理解の補足として挙げておく。

教科書

金城辰夫監修. 図説現代心理学入門[四訂版]. 培風館, 2016.

参考書

今田寛・宮田洋・賀集寛共編. 心理学の基礎[四訂版]. 培風館, 2016.

オフィスアワー

kurokouchimaru@yahoo.co.jp

授業科目名

医学概論

(英文併記 Outline of Medicine)

科目区分 早期医学 授業コード 703700 DPコード dcbM

単位数 1 時間割 前期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

学 長 長 尾 省 吾
教 授 今井田 克 己 (医学部長)
教 授 横見瀬 裕 保 (病院長)
教 授 芳 地 一 (薬剤部長)
教 授 日 下 隆 (小児科)
教 授 徳 田 雅 明 (副学長(国際戦略担当))
教 授 横 井 英 人 (医療情報部長)
教 授 舛 形 尚 (医療安全管理部)
教 授 鈴 木 康 之 (消化器外科)
教 授 木 下 博 之 (法医学)
看護師 豊 嶋 克 美 (看護部長)
准教授 松 原 修 司 (卒後臨床研修センター)
講 師 永 尾 幸 (保健管理センター)
講 師 高 田 純 (保健管理センター)
講 師 村 上 弥 生 (男女共同参画推進室)
非常勤講師 岩 井 敏 恭 (香川県立中央病院へき地医療支援センター)
准教授 新 井 明 治 (コーディネータ)

授業の概要

今日では新聞・雑誌はもとより、テレビの医療系番組、インターネットなどにより、一般市民が入手できる医学情報は以前とは比較にならないほど豊富になっている。しかしながら情報・知識を持つことと、それらを活用・統合して意味のある結果を生み出すことの間には大きな隔たりがあり、後者を達成するために必要な要件として、学問的体系に裏打ちされた専門知識の習得が重要であることは言うまでもない。

一方で、社会経済状況の変化、科学技術の進歩、価値観の多様化、急速なグローバル化の進展により、医学・医療のあり方は大きく変容を遂げている。急速に進行する少子高齢化、認知症や介護の問題、地域医療や救急医療の危機的状況も、様々な社会環境の変化と密接に関連している。医療に従事する者は個々の患者・生命に真摯に向き合うだけでなく、時には患者の家庭環境・社会環境の改善に取り組んだり、より多くの人々の健康を守るために行動し、社会に発信する役割も担っている。将来医師・医学研究者となる学生諸君は、医学の専門知識だけではなく、文系・理系の別なく幅広い学問領域の様々な考え方に触れることで、社会や人間の営みについて深

く考察し、高い倫理観と社会的使命感を培って欲しい。

医学概論では、毎回異なるテーマについて専門の講師が講義を行う。講義では単なる知識の習得ではなく、様々な現場で実際に活躍している講師の話から、各自が自分にとっての成長の糧となるヒントを得ることを目的としている。レポートを書いて終わりにするのではなく、関連する本を読んだり、講師にさらに詳しい話を聞かせてもらうなど、自分から積極的に学ぶ姿勢が求められる。この機会を大いに活用して、より広い視点から医学・医療を学ぶためのモチベーションを高めて欲しい。

授業の目的

- 1) 現代の医学・医療事情を理解する項目として、チーム医療、医療従事者としての心構え、地域医療、小児医療、ITと医療、医療安全に関する知識を習得する。(DP「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応)
- 2) 医学・医療における生命倫理に関する項目として、医の倫理、インフォームドコンセントと臓器移植、安楽死と尊厳死に関する知識を習得する。(DP「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応)
- 3) 学生生活と将来への展望に関する項目として、危険ドラッグ等の薬物問題、ジェンダー意識と性の尊重、心と体の健康、医師としての生涯設計、国際化する医学教育に関する知識を習得し、医学部生として社会生活を送るための態度について考える。(DP「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

- 1) 医の倫理について説明することができる。
- 2) チーム医療について説明することができる。
- 3) 医療従事者に求められるものについて説明することができる。
- 4) 乱用薬物の基礎知識について説明することができる。
- 5) 大学生のジェンダー意識と互いの性の尊重について説明することができる。
- 6) 医学部生の心と体の健康について説明することができる。
- 7) 医療と地域社会の関係について説明することができる。
- 8) 医師としての生涯設計を説明することができる。
- 9) 小児医療の現状について説明することができる。
- 10) 医学教育の国際化について説明することができる
- 11) ITと医療の関係を説明することができる。
- 12) 医療安全について説明することができる。
- 13) 安楽死と尊厳死について説明することができる。
- 14) インフォームドコンセントと臓器移植について説明することができる。

成績評価の方法と基準

レポート、出席、受講態度などから総合的に評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

教科書は使用せず、必要に応じて講義資料を配付する。講義内容の理解度をみるために毎回講義終了時にミニレポートを提出し、レポート提出をもって出席とみなす。遅刻者に対しては遅刻時間に応じた減点を科す。講義を聞きながらレポートを書くことになるため、相当の集中力を要する。遅れて提出されたレポートは採点対象外となる。

講義内容に興味をもったら、積極的に関連の本を読むことをすすめる。改めて講師に質問したい場合は、必ず事

前にアポイントを取る。わからなければコーディネータ（新井）に相談するとよい。

15 回のうち 6 回は看護学科との合同授業であり、臨床講義棟 2 階講義室で実施する。離れた教室への移動となるので開始時間に遅れないように行動すること。合同授業の一部は 3 大学連携事業の一環として実施する。

回	大項目	内 容	担当者
1	医学概論	医療に携わった先輩からのメッセージ	長尾 省吾
2		医の倫理	今井田 克己
3		チーム医療	横見瀬 裕保
4		医療従事者に求められるもの	豊嶋 克美
5		乱用薬物の基礎知識	芳地 一
6		大学生のジェンダー意識と互いの性の尊重	村上 弥生
7		医学部生の心と体の健康	永尾 幸 高田 純
8		医療と地域社会	岩井 敏恭
9		医師としての生涯設計	松原 修司
10		楽しくなければ小児科でない -こどもと共に成長する-	日下 隆
11		国際化する医学教育：香川大学の現状と展開	徳田 雅明
12		I T と医療	横井 英人
13		医療安全	舛形 尚
14		安楽死と尊厳死	木下 博之
15		インフォームドコンセントと臓器移植	鈴木 康之

教科書・参考書等

教科書は使用しない。必要に応じて、講義の時に参考図書、文献を紹介する。

オフィスアワー

随時実施（あらかじめメール等でアポイントを取ること）

授業科目名

早期体験学習

(英文併記 Early Exposure to Medicine)

科目区分 早期医学 授業コード 703730 DPコード cbxM

単位数 1 時間割 前期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

臨床系教員・基礎系教員

授業の概要

入学当初から臨床医学を体験学習することにより、1年生で学ぶ教養教育や2年生以降に学ぶ基礎医学、さらに臨床医学の大切さを理解し、勉学のモチベーションを高める。

医学の発展に伴い必要とする知識技能も膨大になってきており、従来の知識伝授型の教育ではそれに対応することが難しくなっているところから、将来のあるべき医師の態度を学び、新しい教育法であるチュートリアル教育（課題探求型自己学習法）を早期から経験することで、自ら勉強する習慣を身に付ける。

授業の目的

- 1) 医療の実際について理解する。
- 2) 臨床の初歩体験学習を通じて勉学に対するモチベーションを自ら高める。
- 3) チュートリアル教育法を学ぶことで、課題を見付け、自己で学習する習慣を養う。
(DP「問題解決・課題探求能力」、「知識・理解」に対応)

達成目標

- 1) 医師としてのマナーを身につけることができる。
- 2) 患者への適切な対応をすることができる。
- 3) 救命救急法を身につけることができる。
- 4) 大学附属病院各部署の業務内容を把握することができる。
- 5) チュートリアル教育法によって自己学習を習慣づけることができる。

成績評価の方法と基準

病院見学実習アンケート、チュートリアル教育入門チュートリアル評価による。

特に出席を重視する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

4月12日より、毎週水曜日3時限目から5時限目。ガイドブックは別に配布する。

(1) オリエンテーション

4月12日	3時限目～4時限目	医学部附属病院内各部署の案内・説明
4月19日	3時限目～4時限目	(場所 講義実習棟2階大講義室D) 救急救命蘇生法体験 (場所 看護学科教育研究棟6階603地域・精神看護学実習室)
4月5日	10:00～	情報メディアガイダンス(看護学科教育研究棟2Fマルチメディア実習室)
4月12日	5限目	図書館分館ガイダンス(看護学科教育研究棟2Fマルチメディア実習室)

(2) チュートリアル教育入門

4月26日～7月26日	毎週水曜日4・5時限目はチュートリアルを行う。 詳細については第1回目のチュートリアル・オリエンテーション(大講義室D)にて、説明と小冊子を配布する。
-------------	--

教科書・参考書等

必要な場合は、講義の時に、参考図書、文献を紹介する。

オフィスアワー

随時実施(あらかじめメール等で照会を行うこと。)

授業科目名

早期医学実習 I

(英文併記 Early Medical Institute Training I)

科目区分 早期医学 授業コード 703741 DPコード cbaM

単位数 1 時間割 後期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

教授 上田 夏生 (コーディネータ)

教授 岡田 宏基 (コーディネータ)

授業の概要

医学科1年次の諸君の中には、1年次のうちから専門教育の学習を始めたいと考えている学生も少なくないと思われる。また、研究や実際の診療現場に興味を抱いている学生もいることと思う。本授業科目はそのような学生を対象とし、1年次後期に自由科目として開講する。受講者は基礎医学系の講座を中心とした研究室のいずれかひとつを選択し、医学に関連した特定の研究分野の実験・調査・専門書や文献の講読などを行うことで最新の医学に接し、研究の面白さを体験することができる。また、医学部附属病院で初診患者への案内、必用に応じた誘導、お世話などボランティア活動を行うことで医療現場に触れるコースも設ける。受入れ研究室・研究室ごとの受入れ人数・実習テーマ・内容などをまとめたガイドブックを6月頃に配布した上で、受講希望者を募る。火曜日3・4限に開講するAコースと金曜日1・2限に開講するBコースがあるが、ひとりで複数のコースを受講することはできない。研究室ごとの受入れ人数に限りがあるため、募集人数を越える希望者がいる場合は調整を行う。自由科目ではあるが、継続して出席することが強く求められる。

授業の目的

早期に医学研究や医療現場を体験することで、医学研究の重要性および医療現場での課題に気付くとともに課題探究能力を養うことを目的とする。(DP「問題解決・課題探求能力」、「知識・理解」、「言語運用能力」に対応)

達成目標

- 1) 医学研究や医療現場体験を行うことの意義を説明できる。
- 2) 与えられた研究テーマについて目的、背景、方法、結果を説明し、考察することができる。
- 3) 病院ボランティア実習では、初診患者の抱える戸惑いや不安などを把握し説明することができる。

授業及び学習の方法

6月頃に配布予定のガイドブックを参照してください。

成績評価の方法と基準

出席状況、実習態度、レポートなどにより総合的に判断する。「了」をもって合格とする。

教科書・参考書

オフィスアワー

授業科目名

医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅰ

(英文併記 Practice of Medical Professionalism Ⅰ)

科目区分 早期医学 授業コード 703815 DPコード bcdM

単位数 1 時間割 後期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

教授 木下 博之 (法医学)
教授 和田 健司 (医用化学)
教授 岡田 宏基 (医学教育学)
准教授 新井 明治 (国際医動物学)
准教授 坂東 修二 (医学教育学)
講師 依田 健志 (公衆衛生学)
病院助教 泉川 美晴 (血液・免疫・呼吸器内科学)
教務職員 住谷 和則 (医学教育学)
非常勤講師 村主 節雄 (前香川大学医学部准教授)
菅原 英次 (高梁市川上医療センター長)
三宅 敬二郎 (敬二郎クリニック院長)
乗松 尋道 (香川大学医学部名誉教授、四国医療専門学校)
大麻 陽子 (四国医療専門学校)
花房 順子 (四国医療専門学校)
川口 郁代 (附属病院地域医療連携室)

協力施設

- ・高松市医師会会員および木田地区医師会会員とその所属する医療機関
- ・高松市とその周囲の介護老人保健施設

授業の概要

諸君はこれから医学部医学科の教育において医師となるべき基礎を学んでいくことになる。社会に認められる医師になるためには十分な医学的知識に加えて、専門職としての医師に必要な態度（プロフェッショナルリズム）を身につける必要がある。本授業では講義・実習を通して医療プロフェッショナルリズムの基礎を学び実践していく。

本授業では、これら今日の医学・医療を取り巻く諸事情、特に高齢化に関する課題、地域医療の実情とそこに潜在する問題、在宅医療のあり方、また、リハビリテーションを含んだ補完医療について、更に、医師の生き方にも関連したワーク・ライフバランス等について、それぞれの専門家から講義を受け、今日の医学・医療が抱える課題について理解を深める。さらに、地域医療と高齢者の介護の現状を体験的に理解するために、高松市およびその周囲の医療機関、および介護老人保健施設での臨地実習を行うことにより医師としてのあるべき姿勢を学んでいく。実習内容はe-ポートフォリオとしてまとめ、また全体で発表会を行い、体験を互いに共有する。加えて、

国際的視野を広める目的で、本学の国際交流と渡航に際しての注意点を講義する。

授業の目的

まず、以降の講義を理解しやすくするために、人体の基本的構造と機能、および日常的によく見られる疾患についての知識を習得する（DP「知識・理解」に対応）。次いで、今日の社会環境から生じた、医学・医療における諸課題について学ぶ（DP「知識・理解」に対応）。特に高齢者の医療における問題点、都市部における在宅医療や山間部における高齢者医療について具体的な事例を通じて学習する（DP「知識・理解」に対応）。さらに、医療を補完するリハビリテーションや、スポーツ医学、鍼灸治療についても基本的事項を学習する（DP「知識・理解」に対応）。実習では地域医療、介護福祉の現場に触れて、医師としてのあるべき姿勢を学んでいく（DP「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応）。また国際交流についての理解と、渡航に当たって必要な事項について学ぶことにより「グローバルマインド」を涵養していく（DP「知識・理解」に対応）。

達成目標

1. 身体の大まかな構造と機能を説明できる。
2. 日常的によく遭遇する疾患について簡単に説明できる。
3. 疾患をもたらすような自然界の生物について説明できる。
4. 高齢者医療福祉の特徴を介護・福祉の現場を通じて理解し、また孤独死について説明できる。
5. 在宅医療および山間部における高齢者医療について概説できる。
6. ワーク・ライフバランスについて概説できる。
7. リハビリテーションおよび、鍼灸治療など補完医療について概説できる。
8. 地域医療の現場に接し、医師となるための基本的な心構えを習得する。
9. 本学の国際交流について理解し、渡航に際する注意事項を述べることができる。

成績評価の方法と基準

出席毎のミニレポート、学習態度、および実習のレポート等により総合的に評価する。

なお、グループワーク、実習、学外実習発表会準備、学外実習発表会の参加は必修である。

授業計画並びに授業及び学習の方法

講義は必要最小限とし、まずグループワークを通じて、学外実習の意義、医療機関や介護老人保健施設を訪問する際のマナー、礼節、および個人情報の保護などについて基本的事項を習得する。

学外実習は午前半日 2 週×2 回行う。全体を半分に分け、前 2 回と後 2 回（医療機関 2 週→介護老人保健施設 2 週、又は介護老人保健施設 2 週→医療機関 2 週）としていずれも体験する。

実習場所は、インターネットなど様々な情報を自分で取得し、自主的に実習先を決定する。実習後は、そこで学んだことを個々にレポートとしてまとめ、それを基にして講義の最後で全体発表会を行い、個人の経験をできる限り全体として共有する。

実習以外の授業では、学内外の講師から、現在の医療を取り巻く環境、特に高齢者医療・福祉について、さらに代替補完医療について講義を受け、そこで、学んだことを毎回ミニレポートとして提出する。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	身体と疾患の 基礎知識	オリエンテーション／からだ を知ろう	本講義についてのオリエンテーション／ 身体の基本的構造	岡田
2		病気を知ろう	「家庭の医学」レベルの疾患の知識	岡田
3	医療プロフェ ッショナルリズ ムの実践と学 習課題	学外実習の説明	実習の意義と、実習先、およびその選択の 仕方、e-ポートフォリオについての説明	岡田、坂東
4		高齢者の福祉施設	高齢者の福祉施設についての解説	川口
5、6		実習場所の選択	候補となっている実習先について様々な 情報源から情報を得て、実習先を決める	岡田、坂東、 住谷
7、8		グループワーク	実習先で必要な、医療安全、プライバシー 保護など、および実習で学ぶべきことにつ いてグループワークを通じて習得	岡田、坂東 住谷
9		山間部の高齢者医療	中山間地域の地域包括ケア	菅原
10		海外の学術調査について	代表的な病原寄生虫についての学術調査	村主
11、12		学外実習1-1	各実習先で研修	現地
13、14		学外実習1-2	同上	現地
15		ワーク・ライフバランス	生涯医師を続けていくための支援とは	泉川
16		孤独死	法医学から見た孤独死	木下
17、18		学外実習2-1	各実習先で研修	現地
19、20		学外実習2-2	同上	現地
21		実習まとめ	実習で学んだことを整理	岡田、坂東
22		リハビリテーション概説	リハビリテーションの概要	乗松
23		補完医療としての鍼灸	鍼灸治療概説と実習	大麻
24		スポーツ医学	競技スポーツと健康作りの現場	花房
25、26		在宅医療	在宅医療の現状と実践例	三宅
27		学外実習発表会準備	実習で学んだことを発表用にまとめる。	岡田、坂東、 住谷
28		国際交流・渡航医学	国際交流の紹介と、渡航に当たっての注意 点	和田、新井、 依田
29、30		学外実習発表会	実習施設ごとに体験を発表する	関連教員

教科書・参考書等

各担当講師が必要に応じて提示する。

オフィスアワー

水曜日 16:30 ～ 17:30 (第3水曜を除く)

授業科目名

国際交流活動

(英文併記 International Exchange Activities)

科目区分 学際医学 授業コード 703920 DPコード acdM

単位数 1 時間割 集中 対象年次及び学科 全学年(医学科・看護学科)

教員名

教授 和田 健司 (コーディネータ) 教授 徳田 雅明 (コーディネータ)
教授 日下 隆 (コーディネータ) 教授 渡邊 久美 (コーディネータ)
教授 三宅 実 (コーディネータ)

授業の概要

香川大学医学部の国際交流の理念は、『国際交流をととして、グローバルスタンダードを有した「学生」「医師」「看護師」「研究者」の育成を行うとともに、人類の福祉や地域への貢献を行う。』としている。この理念のもとに、全学年を通して、学生には様々な国際交流活動に参加する機会が与えられている。こうした活動に積極的に参加することで、国際的感覚を涵養し、国際社会の一員としての自覚に目覚めることは、これからのグローバル社会において重要であり、医学・看護学の面でもグローバルスタンダードを自覚するためのまたとないチャンスである。本プログラムでは、①事前の十分な準備を行うこと、②実習を自主的かつ勤勉に行うこと、③報告書を提出すること、④報告会において発表すること、を求めている。対象となる活動は、香川大学医学部が交流をしている協定校において開設されるプログラムに参加するものに限る。また一部協定校からの学生受入れに関連する活動も含める。それぞれのプログラムについては、活動の時期、内容、定員が異なるため、それらに対応する準備や勉強が求められる。いずれのプログラムにおいても、語学(英語)は重要であり、一定程度の語学力が求められる。また医学部の提供する語学プログラム(上級英語など)への参加が望ましい。

授業の目的

学生の中に、海外での経験を積むことにより、世界に通用する広い視野を涵養する。また他国での医学や看護学の状況を見聞することで日本の医学や看護学について考える機会とすることを目的とする。

(DP「言語運用能力」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応)

達成目標

- 1) 派遣先の大学で、医学もしくは看護学の研修(実習、講義、見学など)に自主的に参加することができる。
- 2) 派遣先の大学で行われている、医学もしくは看護学の現状を理解し、日本の医学もしくは看護学と比較・分析できる。
- 3) 派遣先の大学の学生や教員と交流ができ友好を深める行動ができる。

授業及び学習の方法

対象となる派遣は以下のものに限る。

- ・ 春季・夏季休業中：チェンマイ大学での研修（医学科・看護学科）
- ・ 春季・夏季休業中：ブルネイ・ダルサラーム大学での研修（医学科）
- ・ 春季・夏季休業中：中国医科大学、河北医科大学もしくは第四軍医大学での研修（医学科・看護学科）
- ・ 春季・夏季休業中：国立シンガポール大学での研修（医学科）
- ・ 協定校から受け入れた留学生については、本学での研修（医学科・看護学科）

ただし協定校等との新規プログラムが始まった際にはこれを追加できる。

上記の派遣において以下のとおりの活動を行うこと。

- 1) 事前の十分な準備を行うこと。
- 2) 実習を自主的かつ勤勉に行うこと。
- 3) 報告書を提出すること。
- 4) 報告会において発表すること。

危機管理について

- ・ 香川大学インターナショナルオフィスのホームページを確認すること。
http://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/isc/study_abroad/crisis/
- ・ 海外渡航届を必ず本学（部局等）へ提出すること。
- ・ 危機管理に関する説明会やオリエンテーション等へ参加すること。
- ・ 保険への加入
- ・ 外務省は、2014年7月以降「たびレジ」システムを導入した。同省の専用サイトに必要事項（旅行日程・滞在先・連絡先）を入力することにより、滞在先の最新情報や緊急事態発生時の連絡メール、あるいは、いざという時の緊急連絡等の受け取りが可能となる。派遣学生に登録を推奨している。

成績評価の方法と基準

- 1) 派遣先の大学もしくは受け入れ部署で発行する修了証、および香川大学医学部所定の評価表を先方に記入してもらう。
- 2) 報告書および報告会での発表の評価。

以上より判断し「了」をもって合格とする。

教科書・参考書等

特に指定はしていないが、上級生の報告書などを参考にすること。

オフィスアワー

各コーディネータで随時受け付ける。

あらかじめアポイントメントを取り相談に行くこと。

シラバス

2 年次生

医用化学Ⅱ

細胞生物学

自然科学実習（物理学）

自然科学実習（化学）

自然科学実習（生物学）

分子遺伝学

分子生物学

医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ

解剖学Ⅰ

解剖学Ⅱ

生理学Ⅰ

生理学Ⅱ

生化学

早期医学実習Ⅱ

※全学共通科目（英語）については web シラバスを参照すること

授業科目名

医用化学Ⅱ

(英文併記 Chemistry for Medicine II)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703216 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 和田 健司

授業の概要

生命体の大部分は、炭素、水素、酸素、窒素などの少数の元素からなる有機化合物で占められる。また、多様な生命現象を分子レベルで理解するためには、有機化合物の構造や一般的性質、反応機構等に関する知識が必要不可欠である。医用化学Ⅱの授業では、医用化学Ⅰに引き続いて有機化学を系統的に講述するとともに、スペクトロスコピーの基礎について学び、さらに生体に存在する基本的な物質とその反応を有機化合物の観点から解説する。

授業の目的

授業を通じて、有機化学及び関連する諸分野の化学について理解を深める。特に、電子の動きによる官能基の反応性、種々の置換反応、脱離反応と付加反応、構造決定法、および生体内の有機化学の基礎について、正確かつ十分な知識を習得し、生命現象を分子レベルで理解できるようになるための基礎能力を身につける。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

- 1) 電気陰性度と電子の動きによる官能基の反応性を説明できる
- 2) 置換反応、脱離反応と付加反応を説明できる
- 3) 質量分析法、X線回折、紫外可視分光法、赤外分光法、および核磁気共鳴分光法の基礎を説明できる
- 4) 種々の生体内の低分子物質及び高分子物質の構造と機能、および反応機構を説明できる

成績評価の方法と基準

授業期間末に試験を実施する。試験の成績、授業への出席、小テストの成績等を総合的に評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

教科書を使用する。また、必要に応じてより高度な解説および演習問題等のプリントを配布する。なお、原則として、毎回小テストを行う。

回	大項目	項 目	内 容
1	ガイダンス、医用化学Ⅱ 概論		医用化学Ⅱについて、科目概要の説明、高度な有機化学や生化学反応機構、分光学を学ぶ意義
2	有機化合物の反応	アルデヒドとケトン	アルデヒドとケトンの命名法、合成、求核付加反応
3, 4		カルボン酸とその誘導体	カルボン酸とその誘導体の命名法、性質、カルボン酸の酸性度、合成と反応
5, 6		カルボニル化合物	カルボニル化合物の α 置換反応と縮合反応
7		アミン	アミンの命名法、性質、合成と反応
8, 9	構造決定	分光学的手法による有機化合物の構造決定法	質量分析法, 赤外分光法, 紫外分光法, 核磁気共鳴分光法の概要
10	生体内の有機分子	炭水化物	炭水化物の化学
11		アミノ酸, ペプチド, タンパク質	アミノ酸の構造と性質, たんぱく質・酵素
12		脂質と核酸	脂質・油脂, 核酸
13, 14		代謝	代謝経路の有機化学
15	総論		講義まとめ

教科書

McMurry ほか著、伊東ほか訳「マクマリー有機化学概説 第6版」(東京化学同人)

参考書

McMurry ほか著、長野ほか訳「マクマリー生化学反応機構—ケミカルバイオロジー理解のために—」(東京化学同人)

Silverstein ほか著、荒木ほか訳「有機化合物のスペクトルによる同定法 第7版」(東京化学同人)

Warren ほか著、野依ほか訳「ウォーレン有機化学(上)(下)」(東京化学同人)

オフィスアワー

前期 木曜日 午後6時～7時 ただし、事前にアポイントメントをとる場合には、随時受け付ける。

授業科目名

細胞生物学

(英文併記 Cell Biology)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703350 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 山本 融

授業の概要

生命の基本単位である「細胞」と組織・個体の成り立ちについて、医科生物学で把握した基礎的な細胞像をもとに、具体的に解説する。特に、ダイナミックで非平衡な開放系である細胞内外の秩序が、どのような分子群の相互作用により形成されているのかを詳述する。

授業の目的

「生命」を構成する分子群が、その物理化学的な制約をどのように乗り越え、あるいは利用して、細胞とその有機的な集合体である組織・個体というシステムを成り立たせているのかについて、具体的な描像を得ることを目的とする(DP「知識・理解」)。「病気」には、こうしたシステムの「ちょっとした」異常により生じているものも多く、薬剤の多くは異常を来したシステムの一部に干渉して作用する。基礎・臨床医学の各論の背後に共通して存在しているシステムの正常状態における成り立ちの基本を分子レベルで理解し、その異常として顕現する各種疾病の適切な把握と諸問題の解決に資することを目指す(DP「問題解決・課題探求能力」)。

達成目標

1. 脊椎動物における個体発生の分子機構を説明できる。
2. 体節・四肢・器官形成の分子機構を説明できる。
3. 組織の構築と維持の分子機構を、例を挙げて説明できる。
4. 細胞内における物質産生とその品質保証システムの概要を説明できる。
5. 細胞内におけるオルガネラ間の物質輸送とその制御の分子機構を説明できる。
6. 細胞の形態形成と細胞移動の制御機構を説明できる。
7. 生命科学研究に用いられる主要なモデル生物の特徴を概説できる。

成績評価の方法と基準

全講義終了後のテストにより、上記目標の達成を判定する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

とりたてて予習をする必要はないが、次回の講義で講述する内容の参考書における該当領域を提示するので、あらかじめ目を通しておくとよい。なお、講義においては、課題を参考にしつつの確に把握した上で、ノート等

に整理し、以下に記す参考文献等にあたってその理解を期すことが求められる。

回	大項目	項目	内 容
1	細胞の社会学	イントロダクション	前年度のまとめ
2		初期発生	原腸陥入と体軸形成 - 多様な組織形成の第一歩 -
3			哺乳類の初期発生 - トリとマウス どっちがヒト? -
4		形態形成	位置情報と区画化 - アナログ情報のデジタル化をハエに学ぶ
5			体幹の区画化 - 体制はリズムで決まる -
6		組織形成	四肢の形成 - ダーウィンの驚き -
7			中枢神経系を例にして - 特別視されがちな臓器の成り立ち -
8		組織の維持	組織の新陳代謝と形態維持の分子機構 - 安全装置と発がん -
9		生殖系列	生殖細胞と減数分裂 - ただのシャッフルではありません -
10	細胞の分子生物学	細胞内物質輸送	核輸送 - 今いるところは核の内?それとも外? -
11			オルガネラへのタンパク質輸送 - 脂質二重膜を越えて -
12			小胞輸送機構とその制御 - 積み荷は常に満タン -
13			分泌小胞とエンドソーム - 放浪するリソソーム酵素 -
14		品質管理	タンパク質の品質管理 - 細胞の不要品処理システム -
15		細胞形態形成と移動	細胞形態形成制御機構 - 細胞の手足のつくりかた -
16			細胞移動と形態形成 - 細胞が動かない細胞移動? -
17		生命科学の方法論	遺伝子発現の人為的制御 - RNAの新たな役割 -
18		まとめ	まとめ - 60兆分の1に思いを馳せよう -

教科書・参考書等

1を参考書として利用し、不足を2で補う。一部は3を援用する。

1. 「Molecular Biology of the Cell 5th edition」 Garland Science ISBN:978-0-8153-4106-2
(訳書:「細胞の分子生物学 第5版」ニュートンプレス ISBN:978-4-3155-1867-2)
2. 「プロッパ 細胞生物学」化学同人 ISBN:978-4-7598-1533-7
(原書:「Principles of Cell Biology」 ISBN:978-1-4496-3751-4)
3. 「理系総合のための生命科学・第3版」羊土社 ISBN:978-4-7581-2039-5

オフィスアワー

随時受け付けるので、講義棟3Fの居室へ気軽に立ち寄りたい。なお、不在の場合も多いので、あらかじめ在室をメール (tohru@med.kagawa-u.ac.jp) で確認されると確実である。

授業科目名

自然科学実習（物理学）

（英文併記 Experimental Methods in Natural Sciences (Physics) ）

科目区分 専門基礎科目

授業コード 703230

DPコード bcxMED

単位数 2（物理学・化学・生物学） 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

准教授 久富 信之

授業の概要

物理実験を通し基礎的な実験技術の習得を促す。また、収集したデータについて内容と原理を理解した上でまとめかつ報告する技術を習得するよう実習を行う。

授業の目的

- (1) 基礎的な計測器の使用を通して実験技術を習得する。（DP「知識・理解」）
- (2) 実践を通し科学的な思考方法を体得し、自然現象の本質的な理解を深める。（DP「問題解決・課題探求能力」）
- (3) 機器の操作や技術の原理を習得する。（DP「知識・理解」）

達成目標

- (1) オシロスコープ，発振器等の計測器の操作ができる。
- (2) 電気，磁気，温度および光等に関する測定ができる。
- (3) X線技術に触れ、その性質が説明できる。
- (4) 電気回路を理解し，作製することができる。
- (5) コンピューターによるデータ処理ができる。

成績評価の方法と基準

実習毎にレポート提出。レポート，実習中の態度を総合的に評価して成績を判定します。

授業計画並びに授業及び学習の方法

実験機器を使い実習を行います。実験手順書を配布します。これにしたがって実験を実施します。

- (1) 前半基礎コース（全員）で3テーマ、
- (2) 後半1テーマ+発表会のアドバンスコース（選択）の実験・実習を行う。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	実習講義	実験の心得	器具の取り扱いと注意	久富
2-4	基礎コース	サーミスターによる温度計	サーミスターを使って温度計を制作	久富

		分光計による屈折率の測定	分光計と放電管を使い、プリズムの屈折率を測定	久富
		オシロスコープによる振動数測定	オシロスコープを使い、振動数を測定する	久富
5-7		X線による撮影	X線を使った撮像法について	久富
		画像処理	簡単な医用画像処理	久富
		放射線計測	自然放射線の計測	久富

教科書・参考書等

資料を配布

オフィスアワー

月曜日午前中、火曜日終日、水曜日2限目以降、木曜日午前

電子メールアドレス kudomi@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

自然科学実習（化学）

（英文併記 Experimental Methods in Natural Sciences (Chemistry) ）

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703230 DPコード abxM

単位数 2（物理学・化学・生物学） 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 和田 健司

准教授 中北 慎一

授業の概要

基礎的な化学実験を通して種々の化学反応を活かした分析法を学び、原理を理解して応用できる力を習得する。特に、医薬品原料や医療材料として活用されている有機化合物の合成と分析法についても実習する。

授業の目的

授業を通じて化学反応の基礎的概念の理解を深めるとともに、実験器具の取り扱い方や、実験ノートの付け方、実験データの解析法、及びレポート作成法を習得する。（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応）これらの基礎的な知識の統合によって、有機化合物の合成や分析に関する基礎的な能力を身につける。（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応）

達成目標

- 1) 化学実験における心得と実験器具の取り扱いについて説明できる
- 2) 酸・塩基滴定による定量分析を行うことができる
- 3) イオン交換法による定量分析を行うことができる
- 4) 吸光度法分析による定量分析を行うことができる
- 5) 各種クロマトグラフィーによる定性分析を行うことができる
- 6) 基礎的な有機合成反応を理解し、有機化合物を合成し、分析することができる

成績評価の方法と基準

実習毎にレポートの提出を求める。実習への出席状況、レポート、実習態度等を総合的に評価する。なお、原則として実習への欠席を認めない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

適宜プリント等を配布する。実験法や実験ノート記載に関する講義に加えて、計6回の実習を行う。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	全体講義 (物理実験・生物実験と合同で実施)	実習講義	科目概要の説明、実験の心得、実験ノート・レポート作成法、実験器具の取り扱いと注意	和田、 中北 ほか
2	実習	酸・塩基滴定	塩酸を用いた酸・塩基滴定、マイクロピペット使用法	和田、 中北
3		イオン交換法	イオン交換樹脂を用いた定量分析	和田、 中北
4		吸光光度法分析	o-フェナントロリン法による定量分析	和田、 中北
5		有機合成・クロマトグラフィー	指示薬の合成、ペーパークロマトグラフィー、薄層クロマトグラフィーによる有機化合物の分析	和田、 中北
6		抽出	コーヒーや紅茶、緑茶からのカフェインの抽出、薄層クロマトグラフィー等によるアミノ酸の分析	和田、 中北
7		蛍光物質の合成	固体酸触媒を用いたクマリン誘導体、フルオレセイン等の蛍光物質の合成と分析	和田、 中北
8	全体講義 (物理実験・生物実験と合同で実施)	実習講義	総論、講評、知識の確認	和田、 中北 ほか

教科書

特に指定しない。資料を配布し、実習の手順を解説する。

白衣および以下の実験ノートを使用するので、準備しておくこと。

コクヨ リサーチラボノート エントリーモデル ノ-LBB205S

参考書

Day ほか著、鳥居ほか訳「定量分析化学」(培風館)

後藤ほか著「有機化学実験の手引き」(化学同人)

京都大学大学院人間・環境学研究科化学部会著「基礎化学実験」(共立出版)

東京化成工業(株)編「取扱注意試薬ラボガイド」(講談社サイエンティフィック)

Silverstein ほか著、荒木ほか訳「有機化合物のスペクトルによる同定法 第7版」(東京化学同人)

泉ほか著「機器分析の手引き」(化学同人)

日本分析化学会九州支部編「機器分析入門」(南江堂)

オフィスアワー

前期 木曜日 午後6時～7時 ただし、事前にアポイントメントをとる場合には、随時受け付ける。

授業科目名

自然科学実習（生物学）

（英文併記 Experimental Methods in Natural Sciences (Biology) ）

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703230 DPコード cbxM

単位数 2（物理学・化学・生物学） 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 山本 融

准教授 宮下 信泉（総合生命科学研究センター）

教務職員 豊島 哲彦

授業の概要

実際に自分の目と手で生物を観察すると、ステレオタイプな知識だけでは想像できなかった様々な現象が見えてくる。これが実習の醍醐味である。まず、動物としてのヒトの生理をマクロな観点から、自身を検体として観察する。ついで、顕微鏡を用いて小動物・組織のミクロな形態を観察し、生物の、微細でありながらも機能的な形態の一端に触れるとともに、個体が形成されていく発生の過程を観察する。最後に、こうしたミクロな観点からもう一度離れ、我々の生活する環境中に存在する病原体媒介昆虫の生態を探る。広大な生き物の領域のごく一部ではあるが、自らの目と手で整理・把握する喜びを体験する。

授業の目的

実習を通して、講義で得た知識の一部を確認するとともに（DP「知識・理解」）その運用を体験する。データ解析とこれに基づいた推論や、網膜に映った事象の把握と表現法を学ぶことを目的とする（DP「問題解決・課題探求能力」）。

達成目標

- (1) 簡単な医療機器や顕微鏡といった測定・観察器具を正しく取り扱うことができる。
- (2) ノイズが存在する生データを適切に扱い、測定結果を正しく評価することができる。
- (3) データに基づいた適切な推論を行うことができる。
- (4) 観察した結果を適切に表現・伝達することが出来る。
- (5) 動物の発生・形態・機能・生態について、自らの経験をもとに例を挙げて説明することができる。

成績評価の方法と基準

実習は出席が必須要件であり、原則として欠席は認められない。実習態度と実習ごとに課すレポートを総合して合否判定を行う。

授業計画並びに授業及び学習の方法

各回の実習の目的は何であるか、どのような知見に基づいているのか、またどのような手技が必要とされるのかをよく理解して臨むことが大切である。これらは、各実習の最初に参考資料とともに講述されるので、留意しておくこと。また、データ解析の結果、当初予想されたものと異なる結果であった場合は、直ちに失敗とするのではなく、なぜそうなったのかを考察することが重要である。なお、医療の現場のみならず、医学研究においてもチームワークが大切である。グループで行われる実習では、どのように協力して実験をおこなうかについてコミュニケーションをとりあうことも大事である。

回	大項目	項目	内容	担当
	自然科学実習 (生物学)	実習説明	イントロダクション (物理・化学・生物)	
1		身近な生物学 (マクロ)	人体の機能を観察する (循環器系)	宮 下
2		身近な生物学 (マクロ)	人体の機能を観察する (神経系)	山 本
3		身近な生物学 (ミクロ)	顕微鏡の取り扱いと小昆虫の観察	豊 島
4		身近な生物学 (ミクロ)	神経系の観察	山 本
5		個体の発生と形態形成	個体発生過程の観察	山 本
6		環境と生態	伝染病媒介昆虫の野外調査	豊 島

第1回から第4回までは全体を2グループにわけて、第5回・6回は3グループにわけて実習をおこなう。詳細は全体で行うイントロダクション時に説明する。

教科書・参考書等

教科書

特に指定はしない。実習ごとにプリントを配付し、留意点等を解説する。

参考書

各回実習開始時の講述時に適宜指定する。

オフィスアワー

適宜受け付けるので、講義棟3Fの居室へ気軽に立ち寄られたい。不在の場合も多いので、あらかじめ在室をメールで確認されると確実である。

山本：tohru@med.kagawa-u.ac.jp

宮下：nmiyashi@med.kagawa-u.ac.jp

豊島：tetsu@kms.ac.jp

授業科目名

分子遺伝学

(英文併記 Molecular Genetics)

科目区分 専門基礎科目

授業コード 703213

DPコード bxxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 竹崎 直子

准教授 岩間 久和

授業の概要

遺伝情報についての基本的な知識、伝達様式、遺伝的変異についての解説、これを用いた疾患遺伝子の探索方法などの解析方法について紹介を行う。

授業の目的

遺伝情報およびその伝達の機構、遺伝的変異、遺伝情報の変化について疾患遺伝子の探索方法などについて学習する。ゲノムデータおよび様々な遺伝的データについての基礎的知識を得る。(DP「知識・理解」に対応)

達成目標

- 1) 遺伝情報およびその伝達の仕組みを理解することができる。
- 2) 遺伝情報と表現型の関係を理解する。
- 3) 細胞分裂、染色体についての基本的知識を得る。
- 4) 遺伝的変異の創成、維持などのメカニズムについて理解することができる。
- 5) 遺伝的多型を用いた疾患遺伝子探索方法を理解し説明できる。
- 6) 多因子疾患等のモデルについて理解し、疾患にあてはめて説明できる。
- 7) ゲノムやそれに関連する新しい遺伝的データおよびその活用法について理解する。

成績評価の方法と基準

中間試験、期末試験を実施する。また、必要に応じて、宿題や小テストを行い、理解度を判定する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

- 1) 教科書を特に指定しないが、準備した資料を参考にしながら、講義内容の復習をすることを基本とする。
- 2) 単なる用語の暗記ではなく、遺伝情報伝達の仕組み、方法論に至る考え方の理解を深める。

回	大項目	項目	内容	担当者
1		遺伝情報伝達のしくみ	遺伝情報伝達の基本的仕組み	竹崎

2		遺伝情報と表現型 I	遺伝情報と表現型との関係	竹崎
3		遺伝情報と表現型 II		竹崎
4		細胞分裂	体細胞分裂と減数分裂	竹崎
5		ヒトの染色体	染色体の構造、常染色体と性染色体	竹崎
6		染色体異常	染色体レベルの異常と表現型への影響	竹崎
7		突然変異	DNA レベルの突然変異	竹崎
8		集団の遺伝情報の変化	ヒトの起源・進化、集団/種間の違い	竹崎
9		中間テスト		竹崎
11	連鎖解析	連鎖解析の基礎	連鎖解析の基礎概念	岩間
12		連鎖解析の応用	連鎖解析による病因遺伝子の探索	岩間
13	多因子遺伝	量的形質座位 (QTL)	QTL と相加的ポリジーンモデル	岩間
14		多因子疾患	多因子疾患における遺伝因子と環境因子の関係	岩間
15		遺伝様式/リスク評価	遺伝様式と家系におけるリスク算定	岩間
16		多数小家系の遺伝解析	多数の小家系を用いた病因遺伝子探索	岩間
17	関連解析	ハプロタイプと連鎖不平衡	ハプロタイプと連鎖不平衡の概念	岩間
18		関連解析と SNP	SNP を利用した関連解析	岩間
19		ゲノムワイドな解析	ゲノムレベルの網羅的解析の方法論	岩間

参考書

D. L. ハートル/ジョーンズ共著 布山善章・石和貞男監訳 「エッセンシャル遺伝学」培風館
 徳永勝士編 人類遺伝学ノート 南山堂

オフィスアワー

金曜日、午後 4 時半～5 時半とします。また、メールで連絡を頂ければ、お返事します。

(takezaki@med.kagawa-u.ac.jp、iwama@med.kagawa-u.ac.jp)

授業科目名

分子生物学

(英文併記 Molecular Biology)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 704260 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 神鳥 成弘 准教授 吉田 裕美

授業の概要

今日の分子生物学の進歩はめざましく、医学の発展にも大きく貢献している。ここでは、分子生物学の基礎となる、生体分子の分子構造とそれらが持つ機能との関係、および、分子レベルでの遺伝子の構造、複製、修復、組換え、転写、翻訳、発現の調節、についての講義を行う。

授業の目的

生命現象の基本原則を分子レベルで理解し、医学・薬学的応用を易とするために、生体分子の構造と機能との関係、遺伝情報の伝達と発現について習得する。(DP「知識・理解」,「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

1. 分子生物学の学術用語を説明することができる。
2. 生体分子の構造について理解することができる。
3. ミオグロビン・ヘモグロビン、筋肉収縮、抗体の構造と機構について分子レベルで理解することができる。
4. 生命現象における分子生物学のセントラルドグマを理解することができる。
5. 遺伝子の構造・発現調節機構について理解することができる。

成績評価の方法と基準

1. 中間および学期末筆記試験を行い、学習達成度を評価する。
2. 理解度を評価するため、レポート提出を求めることもある。

授業計画並びに授業及び学習の方法

授業の復習に重点をおくこと。授業中、理解不足な箇所は、教科書・参考書を活用して自学自習すること。中間・期末テスト範囲のバランスをとるため、授業の開講順は、以下の順番と異なるので、講義・実習時間割をよく確認しておくこと。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	生体分子	アミノ酸とタンパク質の一次構造	アミノ酸の化学とペプチド	神鳥
2		タンパク質の高次構造	一次, 二次, 三次, 四次構造	神鳥

3		タンパク質のフォールディング	タンパク質の立体構造とその形成	神鳥
4		核酸の構造	DNA らせん, 染色体の構造	神鳥
5		タンパク質の機能	ミオグロビンとヘモグロビン, 筋肉収縮, 抗体	神鳥
6		単糖と多糖	単糖, 多糖, 糖タンパク質	神鳥
7		脂質と生体膜	脂質の化学, 生体膜	神鳥
8		膜輸送	能動輸送, 受動輸送	神鳥
9		酵素触媒	酵素の一般的性質と触媒反応機構	神鳥
10		酵素反応速度論	反応速度, 酵素の阻害	神鳥
11		シグナル伝達	ホルモン, 受容体タンパク質	神鳥
12		中間テスト	前半の学習範囲での筆記試験	神鳥・吉田
13	遺伝子の発現 と複製	DNA : 複製, 修復, 組換え (1)	DNA 複製の諸酵素	吉田
14		DNA : 複製, 修復, 組換え (2)	原核・真核細胞の DNA 複製と修復	吉田
15		DNA : 複製, 修復, 組換え (3)	DNA の修復と組換えと可動遺伝子要素	吉田
16		転写と RNA プロセッシング (1)	タンパク合成における RNA の役割, RNA ポリメラーゼ転写制御と転写後修飾	吉田
17		転写と RNA プロセッシング (2)	転写制御と転写後修飾	吉田
18		翻訳 (1)	遺伝暗号, 転移 RNA, リボソーム	吉田
19		翻訳 (2)	真核生物の翻訳制御, 翻訳後修飾	吉田
20		遺伝子発現の調節 (1)	原核生物の遺伝子発現調節	吉田
21		遺伝子発現の調節 (2)	真核生物の遺伝子発現調節	吉田
22		遺伝子操作	組換え DNA 技術とバイオテクノロジー	吉田
23		予備日		神鳥・吉田

教科書・参考書等

教科書

D. Voet, J. G. Voet, P. Charlotte 著, ヴォート基礎生化学第4版, 東京化学同人, 2014年第1刷発行, (日本語訳, 田宮・村松・八木・遠藤 訳)

参考書

D. Voet, J. G. Voet 著, ヴォート生化学第4版(上)・(下), 東京化学同人, 2012年第1刷発行, (日本語訳, 田宮・村松・八木・吉田・遠藤 訳)

オフィスアワー

水曜日の昼休み

ただし, メールにてアポイントメントをとる場合は, この限りではなく随時受け付ける。

e-mail : kamitori@med.kagawa-u.ac.jp (神 鳥)

h.yoshi@med.kagawa-u.ac.jp (吉 田)

授業科目名

医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅱ

(英文併記 Practice of Medical Professionalism Ⅱ)

科目区分 早期医学 授業コード 703814 DPコード dcbM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 岡田 宏基 (医学教育学、コーディネータ)

教授 清水 裕子 (看護学科成人看護学)

准教授 坂東 修二 (医学教育学)

教務職員 住谷 和則 (医学教育学)

非常勤講師 竹森 元彦 (香川大学教育学部)

中田 敬司 (神戸学院大学現代社会学部)

瀬戸 秀夫 (NHK 高松放送局)

西村 和宏 (演出家・四国学院大学社会学部)

協力者 医学部附属病院看護部、薬剤部、理学療法部、栄養管理室、地域連携室

協力施設 徳島文理大学香川薬学部 (二宮 昌樹教授他)

香川県立保健医療大学 (塩田 敦子教授他)

授業の概要

諸君は1年次の医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅰにおいて、地域医療・介護老人福祉施設実習を通して医療者に必要な知識・技能・態度を習得するための基本を学んできた。医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅱにおいては、医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅰでの学びを踏まえて、医療に必要なコミュニケーション、多職種連携(チーム医療)について講義と実習を通して学びを深めていく。

I、医療コミュニケーション教育

医療コミュニケーションを学ぶためには、まず日常における自らのコミュニケーション能力について振り返る必要がある。講義ではカウンセリングや行動科学の基本について学んでいく。前半のコミュニケーション実習では、NHK高松放送局の堀井洋一先生をお招きして、放送現場に従事する立場から、日本語の言語・音声特性や、それを意識した上での、より理解しやすい表現や会話の構築などを学んでいく。後半のメディカルパフォーマンス実習では、演出家・四国学院大学社会学部の西村和宏先生をお招きして、演劇の手法を活用したワークショップを通して、自己を表現する力を養成していく。

II、多職種連携教育

実際の医療現場では患者を中心として様々な職種が関わっている。我々はこの医療チームの一員として互いを尊重しながら医療を実践していかなければならない。このパートでは、まず医学部附属病院の看護部、薬剤部、理学療法部、栄養管理室、地域連携室の先生をお招きして附属病院における各職域の実際について学んでいく。香川県立保健医療大学と徳島文理大学香川キャンパスの実習では、本学に設置されていない助産、臨床検査、理学療法、診療放射線、薬学などの実際について学んでいく。附属病院における実習では、多職種連携の実際として看護職の仕事を体験し、チーム医療の重要性を学んでいく。また、災害・救急医療におけるチーム医療の実践

として、神戸学院大学現代社会学部の中田敬司先生をお招きし、チーム医療に必要なスキルや態度についてグループワーク等を通じて学んでいく。

達成目標

- 1、医療プロフェッショナルリズムの定義を説明できる（DP「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応）。
- 2、カウンセリングの理論について説明し、カウンセリングの実際について説明できる（DP「知識・理解」に対応）。
- 3、日本語の言語・音声特性について説明できる（DP「知識・理解」に対応）。
- 4、理解しやすい表現や会話の構築を実践できる（DP「知識・理解」に対応）。
- 5、演劇を通して自己を表現できる（DP「問題解決・課題探求能力」に対応）。
- 6、多職種連携の意義について説明できる（DP「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応）。
- 7、医療に関わる様々な職種について説明できその中での医師の役割について考察できる（DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応）。
- 8、災害・救急医療におけるチーム医療に必要なスキルや態度を身につける（DP「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応）。

成績評価の方法と基準

講義、実習や自己学習における、出席、ミニレポート、実習態度等により総合的に評価する。なお、実習の出席は必須である。

授業計画並びに授業及び学習の方法

医療コミュニケーションと多職種連携に関する講義と実習より本授業は構成される。

回	大項目	授業形態	内容	担当
1	医療コミュニケーション	講義	オリエンテーション	岡田
2	医療コミュニケーション	講義	行動医学概説	岡田
3, 4	医療コミュニケーション	実習	メディカルパフォーマンス実習①	西村、岡田、坂東、住谷
5, 6	医療コミュニケーション	実習	メディカルパフォーマンス実習②	西村、岡田、坂東、住谷
7	チーム医療	講義	看護・介護の基礎	清水
8	医療コミュニケーション	講義	カウンセリングの概要	竹森
9, 10	医療コミュニケーション	実習	コミュニケーション実習①	瀬戸、岡田、坂東、住谷
11, 12	医療コミュニケーション	実習	コミュニケーション実習②	瀬戸、岡田、坂東、住谷
13, 14	チーム医療	講義	チーム医療の実際①、②	附属病院講師

15, 16	多職種連携	実習	徳島文理大学香川キャンパスにおける実習	二宮他
17, 18	多職種連携	実習	香川県立保健医療大学における実習	塩田他
19, 20	チーム医療	講義	チーム医療の実際③、④	附属病院講師
12, 22	チーム医療	実習	附属病院見学実習（看護）①	看護部
23, 24	チーム医療	実習	附属病院見学実習（看護）②	看護部
25, 26	チーム医療	実習	チーム医療実習（災害・救急）	中田
27, 28	チーム医療	実習	附属病院見学実習（看護）発表会準備	岡田、坂東、住谷
29, 30	チーム医療	実習	附属病院見学実習（看護）発表会	看護部、岡田、坂東、住谷

教科書・参考書等

各教員によりその都度指示する。

オフィスアワー

水曜日 16:30 ～ 17:30 医学部教育センター（講義棟2階）：第3水曜日を除く

授業科目名

解剖学（I）

（英文併記 Human Anatomy I ）

科目区分 基礎医学 授業コード 704101 DPコード bcdM

単位数 3 時間割 通年 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 三木 崇範

講師 鈴木 辰吾

助教 太田 健一

授業の概要

解剖学は、人体の正常な構造を明らかにする学問である。解剖学 I では、中枢神経学、末梢神経学、発生学、脈管学、内臓学の各講義および、系統解剖学実習、脳実習を担当し、マクロのレベルで人体の構造を教授する。講義や教科書による座学で得る知識だけではなく実習を通してヒトの体の構造をより深く理解してもらいたい。更に、人体の構造が精緻で巧妙であることや、進化の末に辿り着いた目的に叶った形態を呈する私たちの体のつくりや生命現象の基本原則を理解してもらいたい。

系統解剖実習は全て御遺体を用いて行うことになる。医学生が大学に入学して最初に人体に接する機会となる。ご遺体と向き合うことを通じて、生とは何か、死とは何かを考える機会とし、医学生として「豊かな人間性」を培ってもらいたい。

下記の要項によって実施する。

1) 解剖学総論

解剖学は、生物学的視点から純粋に生命活動を司る体のつくりを学ぶ科目である。しかし一方で、医学の一分野でもある。医学教育における解剖学は、ヒトの構造を単に生物学的に理解するだけでは不十分である。解剖学総論では、解剖学教育を通じて、「豊かな人間性」を培うことが出来る講義を供する。解剖実習の供されるご遺体や、その御遺族・御本人の篤志を十分理解したり、将来医師・研究医になる医学生として、医の倫理や生命観について考える機会を供する。

ヒトの基本的な構造と機能について概説し、本格的な解剖学の講義・実習が始まる前に、ヒトの体の成り立ちや精巧さについて、またかたちの所以・理由についての講義を通じて、人体を俯瞰した理解ができるように講義を行う。また、臨床解剖学講義においては、十分な臨床医学の知識がなくとも、解剖学の知識で Common disease の病態についての理解は可能であることから、これを解剖学的見地から講義し、医学へのモチベーションを高める契機としたい。また、必要に応じて学外からの講師の講義を依頼する。

2) 中枢神経学

中枢神経系を構成する神経細胞さらにグリア細胞をまず取り上げ、次いで髄膜・血管・脳脊髄液・大脳・小脳・脳幹・脊髄などの形態と機能を説明する。さらに、脳の特定領域と代表的な疾患との関連性も取り上げ、総括的に脳を理解できるようにする。また、講義と実習内容を出来る限り並行するようにして、実際の脳の構造を理解

しやすくしている。特別な分野については特別講義として学外講師による講義を行う。

3) 末梢神経学

脊髄神経・脳神経について系統解剖実習前に把握しておかなければならない基本事項（成分・走行・名称・支配領域等）を各成分に分けて総括的に講義する。また講義と実習をリンクさせるため系統解剖実習中にも講義中の関連部位の説明を適宜行い、詳細な末梢神経の走行・分布を実際にご献体で同定しながら細部まで学習する。講義は配布資料とスライドにて行い、配布した資料を実習中にも用いながら詳細な末梢神経系を理解する。

4) 発生学

人体の正常発生過程を、女性の生殖サイクルも含めて、受精から胚子期、胎児期を経て出生までを講義する。更に、胎盤・胎膜や、先天異常についての講義を行う。また、特徴的講義として、先天異常に関する新聞記事を教材として取り入れ、豊かな人間性を培う契機としている。

5) 脈管学

脈管の構造や走行の種類などに関する基礎的知識を習得するとともに、頭頸部、上肢、下肢、胸部、腹部、骨盤部における脈管の走行、体内の器官と脈管の関係、さらに脈管同士のつながりを正確に理解することを目的とする。

6) 内臓学・筋学

内臓全般と筋肉についての講義を行う。講義は系統解剖実習の進行に並行して行われる。内臓学では、胸部臓器、腹部臓器、更に骨盤内臓器の構造と機能について講義を行うが、末梢神経学や脈管学で教授した内容と絡めて統合的に講義を進めることに重きを置いている。また、必要に応じて発生学的見地からの説明を行い、人体のかたちの成り立ちと必然性を理解し、人体構造の巧妙さが自ずと理解できるような講義を行う。筋学では、骨格筋の名称・作用、支配神経等について概説する。一部は、学生に割り当ててプレゼンテーション能力を養う機会としている。

7) 系統解剖学実習および脳実習

医学生が将来立派な良い医者になって頂くことを願い、善意で自らの体を献体して下さった方々の無言の想いを解剖学実習室で目のあたりにする。医学生は将来この方々の尊い御意志に報い立派な医師になろうという決意を新たにしてもらいたい。長い医学教育過程にあって、自らの手で人体を解剖することができるのはこの系統解剖学実習と脳実習の時だけである。学生はこの機会に献体に対する感謝の気持ちを十分持って人体構造の知識の習得にあたりるとともに、献体された方々の期待に応えるよう努力しなければならない。実習では講義の総括として正確な立体的知識を体得できるように配慮している。

8) 予習ノート

実習に際し、予習することなしに解剖を行うことは厳禁している。実習時に教員による予習ノートのチェックを適時行い、内容の評価を行っている。

9) 出席について

規定の出席日数が必要である。ただし、実習では特別な理由がない限り欠席を認めない。

授業の目的

解剖実習を通じて、命とは生とは何かを考え献体して下さった方の篤志に応える心構えや、医学生としての医の倫理や自己に課せられた社会的責任を自覚する契機とする(DP「倫理・社会的責任」)。人体の基本的構造を学習し、中枢・末梢神経系の機能や発生・発育過程および心血管系の循環機構を理解する能力を身につける(DP「知

識・理解)。さらに、将来臨床医学においてCT, MRI等の画像読解に必要不可欠である人体の立体的構造解析の基礎知識を修得する(DP「問題解決・課題探求能力」)。

達成目標

将来、臨床医・研究医になるに相応しい「豊かな人間性」を培うと同時に、ヒトの体のつくりや仕組みや生命の基本原理を理解する。

1. 医の倫理や生命倫理、医学生・医師に課される社会的責任を自覚する。
2. 神経細胞・グリア細胞および脳の構造と主な神経路および神経機能を説明できる。
3. 脊髄神経・脳神経の成分、走行および分布を説明できる。
4. 人体の正常発生のメカニズムについて説明できる。
5. 心臓の構造と循環機構を説明できる。
6. 脈管の構造と全身における走行を正しく理解し、脈管系とからだの機能との有機的な関係を説明できる。
7. 人体を構成する骨・筋・靭帯をはじめ消化器系、呼吸器系、泌尿器生殖器系、内分泌系等の諸器官の形態と機能を述べることができる。

成績評価の方法と基準

1. 中枢神経学、末梢神経学、脈管学、発生学、内臓学・筋学等のペーパー試験を行なう。
2. 系統解剖実習試験、脳実習試験を行なう。
3. 上記の試験に加え、実習態度、予習ノート、出席等も評価に入れ総合評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

解剖学は生理・生化学などとは異なり形態学であるので、系統解剖実習などを中心に授業が行われ、講義は総論のみである。それゆえ、学生は実習を行いながら自ら積極的に学習すべきである。発生学では一つの細胞が増殖、分化し、種々の臓器・組織が形成され、一個体となるまでを学習するが、この過程を十分に理解しておかなければ、正常人体の構造や将来臨床科目において種々の疾病を理解する際に余分の時間と労力を費やすことになる。発生学は実習がなく講義のみであるので、特に授業を大切に、自らも参考書、図譜を参照して十分に勉強すべきである。

系統解剖実習および脳実習では、下記参考書のうち、解剖実習の手引き(南山堂)・ネッター解剖学アトラス(南江堂)が必須である。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	解剖学総論	人体の構造(1)	総論1	鈴木
2		献体と倫理	献体団体について(ビデオ供覧)、医学の倫理	三木
3		人体の構造(2)	総論2	太田
4		人体の構造(3)	総論3	太田
5		臨床解剖学(1)	呼吸器・消化器・尿路生殖器疾患と臨床解剖学	三木
6		臨床解剖学(2)	心臓・神経疾患と臨床解剖学	三木

1	中枢神経学	総論	神経細胞とグリア細胞、中枢神経系の概要	鈴木
2		大脳	大脳の脳回・脳溝、大脳新皮質	太田
3		大脳	大脳基底核、大脳辺縁系	太田
4		脳室と脈管	脳室、脳脊髄液、中枢神経系の動静脈	鈴木
5		間脳	間脳（視床・視床下部）	太田
6		脳幹（1）	中脳：上丘・下丘・黒質・赤核・脳神経核	三木
7		脳幹（2）	橋：橋腹側部と背側部の神経核と橋網様体 延髄：後索核・下オリーブ核群、延髄網様体	三木
8		小脳	細胞構築、入力線維と出力線維、小脳の機能とその障害	三木
9		伝導路	上行性・下行性神経路と神経機能、疾患との関連性	三木
10		脊髄	脊髄の構造と脊髄神経との関係	鈴木 太田
1	末梢神経学	脊髄神経	頸神経叢、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢	太田
2		脊髄神経	交感神経・副交感神経総論	太田
3		脊髄神経	交感神経・副交感神経総論	太田
4		脳神経	脳神経総論	太田
5		脳神経	脳神経総論	太田
6		脳神経	脳神経総論	太田
7		脳神経	脳神経各論	太田
8		脳神経	脳神経各論	太田
1	脈管学	総論・体表の脈管	血液循環、動静脈の主幹、体表の脈管	鈴木
2		上肢・下肢の脈管	上肢・下肢の動静脈	鈴木
3		胸部の脈管	胸部臓器と動静脈	鈴木
4		心臓の構造	心臓の位置と構造、胎児循環、刺激伝導系	鈴木
5		リンパ系・腹部の脈管（1）	リンパ節の位置とリンパ液の流れ、腹部内臓と脈管	鈴木
6		腹部の脈管（2）	腹部内臓と動静脈	鈴木
7		頭頸部の脈管	頭頸部の動静脈	鈴木
1	発生学	総論（1）	概論，生殖器の解剖と生理、生殖細胞形成（精子発生、卵子発生）まで	三木
2		総論（2）	受精～着床、二層性胚盤	三木
3		総論（3）	三層性胚盤，胎盤・胎膜，先天異常学	三木
4		各論（1）	神経系・外皮系の発生	三木
5		各論（2）	心臓血管系の発生	三木
6		各論（3）	消化器系の発生	三木

7		各論 (4)	尿路・生殖器系の発生	三木
8		各論 (5)	頭頸部・鰓弓器官の発生	三木
9		各論 (6)	感覚器(視覚・平衡聴覚)・筋骨格系・体腔の発生	三木
1	筋学・内臓学	筋学	総論: 上肢/下肢と体幹の筋肉	太田
2		循環器系	循環器系—心臓, 血管系, リンパ系	三木
3		呼吸器系	呼吸器系—気管・肺	三木
4		消化器系(1)	消化器系(1)—食道, 胃, 十二指腸, 小腸, 大腸	三木
5		消化器系(2)	消化器系(2)—肝臓, 胆嚢, 膵臓	三木
6		尿路系	尿路系—腎臓, 尿管, 膀胱, 尿道	三木
7		生殖器系	生殖器系—会陰, 男性生殖器, 女性生殖器	三木
1	脳実習		髄膜と血管, 脳神経	全員
2			脳の表面(回, 溝), 大脳内側の血管, 大脳内側面	全員
3			大脳の内部構造,	全員
4			小脳, 脳幹(1)	全員
5			脳幹(2), 脊髄	全員
6			総括	全員
7			中枢神経学・脳実習試験	全員
1	系統解剖実習		§1 くび・胸・腹部の体表観察と皮切り, §2 広頸筋と乳腺,	全員
2			§3 胸腹部の皮静脈と皮神経, §4 大胸筋と外腹斜筋,	
3			§53 下肢の皮静脈と皮神経	全員
4			§5 頸神経叢の枝と胸鎖乳突筋, §8 くびのやや深層, §	
5			30 単径部と側腹筋群, §31 腹直筋鞘, §32 横筋筋膜と腹	
6			膜(前半部分)	全員
7			§9 胸部の深層と腋窩, §10 鎖骨下動静脈とその枝	
1		§11 うでの皮切りと腕神経叢, §54 大腿筋膜と大殿筋, §	全員	
2		55 大腿前面の深層, §59 下腿の前面と足背		
3		§12 上腕屈側の筋と神経, §13 肩甲骨の前面の筋, §16	全員	
4		前腕屈側の浅い層, §55 大腿前面の深層(2回目), §59		
5		下腿の前面と足背(2回目)	全員	
6		§6 背なかの皮切り, §7 背なかの浅筋, §14 上腕伸側と		
7		肩甲骨背面の筋, §15 上肢の切り離し, §56 殿部の深層,	全員	
8		§57 大腿後面の深層, §58 膝窩と下腿後面		
9		§26 胸腰筋膜と固有背筋, §27 後頭下の筋, §28 脊髄,	全員	
10		§60 足底, §61 下腿の最深層		
11		§29 胸壁, §35 胸腔を開く, §36 胸膜と心膜, §37 肺, §	全員	
12		38 くびの根もとの深層, §39 縦隔, §40 心臓の外景, §17		

8	前腕の伸側と手背, § 18 手のひらの皮切りと手掌腱膜, § 19 手のひらの浅い層, § 20 手の深い層, § 21 上肢の血管と神経のまとめ	
9	§ 41 心臓の内景, § 42 縦隔の深部, § 32 横筋筋膜と腹膜(後半部分), § 33 臍, § 34 腹部内臓の自然位での観察, § 43 腹部内臓の位置, § 44 腹膜と腹膜腔, § 45 腹部内臓に分布する血管と神経, § 46 空腸と回腸と結腸	全 員
10	§ 47 胃, § 48 肝臓, § 49 十二指腸・膵臓・脾臓, § 50 腎臓と副腎	全 員
11	§ 51 後胸壁と後腹壁, § 72 くびの深層, § 73 顔の浅層	全 員
12	§ 22 肩の関節とその周辺, § 23 ひじの関節, § 24 手くびの関節, § 25 手と指の関節, § 62 膝の関節, § 63 足の関節, § 74 咽頭, § 75 甲状腺と気管, § 76 喉頭, § 78 頭蓋の内面	全 員
13	§ 52 横隔膜と腰神経叢, § 64 膀胱とその周辺, § 79 あたまの切半と口腔, § 80 鼻腔と咽頭鼻部, § 81 咀嚼筋と下顎管	全 員
14	§ 65m 男性の外陰部と精巣, § 65f 女性の外陰部, § 66m 男性の会陰, § 66f 女性の会陰, § 67 骨盤の切半, § 82 顎関節と側頭下窩, § 83 舌と口蓋, § 84 副鼻腔と翼口蓋神経節	全 員
15	§ 68m 男性の骨盤内臓の位置, § 68f 女性の骨盤内臓の位置, § 69 骨盤の血管と神経, § 70m 男性の骨盤内臓, § 70f 女性の骨盤内臓, § 71 骨盤壁の筋と股関節, § 85 眼球を前から見る, § 86 眼窩の内容, § 87 眼球など, § 88 舌下神経管と頸静脈孔	全 員
16	§ 89 外耳と中耳, § 90 内耳, § 91 翼突管と頸動脈管と耳神経節	全 員
17	総括	全 員
	系統解剖実習試験	全 員

教科書

- 寺田春永 ほか、解剖実習の手引き、11 版、南山堂、2004.
- 寺島俊雄、カラー図解神経解剖学講義ノート、金芳堂、2011.
- Richard L. Drake ほか、グレイ解剖学(原著第 2 版)、エルゼビア・ジャパン、2011.
- 安田峯生ら訳、ラングマン人体発生学、メディカルサイエンスインターナショナル、第 11 版、2016

アトラス

- Duane E. Haines ほか、ハインズ神経解剖学アトラス、第 4 版、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2013.
- Frank H. Netter、ネッター解剖学アトラス、第 5 版、エルゼビア・ジャパン、2011.
- 坂井建雄、プロメテウス解剖学アトラス 総論/運動器系、第 2 版、医学書院、2011
- 坂井建雄、プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖、第 2 版、医学書院、2014
- 坂井建雄、プロメテウス解剖学アトラス 口腔・頭頸部、医学書院、2012
- 坂井建雄、プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部・骨盤部、第 2 版、医学書院、2014

参考書等

- 伊藤 隆ほか、解剖学講義、改訂 3 版、南山堂、2012.
- Bogart ら著、依藤 ら訳、解剖学・発生学 (インテグレートッドシリーズ 3) 東京化学同人 2011
- 松村譲児、イラスト解剖学、第 8 版、中外医学社、2014.
- M.J.T. フィッツジェラルドほか、臨床神経解剖学—機能的アプローチ、第 6 版、西村書店、2013
- Moore, Keith L. ほか、ムーア人体発生学、原著第 8 版、医歯薬出版、2011.
- 塩田浩平 カラー図解人体発生学講義ノート 金芳堂 2015
- 坂井建雄ほか、カラー図解人体の正常構造と機能、全 10 巻、改訂第 2 版、日本医事新報社、2012.

(注意) ●で記した教科書やアトラスは、本授業が開始されるまでに必ず各個人で用意しておくこと

オフィスアワー

当講座は必ず勤務時間内に教員がいるので随時可能。

授業科目名

解剖学（Ⅱ）

（英文併記 AnatomyⅡ）

科目区分 基礎医学

授業コード 704102

DPコード bcaM

単位数 3 時間割 通年 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 荒木 伸一

非常勤講師 三宅 克也（国際医療福祉大学教授）

助教 江上 洋平

助教 川合 克久

授業の概要

解剖学は正常な人体の構造を研究する学問であり、医学の体系の中でも基礎中の基礎となる領域です。将来、臨床医になる人も基礎医学研究者になる人も、まず解剖学（Anatomy）で人体の形態と構造を学び、生理学（Physiology）で役割と機能を学ぶことから医学の学習が始まる。人体の正常な構造と機能の正確な理解によって、異常な状態、病気の成り立ちを知ることができ、その診断や治療法へとつながる。

解剖学は大きく分けて、肉眼解剖学、組織学（顕微解剖学）、神経解剖学、発生学に分けられる。解剖学Ⅱでは、骨学（Osteology）と組織学（Histology）を分担する。骨学は、肉眼解剖学の一部をなすもので、実習室での人骨標本の観察から、個々の骨の形態、名称、身体の支柱、運動器としての骨格系の働きを学ばせる。

組織学では、人体の構造、成り立ちを肉眼レベルから光学顕微鏡レベルさらに分子レベルへと追究し、人体組織の構造及び機能との関連を講義と実習を通じて学ばせる。組織学の講義内容は、総論と各論に区分される。総論では、生命体の構成単位となる細胞についてと、細胞と細胞間質の特徴的な配列によって構成される基本的な組織の構造、特性について理解させる。各論では、総論で学習した組織の知識をふまえ、さらにその組み合わせによって構成されている全身の器官・臓器について個々の構造を解説し、なぜそのような構造をしているのかを、その器官・臓器の働きと関連づけて理解させる。

授業の目的

人体の構造、成り立ちについての知識を習得すると共に機能や臨床医学との関連を考察する。（DP「知識・理解」、「言語運用能力」に対応）

骨学実習、組織顕微鏡実習を通じ、観察力、医学的洞察力を培う。（DP「問題解決・課題探求能力」、「知識・理解」に対応）

達成目標

1. 骨格系の概要、個々の骨の形態、名称、人体における配置、はたらきを説明できる。
2. 人体を構成する細胞、組織の基本構造と特性を説明することができる。
3. 正常な人体の各部の形態や構造を肉眼レベルから顕微鏡レベルまで理解し、機能と関連づけることができる。
4. 顕微鏡を自ら操作し、顕微鏡下で組織細胞の観察・同定を行うことができる。

授業及び学習の方法

一回完結方式、すなわち、講義で学習した内容を同日実習室で実物標本の観察を行うことで、得た知識を自らが確認し、定着させる教育方法をとっている。

講義は、PowerPointで行なう。プリントは、PowerPointの内容に準拠しており、授業中にワークシート形式で書き込む。講義のファイルは、Webでダウンロード閲覧できるので予習・復習、出席できなかった場合に利用すること。

授業計画並びに成績評価の方法と基準

1. 骨学実習試験（主として骨標本を用いた質問。ラテン語問題を含む）
2. 組織学総論試験（ペーパー筆記）
3. 組織学各論試験（ペーパー筆記）
4. 組織学実習試験（組織標本・写真による）
5. その他、組織実習スケッチ、授業および実習の態度、出席状況を考慮し、総合的に評価する。
6. 再試験は、全範囲で一度だけ行う。（骨学実習試験合格者は、骨学範囲の問題を免除する）

量が多いので、すべての学生に求める到達レベルはやや低めに設定し、基本事項に重点をおいている。何が重要で本質的なものかは、講義実習で学習した内容が理解できれば自然にわかるはずである。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	前期 解剖学講義	解剖学総論	解剖学の定義, 解剖学の内容, 解剖学の方法 医学における解剖学の発達, その意義, 骨学総論, 関節学, 靭帯学	荒木
2	骨学講義	椎骨と脊柱	脊柱を構成する骨, 椎骨の基本的形状, 頸椎, 胸椎, 腰椎, 仙骨, 尾骨, 椎骨相互の連結, 脊柱の弯曲, 脊柱の運動性, 動物の脊柱との比較	荒木
		胸郭	胸郭を構成する骨, 胸骨, 肋骨, 胸骨と肋骨の連結, 肋骨と胸椎の連結, 胸郭の概観	荒木
3	骨学実習	椎骨と脊柱 胸郭		荒木他
4	骨学講義	上肢帯 自由上肢骨	鎖骨, 胸骨と鎖骨の連結, 肩甲骨, 肩甲骨と鎖骨の連結 上腕骨, 上腕骨と肩甲骨の連結, 橈骨, 尺骨, 上腕骨・橈骨・尺骨の間の連結, 手根骨, 手根の連結, 中手骨, 手根骨と中手骨の連結, 手の指骨, 中手骨と基節骨の連結, 手の指骨の間の連結	荒木 荒木
5	骨学実習	上肢帯・ 自由上肢骨		荒木他

6	骨学講義	下肢帯と骨盤	寛骨, 腸骨, 坐骨, 恥骨, 仙骨と腸骨の連結, 恥骨間の連結, 骨盤	荒 木
		自由下肢骨	大腿骨, 寛骨と大腿骨の連結, 膝蓋骨, 脛骨, 大腿骨・膝蓋骨・脛骨の連結, 腓骨, 脛骨と腓骨の連結, 足根骨, 距骨と下腿骨の連結, 足根骨の間の連結, 中足骨, 足根骨と中足骨の連結, 足の指骨, 足の骨格の概観	荒 木
7	骨学実習	下肢帯と骨盤・自由下肢骨		荒木他
8	骨学講義	頭蓋の概観	頭蓋の構成, 脳頭蓋の概観, 顔面頭蓋の概観, 頭蓋の構成, 脳頭蓋の概観, 顔面頭蓋の概観, 頭蓋の規準位	荒 木
		顔面頭蓋	頭蓋冠の外側, 頭蓋冠の内側, 頭蓋冠の断面, 内頭蓋底, 外頭蓋底, 環椎と後頭骨の連結	荒 木
9	骨学実習	顔面頭蓋		荒木他
10	骨学講義	脳頭蓋	眼窩, 頬骨弓, 鼻腔, 副鼻腔, 骨口蓋, 翼口蓋窩を中心として, 下顎骨, 側頭骨と下顎骨の連結	荒 木
		個々の頭蓋骨	前頭骨, 頭頂骨, 後頭骨, 蝶形骨, 側頭骨, 篩骨, 下鼻甲介, 鋤骨, 鼻骨, 涙骨, 上顎骨, 頬骨, 口蓋骨, 下顎骨, 舌骨	荒 木
11	骨学実習	脳頭蓋・個々の頭蓋骨		荒木他
12	骨学実習	個々の頭蓋骨		荒木他
13	骨学実習	復習		荒木他
14	骨学実習	実習試問	骨標本を用いての試験	全 員
	後期			
1	組織学講義	組織学総論	組織学序論	荒 木
2	組織学講義	細胞①	細胞質, 細胞膜, 小胞体, ゴルジ装置	荒 木
3	組織学実習	細胞	顕微鏡実習, 顕微鏡および顕微鏡標本の貸与	荒木他
4	組織学実習	予備		全 員
5	組織学講義	細胞②	エンドゾーム, ライソゾーム, ペルオキシゾーム	荒 木
6	組織学講義	細胞③	細胞骨格, 核, 細胞分裂,	荒 木
7	組織学実習	細胞	顕微鏡実習	荒木他
8	組織学講義	上皮組織	上皮細胞の分化, 上皮組織の分類とそれぞれの構造	江 上
9	組織学講義	上皮組織	上皮細胞の分化, 上皮組織の分類とそれぞれの構造	江 上
10	組織学実習	上皮組織	顕微鏡実習	江上他
11	組織学講義	結合組織①	結合組織の細胞要素, 非細胞要素	川 合
12	組織学講義	結合組織①	結合組織の細胞要素, 非細胞要素	川 合
13	組織学実習	結合組織①	顕微鏡実習	川合他

14	組織学講義	結合組織②	結合組織の分類とそれぞれの構造	川合
15	組織学講義	結合組織②	結合組織の分類とそれぞれの構造	川合
16	組織学実習	結合組織②	顕微鏡実習	川合他
17	組織学講義	軟骨組織	軟骨組織	川合
18	組織学講義	軟骨組織	軟骨組織	川合
19	組織学実習	軟骨組織	顕微鏡実習	川合他
20	組織学講義	骨組織	骨組織	川合
21	組織学講義	骨組織	骨組織	川合
22	組織学実習	骨組織	顕微鏡実習	川合他
23	組織学講義	筋組織	平滑筋, 横紋筋, 心筋	荒木
24	組織学講義	筋組織	平滑筋, 横紋筋, 心筋	荒木
25	組織学実習	筋組織	顕微鏡実習	荒木他
26	組織学講義	神経組織	神経細胞, 神経線維, シナプス, 神経膠細胞	荒木
27	組織学講義	神経組織	神経細胞, 神経線維, シナプス, 神経膠細胞	荒木
28	組織学実習	神経組織	顕微鏡実習	荒木他
29	組織学講義	血液	血液の構成成分と白血球の分類	荒木
30	組織学講義	血液	血液の構成成分と白血球の分類	荒木
31	組織学実習	血液	顕微鏡実習	荒木他
32	組織学講義	骨髄	骨髄および造血	荒木
33	組織学講義	骨髄	骨髄および造血	荒木
34	組織学実習	骨髄	顕微鏡実習	荒木他
35	組織学実習	予備		全員
36	試験	組織学総論試験	ペーパー試験(神経組織まで)	全員
37	組織学講義	脈管系	動脈, 静脈, 毛細血管, リンパ管	荒木
38	組織学講義	脈管系	動脈, 静脈, 毛細血管, リンパ管	荒木
39	組織学実習	脈管系	顕微鏡実習	荒木他
40	組織学講義	防御系	リンパ節, 扁桃, 脾臓, 胸腺	江上
41	組織学講義	防御系	リンパ節, 扁桃, 脾臓, 胸腺	江上
42	組織学実習	防御系	顕微鏡実習	江上他
43	組織学講義	消化器系①	口腔, 歯, 舌, 口蓋, 咽頭	荒木
44	組織学講義	消化器系①	口腔, 歯, 舌, 口蓋, 咽頭	荒木
45	組織学実習	消化器系①	顕微鏡実習	荒木他
46	組織学講義	消化器系②	食道, 胃, 小腸	荒木
47	組織学講義	消化器系②	食道, 胃, 小腸	荒木
48	組織学実習	消化器系②	顕微鏡実習	荒木他
49	組織学講義	消化器系③	大腸, 虫垂, 唾液腺(耳下腺, 顎下腺, 舌下腺)	荒木

50	組織学講義	消化器系③	大腸, 虫垂, 唾液腺(耳下腺, 顎下腺, 舌下腺)	荒 木
51	組織学実習	消化器系③	顕微鏡実習	荒木他
52	組織学講義	消化器系④	肝臓, 胆嚢, 膵臓	荒 木
53	組織学講義	消化器系④	肝臓, 胆嚢, 膵臓	荒 木
54	組織学実習	消化器系④	顕微鏡実習	荒木他
55	組織学講義	呼吸器系	鼻腔, 喉頭, 気管, 気管支, 肺	三 宅
56	組織学講義	呼吸器系	鼻腔, 喉頭, 気管, 気管支, 肺	三 宅
57	組織学実習	呼吸器系	顕微鏡実習	荒木他
58	試 験	組織学中間試験	ペーパー試験(呼吸器系まで)	全 員
59	組織学講義	内分泌系	下垂体, 松果体, 上皮小体, 副腎, 甲状腺	三 宅
60	組織学講義	内分泌系	下垂体, 松果体, 上皮小体, 副腎, 甲状腺	三 宅
61	組織学実習	内分泌系	顕微鏡実習	荒木他
62	組織学講義	泌尿器系①	腎臓	荒 木
63	組織学講義	泌尿器系①	腎臓	荒 木
64	組織学実習	泌尿器系①	顕微鏡実習	荒木他
65	組織学講義	泌尿器系②	尿管, 膀胱, 尿道	荒 木
66	組織学講義	泌尿器系②	尿管, 膀胱, 尿道	荒 木
67	組織学実習	泌尿器系②	顕微鏡実習	荒木他
68	組織学講義	生殖器系①	男性生殖器, 精子形成	江 上
69	組織学講義	生殖器系①	男性生殖器, 精子形成	江 上
70	組織学実習	生殖器系①	顕微鏡実習	江上他
71	組織学講義	生殖器系②	男性生殖器	江 上
72	組織学講義	生殖器系②	男性生殖器	江 上
73	組織学実習	生殖器系②	顕微鏡実習	江上他
74	組織学講義	生殖器系③	女性生殖器, 卵形成	江 上
75	組織学講義	生殖器系③	女性生殖器, 卵形成	江 上
76	組織学実習	生殖器系③	顕微鏡実習	江上他
77	組織学講義	生殖器系④	女性生殖器	江 上
78	組織学講義	生殖器系④	女性生殖器	江 上
79	組織学実習	生殖器系④	顕微鏡実習	江上他
80	組織学講義	皮 膚	手掌, 頭皮	荒 木
81	組織学講義	皮 膚	手掌, 頭皮	荒 木
82	組織学実習	皮 膚	顕微鏡実習	荒木他
83	組織学講義	感覚器系①	視覚器(眼球, 眼瞼)	荒 木
84	組織学講義	感覚器系①	視覚器(眼球, 眼瞼)	荒 木
85	組織学実習	感覚器系①	顕微鏡実習	荒木他

86	組織学講義	感覚器系②	嗅覚器,聴覚平衡覚器(蝸牛,三半規管,前庭)	荒木
87	組織学講義	感覚器系②	嗅覚器,聴覚平衡覚器(蝸牛,三半規管,前庭)	荒木
88	組織学実習	感覚器系②	顕微鏡実習	荒木他
89	組織学実習	復習		全員

教科書・参考書等

【テキスト】

1. ジュンケイラ組織学. 第4版, 丸善, 2015. 原書名: Junqueira's Basic Histology text&atlas.
2. Ross 組織学. 原著第5版, 南江堂, 2010. 原タイトル: Histology: a text and atlas.
3. 最新カラー組織学. 西村書店, 2003.
4. 新組織学. 日本医事新報社, 2013.

【図譜 (アトラス)】

di Fiore 人体組織図譜. 第11版, 南江堂, 2011. 原書名: di Fiore's Atlas of Histology 11th Edition.

【骨学実習書】

骨学実習の手びき. 第4版, 南山堂, 1992.

オフィスアワー

荒木 伸一: あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応

naraki@med.kagawa-u.ac.jp

江上 洋平: あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応

youhei@med.kagawa-u.ac.jp

川合 克久: あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応

kkawai@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

生理学（I）

（英文併記 Physiology I）

科目区分 基礎医学

授業コード 704111

DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期・後期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 徳田 雅明

准教授 山口 文徳

助教 董 有毅

助教 神鳥 和代

非常勤講師 矢田 俊彦（自治医科大学医学部生理学講座統合生理学部門教授）

非常勤講師 池田 正明（埼玉医科大学生理学教授）

非常勤講師 宮本 修（川崎医科大学生理学2教授）

非常勤講師 塚本 郁子（香川大学医学部薬物生体情報学講座客員教授）

授業の概要

生理学は生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。「生体」とは、人体を含めて全ての生物体を意味し、「機能」とは個体レベルにおける生体機能のみならず、その個々の構成体（分子、細胞、組織、器官）の機能や、複数の個体が社会生活を営む上での（生態学的、心理学的現象を含めた）機能をも意味する。生理学が扱う対象は生きた材料であり、生きている条件下でリアルタイムに観察することが特徴である。生体機能は、多くの分子群や細胞群の働きと、その相互作用によって、更にはそれらが作り上げる器官や個体レベルの働きによって逆に統御されながら、全体としてホメオスタシスを保つ形で実現されている。従って、これを研究する生理学は、生体機能を分子、細胞、器官、個体の各レベルでのメカニズムを解明するとともに、それらをシステムとして統合的に取り扱う「統合生物学」Integrative Biologyとしても位置づけられる。このような意味で、生理学は「生体が働く仕組み（ハードウェア）とその論「理」・法則（ソフトウェア）及び意義を明らかにする「学」問である。ノーベル賞の領域名が”医学・生理学”と呼ばれるように、生理学は本来、医学を含め全ての生命科学の基礎を与える重要な学問である。（日本学術会議生理学研究連絡委員会より）

細胞情報生理学では、細胞生理学、神経生理学（感覚生理学を含む）、筋肉生理学の3分野をカバーする。講義としては、2年次後期の系統講義および3年次3学期から始まる統合講義の中でカバーする。この他に実習では細胞生理学、神経生理学的解析方法について理解できるように進めていく。

授業では基本となる知的目標をGoals to Studyとして提示し、それらについてプリント、スライドなどを用いて進める。

目標達成度は定期試験において確認するが、適宜レポートや小ドリルによって補うことがある。

授業の目的

1. 生命の成り立ちを理解するとともに細胞内部の構築と機能とを理解する。

2. 生命現象に必要な細胞内外の物質の輸送機構を理解する。
3. 興奮性膜における活動電位の発生機構とその伝播機構につき理解する。
4. 筋肉の構造と収縮の機構を理解する。
5. 細胞内情報伝達機構の種類とその各々の概略を理解する。
6. 統合的情報処理機構としての中樞神経系の構造と機能を理解する。
7. 運動調節に関与する中樞神経系とその機能分担を理解する。
8. 自律機能や本能行動を司る脳の働きを理解する。
9. 学習や記憶に関わる脳の働きを理解し、その分子機構についても理解する。
10. 感覚（5感と体性感覚）の中樞機構と分子メカニズムを理解する。
11. 実習を通じて実験研究の進め方を体験し、研究の楽しさを認識する。
12. 実験動物などの生命体への配慮やいたわりの心を習得する。

（DP「知識・理解」，「問題解決・課題探求能力」に対応）

達成目標

1. 中樞神経の主要部位の構造と主な機能を論述できる。代表的な疾患病態により特定の部位が障害された時どのような機能不全が生じるか指摘できる。
2. ヒトの姿勢や運動を調節するために働く脳の各部位を指摘し、それらの相互作用を述べることができる。随意運動のメカニズムや行動について記述できる。
3. 思考・記憶・感情の形成がどのようになされるか概念を述べることができる。
4. 感覚情報がどのように受容され、伝達され、加工されるか論述できる。
5. 筋肉の収縮・弛緩の機構を体系的に論述できる。
6. 細胞の独立体としての生理機能を理解するとともに、細胞間の相互コミュニケーションやエネルギー論について述べることができる。
7. 細胞内情報伝達の主な機構について体系的に論述できる。

授業及び学習の方法

授業では基本となる知識目標が設定され、これを理解するために必要なプリント等が配布される。また、この内容はスライド・ビデオ等を用いた講義、コンピュータを用いた自習等によって補われる。膨大な知識をこれらの図・表によって整理理解し、単なる暗記による詰め込みではなく自らの体系を形づくることを心掛けるべきである。また、講義を理解するために必要な単語集モデルがあらかじめ配布されるので、これらの語彙について予備知識を修得しておくことが一助となろう。

主要研究テーマ

1. 神経の可塑性（発達・分化）の制御機構
2. カルシウムシグナリングを中心とした情報処理機構
3. 希少糖の生理作用の研究

成績評価の方法と基準

2年前期・後期

定期試験（記述式、客観式）の成績にレポート・小テスト等を総合的に考慮し、目標達成度を評価判定する。

授業計画

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	神経生理学	神経系総論 I	神経生理学イントロダクション	徳 田
2		神経系総論 II	神経回路の特性	徳 田
3		神経系総論 III	神経系のシグナル伝達	徳 田
4		神経系総論 IV	神経系のシグナル伝達	徳 田
5		神経系総論 V	神経伝達物質	徳 田
6		神経系総論 VI	静止膜電位	山 口
7		大脳皮質の区分と構造	大脳皮質の区分と構造機能局在	徳 田
8		大脳皮質の区分と構造	男の脳・女の脳	徳 田
9		特別講義	未定	塚 本
10		神経系総論 VII	活動電位	山 口
11		研究トピックス	希少糖 I	山 口
12		研究トピックス	希少糖 II	徳 田
13		特別講義	食欲調節	矢 田
14		大脳連合野、	大脳連合野の機能、	徳 田
15		優位半球・脳の性差	優位半球、言語機能	徳 田
16		自律神経系の働き	交感神経系と副交感神経系	徳 田
17		視床下部の働き I	本能行動と辺縁系	徳 田
18		視床下部の働き II	摂食行動、肥満	徳 田
19		研究トピックス	癌と希少糖 I	神 鳥
20		視床下部の働き III	飲水行動、性行動	徳 田
21		大脳辺縁系の働き	大脳辺縁系の解剖と機能	徳 田
22		大脳辺縁系の働き	大脳辺縁系の解剖と機能	徳 田
23		脳波と睡眠	脳波と睡眠、網様体賦活系	徳 田
24		特別講義	時計遺伝子	池 田
25		高次神経活動 I	学習と記憶 I	徳 田

26		高次神経活動Ⅱ	学習と記憶Ⅱ	徳田
27	感覚生理学	感覚生理総論Ⅰ	感覚の種類、感覚受容体の分類ほか	山口
28		感覚生理総論Ⅱ	感覚の種類、感覚受容体の分類ほか	山口
29		視覚の生理	視覚の生理	山口
30		視覚の生理	視覚の生理	山口
31		聴覚と平衡覚の生理	聴覚と平衡覚の生理	山口
32		嗅覚と味覚の生理	嗅覚と味覚の生理	山口
33		体性感覚の生理	体性感覚の生理	山口
34		先端研究	内耳の分化と発達に関与する因子の解明	董
35		特別講義	未定	講師
36	筋肉・運動生理学	筋肉生理学Ⅰ	筋肉収縮の生理Ⅰ	山口
37		筋肉生理学Ⅱ	筋肉収縮の生理Ⅱ	山口
38		脊髄の運動機能と反射	筋紡錘、 γ 運動系、	徳田
39		脊髄の運動機能と反射	腱反射、伸長反射、屈曲反射	徳田
40		脳幹の運動機能	脳幹の運動機能	徳田
41		大脳運動野の働き	運動前野、補足運動野の働き	徳田
42		大脳基底核の働き	大脳基底核の解剖と入力・出力と機能	徳田
43		大脳基底核の働き	大脳基底核の解剖と入力・出力と機能	徳田
44		小脳の働きⅠ	小脳の解剖と機能的区分、小脳の連絡路	徳田

教科書

- ・小澤滯司ほか. 標準生理学. 第7版, 医学書院, 2009.
- ・Berne, Robert M et al. Berne & Levy physiology. 6th ed., Elsevier Mosby, 2008.
- ・小幡邦彦ほか. 新生理学. 第4版, 文光堂, 2003
- ・古河太郎ほか. 現代の生理学. 改訂第3版, 金原出版, 1994.
- ・Bruce Alberts et al. Molecular biology of the cell. 5th ed., Garland Science, 2008.
- ・Ganong, William F.ほか. ギャノン生理学. 丸善, 2006.
- ・Barrett, Kim E. et al. Ganong's review of medical physiology. 23rd ed., McGraw-Hill Medical, 2010.
- ・日本生理学会. 新・生理学実習書. 南江堂, 1991.
- ・Hall, Zach W.ほか. 脳の分子生物学. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 1996.

オフィスアワー

担当教員	学期・曜日	時間帯	メールアドレス
徳田 雅明	後期・月～金曜日	9時～17時	physiol1@med.kagawa-u.ac.jp
山口 文徳	後期・月～金曜日	9時～17時	physiol1@med.kagawa-u.ac.jp
神鳥 和代	後期・月～金曜日	9時～17時	physiol1@med.kagawa-u.ac.jp
董 有毅	後期・月～金曜日	9時～17時	physiol1@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

生理学（Ⅱ）

（英文併記 PhysiologyⅡ）

科目区分 基礎医学

授業コード 704112

DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前・後期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 平野 勝也

助教 山下 哲生

助教 橋本 剛

授業の概要

生体の内部環境を健全に保ち、生命を維持するのに必要な臓器の機能が如何に統合的に調節されているかを学習する。学習する生体機能は、血液機能、体温調節、概日リズム、消化、呼吸、排泄、循環などのいわゆる植物性機能と呼ばれる生理機能である。細胞が要求する栄養物は消化と吸収の機構により消化管より吸収され、呼吸系は血中 O_2 と CO_2 濃度が一定となるよう調節している。一方、酸も含む細胞の代謝産物は、肝、腎、肺に運ばれて排泄され、血中濃度が一定量以上にはならないように調節され、体液pHも一定に保たれる。物質の血管透過性は血管内皮細胞の働きにより制御される。心臓と血管により構成される循環系によって血液は全身を巡り、物質の輸送、体温調節に関わる。心臓や血管の機能は厳密に制御され、生体の要求に応じて循環動態が調節される。生体機能には概日リズムを有するものがあり、外環境に同調して24時間周期のリズムを刻む。これらの生命維持機能は、主に自律神経系（神経性調節）と内分泌系（体液性調節）を介して、フィードバック機構により動的平衡を保って調節されており、その結果、外部環境が変動しても内部環境が一定に保たれ、生体の恒常性（ホメオスターシス）が維持される。一方、個々の細胞に目を向けると、神経体液性の調節系のシグナルに対して適切に応答する細胞内の仕組みがあり、これを細胞内情報伝達系と呼ぶ。以上、恒常性維持に関わる生体機能の仕組みを、分子、細胞、器官、生体にわたる多階層の視点から総合的に学習し、生命活動の基礎を理解する。

授業の目的

生理学の学習では知識の習得に加えて、生体機能の仕組みを理解することが重要です。

1. 生命維持に必要な生体機能とその調節の基本的な仕組みを理解する。
（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応）
2. 各臓器に特異的な機能と調節の仕組みを理解する。
（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応）
3. 各種調節系の入力（シグナル）、その受容機構（センサー）、出力（応答）、およびこれらを連結する仕組み（シグナル伝達機構）を、マクロなレベルから細胞・分子のレベルまで、さまざまな視点で理解する。
（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応）

達成目標

自律機能

1. ホメオスタシスの概念とフィードバック制御機構の基本的な仕組みを説明できる。
2. 自律神経系（末梢）の構成、神経伝達物質とそのシグナル伝達機構を説明できる。
3. 自律神経系が各臓器の機能に及ぼす作用を説明できる。

細胞情報伝達

4. 細胞膜受容体の種類を列挙できる。
5. GTP 結合蛋白質の種類と機能を説明できる。
6. 主な細胞内セカンドメッセンジャーとその作用を説明できる。
7. 蛋白質リン酸化反応に関わる酵素、アミノ酸を説明できる。

環境と生体

8. 熱産生、熱放散の仕組みと発熱の機構を説明できる。
9. 生物時計の基本的な仕組みと概日リズム形成の仕組みを説明できる。

血液

10. 血液の成分（細胞成分と血漿成分）とその機能を説明できる。
11. 血液の酸素運搬機能を説明できる。
12. 血液の生体防御機構を説明できる。
13. 血液の止血機能を説明できる。

消化器

14. 消化器の構成を述べることができる。
15. 消化に関わる外分泌を列挙し、それぞれの機能を説明できる。
16. 糖質、脂質、蛋白質、水、電解質の消化と吸収の仕組みを説明できる。
17. 消化管平滑筋の特徴を述べ、消化管運動の仕組みと調節機構を説明できる。

呼吸器

18. 呼吸器の構造と呼吸運動の機序を説明できる。
19. 肺機能検査の意義を説明できる。
20. 肺気量と肺・胸郭系の圧・容量関係（コンプライアンス）を説明できる。
21. 肺循環系・右心系と体循環系・左心系の違いを説明できる。
22. 肺胞内面の水分による表面張力と表面活性物質の機能を説明できる。
23. 肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。
24. 肺胞、動脈血、静脈血のガス分圧、ヘモグロビンの酸素飽和度の調節機構を説明できる。
25. 血液による酸素と二酸化炭素の運搬の仕組みを説明できる。
26. 延髄と大動脈、頸動脈小体の化学受容器と呼吸調節との関係を説明できる。

腎臓

27. 体液の組成を述べることができる。
28. 腎臓の機能的構造を説明できる。
29. 腎機能の指標とその機能的意義を説明できる。
30. 腎糸球体の構造と機能、濾過の機序を説明できる。
31. 尿細管各部における再吸収・分泌機構と尿の濃縮機序を説明できる。
32. 水電解質の調節機構を概説できる。
33. 腎機能のホルモンによる調節機構を説明できる。

酸塩基平衡

34. ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式を説明できる。
35. アシドーシスおよびアルカローシスの発生機序と代償機構を説明できる。

体液性調節

36. 内分泌臓器と分泌されるホルモンを説明することができる。
37. ホルモンの種類と生合成経路を説明することができる。
38. ホルモン作用の細胞内情報伝達機構を説明することができる。
39. 視床下部ホルモンの成合成、作用、分泌調節機構を説明できる。
40. 下垂体ホルモンの成合成、作用、分泌調節機構を説明できる。
41. 副腎皮質ホルモンの成合成、作用、分泌調節機構を説明できる。
42. 副腎髄質ホルモンの成合成、作用、分泌調節機構を説明できる。
43. 甲状腺ホルモンの成合成、作用、分泌調節機構を説明できる。
44. 生体のカルシウム代謝に関わるホルモンの成合成、作用、分泌調節機構を説明できる。
45. 膵島ホルモンの成合成、作用、分泌調節機構を説明できる。。

循環器

46. 心筋の活動電位の成り立ちを説明できる。
47. 刺激伝導系の構成と活動電位の特徴とその成り立ちを説明できる。
48. 心筋の興奮収縮連関の仕組みを説明できる。
49. 心周期を説明できる。
50. スターリングの心臓の法則を説明できる。
51. 心拍数、心筋収縮性の自律神経調節とその仕組みを説明できる。
52. 血管平滑筋の収縮機構を説明できる。
53. 平滑筋、心筋、骨格筋の収縮機構の違いを説明できる。
54. 内皮細胞による血管透過性の調節機構を説明できる。
55. 溶質の拡散に関するフィックの拡散法則を説明できる。
56. 体液の濾過に関するスターリングの仮説を説明できる。
57. 浮腫の発症機構を生理学的に説明できる。
58. 内皮依存性血管緊張調節機構を説明できる。
59. 内皮細胞の抗血栓作用とその仕組みを説明できる。
60. 血圧の成因を説明できる。
61. 血圧の測定法とその原理を説明できる。
62. 平均血圧と脈圧の決定機構を説明できる。
63. 圧受容器反射の仕組みを説明できる。
64. 心電図の記録法を説明できる。
65. 心電図の各波形の成り立ちを説明できる。
66. 心拍出量の推定法を説明できる。
67. 心拍出量調節に関わる4つの因子と、統合的調節機構を説明できる。
68. 心機能曲線／心拍出曲線および血管機能曲線／静脈還流曲線を説明できる。
69. 心不全の生理学的基礎に説明できる。

70. 心筋虚血発症の生理学的基盤を説明できる。

成績評価の方法と基準

前期中間試験（9月前期試験期間中）、後期中間試験（12月11日（月））、後期最終試験（2月後期試験期間中）の3回の試験を実施する。前期中間試験は第1回～第11回の講義、後期中間試験は第12回～第29回の講義、後期最終試験は第30回～第42回の講義を試験対象とする。各試験の受験資格は、それぞれ試験対象となる講義の3分の2以上の出席を必要とする。先端研究の講義は受験資格の対象講義となるが、その内容については出題しない。上記の本試験に不合格の場合は、不合格になった試験について再試験を受験することができる（再試験に日程は別途告知する）。生理学（Ⅱ）の履修修了のためには、3回の試験全てについて、本試験あるあいは追試験で合格しなければならない。3回の試験成績を総合して最終成績とする。

授業計画並びに授業及び学習の方法

生理学（Ⅱ）で学習する生体機能は生命維持に重要な機能であり、疾患（病態生理学）との関連を考えながら、正常の生体機能とその調節の仕組み（生理学）を理解してほしい。授業で触れることのできる内容は一部に限られる。適切な教科書を、複数参照し、自己学習により知識の定着を図ることを推奨する。講義の度に、講義資料や講義中のノートをもとに復習するとともに、教科書の関連項目を学習することを奨める。講義のはじめに前回の講義内容について確認クイズを実施し、復習の助けとする。消化器の5回の講義は、教員の指導のもと、学生による学生のための学生の講義とする。講義内容についての疑問点や不明な点など質問には随時応じる。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	自律機能①	恒常性・自律神経系	生理学総論、内部環境、恒常性維持機構、ネガティブフィードバック制御	平野
2	自律機能②	自律神経系	自律神経系の解剖、自律神経中枢、シグナル伝達、自律神経反射	平野
3	細胞情報伝達①	細胞内シグナル伝達	受容体、3量体G蛋白質、単量体G蛋白質	平野
4	細胞情報伝達②	細胞内シグナル伝達	セカンドメッセンジャー（Ca, cAMP, cGMP）	平野
5	細胞情報伝達③	細胞内シグナル伝達	蛋白質リン酸化シグナル	平野
6	環境と生体①	体温調節	熱出納、熱産生・放散機構、体温調節機構、体温変動、体温調節異常	平野
7	環境と生体②	概日リズム	総論、生理機能、制御機構、時計遺伝子	平野
8	血液①	血液総論、血液の成分	血液総論、血液成分、赤血球	平野
9	血液②	血液の成分	赤血球、ヘモグロビン、血液型	平野
10	血液③	血液の成分	白血球、生体防御、炎症、免疫、アレルギー	平野
11	血液④	凝固線溶系	血小板、凝固系、線溶系、止血機構	平野

12	消化器①	総論	上皮細胞の生理学： 細胞膜を超えた物質の輸送と細胞の極性	平野 (学生)
13	消化器②	消化管の運動	消化管平滑筋の特徴と胃腸の運動	平野 (学生)
14	消化器③	消化液の分泌（1）	唾液と胃液	平野 (学生)
15	消化器④	消化液の分泌（2）	膵液と胆汁	平野 (学生)
16	消化器⑤	消化と吸収	糖質、脂質、タンパク質、水と電解質	平野 (学生)
17	呼吸器①	呼吸の仕組み	呼吸機能の指標	講師
18	呼吸器②	呼吸運動	呼吸運動	講師
19	呼吸器③	ガス交換	肺胞におけるガス交換、血液における酸素と二酸化炭素の輸送	講師
20	呼吸器④	呼吸の調節	換気と血流の関係、呼吸調節の仕組み	講師
21	先端研究①	特別講義	トロンビン受容体と脳血管攣縮（予定）	平野
22	先端研究②	研究紹介	異常血管収縮のメカニズム（予定）	講師
23	先端研究③	研究紹介	トロンビン受容体と肺高血圧症（予定）	平野
24	腎臓①	総論	腎臓・体液の総論と腎機能の指標	講師
25	腎臓②	腎排泄（1）	ナトリウムと水の排泄	講師
26	腎臓③	腎排泄（2）	物質の排泄、ホルモンによる腎機能調節	講師
27	腎臓④	腎排泄（3）	水バランスの調節、浮腫と脱水	講師
28	酸塩基平衡①	酸塩基平衡（1）	酸塩基平衡の基本： pHの定義、生体のバッファー系	講師
29	酸塩基平衡②	酸塩基平衡（2）	アシドーシスとアルカローシス	講師
30	体液性調節①	内分泌概要	ホルモンの生合成、分泌、作用、シグナル伝達	平野
31	体液性調節②	視床下部・下垂体	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモン、下垂体後葉ホルモン	平野
32	体液性調節③	副腎	副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン	平野
33	体液性調節④	甲状腺 カルシウム代謝	甲状腺ホルモン、 副甲状腺ホルモン、ビタミンD、カルシトニン	平野

34	体液性調節⑤	膵島	インスリン、グルカゴン、代謝	平野
35	循環器①	心臓の電氣的活動	心筋膜電位とイオンチャンネルの働き、心筋の活動電位、刺激伝導系	平野
36	循環器②	心臓の興奮収縮連関	興奮収縮連関の仕組み	平野
37	循環器③	心臓の機械的活動	心周期、スターリングの心臓の法則、心拍と収縮性の神経性調節	平野
38	循環器④	血管平滑筋収縮機構	Ca シグナル、ミオシンリン酸化、収縮装置の Ca 感受性	平野
39	循環器⑤	血管内皮機能	血管透過性の調節と物質交換、血管緊張調節、抗血栓機能	平野
40	循環器⑥	血圧と心電図	血圧の成因、脈圧、平均血圧、血管抵抗、心電図の基礎、	平野
41	循環器⑦	心拍出量の統合的調節	心機能曲線、血管機能曲線、平均循環充満圧	平野
42	循環器⑧	心筋虚血の生理学	心筋代謝、血流調節、狭心症、心筋梗塞	平野

教科書・参考書等

Ganong' s Review of Medical Physiology (日本語版あり)

Guyton & Hall Textbook of Medical Physiology (日本語版あり)

標準生理学 医学書院

※ Ganong' s Review of Medical Physiology (日本語版) を標準教科書に設定します。消化器の講義ではこれをもとに講義の準備をしてもらいます。しかしながら、教科書は執筆者の視点で記述されていて、教科書によって内容の濃淡が異なり、唯一無二の教科書は存在しません。図書館などで他の教科書も参照し、多面的に学習してください。教科書同士や講義との相違点など、疑問点は積極的に教員と議論して下さい。

オフィスアワー

随時対応 (メール、電話等による事前の日程調整が望ましい)

physiol2@med.kagawa-u.ac.jp (研究室)

<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~cardiovasc-physiol/index.html> (研究室 HP)

授業科目名

生化学

(英文併記 Biochemistry)

科目区分 基礎医学

授業コード 704120

DPコード bcxM

単位数 2

時間割 後期

対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 上田 夏生

非常勤講師

准教授 大西 平

伊藤 孝司 (徳島大学教授)

学内講師 宇山 徹

佐々木 卓也 (徳島大学教授)

富田 修平 (大阪市立大学教授)

高橋 吉孝 (岡山県立大学教授)

授業の概要

化学・物理学をふまえて生命現象を分子レベルで理解することが生化学のテーマである。生体は多種多様な物質から構成されている。生体機能を分子レベルで理解するには、まず、この多種多様な生体構成成分の構造と特性を理解する必要がある。次に、これらがどのような生理機能を担っているのかを、その化学的な特性をふまえて学ぶことになる。生体を構成している物質はけっして一定の状態にあるのではない。生合成、分解を繰り返し、常に代謝回転している。この連続した化学反応による動的平衡状態を理解することが必須である。多種多様な生体構成成分の代謝の異常が、それぞれ疾患と密接に結びついているため、医学部においては、人体の代謝の詳細を学習する必要がある。そのためには代謝における個々の化学反応やその反応を触媒する酵素タンパク質の理解が重要であることはいうまでもない。

講義では、生体物質の構造と特性を理解するとともに、各物質が代謝回転のなかでどのような役割を果たしているのかを把握するように努める。また、生命にとってもっとも重要である、「生体が生きるために必要なエネルギーをいかにして獲得するのか」というテーマについても学ぶ。各論では、糖・脂質・アミノ酸・核酸等、生体物質ごとの代謝を詳細にみていき、代謝のまとめとして、ビタミン・補酵素について学習する。実習では、生化学実験で用いられる基本的な機器を実際に操作し、タンパク質の分析や酵素活性の測定等を行う。

授業の目的

- 1) 生体物質の代謝回転や病的状態での異常を理解するための基礎知識を習得する (DP「知識・理解」)。
- 2) 基礎的な生化学実験を行い、実験結果を考察する (DP「問題解決・課題探究能力」)。

達成目標

- 1) 医学部で生化学を学習することの意義を説明することができる。
- 2) 生体物質の名称、構造、化学的性質を説明することができる。
- 3) 生体物質の代謝上の役割を説明することができる。
- 4) 酵素の機能と触媒する化学反応を説明することができる。

- 5) 生体エネルギー産生機構を説明することができる。
- 6) 生体内の主要な代謝経路の相互関係と調節機構を説明することができる。
- 7) 主要な糖代謝経路を説明することができる。
- 8) 主要な脂質代謝経路を説明することができる。
- 9) 主要なアミノ酸代謝経路およびポルフィリン代謝経路を説明することができる。
- 10) 主要な核酸代謝経路を説明することができる。
- 11) ビタミンの構造、機能、欠乏症状を説明することができる。
- 12) フリーラジカル、活性酸素、脂質過酸化について説明することができる。
- 13) 実習で使用する機器を適切に操作することができる。
- 14) タンパク質の分析や酵素活性の測定の原理を説明することができ、実験を適切に行うことができる。

成績評価の方法と基準

複数回の筆記試験によって評価し可否を判定する。授業のはじめに行う小テストの結果を加味する。実習については、実習態度、実習ノートと筆記試験によって評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

主としてパワーポイントとプリントを用いて講義を行う。重要な項目に加えて教科書を読んでもわかりにくいところや、全体像を頭の中に描きやすくすることに重点をおいて講義を行うので、講義に出席してその場でできるだけ理解するよう努めるとともに、日頃から教科書や代謝マップを繰り返し読んで自習する習慣を身に付けてほしい。生体内の多種多様な物質の名称・構造や代謝経路を丸暗記するのではなく、それぞれの生体物質や代謝経路の機能や相互関係、疾患との関連を理解するように常に心がける。実習については、ただ単に決められた操作をすればよいのではなく、実験方法の原理を理解し、得られた実験結果を十分に考察することが重要である。

	大項目	項目	内容	担当者
1	総論	生化学と医学	生化学とは何か、生化学と医学、症例検討	上田
2	総論	生体物質	生体物質の種類、構造、機能（水、糖質、脂質、核酸、アミノ酸、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）、細胞内小器官の機能	宇山
3	総論			宇山
4	総論			宇山
5	総論			宇山
6	総論			大西
7	総論	酵素	分類、補酵素とアポ酵素、酵素の触媒する化学反応、酵素の反応速度論	大西
8	総論			大西
9	総論			大西
10	総論	生体エネルギー論・代謝概説	酸化還元電位、高エネルギーリン酸化合物、呼吸鎖、電子伝達系、ATP産生機構、中間代謝（主要な代謝経路とその役割）	大西
11	総論			大西
12	総論			大西
13	各論	糖代謝	生体エネルギーと生体酸化、糖質の消化、解糖、クエン酸回路、ミトコンドリアの電子伝達系と酸化的リン酸化、グ	上田
14	各論			上田

15	各論		リコーゲンの合成と分解, 糖新生, 血糖の調節機構, 五炭	上田
16	各論		糖回路, ウロン酸回路, ガラクトース代謝, フルクトース	上田
17	各論		代謝, 複合糖質の構造と機能	上田
18	各論			上田
19	各論			上田
20	各論			上田
21	各論			上田
22	各論	脂質代謝 I	脂質の消化, 脂肪酸酸化, ケトン体の合成と分解, 脂肪酸	上田
23	各論		合成, 不飽和脂肪酸の合成と必須脂肪酸, アシルグリセロ	上田
24	各論		ールとスフィンゴ脂質の代謝, 糖脂質と代謝異常, 生体膜	上田
25	各論		の構造と機能, 脂質メディエーターの分類・受容体・働き・	上田
26	各論		生合成, エイコサノイド, リン脂質	上田
27	各論	脂質代謝 II	コレステロールの生合成と排出, ステロイドホルモンの生	大西
28	各論		合成, 胆汁酸の生合成, 血漿リポタンパク質と脂質の体内	大西
29	各論		動態	大西
30	各論			大西
31	各論	アミノ酸代謝	アミノ基転移反応と脱アミノ反応, 尿素サイクル, アミノ	大西
32	各論		酸側鎖の代謝, アミノ酸の合成と必須アミノ酸, アミノ酸	大西
33	各論		由来の生理活性物質の生合成	大西
34	各論			大西
35	各論			大西
36	各論			大西
37	各論	ポルフィリン代謝	ポルフィリンの合成, ポルフィリンの分解とビリルビン	大西
38	各論	核酸代謝	プリン <small>の</small> 生合成と分解, ピリミジンの生合成と分解, サル	大西
39	各論		ベージ経路, ヌクレオチド補酵素	大西
40	各論			大西
41	各論	ビタミン	水溶性ビタミンの分類・構造・機能, 補酵素による反応触	上田
42	各論		媒機構, 脂溶性ビタミンの分類・構造・機能, ビタミン関	上田
43	各論		連物質の分類・構造・機能, ミネラルと微量元素	上田
44	各論			上田
45	各論	フリーラジカルと活性酸素	フリーラジカル, 活性酸素, 過酸化物質, 脂質過酸化	上田
46	各論	特別講義 I	糖タンパク質, 糖鎖, リソソーム酵素, リソソーム病	伊藤
47	各論	特別講義 II	低分子量Gタンパク質, 小胞輸送	佐々木
48	各論			佐々木
49	各論	特別講義 III	アラキドン酸カスケード, シクロオキシゲナーゼと非ステ	高橋
50	各論		ロイド系抗炎症剤, プロスタノイド, ロイコトリエン	高橋
51	各論	特別講義 IV	シトクロム P450 の構造と機能	富田
52	各論			富田

53	実習	①説明と準備	大 西 宇 山
54	実習	②タンパク質定量	
55	実習	③pH測定	
56	実習	④ヘモグロビンの分光吸収測定	
57	実習	⑤タンパク質電気泳動	
58	実習	⑥LDHの活性測定	
59	実習	⑦LDH精製のステップ表作製	
60	実習	⑧LDHの反応動力学	
61	実習	⑨演習問題及び解説	

教科書・参考書等

教科書

多種類出版されている生化学の教科書のいずれか一冊を購入することを勧める。

以下の教科書はすべて訳本であるが、意欲のある学生は英文の原著に挑戦してほしい。

例：ロバート・K. マレーほか. イラストレイテッド Harper・生化学. 原書 30 版, 丸善出版, 2016.

原書名: Harper's Illustrated Biochemistry, 30th.

Robert K. Murray et al. Harper's Illustrated Biochemistry. 30th ed., McGraw-Hill, 2015.

Voet, Donald et al. ヴォート基礎生化学. 第4版 ed., 東京化学同人, 2014.

原タイトル: Fundamentals of Biochemistry.

Voet, Donald et al. Fundamentals of Biochemistry. 5th ed., Wiley, 2016.

マシューズほか. カラー生化学. 西村書店, 2015.

原タイトル: Biochemistry 4th Edition.

Christopher K. Mathews et al. Biochemistry. 4th ed., Pearson Canada Inc., 2013.

参考書

大島泰郎ほか. 生化学辞典. 第4版, 東京化学同人, 2007.

オフィスアワー

上田 夏生 後期・火曜日 17時～18時 nueda@med.kagawa-u.ac.jp

大西 平 後期・火曜日 17時～18時 tohnishi@med.kagawa-u.ac.jp

宇山 徹 後期・火曜日 17時～18時 uyama@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

早期医学実習 II

(英文併記 Early Medical Institute Training II)

科目区分 早期医学

授業コード

DPコード cbaM

単位数 1 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 上田 夏生 (コーディネータ)

教授 岡田 宏基 (コーディネータ)

授業の概要

医学科1年次後期開講の「早期医学実習I」(自由科目)の発展型として、本授業科目を2年次前期の金曜日3・4限に開講する。受講者は基礎医学系の講座を中心とした研究室のいずれかひとつを選択し、医学に関連した特定の研究分野の実験・調査・専門書や文献の講読などを行うことで最新の医学に接し、研究の面白さを体験することができる。受入れ研究室・研究室ごとの受入れ人数・実習テーマ・内容などをまとめたガイドブックは前年度に配布済である。研究室ごとの受入れ人数に限りがあるため、募集人数を越える希望者がいる場合は調整を行うが、前年度の「早期医学実習I」で同じ講座に配属された学生を優先する。なお、ひとりで複数のコースを受講することはできない。

授業の目的

早期に医学研究や医療現場を体験することで、医学研究の重要性および医療現場での課題に気付くとともに課題探究能力を養うことを目的とする。(DP「問題解決・課題探求能力」、「知識・理解」、「言語運用能力」に対応)

達成目標

- 1) 医学研究や医療現場体験を行うことの意義を説明できる。
- 2) 与えられた研究テーマについて目的、背景、方法、結果を説明し、考察することができる。

授業及び学習の方法

前年度に配布したガイドブックを参照してください。

成績評価の方法と基準

出席状況、実習態度、レポートなどにより総合的に判断する。「了」をもって合格とする。

教科書・参考書

オフィスアワー

シラバス

3 年次生

医学英語 I	症候論
医学英語 II	消化器ユニット
内分泌学	脳神経筋骨格ユニット
病理学 I	精神神経ユニット
病理学 II	内分泌代謝ユニット
免疫学	麻酔ユニット
薬理学	救急ユニット
微生物学	放射線ユニット
医動物学	呼吸器系
生理・薬理実習	循環器ユニット
臨床総論講義	課題実習

※全学共通科目（英語）については web シラバスを参照すること

授業科目名

医学英語 I

(英文併記 Medical English I)

科目区分 学際医学 授業コード 703900 DPコード abxM

単位数 1 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

Ian Willey (大学教育基盤センター准教授)

Gerardine McCrohan (大学教育基盤センター講師)

授業の概要

This course will deepen students' knowledge of basic medical English vocabulary, and improve students' English writing skills.

授業の目的

This course has three objectives: 1) to build students' practical medical English vocabulary knowledge; 2) to enable students to write about medical and academic topics for a variety of audiences; and 3) to improve students' basic presentation skills in English. (DP「言語運用能力」、「知識・理解」に対応)

達成目標

Through this course, students will become enabled to:

- Identify and use basic medical English vocabulary and expressions;
- Inquire about patients' symptoms using English;
- Explain medical English vocabulary using simple English and gestures;
- Write about medical topics using simple, vivid language which laymen would be able to understand;
- Present their English writing to groups of students in a strong voice and with eye contact.

成績評価の方法と基準

30%: Mid-term test

30%: Final test

40%: Notebook assignment

授業計画並びに授業及び学習の方法

回	項 目	担当者
1	Introductions and orientation; Begin <i>Professional English in Use Medicine</i> (PEIUM)	Ian Willey
2	PEIUM	Gerardine McCrohan
3	PEIUM	
4	PEIUM	
5	PEIUM	
6	PEIUM	
7	Mid-term test	
8	PEIUM	
9	PEIUM	
10	PEIUM	
11	PEIUM	
12	PEIUM	
13	PEIUM	
14	PEIUM	
15	PEIUM; Notebook collection	
	Final test	

教科書・参考書等

Glendinning, E.H., & Howard, R. (2007). *Professional English in Use Medicine*. Cambridge: ISBN 978-0-521-68201-5

* This textbook will also be used in Medical English II.

履修上の注意 Very important!

Students who miss more than 5 classes cannot pass this class!

Students will also be marked absent if they:

1. arrive to class more than 20 minutes late
2. leave class before the class has finished
3. do not bring their textbook
4. do not bring their notebook writing assignments

オフィスパワー

At Saiwai-cho campus only. For inquiries: ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp; mccrohan@cc.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

医学英語 II

(英文併記 Medical English II)

科目区分 学際医学 授業コード 703910 DPコード abxM

単位数 1 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

Ian Willey (大学教育基盤センター准教授)

Gerardine McCrohan (大学教育基盤センター講師)

授業の概要

This course will continue students' education in basic medical English begun in *Medical English I*. *Medical English II* will move into the clinical domain, and focus on English used in specific medical departments as well as in clinical interviews. Your professional English communication skills will improve in this class.

授業の目的

Specifically, this course aims to develop students': 1) questioning skills; 2) history-taking skills; 3) instruction skills; 4) explanation skills (speaking simply and clearly); 5) cultural competence; and 6) writing skills. Through this practice, students' knowledge of medical English vocabulary and expressions will also be developed. (DP「言語運用能力」、「知識・理解」に対応)

達成目標

Through this course, students will become enabled to:

- Initiate interviews with patients in English;
- Obtain the history of present illness and social histories from patients;
- Inquire about the location, duration, and intensity of pain/symptoms in medical interviews;
- Use different kinds of questions (e.g., open-ended) and techniques to elicit refined information from patients;
- Respond appropriately to patients' questions and concerns;
- Explain medical terminology and conditions in easy-to-understand "laymen's" English;
- Write in English with greater fluency and confidence.

成績評価の方法と基準

30%: Mid-term exam

40%: Final project

30%: Notebook homework

授業計画並びに授業及び学習の方法

Class work will center on activities in the textbook as well as on handouts and other materials provided by the instructor. Videos (e.g. doctor-patient interviews and TEDTalks) will often be shown and discussed in class. Writing and speaking tasks will often be done in class. Approximately once per month a clinician will visit the class to discuss English-related medical topics (if possible).

- (1) Introductions; Work resumes on *Professional English in Use: Medicine (PEIUM)*
- (2~12) *PEIUM (7: Mid-term exam)*
- (13-14) *PEIUM*; Final project assigned & workshop
- (15) Final projects due

教科書

Glendinning, E.H., & Howard, R. (2007). *Professional English in Use Medicine*. Cambridge: ISBN 978-0-521-68201-5
宮脇書店〔医学部三木町キャンパス〕で購入し、最初の授業に持参すること。

履修上の注意 **Very important!**

Students who miss more than 5 classes cannot pass this class!

Students will also be marked absent if they:

1. arrive to class more than 20 minutes late
2. leave class before the class has finished
3. do not bring their textbook
4. do not bring their notebook writing assignments

オフィスアワー

At Saiwai-cho campus only. For inquiries: ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp; mccrohan@cc.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

内分泌学

(英文併記 Endocrinology)

科目区分 臨床基礎医学 授業コード 704200 DPコード bcxM

単位数 6 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授	中村 隆範	非常勤講師
准教授	西 望 (総合生命科学研究センター)	東海林 博樹 (金沢医科大学 教授)
助教	小川 崇	水谷 哲也 (福井大学 准教授)
助教	野中 康宏	

授業の概要

元来、ホルモンとは生体を調節、統御する生体内で生合成される微量成分であり、それぞれ特定の腺細胞から分泌され血流によって運ばれて、標的細胞の特異的な受容体と結合しその情報を細胞内に伝える有機物質と定義されていた (古典的ホルモン)。しかし、今日、古典的ホルモンに加えて細胞増殖因子、サイトカインなど必ずしも特定の分泌腺を作らない細胞から生合成されたり、血流を介さないで標的細胞に運ばれる多くの生理活性物質が、広義のホルモンとして扱われる様になってきた。こうした広義のホルモンの情報が外界から細胞内へ効率的に伝えられるために、標的細胞はその細胞膜 (細胞表層) あるいは細胞内 (核内) にホルモン分子を捕獲する受容体やその受容体を介して情報が細胞質の分子を通したり、直接核内の特定の遺伝子発現調節に関わるような細胞内情報伝達経路を備えている。その結果、ホルモンは標的細胞でのみ選択的に遺伝子発現、細胞膜の興奮、酵素活性などを調節しながら、自律神経系とともに生体の恒常性の維持に役立っている。近年の生化学や分子生物学の進歩は、数多くの微量ホルモンの精製純化を可能にし、その化学構造や遺伝子構造をも明らかにしている。また、免疫学の進歩とともに抗原抗体反応を利用した高感度ホルモン測定法が確立して、体液、組織内の微量ホルモン濃度の測定が可能になった。このような分析技術の進歩や知識の集積によって、ホルモンの生合成と分泌から血液中の存在状態および標的組織における生理作用まで、その全体像が分子レベルで明らかになりつつある。また、生物個体の発生や成長、生殖から恒常性の維持などに異常をもたらす疾患の多くが、ホルモン作用に関わる情報伝達分子の遺伝子異常 (変異) によることが明らかにされている。これらの研究成果は、糖尿病、バセドウ病などの内分泌疾患のみならず、心臓病、高血圧、癌など各種疾患の病態の理解やその診断、治療に応用されている。本授業では、生化学、細胞生物学、分子生物学などの基礎学問が内分泌学にどのように生かされてきたか概説しながら、現在確立されている内分泌学の基礎知識と今後の展望について講義する。

授業の目的

内分泌疾患の多くが、各種ホルモン (生理活性物質) の生体内情報伝達系における異常や自己免疫疾患の結果として捉えられることから、各種ホルモンの生理機能や作用機序を理解する (DP「知識・理解」に対応) と共に、疾患発症の物質 (分子) レベルでの理解と治療方針を理解する (DP「問題解決・課題探求能力」に対応) ための基礎知識を習得する。

達成目標

1. 内分泌及びホルモンの概念を説明することができる。
2. 内分泌臓器とホルモンの名称を英語と日本語で正しく記述することができる。
3. ホルモンの生合成部位と化学構造，生理作用を関連付けて説明することができる。
4. ホルモンの作用機序（標的臓器，受容体，細胞内情報伝達，効果の発現）を述べることができる。
5. 内分泌疾患とホルモンの遺伝子異常，分泌調節，代謝経路などを関連付けて説明することができる。
6. ホルモンの定量法を説明し，定性，定量的に測定することができる。
7. 一般的なタンパク質，核酸を解析するとともに，ホルモン作用による遺伝子発現，タンパク質生合成の調節機構の具体例を述べるができる。
8. 実習中は課題について充分グループ内で討論することができる。

成績評価の方法と基準

1. 内分泌学講義については学期末に試験を実施する。
2. 実習はタンパク質化学、分子生物学的内容を中心に，実験動物を使用した生殖内分泌系の解析を行い、レポートを評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

1. 教科書は特に定めませんが，内分泌学の参考図書や，生化学・分子生物学・細胞生物学の基礎知識を踏まえて準備したプリントに沿って内分泌学の知識を理解出来るように努める。
2. 講義内容の理解を深めるため，講義の合間に小テストを実施するので十分に復習をしておく。
3. 非常勤講師を招き，内分泌学のホットな話題を紹介してもらうので積極的に質問して欲しい。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	総論	序論・実習説明	ホルモンの定義と内分泌学の概念	中村
2		ホルモンの分類	ペプチドホルモン，タンパク質ホルモン ステロイドホルモン，アミン，アミノ酸 エイコサノイド	中村
3		ホルモンの生合成と分泌	各種ホルモンの生合成 ホルモン分泌細胞，分泌腺の体内分布，ホルモン分泌	中村
4, 5		ホルモン受容体	細胞膜受容体（チロシンキナーゼ型受容体， Gタンパク質共役型受容体），細胞増殖因子 核内受容体（ステロイド受容体，非ステロイド受容体）	中村
6		ホルモンの定量法	ラジオイムノアッセイ（RIA） エンザイムイムノアッセイ（EIA，ELISA）	中村
7, 8 9		各論	膵内分泌	インスリンの化学構造，生合成，分泌調節， 生理作用（生化学，生理学） グルカゴンの生化学，生理学 糖尿病の定義と分類 糖尿病の病態生化学 糖尿病と肥満 レプチンの生化学，生理学

10, 11		甲状腺	甲状腺ホルモンの生化学, 生理学 TSH, TRH 甲状腺の病態生化学 カルシウム調節ホルモン	中村
12		副甲状腺	副甲状腺ホルモンの生化学, 生理学, カルシトニン (甲状腺), 活性型ビタミンD4 (腎) の生化学, 生理学, 骨代謝	中村
13, 14		生殖腺	生殖腺 (性腺) 刺激ホルモン 睾丸: テストステロン 卵巣: 卵胞刺激ホルモン, 黄体ホルモン FSH, LH, CG, GnRH	中村
15, 16		副腎 (皮質 髄質)	グルココルチコイド, ミネラルコルチコイド, アンドロゲン アドレナリン (エピネフリン), ノルアドレナリン (ノルエピネフリン)	中村
17	特別講義	ステロイドホルモン産生の調節機構	ステロイドホルモン、遺伝子発現、転写因子	水谷
18		視床下部・下垂体	TRH, CRH, GnRH, GRH ソマトスタチン, ドーパミン	中村
19	特別講義	内分泌と分子異常	ホルモン受容体, 遺伝子変異	東海林

教科書・参考書等

教科書

Melmed, Shlomo ほか. Williams Textbook of Endocrinology . 12TH, W B Saunders Co, 2011.

DeGroot, Leslie J. ほか. Endocrinology. 6 TH, W B Saunders Co, 2010.

寺本民生ほか. 講義録内分泌・代謝学. メジカルビュー社, 2005.

Anthony W. Norman, Helen L Henry. HORMONES. 3RD, ACADEMIC PRESS, 2015.

宮地幸隆ほか. 病態で学ぶ内分泌学. 丸善, 1996. 原タイトル: Pathophysiology of disease.

中村桂子ほか. 細胞の分子生物学 . 第5版, ニュートンプレス, 2010.

Donald Voet ほか. ヴォート 生化学〈上〉. 第4版, 東京化学同人, 2012.

Donald Voet ほか. ヴォート 生化学〈下〉. 第4版, 東京化学同人, 2013.

矢内原昇. 内分泌生理化学 . 南江堂, 1994.

オフィスアワー

授業日 (月曜日) の 16:30 ~ 18:00 とするが、担当教員のいる日時内であれば随時対応します。

授業科目名

病理学（I）

（英文併記 Pathology I ）

科目区分 臨床基礎医学

授業コード 704211

DPコード bcdM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授	今井田 克己	非常勤講師
准教授	横平 政直	大石 裕司
助教	橋本 希	竿尾 光祐
		船本 康申

授業の概要

病理学の教育は病理解剖学および病理組織学を基礎として、疾病の原因、病変の発現機序、それらの相互関係ないし因果関係を考察し、正しい疾病観と疾患の具体的概念を会得し、理論と同時に臨床医学への基礎作りも兼ねるものである。

下記の要項によって実施する。

1) 総論講義

病因論を講義するとともに、臓器、組織を越えて共通して見られる病変を成立機序とその病因、種類、転帰などを総括的に把握させる。疾病の形態学的所見だけでなく、実験病理学的裏付けによる理論も理解できるよう説明する。特別の分野については特別講義として学外講師による講義を予定している。

2) 各論および病理学実習（統合講義として実施する）

病理学総論で学んだ知識に基づき、統合講義の中で主要病変について顕微鏡実習を行う。病理組織標本を実習期間中貸与し、その標本に基づいた病理組織学解説書に沿い、実習時間の前半に詳細な解説を行う。この標本の見取図的なスケッチと主病変について記述させるように工夫している。

3) 剖検見学

できるかぎり剖検を実際に見学させるため剖検実施を剖検燈で学生に通知している。随時自発的に剖検を見学することにより、実際の症例の観察から臨床と直結した実地の病理学を体得できるように配慮している。

4) 出席について

講義実習を通して、医学が尊い生命をもった人間を対象とする学問であり、絶えざる自己研修を要するという考えから出席を重視する。

授業の目的

疾患として機能異常があれば、構造異常として投影されるという考えに基づき、形態学的な面を主体として習熟することができる。

（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応）

達成目標

1. 病因論と、臓器、組織を超えて共通してみられる病変に関してその病因、種類、転帰などを病理学的に説明することができる。
2. 疾病の病理形態的な特徴を説明し、さらに実験病理学的に裏付けられた理論を説明することができる。
3. 腫瘍の発生原因、種類、肉眼的特徴、病理組織学的特徴を説明することができる。
4. 各臓器、病変に関しては統合講義の中で主要病変について、病理組織学的な解説を行った後、病理組織実習を行うことができる。
5. 病理組織実習に関しては病理組織標本を用いて、実習解説書に基づいてあらかじめ詳細に説明することができる。

成績評価の方法と基準

1. 総論については講義終了後筆記試験を行う。
2. 各論、実習については統合講義の評価法に準拠し、実習試験を重視する。
3. 1. 2. について出席を重視する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	病理学概論	序説	オリエンテーション、	今井田
2			病理学とは	今井田
3	病理学総論	細胞傷害、修復	反応と適応（1）萎縮、肥大、過形成、化生	今井田
4			反応と適応（2）細胞死、アポトーシス、変性	今井田
5		染色体異常と 遺伝子疾患	染色体異常・遺伝子疾患（1）	今井田
6			染色体異常・遺伝子疾患（2）	今井田
7		腫瘍学	腫瘍学・化学発がん（1）	今井田
8			腫瘍総論：腫瘍の臨床的特徴	横平
9			腫瘍学・化学発がん（2）	今井田
10			腫瘍総論：上皮性腫瘍	横平
11			腫瘍総論：非上皮性腫瘍	横平
12			がんの分子レベルの基礎（1）	橋本
13			がんの分子レベルの基礎（2）	橋本
14			がんの分子レベルの基礎（3）	橋本

15	特別講義		毒性病理学入門	大石
16			腫瘍総論：非上皮性腫瘍	横平
17	特別講義		細胞診	船本
18	特別講義		診断病理学	竿尾
19	試験			

教科書・参考書等

Basic Pathology, Robins & Angell, Saunders

Pathological Basis of Disease, Robins, Saunders

現代の病理学, 金原出版

病理学総論・各論, 南山堂

新病理学総論, 南山堂

エッセンシャル病理学, 医歯薬出版

オフィスアワー

随時実施（あらかじめメール等で照会を行うこと。）

授業科目名

病理学Ⅱ

(英文併記 PathologyⅡ)

科目区分 臨床基礎医学 授業コード 704212 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授 上野 正樹 非常勤講師
講師 千葉 陽一 阪本 晴彦 (香川大学 名誉教授)
助教 村上 龍太

授業の概要

病理学は疾病の実態を形態学的(マクロ, ミクロ)に把握し, その特徴を捉えてこれを分類し, 診断することを大きな目的とし, 病理解剖や外科病理診断が行われている。更に, 病因の究明も病理学の使命であり組織化学や免疫組織学, 分子生物学的手法, 電顕などを使い, 形態と機能の研究を組み合わせ, 人体症例のみならずモデル疾患動物も研究の対象としている。

学生に対する講義は総論, 各論(統合講義)に分けて行われる。総論では, 全身各器官に共通した病態とその原理を学ぶ。統合講義の中に組み込まれた病理学各論において各器官毎の疾病の定義と特徴および顕微鏡所見, 病因論などを学ぶ。ミクロの特徴を知るために光学顕微鏡を使って病理組織の観察(実習)を行う。また病気の実像に触れ, 肉眼的な特徴を知るために, 病理解剖が行われている時はできるだけ見学することが望ましい。

授業の目的

各種疾患の実態を肉眼的, 顕微鏡的に把握しその特徴を理解するために各臓器・器官に共通した基本的な病態とそれを起こす機構 pathogenesis をこれまでに学んだ他の基礎医学の知識をもとに学ぶ(総論)。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探究能力」に対応)

ついで, 各論(統合講義)においてこの総論の知識をもとに各臓器・器官ごとの疾患について形態学的変化と pathogenesis, 臨床症状等を学び理解する。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探究能力」に対応)

達成目標

1. 各臓器・器官に共通の基本的病態を循環障害, 炎症, 免疫等の面から説明することができる。
2. 各臓器・器官に共通の基本的病態を起こす機構(pathogenesis)を説明することができる。
3. 各臓器・器官に共通の基本的病態を肉眼的及び顕微鏡的に観察することができる。
4. 各臓器・器官毎にみられる疾患について定義, 形態学的変化を説明することができる。
5. 各臓器・器官毎にみられる疾患について pathogenesis を説明することができる。
6. 各臓器・器官毎にみられる代表的な疾患について肉眼的及び顕微鏡的に観察することができる。

成績評価の方法と基準

3年前期末

総論講義終了後、原則として筆答試験を行う。実習ノート提出による評価も加える。

授業計画並びに授業及び学習の方法

疾患の形態学的変化や原因をよりよく理解するためには病理学以外の基礎医学、特に解剖学（マクロ、ミクロ）や生化学の知識が必要である。さらに、病理学総論（病理学 I, 病理学 II をあわせて）をよく理解しておくことは病理学各論だけでなく、すべての臨床科の疾患を理解する上で大きな助けとなる。従って、病理学総論をできるだけきっちりと勉強することが望まれる。また、病理解剖を見学し、診断を自ら行う（課題実習）ことで、疾患をより具体的に理解することができる。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	総論	序説	病理学とは(1)	上 野
2		炎症(1)	急性炎症（炎症と血管，急性炎症における細胞動態）	上 野
3		炎症(2)	急性炎症（炎症の化学伝達物質）	上 野
4		炎症(3)	慢性炎症（肉芽腫性炎症，急性炎症と慢性炎症の形態像の比較，炎症の全身性徴候）	上 野
5		炎症(4)	治癒と修復（再生，結合織による修復）	上 野
6		循環障害(1)	浮腫、充血とうっ血	阪 本
7		循環障害(2)	出血、止血と血栓症	阪 本
8		循環障害(3)	塞栓症、梗塞、ショック	阪 本
9		免疫と疾患(1)	感染症と免疫	上 野
10		免疫と疾患(2)	免疫反応による組織障害、免疫不全症候群，	上 野
11		免疫と疾患(3)	アレルギー、移植片拒絶、	上 野
12		実習(1)	肺の慢性鬱血、肝臓の慢性鬱血、下大静脈の血栓	全 員
13		免疫と疾患(4)	自己免疫疾患（SLE他）、アミロイドーシス	上 野
14		環境と疾患	喫煙，飲酒，大気汚染，放射線，他	上 野
15		実習(2)	DIC、急性尿細管壊死、出血性梗塞、急性化膿性虫垂炎	全 員
16		実習(3)	慢性副睾丸炎、胃潰瘍、結核、寄生虫感染	全 員
17		食物、栄養と疾患	ビタミン欠乏症、無機質、肥満、食物と疾病	上 野
18		まとめ	病理学とは(2)	上 野
19		実習(4)	アミロイドーシス、石綿肺、珪肺症、脾梗塞	全 員
20		予備		
21		予備		

教科書

Robbins et al. : Pathologic basis of diseases, 8th ed., 2010. Saunders.

アンダーウッド病理学 西村書店

菊池浩吉他編：新病理学総論 南山堂

菊池浩吉他編：新病理学各論 南山堂

Sandritter : Color atlas and textbook of macropathology. Year Book Medical Publisher.

Sandritter : Color atlas and textbook of histopathology. Year Book Medical Publisher.

R. C. Curran : Color atlas of histopathology. Oxford University Press

影山圭三他：組織病理アトラス 文光堂

西山保一：マクロ病理アトラス 文光堂

山川光徳／横井豊治／吉野正監訳：カラーアトラスマクロ病理学 西村書店

赤城忠信／大朮祐治／松原修編：カラーアトラス病理組織の見方と鑑別診断第4版 医歯薬出版

豊国伸哉、高橋雅英 監訳：ロビンス基礎病理学 丸善

オフィスアワー

授業科目名

免疫学

(英文併記 Immunology)

科目区分 臨床基礎医学 授業コード 704220 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授 星野 克明 (免疫学) 非常勤講師
助教 仁木 敏朗 (免疫学) 田中 貴志 (理化学研究所 統合生命医科学研究センター)
助教 財賀 大行 (免疫学) チームリーダー
前田 和彦 (大阪大学微生物病研究所 准教授)

授業の概要

免疫系は、生物が病原体（感染症）から身を守るために作られ進化してきた。免疫学とは、この感染防御について研究する学問である。我々の体が、どの様にして病原体から自分を守っているのか。感染が起きた後に、病原体がどの様にして排除され治癒するのか。過去に罹った感染症には、なぜ再感染しないのか。このような疑問を明らかにするために、免疫学は約 200 年前に始まった。特に、最近の 40 年は日進月歩の勢いで、その理解が進んでいる。

今日の免疫学は、生体防御ばかりでなく、アレルギーや自己免疫など様々な免疫疾患を分子、細胞、組織、臓器、個体レベルで明らかにしている。これらの知識は我々人類の財産であり、免疫系の関与する疾病を克服するために用いられている。また、免疫系を理解することは、生命の根源を理解することにも繋がると考える。

免疫学の教育は、教科書の Janeway' s Immunobiology, 8th & 9th Edition に沿った内容で行い、膨大な知識を繋げて一つの体系として理解できるように進める。なお、本科目は、“医学教育モデル・コア・カリキュラム”の免疫学に相当する部分をすべて含んでいる。講義を真剣に受け、医師、医学研究者として必要な免疫学の基礎知識を身につけてもらいたい。

授業の目的

免疫の基本的な仕組みについて理解することを目的とする。病原体に対する生体防御反応、免疫応答の機能異常による自己免疫疾患・アレルギー疾患、先天性および後天性免疫不全症、がん細胞に対する免疫応答、移植免疫について学ぶ。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

1. 免疫系の一般特性

- (1) 生体防御機構における免疫系の特徴(特異性、多様性、寛容、記憶)を説明できる。
- (2) 免疫反応に関わる組織と細胞を説明できる。
- (3) 免疫学的自己の確立と破綻を説明できる。
- (4) 自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。

2. 自己と非自己の識別に関与する分子とその役割

- (1) MHC クラス I とクラス II の基本構造、抗原提示経路の違いを説明できる。
- (2) 免疫グロブリンと T 細胞抗原レセプターの構造と反応様式を説明できる。
- (3) 免疫グロブリンと T 細胞抗原レセプター遺伝子の構造と遺伝子再構成にもとづいて、多様性獲得の機構を説明できる。
- (4) 自己と非自己の識別機構の確立と免疫学的寛容を概説できる。

3. 免疫反応の調節機構

- (1) 抗原レセプターからのシグナルを増強あるいは減弱する調節機構を説明できる。
- (2) 代表的なサイトカイン・ケモカインの特徴を説明できる。
- (3) Th1/Th2/Th17/Treg 細胞それぞれが担当する生体防御反応を説明できる。

4. 疾患と免疫

- (1) ウイルス、細菌と寄生虫に対する免疫応答の特徴を説明できる。
- (2) 先天性免疫不全症と後天性免疫不全症を概説できる。
- (3) 免疫寛容の維持機構とその破綻による自己免疫疾患の発症を概説できる。
- (4) アレルギー発症の機序を概説できる。
- (5) がん免疫に関わる細胞性機序を概説できる。

成績評価の方法と基準

1. 全講義終了後に試験を行う。
2. 実習レポートの内容を評価・採点し、成績判定に用いる。
3. 各講義終了時にミニテストを行い、出席点とすることがある。
4. 講義の出席状況、受講態度を評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

講義は教科書に則し、パワーポイントとプリントを用いて進める。免疫学の知識は、感染症、自己免疫疾患やアレルギーのみならず、すべての臨床領域において疾病を理解するために大変有用である。これまでに明らかにされた膨大な知識を、体系として理解するために予習を勧める。また、授業後に、参考図書や資料を活用して知識の整理を行う復習が重要と考える。免疫学の進歩は極めて早いため、教科書には書かれていない最新かつ重要な知見も、折に触れて解説する。講義内容で理解が不十分な所は質問に応じる。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	免疫生物学	免疫学の基礎	免疫とは、免疫学の歴史、自然免疫と獲得免疫	星野
2	自然免疫	自然免疫	自然免疫の解説、補体系	星野
3		自然免疫の反応	パターン認識受容体、感染に対する応答	財賀
4	抗原の認識	B細胞受容体、T細胞受容体による抗原の認識	免疫グロブリンの構造と抗原認識機構、T細胞受容体の構造と抗原認識機構	仁木

5, 6		抗原受容体のレパートリー形成	免疫グロブリン遺伝子の再構成, T細胞受容体の遺伝子再構成, 免疫グロブリンのクラス, 免疫グロブリンの親和性成熟, 獲得免疫の進化	仁 木
7, 8		T細胞への抗原提示	組織適合抗原, 主要組織適合遺伝子複合体 (MHC) の形成, MHC の機能	仁 木
9, 10	リンパ球の発生	T細胞受容体とB細胞受容体のシグナル伝達	シグナル伝達総論, T細胞受容体のシグナル, B細胞受容体のシグナル, サイトカイン受容体のシグナル	星 野
11		リンパ球の発生・分化と維持	B細胞分化, T細胞分化	星 野
12	獲得免疫	B細胞の免疫応答	ヘルパーT細胞によるB細胞の活性化機構, 免疫グロブリンサブクラスの機能, 免疫グロブリン受容体の機能	仁 木
13		獲得免疫のダイナミクス	感染に対する免疫応答の経過, 免疫記憶	星 野
14, 15		粘膜免疫	粘膜系の構成, 感染に対する免疫応答とその制御機構	星 野
16, 17		T細胞の免疫学 (特別講義)	自己・非自己の認識と生体防御機構, 末梢リンパ組織へのT細胞の移動, 活性化樹状細胞によるナイーブT細胞のプライミング, エフェクターT細胞および細胞傷害性T細胞の機能、	田 中
18	実習の解説		実習について解説する	星 野
19	病気と免疫システム	宿主防御機構の破綻1	免疫防御システムからの逃避とその破壊, 免疫不全症	星 野
20, 21	獲得免疫	B細胞の免疫学 (特別講義)	B細胞の機能、抗体の多様性獲得の仕組み、B細胞の基礎研究	前 田
22	病気と免疫システム	宿主防御機構の破綻2	後天性免疫不全症候群	星 野
23		アレルギーとアレルギー疾患	IgE の関わるアレルギー, アレルギー反応のエフェクター機構	財 賀
24, 25		自己免疫と移植免疫	自己免疫寛容の成立と破綻, 自己免疫疾患とその発症機構, 遺伝的要因と環境要因について, 同種異系抗原への反応と移植片拒絶	仁 木
26, 27		免疫反応の人為的操作	望ましくない免疫応答への制御法, 抗腫瘍免疫, 感染症と闘うための戦略	星 野
	実習	免疫学実習-1	リンパ組織の観察1、プラークアッセイ1	星 野 仁 木
		免疫学実習-2	リンパ球のフローサイトメトリー解析1、赤血球凝集反応1	財 賀 星 野 仁 木 財 賀

	免疫学実習-3	リンパ組織の観察2、プラークアッセイ2	星野 仁木 財賀
	免疫学実習-4	リンパ球のフローサイトメトリー解析2、赤血球凝集反応2	星野 仁木 財賀

教科書・参考書等

教科書

1. Kenneth Murphy. Janeway' s Immunobiology. 8th Edition, Garland Science, 2011.
2. Kenneth Murphy. Janeway' s Immunobiology. 9th Edition, Garland Science, 2016.
3. 笹月健彦監訳. 「Janeway' s 免疫生物学 (原著第7版)」. 南江堂, 2010.

参考書

1. 高津聖志ほか監訳. 「免疫学イラストレイテッド (原著第7版)」. 南江堂, 2009.
2. 熊ノ郷淳ほか. 「免疫学コア講義. 改訂3版」. 南山堂, 2012.
3. Abul K. Abbas. Cellular and Molecular Immunology. 8th Edition, Elsevier Saunders, 2014.
4. Raif Geha, Luigi Notarangelo. Case Studies in Immunology. 6th Edition. Garland Science, 2011.
5. Raif Geha, Luigi Notarangelo. Case Studies in Immunology. 7th Edition. Garland Science, 2016.
6. 谷口克ほか. 「標準免疫学. 第3版」. 医学書院, 2013.

オフィスアワー

在室時に随時対応します。

アポイントを取ってください。

授業科目名

薬理学

(英文併記 Pharmacology)

科目区分 臨床基礎医学 授業コード 704230 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授	西山 成	非常勤講師
助教	人見 浩史	大野 弘行 (大阪薬科大学 教授)
助教	中野 大介	小坂 信二 (香川大学医学部附属病院 副薬剤部長)
		小路 哲生 (香川県済生会病院 診療部長兼腎センター長)
		西堀 正洋 (岡山大学 教授)
		吉栖 正典 (奈良県立医科大学 教授)
		齊藤 源頭 (高知大学 教授)

授業の概要

薬理学は、薬と生体との相互作用の結果起こる現象を研究し、その機構を明らかにすることを目的とした科学である。生体は、特に細胞レベルでは未知の現象がきわめて多い。高等動物における生体の特徴は、恒常性を維持するために調節機構が発達していることであり、病態とはその調節機構の障害により引き起こされた状態といえよう。薬の多くは、生体に作用してこれらの調節機構をゆり動かすことができるので、乱れている調節機構を正常方向に動かすことも可能であるとともに、正常生体でも薬によるゆり動かしの結果、きわめて興味深い現象が引き起こされる。前者が、薬物療法の基礎となり、また後者は生体の調節機構を解明する有力な手段として利用されている。これらのことから解るように、薬理学の授業においては、化学物質としての薬の性質によりゆり動かされる生体の生理および病態生理機能を十分に理解しなければならない。医学部における薬理学授業の主目的は、正しい薬物療法を行うための基礎知識を修得することにある。しかし、ただ知識の修得のみでなく、両刃の剣である薬を人体に投与することからも、倫理的問題を常に考える努力が必要である。

具体的内容については次項に列記されているが、薬理学の授業は単に知識の修得だけでなく、人体と薬物の関係を自ら思考する訓練でもある。このために、講義・実習が有機的につながりを持って提供されている。講義では薬理学に必要な知識を修得し、実習では自ら実験し、講義、教科書で得た知識を実証することに努める。次いで、基礎知識、実験手技の修得後、これらを応用して新たに生じた疑問点の解明のための実験計画を立てる。これらの課程において、自主性、創造力を養うことに努める。

授業の目的

より適切な薬物療法を行うために、人体の恒常性を維持するための各種調節機構（生理）、さらには疾病時の各種調節機構の異常（病態生理）を把握した上で、これら調節機構を修飾する各種薬物の性質を理解することによって薬物療法の基礎知識を習得する。（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応）

さらに、生命機構の解明の大きな武器である薬を生命科学研究の道具として使用する基礎能力を養うために、薬物によりゆり動かされる生体側の反応を正確に把握・比較・評価する方法を身につける。(D P「知識・理解」、
「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

1. 各種薬物の化学物質としての性質とその起源について説明できる。
2. 各種薬物の作用様式と作用機序を説明できる。
3. 薬物の生体内動態（吸収・体内分布・代謝・排泄），及び薬理作用と副作用の関係を説明できる。
4. 各種疾病の基本的な病態生理を考慮した上で，薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の選択ができる。
5. 薬の構造を修飾することにより生体の調節機構を制御する新しい薬物の開発（創薬）が可能であることを具体例を示して述べるができる。

成績評価の方法と基準

出席回数、小テスト、学期末試験などを併せて評価する。出席の不足するものは受験資格を与えない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

興味をもつことである。しかし、興味をもつためには薬理学の知識を得るため勉強しなければならない。知識が増すにつれて、思考の範囲が拡大し、興味が増加するはずである。

授業の進行をスムーズに運ぶため、プリント、スライド等が用いられるが、ただ講義ノート、プリントのみを学習の材料とするだけでなく、適当な教科書を選び、講義ノート、教科書を50：50の重みとみなし学習することが大切である。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	薬理学総論(1)	薬理学とは	定義、歴史 到達目標：薬理学についての概要を理解・説明できる。	西 山
2		臨床薬理学総論	臨床薬理学の実際 到達目標：臨床薬理学についての概要を理解・説明できる。	西 山
3	薬理学総論(2)	薬の作用様式と作用機序	アゴニスト，アンタゴニスト（競合，非競合阻害） 到達目標： ・薬物・毒物の濃度反応曲線を描き、その決定因子を説明できる。 ・薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性を理解し、活性薬と拮抗薬を説明できる。	中 野
4	中枢神経系の薬理	麻薬性鎮痛薬	麻薬性鎮痛薬の作用・副作用 到達目標：麻薬性鎮痛薬の薬理作用を説明できる。	中 野
5	末梢神経系の薬理	交感神経作動薬	ノルアドレナリン，アドレナリン，ドーパミン，イソプロテレノール 到達目標：自律神経作用薬（アドレナリン作用薬）の薬理作用を説明できる。	人 見
6		交感神経遮断薬	α ， β -遮断薬，神経遮断薬 到達目標：自律神経作用薬（抗アドレナリン作用薬）の薬理作用を説明できる。	人 見
7	特別講義	薬物の用量と反応	ED50，LD50，構造-活性相関 到達目標：薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。	吉 栖

8		薬物の体内動態	吸収, 分布, 代謝, 排泄 到達目標: ・薬物・毒物の吸収, 分布, 代謝と排泄を説明できる。 ・薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。 ・薬物投与方法を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。	吉 栖
9	末梢神経系の薬理	副交感神経作動薬	アセチルコリン, ムスカリン, コリンエステラーゼ阻害薬 到達目標: 自律神経作用薬 (コリン作用薬) の薬理作用を説明できる (1)。	人 見
10		副交感神経遮断薬	アトロピン, スコポラミン 到達目標: 自律神経作用薬 (抗コリン作用薬) の薬理作用を説明できる (2)。	人 見
11 12	特別講義	漢方医学	漢方医学総論レビュー(1) 漢方医学総論レビュー(2) 到達目標: 漢方医学の実際を説明できる。	小 路
13 14		抗腫瘍薬	抗腫瘍薬の作用・副作用 到達目標: 抗腫瘍薬の薬理作用を説明できる。	小 坂
15	末梢神経系の薬理	抗炎症薬・パーキンソン病治療薬	ステロイドおよび非ステロイド系抗炎症薬 パーキンソン病治療薬の作用・副作用 到達目標: ステロイド薬および非ステロイド系抗炎症薬、パーキンソン病治療薬の薬理作用を説明できる。	中 野
16		神経節遮断・神経筋接合部作用薬	ヘキサメトニウム (C6), クラーレ, サクシニルコリン 到達目標: 自律神経作用薬 (ニコチン様作用)、神経筋接合部作用薬の薬理作用を説明できる。	中 野
17	特別講義	中枢神経作用薬	抗精神病薬 到達目標: 抗精神病薬の薬理作用を説明できる。	大 野
18			抗うつ薬、抗けいれん薬 到達目標: 抗うつ薬・抗けいれん薬の薬理作用を説明できる。	大 野
19 20	オータコイド	レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系	R A A系の生理作用 R A A系の病態生理と遮断薬 到達目標: R A A系作用薬の薬理作用を説明できる。	西 山
21	特別講義	消化器薬理 ヒスタミン	消化器の薬理 到達目標: 消化器作用薬の薬理作用を説明できる。	西 堀
22			ヒスタミンの薬理 到達目標: ヒスタミン受容体作用薬の薬理作用を説明できる。	西 堀
23 24		漢方医学	漢方医学各論レビュー(1) 漢方医学各論レビュー(2) 到達目標: 漢方医学の実際を説明できる。	小 路
25 26		腎・泌尿器薬理	腎・泌尿器薬理(1) 腎・泌尿器薬理(2) 到達目標: 腎・泌尿器関連薬の薬理作用を説明できる。	齊 藤
27		薬理学総論(3)	腎臓病創薬 到達目標: 腎保護薬の創薬活動の実際について説明できる。	西 山

教科書・参考書等

- (1) 田中千賀子, 加藤隆一編. 「NEW 薬理学」 改訂第6版, 南江堂, 2011.
- (2) Brunton, Laurence L.; Chabner, Bruce A., eds. 「Goodman & Gillmans Pharmacological Basis of Therapeutics」 12th ed., McGraw-Hill Professional, 2010.
- (3) Bertram G. Katzung et al., eds. 「Basic & clinical pharmacology」 11th ed., McGraw-Hill Medical,

2009, (A Lange medical book).

オフィスアワー

一応、授業日 16:30 ~ 18:00 とするが、この時間以外でも自由に来室 (~ 21:00 程度) を歓迎する。

授業科目名

微生物学

(英文併記 Microbiology)

科目区分 基礎医学

授業コード 704240

DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授 桑原 知巳

非常勤講師

講師 今大路 治之

小山 一 (香川大学医学部客員研究員)

助教 鈴木 基生

岡崎勝一郎 (元香川大学農学部教授)

授業の概要

医学における微生物学の最も重要な領域は病原微生物学であり、これを通じて感染症を把握することが医学部学生の最終的な課題となる。感染症の臨床は臨床各科と分子微生物学が協力して統合講義で扱うが、微生物学ではその前段階として基礎微生物学と一部の臨床微生物学の講義を行う。3年次の微生物学の理解が十分でなければ、統合講義の学習に支障をきたすことに注意しなければならない。微生物学では、細菌学、ウイルス学の順に講義を進める。細菌学は主として、今大路と鈴木が担当し、ウイルス学の講義は桑原および非常勤講師の小山と岡崎が担当する。細菌学では、グラム陽性球菌・グラム陰性球菌・グラム陽性桿菌・グラム陰性桿菌という4つのカテゴリー別に重要な病原体の特徴とその感染症につき解説する。ウイルス学では、DNAウイルスとRNAウイルスに分類して講義を進めるが、肝炎ウイルスとレトロウイルスに関しては、その特徴的な疾患との関連から、独立した講義枠を設けている。真菌の生物性状と抗真菌薬、深在性真菌症の原因真菌に関しては、統合講義で解説する予定である。微生物学実習では4回の実習を通し、微生物の培養・同定や薬剤感受性試験、ウイルス感染価測定など、微生物学の基本手技を学び、未知試料の微生物同定を行うことにより、微生物検査の原理と問題点を理解する。講義の進め方は、精選されたプリントに基づき、特に重要な項目を解説することを原則とする。講義を聴講しなければ、資料の意味を理解することは困難であり、自らプリントやノートに重要事項を書き加えることが必要となる。

授業の目的

医学部生が微生物学において修得しなければならない点は、ヒトと微生物との細胞構造の違いと各種微生物がヒトに感染を起こす分子メカニズムである。これらは抗菌薬の作用機序や副作用、また、ワクチンの開発原理を理解するために必ず修得しなければならない。微生物学における細菌学の講義・実習では、細菌特有の細胞構造、代謝や遺伝子発現制御を学び、原核生物としての特徴を理解し、その上でそれぞれの特性がどのように細菌検査に利用されているのかを理解することが目的である。特に病原性の強い病原細菌については毒素の作用機序や感染メカニズムを学ぶ。また、抗菌薬の標的分子や薬剤耐性機構についても理解しなければならない。ウイルス学では、ウイルス粒子の構造を理解し、各ウイルスタンパク質が細胞への感染と細胞内での複製にどのような役割を果たすのかを学び、ワクチンや抗ウイルス薬開発の原理を理解するのが大きな学習目的である。主要な病原体

について、その生物学的特徴・病原因子・ヒトへの感染経路・ワクチン等による予防法について説明できるようになることが、微生物学の講義・実習の目的である。（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応）

到達目標

- ・ 細菌とウイルスについて、それらの主要な形態・遺伝・増殖の特徴について説明できる。
- ・ 感染症の予防（滅菌・消毒・ワクチン）の原理を具体的に述べ、抗菌薬の種類と作用機構・薬剤耐性の機構を説明できる。
- ・ 病原体の病原因子について代表的なものを列挙し、それぞれの性質と作用機序について簡単に説明できる。
- ・ 代表的な病原微生物（細菌・ウイルス）を列挙し、それぞれの特徴・疾患と微生物との関係・発症機構・診断と治療の要点を具体的に述べるができる。
- ・ 病原微生物（P2 レベル以下）の取り扱いができる。
- ・ 適切な滅菌，消毒を行うことができる。
- ・ 細菌の分離培養ができる。

成績評価の方法と基準

講義・実習への出席状況・受講態度・実習レポートおよび3年次前期末の最終テスト成績を総合して評価する。微生物学実習ではレポートで実習態度・実習内容の理解度の両方を評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

臨床微生物学が扱う微生物の種類は膨大な数に達する。重要なものについては、できるだけ情報量を増やす努力が必要である。しかし、並列的に記憶するのではなく、優先順位をつけて記憶することが重要である。重要性の低いものについては適宜取捨選別し、要点を理解して記憶することが必要である。重要性，必要性は講義から知り得るようになっており，講義に集中することが学習方法のポイントである。教科書・参考書は理解の補助的な手段であり，有効に活用することを勧める。試験対策用のプリントや過去の問題の解答集の丸暗記などは全く意味がない。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	細菌学総論	微生物学の歴史	微生物学の概要・微生物学の歴史	桑原
2	細菌学総論	細菌の分類と遺伝	細菌の分類と細菌の遺伝子発現制御	鈴木
3	細菌学総論	細菌の形態と構造	細菌の形態と構造	鈴木
4	細菌学総論	細菌の増殖・代謝	細菌の増殖・増殖に及ぼす因子・呼吸と発酵	桑原
5	細菌学総論	滅菌と消毒	滅菌・消毒の目的および原理と方法	鈴木
6	細菌学総論	抗菌薬の構造と作用	抗菌薬の構造と作用機序	桑原
7	細菌学総論	薬剤感受性と薬剤耐性	抗菌スペクトル・薬剤耐性の機序	桑原

8	細菌学各論	グラム陽性球菌	ブドウ球菌・化膿レンサ球菌・腸球菌	桑原
9	細菌学各論	グラム陽性芽胞形成菌	バシルス・破傷風菌・ボツリヌス菌・ガス壊疽菌群	鈴木
10	細菌学各論	グラム陽性無芽胞桿菌	ジフテリア菌・結核菌・非結核性抗酸菌・乳酸菌	桑原
11	細菌学各論	腸内細菌科	大腸菌・サルモネラ・赤痢・肺炎桿菌・プロテウス	鈴木
12	細菌学各論	ビブリオ科・パスツレラ科	コレラ菌・腸炎ビブリオ・バルニフィカス菌・インフルエンザ菌	鈴木
13	細菌学各論	ブドウ糖非発酵菌	緑膿菌・百日咳菌・レジオネラ菌	今大路
実①	実習	微生物学実習 1	細菌の形態・細菌の同定(1)	桑原, 鈴木, 今大路
実②	実習	微生物学実習 2	細菌の同定(2)・ウイルス感染価の測定	桑原, 鈴木, 今大路
14	ウイルス学 総論	ウイルスの基本性状	ウイルスの分類と特徴・形態	桑原
15	ウイルス学 総論	ウイルスの増殖	ウイルスの増殖様式、感染、ブラックアッセイ	桑原
実③	実習	微生物学実習 3	細菌の同定(3)・薬剤感受性試験(1)・ブラックアッセイ(1)	桑原, 鈴木, 今大路
16	細菌学各論	グラム陰性球菌	髄膜炎菌・淋菌・ブランハメラ	今大路
実④	実習	微生物学実習 4	薬剤感受性試験(2)・ブラックアッセイ(2)	桑原, 鈴木, 今大路
17	ウイルス学 各論	DNA ウイルス(1)	ポックスウイルス・パルボウイルス・アデノウイルス	桑原
18	ウイルス学 各論	DNA ウイルス(2)	ヘルペスウイルス	小山
19	ウイルス学 各論	DNA ウイルス(3)	ポリオーマウイルス・パピローマウイルス	小山
20	ウイルス学 各論	RNA ウイルス(1)	トガウイルス・フラビウイルス	岡崎
21	ウイルス学 各論	RNA ウイルス(2)	ラブドウイルス・フィロウイルス・アレナウイルス	岡崎
22	ウイルス学 各論	RNA ウイルス(3)	オルトミクソウイルス・パラミクソウイルス	桑原
23	ウイルス学 各論	RNA ウイルス(4)	ピコルナウイルス・ライノウイルス	桑原
24	ウイルス学 各論	RNA ウイルス(5)	コロナウイルス・ブニヤウイルス	岡崎
25	ウイルス学 各論	RNA ウイルス(6)	レオウイルス・カリシウイルス	岡崎
26	ウイルス学 各論	肝炎ウイルス(1)	A型肝炎ウイルス、E型肝炎ウイルス	桑原

27	ウイルス学 各論	肝炎ウイルス(2)	B型肝炎ウイルス, C型肝炎ウイルス	桑原
28	ウイルス学 各論	レトロウイルス	HTLV-I, HIV	桑原
29	ウイルス学 各論	プリオン	牛海綿状脳症・クロイツフェルトヤコブ病	桑原
30	細菌学各論	らせん菌・スピロヘータ	ヘリコバクター・カンピロバクター・レプトスピラ・ボレリア・トレポネーマ	今大路
31	細菌学各論	偏性細胞内寄生細菌	クラミジア・リケッチア	今大路

教科書・参考書等

戸田新細菌学 第34版 (吉田眞一、柳 雄介、吉開泰信 編) 南山堂

医科ウイルス学 第3版 (高田賢蔵 編) 南江堂

医科細菌学 第4版 (笹川千尋、林 哲也 編) 南江堂

エッセンシャル微生物学 第5版 (東 匡伸、小熊恵二、堀田 博 編) 南江堂

オフィスアワー

電子メール (infect@kms.ac.jp) にて問い合わせること。

授業科目名

医動物学

(英文併記 Medical Zoology)

科目区分 臨床基礎医学 授業コード 704250 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

准教授 新井 明治

助教 田中 健

授業の概要

医動物学は医学に関係のある動物を取り扱い、大きく寄生虫学と、衛生動物学により構成されている。前者は寄生生活を行うものを取り扱い、微生物学と共に病原体を扱う感染症の二分野の一つである。この中には内部寄生を行う単細胞性の原虫類と多細胞性の蠕虫類（線虫、吸虫、条虫類）が主なものとして含まれるが、昆虫、ダニ類などの外部寄生を行うものもある。一方、後者の衛生動物学においては、病原体の伝播、吸血、刺咬、中間宿主、アレルゲンなどの点において医学的に問題となる節足、軟体、脊椎動物などを取り扱う。

1. 講義

個々の寄生虫につき分布、形態、生活史、感染、病理、症状、診断、治療、予防及び特異的な寄生現象等を中心に講義を行う。この中では、医動物の分類および生態（生物学）、宿主-寄生体関係における特異的代謝（生理・生化学）、駆虫薬の作用機序（薬理学）、免疫機構（免疫学）、病理学的変化（病理学）、さらに疫学（公衆衛生学）等のように他の基礎教科と関連深い事項や、さらに臨床科目における診断、治療等の実際及び基礎知識等、多面的に解説を行う。

2. 実習

講義で得た知識に基づき、各種標本を観察・スケッチすることで、虫体の形態および内部構造、病理変化について理解させる。また、生鮮材料を用いた実習を通して寄生虫の感染様態を観察させ、寄生虫検出法を習得させる。

授業の目的

寄生虫および衛生動物により引き起こされる疾病に対しての診療行為および予防のために必要な、各種医動物に対する医学的知識を習得する。（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応）

達成目標

1. 人体に関係のある各種医動物について、その種類及び分類学的位置を説明できる。
2. 代表的医動物について、卵、幼虫、成虫の全体標本及び病理切片を同定できる。
3. 代表的な寄生虫・衛生動物関連疾患の病理機序、診断方法、治療及び予防法を説明できる。
4. 代表的な寄生虫・衛生動物関連疾患における感染免疫機構を説明できる。

成績評価の方法と基準

1. 講義を欠席した場合は減点。良い質問に対しては得点を与える。
2. 毎回の実習時に実施する小テストの成績。
3. 毎回の実習において提出するレポート（スケッチと課題）で学習目標の達成度をみる。実習では標本を自分の目で観察してスケッチすることを必須とし、これに違反した者に対しては不正行為¹⁾あるいは違反行為²⁾としてペナルティを科す。実習時間中の長時間の離席も減点とする。なお、実習室内での個人所有の情報端末（ノートPC・携帯電話・スマートフォン・タブレット等）の閲覧・使用を禁止する³⁾。スキャンした講義資料を参照する目的で上記情報端末を使用することも認めない。
 - 1) 不正行為の例：実習書の図を写す、他人のレポート（過年度学生のレポートを含む）を写す、自分のレポートを他者に写させた場合も写した者と同等の減点を科す。レポート用紙を実習室外に持ち出した場合も不正行為とみなす。これらに該当する場合は1回につき40点の減点とし、当該回の実習レポート成績を0点とするとともに、再試験受験資格を与えない（特例あり）。特例：定期試験での得点が上位5位以内の場合には再試験受験資格を認める。
 - 2) 違反行為の例：情報端末等に表示させた写真・画像を見てスケッチする（指定されたデモ標本は除く）、顕微鏡のレンズ越しに撮影した写真・画像を見てスケッチするなど。1回につき10点の減点とする。
 - 3) 情報端末の閲覧・使用：上記1) 2) に該当しない場合は程度に応じて1回につき2点～10点の減点とする。
4. 定期試験（記述+マークシート）の成績。

以上の各項目の合計点の60%以上を合格とする。合計点が20%未満の者には再試験受験資格を与えない。

再試験は1回のみ実施し、その可否判定はマークシート試験の得点（60%以上を合格）のみによる。

授業計画並びに授業及び学習の方法

1. 試験直前になって膨大な内容に驚くことのないように、各回の講義について必ず復習を行い、内容の整理をしておくこと。
2. 各種の動物について分布、形態、生活史、感染、病理、症状、診断、治療、予防などの各項目についてきちんと理解する。
3. 上記項目についてそれぞれの種における特徴を他種のものと比較し、理解すること。

回	大項目	項目	内 容	担当
1	医動物学総論	総 論	医動物学総論	新 井
2	線虫類	総 論 各 論	線虫類総論 線虫類(1)(回虫)	新 井
3	線虫類	各 論	線虫類(2)(イヌ回虫、ネコ回虫、アニサキス類)	新 井
4	線虫類	各 論	線虫類(3)(蟯虫、鉤虫)	新 井
5	線虫類	各 論	線虫類(4)(広東住血線虫、糞線虫、顎口虫)	新 井
6	線虫類	各 論	線虫類(5)(糸状虫類)	新 井
7	線虫類	各 論	線虫類(6)(鞭虫、フィリピン毛細虫、旋毛虫)	新 井

8	吸虫類	総論 各論	吸虫類総論 吸虫類(1)(肝吸虫)	新井
9	吸虫類	各論	吸虫類(2)(横川吸虫、有害異形吸虫、槍形吸虫、肝蛭)	新井
10	吸虫類	各論	吸虫類(3)(肺吸虫類)	新井
11	吸虫類	各論	吸虫類(4)(住血吸虫類)	新井
12	原虫類	総論 各論	原虫類総論 原虫類(1): 根足虫類(赤痢アメーバ、自由生活アメーバ)	新井
13	原虫類	各論	原虫類(2): 鞭毛虫類①(ランブル鞭毛虫、トリコモナス類)、 繊毛虫類(大腸バランチジウム)	新井
14	原虫類	各論	原虫類(3): 鞭毛虫類②(トリパノソーマ類、リーシュマニア類)	新井
15	原虫類	各論	原虫類(4): 孢子虫類①(トキソプラズマ)	新井
16	原虫類	各論	原虫類(5): 孢子虫類②(クリプトスポリジウム、イソスポーラ)、 ニューモシスチス肺炎	新井
17	原虫類	各論	原虫類(6): 孢子虫類③-1(マラリア原虫とマラリア1)	新井
18	原虫類	各論	原虫類(7): 孢子虫類③-2(マラリア原虫とマラリア2)	新井
19	原虫類	各論	Advanced Parasitology	田中
20	条虫類	総論 各論	条虫類総論 条虫類(1)(無鉤条虫、有鉤条虫、アジア条虫)	新井
21	実習	実習	実習(1): 線虫類	新井・田中
22	条虫類	各論	条虫類(2)(裂頭条虫類、マンソン孤虫症、小形条虫、縮小条虫、 瓜実条虫)	新井
23	条虫類	各論	条虫類(3)(単包条虫、多包条虫)	新井
24	実習	実習	実習(2): 吸虫類	新井・田中
25	衛生動物	総論 各論	衛生動物総論 衛生動物各論(1)	新井
26	衛生動物	各論	衛生動物各論(2)	新井
27	診断	各論	検査法	新井
28	実習	実習	実習(3): 原虫類	新井・田中
29	感染免疫	各論	寄生虫感染免疫	新井
30	実習	実習	実習(4): 条虫類・衛生動物	新井・田中

教科書・参考書等

教科書として以下の図書を指定する。

吉田幸雄ほか. 図説人体寄生虫学. 第9版, 南山堂, 2016.

オフィスアワー

新井 明治 (marai@med.kagawa-u.ac.jp) : あらかじめメール等でアポイントを取れば随時対応する。

授業科目名

生理・薬理実習

(英文併記 Physiology・Pharmacology Practice)

科目区分 統合講義

授業コード 705022

DPコード bcxM

単位数 1 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授 平野 勝也 (自律機能生理学) 助教 山下 哲生 (自律機能生理学)

教授 徳田 雅明 (細胞情報生理学) 助教 橋本 剛 (自律機能生理学)

教授 西山 成 (薬理学) 助教 神鳥 和代 (細胞情報生理学)

准教授 山口 文徳 (細胞情報生理学) 助教 董 有毅 (細胞情報生理学)

助教 人見 浩史 (薬理学)

助教 中野 大介 (薬理学)

担当講座のその他の教員

授業の概要

[生理学Ⅰ]

- 1 中枢神経系・感覚系の細胞内情報伝達系の解析の実験を行う。
- 2 感覚の実習・視覚・聴覚に関する実験を通して感覚の処理系について学ぶ。

[生理学Ⅱ]

- 1 呼吸器、心臓、血管の生理機能評価の実習を行う。

[薬理学]

- 1 「中枢神経系」薬物評価、および動物の行動と脳内アミンの関係についての実験を行う。
- 2 「循環器系」心臓・末梢循環の自律神経による調節、および薬物の効果についての実験を行う。

この実習は、生命現象に関わる基礎的な実習項目をとりあげており、腎尿路系に限られたものではない。平成29年度の履修には、動物実験に関わる者として教育訓練を受講していることが必要となる。

授業の目的

[生理学Ⅰ]

- 1 神経系のシグナル系に重要な蛋白質の機能と局在を、蛋白質に対する特異的な抗体による抗原抗体反応を利用した「免疫組織染色法」を用いて学習する。
- 2 視覚・聴覚の処理系を、実習を通して学ぶことにより臨床で起こる問題についても思索する。

(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

[生理学Ⅱ]

- 1 呼吸生理学実習では、肺機能と酸素消費量を測定し、それらの方法と意義を学習する。
- 2 心電生理学実習では、実施者および被験者となり心電図記録を行い、心電図およびその記録法の基礎を理解

する。

3 血管生理学では、様々な状況における血圧変動を測定するとともに、脈波伝播速度を記録し、血管機能評価の方法と意義を学習する。

(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

[薬理学]

- 1 向精神薬、麻酔薬並びに鎮痛薬の作用を行動薬理学的手法で解析し、その作用機序について考察する。
- 2 全身血圧および心拍数に対する自律神経作動薬、およびアンジオテンシン系薬剤の影響を観察する。

(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

基礎医学総論など今までに学習したことをもとに、測定したデータを解析し、生体内で何が起きているのか興味を持って自ら考え、発表できる能力を身につけることを目標とする。

[生理学Ⅰ]

神経シグナル系の分子レベルでの情報処理や視覚・聴覚の神経ネットワークでの処理系の理解を通して、情報処理系全体について理解する。

[生理学Ⅱ]

生理機能測定を通して、生体機能評価の方法とその意義を説明できる。

[薬理学]

薬物の生体作用を通して、生体機能、薬物の作用様式、ならびに薬効評価法が理解できる。

成績評価の方法と基準

レポート・出席状況・実習態度をあわせて評価する。出席は必須である。またレポートは期限内に受理されなければならない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

[生理学Ⅰ]

実習開始前に行われる説明会において指示されたことを守ること。定時に実習が開始できるように、10分前には集合するようにする。それぞれの実習の前および途中で教員から説明があるので、それに従い進めること。実習の結果ならびに課題をレポートとして提出すること。実習に必要な教科書や参考書を持参して、実習を進めながら考察を十分にしながら進めていくようにすること。

[生理学Ⅱ]

説明会に参加した上で、事前に実習書を予習すること。二年次の生理学講義について、関連の項目を復習すること。定時前に集合し、教官の指示に従い実習を行うこと。結果について考察を行い、疑問点は可能な範囲で調べた上で教官に質問すること。データと考察に基づいてレポートを作成し、期日までに提出すること。評価は出席とレポートにより行う。

[薬理学]

実習説明会で指示されたことは厳守すること。また、実習方法などについては、実習当日に説明しないので、あらかじめ実習書をよく読んで、シュミレーションしておくこと。実習終了後に discussion があるので、教科書・参考書を持参すること。出席とレポートによって評価する。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	生理・薬理実習	イントロダクション	説明会	全員
2	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	I-1 生理学Ⅰ 細胞内情報伝達系の解析(1) 生理学Ⅱ 循環器・呼吸器系の生理機能測定 薬理学 循環器・中枢神経系の解析	全員
3		生理学Ⅱ実習		
4		薬理学実習		
5	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	I-2 生理学Ⅰ 細胞内情報伝達系の解析(2) 生理学Ⅱ 循環器・呼吸器系の生理機能測定 薬理学 循環器・中枢神経系の解析	全員
6		生理学Ⅱ実習		
7		薬理学実習		
8	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	I-3 生理学Ⅰ 視覚・聴覚の実習 生理学Ⅱ 循環器・呼吸器系の生理機能測定 薬理学 循環器・中枢神経系の解析	全員
9		生理学Ⅱ実習		
10		薬理学実習		
11	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	II-1 生理学Ⅰ 細胞内情報伝達系の解析(1) 生理学Ⅱ 循環器・呼吸器系の生理機能測定 薬理学 循環器・中枢神経系の解析	全員
12		生理学Ⅱ実習		
13		薬理学実習		
14	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	II-2 生理学Ⅰ 細胞内情報伝達系の解析(2) 生理学Ⅱ 循環器・呼吸器系の生理機能測定 薬理学 循環器・中枢神経系の解析	全員
15		生理学Ⅱ実習		
16		薬理学実習		
17	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	II-3 生理学Ⅰ 視覚・聴覚の実習 生理学Ⅱ 循環器・呼吸器系の生理機能測定 薬理学 循環器・中枢神経系の解析	全員
18		生理学Ⅱ実習		
19		薬理学実習		
20	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	III-1 生理学Ⅰ 細胞内情報伝達系の解析(1) 生理学Ⅱ 循環器・呼吸器系の生理機能測定 薬理学 循環器・中枢神経系の解析	全員
21		生理学Ⅱ実習		
22		薬理学実習		
23	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	III-2 生理学Ⅰ 細胞内情報伝達系の解析(2) 生理学Ⅱ 循環器・呼吸器系の生理機能測定 薬理学 循環器・中枢神経系の解析	全員
24		生理学Ⅱ実習		
25		薬理学実習		
26	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	III-3 生理学Ⅰ 視覚・聴覚の実習 生理学Ⅱ 循環器・呼吸器系の生理機能測定 薬理学 循環器・中枢神経系の解析	全員
27		生理学Ⅱ実習		
28		薬理学実習		

クラス全体を3つに分け、ローテーション形式で全科の実習を行う。

教科書・参考書等

[生理学Ⅰ]

- (1) 小澤澗司ほか. 標準生理学, 医学書院, 2009.
- (2) Berne, Robert M et al. Berne & Levy physiology. 6th ed., Elsevier Mosby, 2008.
- (3) Bruce Alberts et al. Molecular biology of the cell. 5th ed., Garland Science, 2008.
- (4) Ganong, William F.ほか. ギャノン生理学. 丸善, 2006.
- (5) Barrett, Kim E. et al. Ganong's review of medical physiology. 23rd ed., McGraw-Hill Medical, 2010.

[生理学Ⅱ]

- (1) 教科書 標準生理学、医学書院、ISBN-10: 4260003011
- (2) 教科書 ギャノン生理学、丸善出版、ISBN: 978-4-621-08717-6
- (3) 教科書 Berne & Levy Physiology, 6th Updated Edition, Elsevier, ISBN-10: 032307362X
- (4) 成書 ハーバード大学テキスト 心臓病の病態生理 Leonard S. Lilly (著), メディカル・サイエンス・インターナショナル, ISBN-10: 4895922529

[薬理学]

- (1) 田中千賀子, 加藤隆一編. 「NEW 薬理学」 改訂第6版, 南江堂, 2011.
- (2) Brunton, Laurence L.; Chabner, Bruce A., eds. 「Goodman & Gillmans Pharmacological Basis of Therapeutics」 12th ed., McGraw-Hill Professional, 2010.
- (3) Bertram G. Katzung et al., eds. 「Basic & clinical pharmacology」 11th ed., McGraw-Hill Medical, 2009, (A Lange medical book).

オフィスアワー

[生理学Ⅰ]

随時受け付けるので メール (physiol1@med.kagawa-u.ac.jp) により連絡を取ること。

[生理学Ⅱ]

メール (physiol2@med.kagawa-u.ac.jp) で事前に連絡があれば随時対応する。

[薬理学]

授業日時間外でも自由に来室 (～21:00 程度) を歓迎する。メールでの連絡は、教室に問い合わせで行うこと。

授業科目名

臨床総論講義

(英文併記 Introduction to Clinical Medicine)

科目区分 統合講義 授業コード 705086 DPコード bcxM

単位数 3 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

非常勤講師

舩形 尚 (教授: コーディネーター)

松田 和也 (医療法人社団 松田内科医院)

総論関連各講座・部局教員

光岡 妙子 (医療法人 三和会 国吉病院)

千田 彰一 (香川大学 名誉教授)

授業の概要

近年の医学の進歩、知識或いはエビデンスの蓄積により、医学の各領域は細分化され、臓器別専門診療の充実
は時代の要請でもある。本学においてもカリキュラムの大幅な改変により臓器別診療を睨んだ講義、即ち統合講
義が実践されているが、臓器・機能別の講義を十分理解するためには、その共通項としての総論的知識の習得・
理解は不可欠であり、これは一方では医師が医師たるに必要な最低限の基本事項でもある。臨床総論講義では、
各専門診療科の協力を得て、「コア・カリキュラム」の概念にのっとり、医師として不可欠な総論的知識を習得し、
臓器別講義の十分な理解を深める手助けとすることをその目的とする。

授業の目的

良き医師となるために、各科共通且つ不可欠の医学総論的知識を習得する。

達成目標

1. コア・カリキュラム(A, B(一部), D(一部), E(一部), F)に示された行動目標を実践する。
2. 臓器・機能別ユニット講義内に包含されない、医師として必要な知識を列挙する。
3. 臓器・機能別ユニット講義の際に、関連した総論知識を述べる。

成績評価の方法と基準

出席及び客観試験(各講義担当講座より提出された試験問題で構成される試験)

授業計画並びに授業及び学習の方法

関連各講座によって分担される講義

回	大項目	項目	内容	担当者
1	医学一般	医の原則・医療における 安全性確保	医療における安全性確保 (1)安全性の確保、(2)危機管理	総合内科
2	医学一般	コミュニケーションとチーム医療	コミュニケーションとチーム医療 (1) コミュニケーション、(2)患者と医師の関係、(3)チーム医療	総合内科

3	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (1) 内視鏡を用いる診断と治療	総合内科
4	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (2) 緩和医療	非常勤講師
5	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		腫瘍 症候および診断	消化器・神経内 科学
6	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (3) 臨床検査(1)	先端医療・臨床 検査医学
7	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (4) 臨床検査(2)	先端医療・臨床 検査医学
8	医学一般	基本的診療知識	小児科学総論	小児科学
9	医学一般	病因と病態	外科学総論 外科学概論	消化器外科学
10	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		腫瘍 手術療法および集学的治療	消化器外科学
11	診療の基本	基本的診療技能	基本的外科診断法 呼吸器・乳腺甲状腺	呼吸器・乳腺内 分泌外科学
12	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (5) 医用機器と人工臓器	心臓血管外科学
13	診療の基本	基本的診療知識	小児外科学総論	小児外科学
14	診療の基本	基本的診療知識	外傷学総論	整形外科
15	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 東洋医学漢方医学総論 (1)	非常勤講師
16	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 東洋医学漢方医学総論 (2)	非常勤講師
17	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		腫瘍 支持療法および緩和療法	非常勤講師
18	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(外科系) (6) 輸血と移植 移植	泌尿器科学
19	医学一般	病因と病態	病因と病態 (2) 炎症と創傷治癒、創傷治癒(正常と異常)-瘢痕とケイロ	形成外科学
20	医学一般		専門医制度 (1)	非常勤講師
21	医学一般		専門医制度 (2)	非常勤講師
22	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (7) 超音波を用いる診断と治療	周産期学婦人科 科学

23	診療の基本	基本的診療知識	口腔の構造・機能・生理	歯科口腔外科学
24	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (8) 薬物療法の基本原理	薬剤部
25	診療の基本	基本的診療知識	薬物体内動態、therapeutic drug monitoring	薬剤部
26	診療の基本	基本的診療知識	麻薬の取り扱い	薬剤部
27	診療の基本	基本的診療知識	診断病理学：病理組織診断学	病理診断科
28	診療の基本	基本的診療知識	診断病理学：細胞診断学	病理診断科
29	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (9) 輸血と移植 輸血	輸血部
30	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (10) リハビリテーション	リハビリテーション部
31	医学・医療と 社会	診療情報	医療情報とは・医療情報の扱い方	医療情報部
32	医学・医療と 社会	診療情報	遠隔診断システム・医療情報ネットワーク	医療情報部
33	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		物理・化学的因子による疾患	法医学
34	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		人の死・死と法	法医学
35	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		臨床腫瘍学	臨床腫瘍学
36	医学一般		地域医療のススメ	地域医療教育支援センター
37	診療の基本	基本的診療知識・技能	漢方の実際 (1)	非常勤講師
38	診療の基本	基本的診療知識・技能	漢方の実際 (2)	非常勤講師
39	医学一般		未定	地域包括医療学

教科書・参考書等

関連各講座によって指定された教科書

オフィスアワー

各担当教員参照

授業科目名

症候論

(英文併記 Symptomatology)

科目区分 統合講義 授業コード 706000 DPコード bcaM

単位数 2 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

講義の主体は学生

臨床系（講義の司会進行とコメント）講座

総合内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、呼吸器内科、膠原病内科、精神科神経科、
脳神経外科、消化器外科、整形外科、耳鼻咽喉科、麻酔科、医学教育学

基礎系（講義内容についてのコメント）講座

神経機能解剖学、細胞情報生理学、自律機能生理学

授業の概要

臨床医がなすべきは、患者の問題解決（problem solving）である。患者はまず何らかの症候（symptom）を訴えて（自覚して）受診するため、その症候からそれが見られる疾患群を想起し、それらの中で何が最も疑わしいかについて、一定の様式で臨床推論（clinical reasoning）を行ってゆく必要がある。それゆえ、症候学は、臨床診断を行う上で非常に重要な概念である。

ここでは、学生を20のグループに分け、学生による授業を行う。各回の司会進行は、それぞれの症候に関連が深い診療科の教員が行い、必要に応じて臨床的にコメントする。さらに解剖学的・生理学的な側面について、その症候に関連の深い基礎医学系の教員が授業に参加し、必要に応じてコメントする。

授業の目的

臨床的によく遭遇する症候について、それらの発生するメカニズムを解剖学や生理学を踏まえて理解する（DP「知識・理解」に対応する）。更にそれらの症候がよく見られる疾患について、その症候の発生頻度を把握することにより、想起する疾患をある程度特定することができるため、頻度についても十分な知識を取得する（DP「問題解決・課題探求能力」に対応する）。グループごとに発表を行うことにより、効果的なプレゼンテーションの方法を習得する（DP「言語運用能力」に対応する）

達成目標

- ・それぞれの症候が生じるメカニズムを説明できる。
- ・ある症候からそれが生じうる疾患（群）を想起できる
- ・代表的な疾患において、それらの症候が見られるメカニズムと頻度について述べることができる
- ・これらのことを元に、ある症候を訴えた患者の鑑別診断（differential diagnosis）の筋道について説明できる

成績評価の方法と基準

以下を元に成績を評価する

- ・グループで行う各症候の講義の評価（グループ全体の評価→個人の評価）
- ・各授業の出席評価（個人の評価）
- ・試験（出題は司会を担当した臨床科の教員による）

授業計画並びに授業及び学習の方法

学生のグループ分け、それぞれのグループの担当症候、および具体的な準備方法については、夏休み前に説明の時間をとる予定である。それぞれの症候の具体的講義日時についてもその時間に通知する。

回	症候名	臨床科（司会担当）	関連基礎医学講座
1	全身倦怠感	総合内科	細胞情報生理学
2	胸痛	循環器内科	神経機能形態学
3	動悸	循環器内科	自律機能生理学
4	浮腫	腎臓内科	自律機能生理学
5	脱水	総合内科	
6	意識障害・失神	精神科神経科	神経機能形態学
7	体重減少・増加	医学教育学	細胞情報生理学
8	運動麻痺・筋力低下	神経内科	神経機能形態学
9	頭痛	脳神経外科	細胞情報生理学
10	発熱	膠原病内科	
11	尿量・排尿の異常	泌尿器科	
12	咳嗽	呼吸器内科	自律機能生理学
13	めまい	耳鼻咽喉科	細胞情報生理学
14	食思不振・悪心嘔吐	医学教育学	
15	リンパ節腫脹	総合内科	
16	けいれん	神経内科	細胞情報生理学
17	腹痛	消化器外科	神経機能形態学
18	呼吸困難	呼吸器内科	自律機能生理学
19	関節痛・関節腫脹	整形外科	
20	ショック	麻酔科	自律機能生理学

※担当講座の都合で日時を決めるため、この順序で行われるわけではない。

教科書・参考書等

- ・内科診断学 改訂第17版 武内重五郎著、谷口興一、杉本恒明改訂、南光堂、2011年
- ・内科診断学 第2版 福井次矢、奈良信雄編著、医学書院、2008年
- ・鑑別診断 ロジカルシンキング、後藤英司、奈良信雄、藤代健太郎編著、メジカルレビュー社、2011年
- ・臨床推論ダイアログ、杉本元信編著、医学書院、2010年
- ・臨床推論 EBMと病態生理から症例を考える、後藤英司編著、メジカルレビュー社、2004年
- ・ティアニー先生の診断学入門 第2版、ローレンス・ティアニー著、松村正巳訳、医学書院、2011年

オフィスアワー

相談のある学生は各教員にアポイントを取って日時を決定

授業科目名

消化器ユニット

(英文併記 Gastroenterology Unit)

科目区分 統合講義 授業コード 706010 DPコード bcXM

単位数 3 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名 (代表)

教授 正木 勉 (消化器・神経内科学)

教授 鈴木 康之 (消化器外科学)

教授 今井田 克己 (腫瘍病理学)

教授 柴田 徹 (放射線腫瘍学)

担当講座のその他の教員

授業の概要

消化器系では臓器によって解剖、生理が異なる。消化器の各臓器により好発する疾患があり、その発生部位にも特徴がある。その中には救急医療に含まれる疾患から慢性に経過するものがあり、良性疾患、悪性疾患、先天性疾患、機能異常、感染症あるいはそれらの合併しているものなど多種多様なものが含まれている。好発する年齢の異なる疾患もあり、発生学を含む幅広い知識が必要になる。

消化器以外の疾患や薬剤によっても消化器疾患が引き起こされることもあり、基礎医学、病理学、放射線医学の知識に基づき、消化器疾患を理解するにはあらゆる疾患に精通する必要がある。的確に診断をくだし、病態を把握するためには論理的かつ筋道の通った消化器病に対する考え方を理解すると共に病歴の取り方、診察の方法、及び必要で的確な検査方法を熟知して選択しなければならない。また、同一の疾患であっても病期や病態により、また QOL を保つためにいろいろな治療法があり、実践されている。消化器ユニットではこのように消化器系について解剖、画像、病理から各疾患の病態・治療まで幅広く学ぶ。

授業の目的

消化器系の解剖とともに肝臓、膵臓、胆道系、脾臓、食道、胃、小腸、大腸疾患の病態生理を学び、各種疾患の疫学、診断学、治療法を講義、自己学習により習得する。(DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

1. 消化器諸臓器の解剖、生理、病理学的な基本的事項について説明できる。
2. 肝疾患、膵疾患、胆道疾患の診察のしかたについて修得すると共に理学所見や血液生化学的検査、画像所見などにより診断法を説明できる。
3. 消化器疾患の予防法、手術適応を含む治療法、周術期の管理の要点等の説明ができる。
4. 食道、胃、小腸、大腸疾患についてはX線検査や内視鏡検査など診断に至る諸検査法を説明できる。
5. 消化器病理の基礎的事項について理解することができる。

6. 消化器疾患の救急医療、例えば急性腹症、吐・下血や肝性昏睡等のプライマリケアの要点についても列挙できる。

7. 各々の疾患に対して、各臓器の解剖、機能的役割を考慮して治療法を決定しようとする。

成績評価の方法と基準

試験と、チュートリアルへの出席、レポート及び実習について評価する。ただし、病理組織実習の終了認定を受けていないものは（総合）試験受験の資格を与えられない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

広範な分野を扱うため、講義によりその骨子を理解した上で、実習や、チュートリアル、各種文献による自己学習によって要点を身につけていくことが望まれる。

回	項目	内容	担当
1	食道静脈瘤、食道悪性腫瘍	分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科学
2	大腸癌	分類、診断法、内視鏡所見、治療について説明できる。	消化器・神経内科学
3	潰瘍性大腸炎、クローン病	疾患概念、診断基準、臨床像、治療を概説できる。	消化器・神経内科学
4	食道炎、食道アカラシア	症候、原因、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科学
5	消化器外科総論	1) 外科療法を必要とする疾患の概要を理解できる。 2) 各臓器の解剖と機能、および手術による機能の欠落について理解できる。 3) 実質臓器の機能評価、管腔臓器の機能の再建について理解できる。	消化器外科学
6	大腸の外科治療	1) 結腸、直腸の解剖を正しく説明できる。 2) 大腸の外科疾患とその術式について概説出来る。	消化器外科学
7	食道疾患の外科治療	1) 手術を必要とする食道疾患の病態が生理的、解剖学的に理解できる。 2) 食道良性疾患の外科的治療法が理解出来る。 3) 食道癌の臨床病理学的分類が理解できる。 4) 食道癌の外科治療の要点が理解できる。	消化器外科学
8	胆膵その他	1) 治療的 ERCP について概説ができる。 2) 原発性硬化性胆管炎の診断、治療が説明できる。 3) 胆道ジスキネジーの概説ができる。	消化器・神経内科学
9	胃疾患の外科治療	1) 胃十二指腸潰瘍の外科的治療方針、手術術式を説明できる。 2) 胃悪性リンパ腫、GIST の診断、治療を説明できる。 3) 胃癌の治療方針、治療法を説明できる。 4) 胃の手術術式と胃切除後症候群を説明できる。	消化器外科学

10	小腸、虫垂、肛門病変の外科治療	1) 小腸の外科疾患とその術式について説明できる。 2) 虫垂炎の診断法と術式について説明できる。 3) 痔疾患の分類と外科治療について概説できる。	消化器外科学
11	消化管の病理 1	消化管の病理 1	腫瘍病理学
12	消化管の病理 1 (実習)	消化管の病理 1 (実習)	腫瘍病理学
13	消化管の病理 1 (実習)	消化管の病理 1 (実習)	腫瘍病理学
14	消化管の病理 1 (実習)	消化管の病理 1 (実習)	腫瘍病理学
15	消化管の病理 1 (実習)	消化管の病理 1 (実習)	腫瘍病理学
16	胃炎、消化性潰瘍	原因、症候、分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科学
17	消化器作用薬	消化器作用薬(潰瘍治療薬・消化管運動作用薬)の薬理作用を説明できる。	消化器・神経内科学
18	自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎	自己免疫性肝炎と原発性胆汁性胆管炎の診断、治療、病態について理解する。	消化器・神経内科学
19	肝疾患総論	肝の構造と生理、および肝機能検査を説明できる。	消化器・神経内科学
20	胆道腫瘍	1) 胆嚢ポリープの診断について説明できる。 2) 胆嚢癌、肝外胆道腫瘍、胆管細胞癌、乳頭部腫瘍について診断、治療が説明できる。	消化器・神経内科学
21	大腸の炎症性疾患	原因、症候、分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科学
22	大腸ポリープ	分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科学
23	胃良性腫瘍、胃悪性腫瘍	分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科学
24	消化器内視鏡学	1) 適応と禁忌について説明できる。 2) 代表的疾患の内視鏡的特徴について説明できる。 3) 色素内視鏡、生検について説明できる。	消化器・神経内科学
25	消化器内視鏡治療	1) 適応と禁忌について説明できる。 2) 内視鏡的止血術、内視鏡的硬化療法、粘膜切除術、偶発症とその予防について説明できる。	消化器・神経内科学
26	膵腫瘍	1) 膵(管)癌の診断、治療が説明できる。 2) 膵内分泌腫瘍(特にインスリノーマ、ガストリノーマ)の診断、治療が説明できる。 3) 嚢胞性膵腫瘍の分類と診断が説明できる。	消化器・神経内科学

27	特別講義		消化器・神経内科学
28	低侵襲下外科治療	<ol style="list-style-type: none"> 1) 腹腔鏡下手術の対象となる疾患を理解できる。 2) 腹腔鏡装置およびその挿入方法を理解できる。 3) 腹腔鏡下手術の方法を理解できる。 4) 腹腔鏡下手術によって生ずる可能性のある合併症とその対策を説明できる。 	消化器外科学
29	腸壁、横隔膜疾患	<ol style="list-style-type: none"> 1) 腸壁・横隔膜の解剖を理解できる。 2) 腸壁・横隔膜疾患の原因を説明できる。 3) 腸壁・横隔膜の診断法を説明できる。 4) 腸壁・横隔膜の治療法を説明できる。 5) ヘルニアの概念(滑脱、嵌頓、絞扼性)と好発部位を説明できる。 6) 鼠径ヘルニアの成因、診断と治療を説明できる。 	消化器外科学
30	過敏性腸症候群、大腸憩室	<ol style="list-style-type: none"> 1) 過敏性腸症候群の概念について説明できる。 2) 憩室症について説明できる。便秘、下痢の病態。 	消化器・神経内科学
31	消化器疾患に対する放射線治療	<ol style="list-style-type: none"> 1) 放射線治療の原理、目的、方法について説明できる。 2) 消化器悪性腫瘍に対する放射線治療の適応について説明できる。 3) 代表的な疾患に対する治療効果や治療成績について説明できる。 4) 放射線治療による急性期、晩期有害事象について説明できる。 	放射線腫瘍学
32	ウイルス性肝炎 I	各種ウイルス性肝炎の病態を説明できる。	消化器・神経内科学
33	胆道感染症	<ol style="list-style-type: none"> 1) 胆石の分類と生成機序が説明できる。 2) 胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍の診断、治療が説明できる。 	消化器・神経内科学
34	小腸疾患	症候、分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科学
35	膵・胆道疾患の外科治療 I	<ol style="list-style-type: none"> 1) 膵、胆道の外科解剖を概説できる。 2) 膵・胆道の悪性疾患の症状・診断・病態などを説明できる。 	消化器外科学
36	急性腹症、腸閉塞	<ol style="list-style-type: none"> 1) 急性腹症・腸閉塞の原因となる疾患を説明できる。 2) 急性腹症・腸閉塞の症状と理学的所見について説明できる。 3) 急性腹症・腸閉塞の画像所見について説明できる。 4) 急性腹症・腸閉塞の治療について理解できる。 5) 腸閉塞の病態生理について理解できる。 6) 腹膜炎の成因、症候、診断と治療を説明できる。 	消化器外科学
37	肝、脾、門脈の外科治療 I (原発性肝癌)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 肝、脾を中心に上腹部の解剖を説明できる(肝区域など)。 2) 主な動脈の走行を説明できる。 3) 原発性肝癌の病態・外科治療を説明できる。 	消化器外科学
38	肝、脾、門脈の外科治療 II (転移性肝癌及び脾・門脈疾患)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 転移性肝癌の病態・外科治療を説明できる。 2) 脾・門脈疾患の病態・外科治療を説明できる。 	消化器外科学

39	肝硬変	肝硬変の臨床像を説明できる。	消化器・神経内科学
40	膵・胆道疾患の外科治療Ⅱ	1) 膵、胆道の良性疾患の症状・診断・病態などを説明できる。 2) 膵の悪性疾患の外科治療・予後について説明できる。	消化器外科学
41	膵・胆道疾患の外科治療Ⅲ	1) 胆道の悪性疾患の外科治療、予後について説明できる。 2) 膵胆管合流異常の病態・外科治療について説明できる。	消化器外科学
42	消化管の病理 2	消化管の病理 2	腫瘍病理学
43	消化管の病理 2 (実習)	消化管の病理 2 (実習)	腫瘍病理学
44	消化管の病理 2 (実習)	消化管の病理 2 (実習)	腫瘍病理学
45	消化管の病理 2 (実習)	消化管の病理 2 (実習)	腫瘍病理学
46	消化管の病理 2 (実習)	消化管の病理 2 (実習)	腫瘍病理学
47	急性膵炎、慢性膵炎	1) 急性膵炎の発生機序が説明できる。 2) 急性膵炎の診断、治療が説明できる。 3) 重症膵炎の診断、治療が説明できる。 4) 慢性膵炎の診断、治療が説明できる。	消化器・神経内科学
48	肝胆膵の超音波検査	腹部臓器の解剖学的位置関係を超音波画像で理解でき、それぞれの臓器の代表的な疾患を理解できる。	消化器・神経内科学
49	劇症肝炎	劇症肝炎の成因および病態を説明できる。	消化器・神経内科学
50	原発性肝癌	原発性肝癌の成因、病態および治療を説明できる。	消化器・神経内科学
51	症候Ⅰ(黄疸、腹部膨隆、腹部腫瘤)	黄疸の発生原因について理解でき、腹部の腫瘍性、非腫瘍性疾患について説明できる。	消化器・神経内科学
52	症候Ⅱ(腹痛、吐血、下血、悪心、嘔吐)	腹部疾患の症候について理解でき、それぞれの症状を発生する代表的な疾患について説明できる。	消化器・神経内科学
53	急性肝炎、慢性肝炎	急性肝炎と慢性肝炎の相違を説明できる。	消化器・神経内科学
54	消化器外科における術前術後管理	1) 消化器外科疾患における術前のリスクを正しく評価できる。 2) 消化器外科疾患において、術後の時間経過に即した患者管理を説明できる。	消化器外科学
55	肝移植と膵移植	肝移植と膵移植の現状を概説できる。移植の外科手術手技を概説できる。	消化器外科学
56	ウイルス性肝炎Ⅱ	各種ウイルス性肝炎の病態を説明できる。	消化器・神経内科学

57	その他の肝疾患(アルコール性肝障害、薬剤性肝障害、脂肪肝)	病態の概念、診断、治療について説明できる。	消化器・神経内科学
58	肝胆膵の病理	肝胆膵の病理	腫瘍病理学
59	肝胆膵の病理(実習)	肝胆膵の病理(実習)	腫瘍病理学
60	肝胆膵の病理(実習)	肝胆膵の病理(実習)	腫瘍病理学
61	肝胆膵の病理(実習)	肝胆膵の病理(実習)	腫瘍病理学
62	肝胆膵の病理(実習)	肝胆膵の病理(実習)	腫瘍病理学
63	病理学実習試験	病理学実習試験	腫瘍病理学
64	試験	消化器ユニット試験	消化器・神経内科学

教科書

● 消化器・神経内科学

Sherlock DS, et al : Diseases of the liver and biliary system. Blackwall Science. 10th Edition 1997.

Kuriyama S, et al : New Perspectives in Cancer Research and Therapy. Research Signpost 2005.

石井裕正、他：肝疾患診療マニュアル 日本医師会 1999

杉本恒明、他：内科学第8版 朝倉書店 2003

飯野四郎、他：慢性肝炎診療マニュアル 医学書院 2001

芳野純治、他：内視鏡所見のよみ方と鑑別診断—上部消化管 医学書院 2001

渡辺精四郎：消化器内科診療の要点—臨床技法のスキルアップ—金倉出版 2002

高久史磨、他：新臨床内科学 第8版 医学書院 2002

戸田剛太郎、他：肝・胆・膵疾患の最新医療 先端医学技術研究所 2003

竹井謙之、他：別冊・医学のあゆみ 消化器疾患 Ver.3—state of arts II.肝・胆・膵 医歯薬出版 2006

● 消化器外科学

武藤輝一、田辺達三 編：標準外科学(第8版) 医学書院

佐藤寿雄他 編：医学生のための外科学 南山堂

出月康夫、古瀬彰、杉町圭蔵 編：NEW 外科学(第2版) 南江堂

浅野献一、他 編：外科学 朝倉書店

玉熊正悦、佐藤英昭 著：消化器外科の術前術後管理 (改訂版) 中外医学社

Schwartz, S. I. et. al. : Principles of Surgery McGraw-Hill

Davis-Christopher : Textbook of Surgery Sabiston

James D. Hardy : Hardy`s Textbook of Surgery J. B. Lippincott

● 放射線腫瘍学

1. 西谷 弘、他： 標準放射線医学 第7版（医学書院）
2. 井上俊彦、他：放射線治療学 改訂5版（南山堂）
3. 日本放射線腫瘍学会： 放射線治療計画ガイドライン 2016年版（URL：
<http://www.jastro.or.jp/guideline/child.php?eid=00007>）

● 腫瘍病理学

Robbins et al. : Pathologic basis of diseases 7th ed. 2004. Saunders

影山圭三他：組織病理アトラス 分光堂

WHO classification of tumours, pathology and genetics of tumours of the digestive system. 2000. IARC press .

AFIP 3rd series, vol 18 and 27.

オフィスアワー

木曜日の17時～18時とするが、各担当者講座の医局に連絡をして、アポイントメントを取る。

授業科目名

脳神経筋骨格ユニット

(英文併記 Neuromusculoskeletal Unit)

科目区分 統合講義 授業コード 760060 DPコード bcdM

単位数 3 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

炎症病理学

教授 上野 正樹
講師 千葉 陽一
助教 村上 龍太
非常勤講師 阪本 晴彦 (香川大学名誉教授)

脳神経外科学

教授 田宮 隆
准教授 三宅 啓介
病院准教授 川西 正彦
学内講師 新堂 敦
助教 岡内 正信
助教 畠山 哲宗
助教 岡田 真樹

整形外科

教授 山本 哲司
准教授 真柴 賛
講師 加地 良雄 (リハビリテーション部)
講師 岩田 憲
学内講師 小松原 悟史
助教 中村 修
助教 森 正樹
非常勤講師 今泉 泰彦 (北播磨総合医療センター・部長)
非常勤講師 中溝 寛之 (香川県済生会病院・整形外科部長)

放射線腫瘍学

教授 柴田 徹
助教 高橋 重雄

授業の概要

炎症病理学

脳先天奇形、脳腫瘍の病理像、骨関節にみられる代表的疾患の病理像を講義と実習を通して学ぶ。

脳神経外科学

脳神経外科は、一般外科、内科、産婦人科、小児科等と共に基本的診療領域に属している診療科であり、脳・脊髄・末梢神経に生じる疾患の予防、急性期治療、慢性期治療に至るまでを網羅的に対応する診療科である。そのため、脳神経外科が取り扱う疾患の範囲は脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、変性疾患、先天奇形、脊髄・脊椎・末梢神経疾患等と幅広く、また一般的な救急対応、画像診断、外科的及び非外科的治療、術前・術後の管理、リハ及び再発予防・予後管理を含め、極めて広い領域を脳神経外科が担当している。脳神経外ペリテーション科疾患の学習においては、神経系の正常構造と機能を基礎とした上で各種疾患における病態生理を理解し、適切な診断及び治療法について理論的に説明できる知識を習得することが求められる。

整形外科

整形外科の起源は小児 (paedi) の先天奇形や麻痺足の矯正(ortho)から始まったが、医学の進歩発達に伴い、四肢と脊椎を中心として、骨、関節、靭帯、神経、筋肉などを全般的に扱うようになり、外傷も含まれるようになった。現在の整形外科は運動器を構成する全ての組織の疾患、外傷を対象とし、病態の解明と治療法の開発および診療をおこなう専門領域である。患者数、手術件数も診療科の中でも非常に多く、社会的ニーズが非常に高いため、国民の生涯を通じて豊かで安心できる生

活をサポートする診療科である。カバーする範囲は脊椎、脊髄、骨盤、上肢、下肢など非常に広く、全年齢層が対象になり、治療手段も外科的治療のみならず、薬物治療、リハビリテーション、物理療法まで含まれたため内容も多種多様である。講義では、多岐にわたる整形外科関連の疾患、障害のうち、比較的頻度の高いものの病態、診断法、治療について履修する。それらを通じて運動器の健康がQOL(quality of life)にいかに関係かということを学んでもらう。

放射線腫瘍学

中枢神経腫瘍に対する放射線治療について、放射線ユニットで講義する内容と関連付けながら、概説する。

授業の目的

炎症病理学

脳先天奇形、脳腫瘍、骨関節にみられる代表的な疾患の病理病態を学ぶ。

脳神経外科学

中枢・末梢神経系の構成要素と機能を解剖学的・生理学的に説明できるよう理解する。中枢神経・末梢神経系の障害時の症状を述べ、神経学的所見とそれに適した検査法の説明、部位・局在診断ができる知識を習得する。脳神経外科が扱う疾患は、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、変性疾患、先天奇形、脊髄・脊椎・末梢神経疾患まで幅広く及ぶ。それら疾患の成因と病態、画像検査(X線写真・CT・MRI・脳血管撮影・核医学画像等)の適応と診断法、外科的及び非外科的な治療法、予後及び発症・再発予防に至るまでを、医学的根拠に基づいて考察できる知識を習得する。

整形外科学

整形外科の守備範囲の広さと、社会的需要の高さを認識する。重要性の高い疾患、障害の病態と診断、治療の基礎知識について学ぶ。

放射線腫瘍学

中枢神経腫瘍に対する放射線治療に関する知識を学ぶ。

(全領域について、DP「知識・理解」「問題解決・課題探究能力」「倫理観・社会的責任」に対応)

達成目標

炎症病理学

- (1) 上記疾患の病理病態について説明することができる。

脳神経外科学

- (1) 脳、脊髄の機能と神経学的検査方法との関係を説明できる。
- (2) 頭蓋内圧亢進の病態、症状、診断及び治療を説明できる。
- (3) 脳腫瘍の分類について説明できる。
- (4) 神経膠腫(グリオーマ)の病態・診断及び治療について説明できる。
- (5) 髄膜腫の病態・診断及び治療を説明できる。
- (6) 鞍上部、松果体部及び後頭蓋窩に生じる腫瘍について病態・診断及び治療を説明できる。
- (7) 虚血性脳血管障害の外科的治療を説明できる。
- (8) 脳出血、脳動静脈奇形(AVM)・動静脈瘻(AVF)、及び脳血管内手術によって治療できる疾患の臨床的特徴を説明できる。
- (9) くも膜下出血の病態・診断及び治療を説明できる。
- (10) 頭部外傷の急性期及び慢性期における病態・診断及び治療を説明できる。
- (11) 機能的脳神経外科の対象となる変性疾患について、病態・診断及び治療を説明できる。
- (12) 先天奇形の分類・診断・治療及び予後について説明できる。

- (13) 脳神経外科が扱う脊椎・脊髄疾患について臨床的特徴を説明できる。

整形外科学

- (1) 整形外科に関わる器官の機能解剖、生理、代謝など基礎的な事項を説明することができる。
- (2) 整形外科の外傷の機序と診断、治療の概要を説明することができる。
- (3) 関節疾患の病態、診断、治療の概要を説明することができる。
- (4) 脊椎脊髄病態、診疾患の断、治療の概要を説明することができる。
- (5) 骨軟部腫瘍の病態、診断、治療の概要を説明することができる。
- (6) リウマチ性疾患の病態、診断、治療の概要を説明することができる。
- (7) 末梢神経障害の病態、診断、治療の概要を説明することができる。
- (8) 骨代謝性疾患の病態、診断、治療の概要を説明することができる。
- (9) 上肢の疾患の病態、診断、治療の概要を説明することができる。

放射線腫瘍学

- (1) 各授業で設定されている達成目標について説明することができる。

成績評価の方法と基準

1. 講義の出席状況、受講態度を評価する。
2. 講義終了後筆記試験を行うが、受験資格は2 / 3以上の講義出席とする。
3. 病理学(等)実習の終了の認定を受けていない場合、筆記試験の受験資格は与えられない。
4. 筆記試験は基本的に6割を合格ラインとする。
5. 上記の評価を総合して可否の判定を行う。

授業計画並びに授業及び学習の方法

授業の形式はスライド、プリント、ビデオを使用する。講義内容は重点的な内容に絞って行うが、それでも範囲は広く、講義終了後は配布されたプリントを整理し、教科書を用いてまとめをおこなうことを要望する。

回	大項目	内 容	担当者
1	先天奇形	先天奇形の分類・診断・治療・予後について説明できる。	脳神経外科学
2	頭部外傷	急性期における頭部外傷の診断・治療を説明できる。	
3	脳出血・AVM・AVF	脳出血の臨床的特徴を説明できる。 AVM・AVF 及び脳血管内手術によって治療できる疾患の臨床的特徴を理解できる。	
4	先天奇形病理	中枢神経系の先天奇形および周産期脳障害の成因と病理像を説明できる。	炎症病理学
5	脳腫瘍病理	中枢神経系に発生する腫瘍の分類と病理像を説明できる。	
6	実習	脳腫瘍の切片をみて、その病理組織像の特徴を説明できる。	
7			
8	実習予備		炎症病理学

9	診断と検査の基本	運動器の機構と機能および主要な診断法の概念を説明できる。	整形外科学
10	診断と検査の基本	脳、脊髄の機能と神経学的検査方法との関係を説明できる。	脳神経外科学
11	後頭蓋窩腫瘍	後頭蓋窩腫瘍について診断・治療を説明できる。	
12	髄膜腫	髄膜腫について診断・治療を説明できる。	
13	脳腫瘍の分類 グリオーマ(Glioma)	脳腫瘍の分類及びグリオーマの診断・治療について説明できる。	
14	鞍上部・松果体腫瘍	鞍上部、松果体部腫瘍について診断・治療を説明できる。	
15	脊髄・脊椎疾患	脊髄・脊椎疾患の臨床的特徴を説明できる。	
16	特別講義		
17	関節疾患論	変形性関節症や骨壊死などの慢性関節疾患を理解し、診断、治療を説明できる。	整形外科学
18	上肢の外傷	上肢の重要な骨折、脱臼等の外傷を説明できる。	
19	予備		
20	骨関節病理	関節にみられる疾患の種類および病因を説明できる。	炎症病理学
21	実習	上記疾患の病理像を説明できる。	
22			
23	脊椎・脊髄疾患（1）	頸椎疾患の病態、診断、治療を説明できる。	整形外科学
24	骨関節病理	骨関節にみられる疾患の種類および病因を説明できる。	炎症病理学
25	実習	上記疾患の病理像を説明できる。	
26			
27	実習予備		
28	中枢神経腫瘍に対する 放射線治療	1)放射線治療の原理、目的、方法について説明できる。 2)代表的な疾患に対する治療方針と治療成績を説明できる。 3)放射線治療による急性期、晩期有害事象について説明できる。	放射線腫瘍学
29	末梢神経疾患	末梢神経障害の病態、診断、治療を説明できる。	整形外科学
30	上肢疾患	上肢の外傷、関節疾患の病態を理解し、診断、治療を説明できる。	
31	骨関節病理	骨にみられる疾患の種類および病因を説明できる。	
32	実習	上記疾患の病理像を説明できる。	炎症病理学
33			
34	実習予備		
35	変性疾患 (機能的脳神経外科)	変性疾患(機能的脳神経外科)について診断・治療を説明できる。	脳神経外科学
36	リウマチ性疾患	関節リウマチと類縁疾患を説明できる。	整形外科学

37	骨軟部腫瘍（１）	骨腫瘍の分類、軟部腫瘍の病理、鑑別診断、治療方針を説明できる。	整形外科
38	骨軟部腫瘍（２）	悪性骨腫瘍の診断と治療方針を説明できる。	
39	膝・足関節疾患	膝、足関節、足部疾患について病態、診断、治療を説明できる。	
40	下肢の外傷	スポーツ外傷を中心とした下肢外傷を説明できる。	
41	股関節疾患	骨盤、股関節疾患の病態、診断、治療を説明できる。	
42	脊椎・脊髄疾患（２）	胸椎、腰椎病変の病態、診断、治療を説明できる。	
43	頭蓋内圧亢進症、脳ヘルニア	頭蓋内圧亢進による症状、診断・治療を説明できる。	脳神経外科学
44	脳梗塞Ⅰ	脳梗塞が理解できる。	
45	脳梗塞Ⅱ	脳梗塞の外科的治療を理解できる。	
46	くも膜下出血	くも膜下出血の診断・治療を理解できる。	
47	肩関節疾患	肩関節の外傷、疾患を理解し、診断、治療を説明できる。	整形外科
48	骨代謝疾患	骨粗鬆症を中心とする骨代謝疾患、骨系統疾患の病態、診断、治療を説明できる。	

教科書・参考書等

炎症病理学

ロビンス基礎病理学 Vinay Kumar et al. 丸善出版

組織病理アトラス 小池盛雄 他 文光堂

Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease, 9th edition (eds) Kumar, Abbas, Aster. Elsevier

Escourrolle and Poirier' s Manual of Basic Neuropathology, 5th edition (eds) Gray, Duyckaerts, Girolami.

Oxford（第４版の邦訳あり：村山繁雄監訳 エスクロール基本神経病理学 西村書店）

脳神経外科学

山浦昌、児玉南海雄、田中隆一編. 標準脳神経外科学. 医学書院.

太田富雄編. 脳神経外科学. 金芳堂.

田崎義昭・斎藤佳雄. ベッドサイドの神経の診かた. 南山堂.

後藤文雄、天野隆弘. 臨床のための神経機能解剖学. 中外医学社.

松谷雅生. 脳神経外科学必須講義. メジカルビュー社.

小林士朗、小田行一郎 監修. STEP 外科①：外科総論・脳神経外科. 海馬書房.

伊藤洋編. CHART 13：脳神経外科. 医学評論社.

整形外科

松野丈夫、中村利隆 編 標準整形外科（第12版） 医学書院

放射線腫瘍学

日本放射線腫瘍学会編. 放射線治療計画ガイドライン（2016年版）. 金原出版.

西谷弘、他編. 標準放射線医学（第7版）. 医学書院.

井上俊彦、他編. 放射線治療学（改訂5版）. 南山堂.

オフィスアワー

質問には随時対応する。あらかじめアポイントをとること。

授業科目名

精神神経ユニット

(Psychiatry Neurology)

科目区分 統合講義 授業コード 706070 DPコード abcM

単位数 3 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授 上野 正樹 (炎症病理学)
講師 千葉 陽一 (炎症病理学)
教授 峠 哲男 (健康科学)
准教授 出口 一志 (消化器・神経内科学)
准教授 鎌田 正紀 (神経難病講座)
教授 中村 祐 (精神神経医学、ディレクター)
教授 新野 秀人 (地域連携精神医学講座)
准教授 角 徳文 (精神神経医学)

授業の概要

精神神経ユニットは、精神疾患・神経疾患を対象とした領域である。

このユニットにおいては形態・機能・薬理学等の基本的医学知識に基づき、それぞれの疾患の臨床症候、診断を中心として、精神・神経疾患の病態の理解度を深め、統合講義としてより質の高いものを求めている。臨床講義は診断（画像解析等）と検査にはじまり、精神系では統合失調症、気分障害、てんかん、薬物依存、精神療法等を、神経系では脳血管障害や変性疾患、頭部外傷、感染症、腫瘍、先天奇形、脊髄・脊椎疾患、末梢神経疾患およびミオパチー等を教授し、従来にない新しい統合的な講義を行うものである。さらに、これらの系統に関連した症候として、意識障害や頭痛などを取り入れ、広く神経系疾患の診断学の習得をも目指している。併せて、チュートリアル教育を取り入れ、自ら問題解決の方法を探る方法としての自主学習を通して、精神・神経内科ユニットで扱う内容に対する総合的知識を得ることを目標としている。

授業の目的

神経系の正常構造と機能を基礎医学的立場から複合的に理解する。更にこれを基礎として、各種疾患の成り立ちを病態学的に理論的に説明できる知識を身につける。更に疾患の治療法から予後・予防に至るまでを、医学的根拠に基づいて考察できる知識を習得する。

従来の講義で見られる縦割りの講義スタイルではなく、一つの疾患に関わる講座がそれぞれ異なった視点で疾患にアプローチすることによって、より柔軟にかつ詳細に疾患の理解を深めるものである。

達成目標

(1) 中枢・末梢神経系の構成要素と機能を解剖学的・生理学的に説明できる。

- (2) 中枢神経系・末梢神経系の障害時の症状を述べ、神経学的所見とそれに適した検査法についての説明ができる。さらに、部位・局在診断ができる。
- (3) 各種疾患についての画像診断（X線写真，CT，MRI，SPECT，PET，血管撮影など）と補助診断（脳波，筋電図など）の適応と所見が説明できる。
- (4) 疾患における病態生理の特徴について説明できる。
- (5) 個々の神経疾患について説明することができる。
- (6) 医学における精神神経医学の位置と役割を理解し、個々の精神疾患について説明することができる。

成績評価の方法と基準

チュートリアルの課題レポートと講義の最後に行う筆記試験を併せて総合評価する。ただし、チュートリアルの課題レポートが未提出あるいは、評価が否である場合には、筆記試験の受験資格は与えられない。病理学(等)実習の終了の認定を受けていない場合、筆記試験の受験資格は与えられない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

回	大項目	内 容	担当者
1	診断と検査の基本	1) 神経・筋疾患診断における3段階診断法が説明できる。 2) 意識障害の判定と、脳神経、深部腱反射、運動および小脳機能、感覚系の診察ができる。 3) 髄膜刺激所見のとりかたを説明できる。 4) 神経画像検査、生理学的検査で得られる情報について説明できる。	消化器・神経内科学
2	神経感染症・中毒 (1)	1) 髄膜炎・脳炎の原因、症候と診断を説明できる。 2) 髄液検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 3) プリオン感染症、トウウイルス感染症、遅発性ウイルス感染症について概説できる。	消化器・神経内科学
3	神経感染症・中毒 (2)	1) 髄膜炎・脳炎の原因、症候と診断を説明できる。 2) 髄液検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 3) プリオン感染症、トウウイルス感染症、遅発性ウイルス感染症について概説できる。	消化器・神経内科学
4	精神医学的症状と状態像	基本的な精神症状が系統的に挙げられ、状態像として類型化できる。	精神神経医学
5	神経心理学的症候・脳の局在症状	基本的な神経心理学的症候を脳の局在機能との関連で述べられる。	精神神経医学
6	気分障害 双極性障害の症候と診断	双極性障害の症候と診断や治療法を説明できる。	精神神経医学

7	変性疾患および認知症 (1)	1) パーキンソン病とその類縁疾患の病態、症候と診断を説明できる。 2) 認知症の原因を列挙できる。 3) 認知症を来たす主な疾患（アルツハイマー病と脳血管性認知症）の症候と診断を説明できる。 4) 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、運動ニューロン病について概説できる。	消化器・神経内科学
8	中枢神経系の病理学 (講義)	1) 種々の脳内の細胞の違いを区別し、病的状態における変化を理解できる。 2) ヘルニア、水頭症などの通常の病態生理学的合併症を説明できる。	炎症病理学
9	中枢神経系の病理学 (講義)	1) 脳血管障害の病理について説明できる。 2) アルツハイマー病の病理について説明できる。	炎症病理学
10	中枢神経系の病理学 (講義)	1) パーキンソン病とその類縁疾患の病理について説明できる。 2) 前頭側頭葉変性症と筋萎縮性側索硬化症の病理について説明できる。	炎症病理学
11	統合失調症（急性期）	統合失調症の診断基準（とくに急性期症状）と治療・管理法を説明できる。	精神神経医学
12	統合失調症（慢性期）	統合失調症の経過や慢性期症状とリハビリテーション治療が述べられる。	精神神経医学
13	児童精神医学	小児期の発達障害と神経症の症候や診断について説明できる。	精神神経医学
14	アルコール・ 薬物依存の病態と診断	依存性薬物の種類や特徴を挙げ、離脱症状の診断と治療を説明できる。	精神神経医学
15	特別講義 不随意運動の診断と治療	1) 小脳性・前庭性・感覚性運動失調の鑑別について説明できる。 2) 振戦および他の不随意運動について概説できる。	消化器・神経内科学
16	神経感染症・中毒	代表的な神経感染症・中毒疾患を挙げられ、診断と特徴が述べられる。	精神神経医学
17	変性疾患および認知症 (3)	1) パーキンソン病とその類縁疾患の病態、症候と診断を説明できる。 2) 認知症の原因を列挙できる。 3) 認知症を来たす主な疾患（アルツハイマー病と脳血管性認知症）の症候と診断を説明できる。 4) 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、運動ニューロン病について概説できる。	消化器・神経内科学
18	ミオパチー (1)	1) 重症筋無力症の病態、症候、診断を説明できる。 2) 進行性筋ジストロフィー症の原因、分類、症候、診断を説明できる。 3) 周期性四肢麻痺、多発性筋炎、ミトコンドリア脳筋症を概説できる。	消化器・神経内科学
19	認知症	認知症の種類や症状と診断が述べられる。	精神神経医学

20	変性疾患および認知症 (2)	1) パーキンソン病とその類縁疾患の病態、症候と診断を説明できる。 2) 認知症の原因を列挙できる。 3) 認知症を来たす主な疾患（アルツハイマー病と脳血管性認知症）の症候と診断を説明できる。 4) 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、運動ニューロン病について概説できる。	消化器・神経内科学
21	ミオパチー (2)	1) 重症筋無力症の病態、症候、診断を説明できる。 2) 進行性筋ジストロフィー症の原因、分類、症候、診断を説明できる。 3) 周期性四肢麻痺、多発性筋炎、ミコントリア脳筋症を概説できる。	消化器・神経内科学
22	不安性障害・解離性障害	不安性障害・解離性障害・ストレス関連障害の症候や診断について説明できる。	精神神経医学
23	コンサルテーション・リエゾン精神医学	精神医学と他科との連携について説明できる。	精神神経医学
24	脱髄疾患	1) 変性疾患、なかでも認知症を呈する疾患とパーキンソンズ病を呈する疾患を区別し、それぞれを説明できる。 2) 運動神経疾患を理解し、その症状を挙げ、そして、それに対する系統的障害部位を指摘できる。 3) 中枢神経内で起きうる感染症を区別し、説明できる。	消化器・神経内科学
25	脊髄・脊椎疾患	脊髄空洞症、亜急性連合性脊髄変性症、神経梅毒、脊髄血管障害について概説できる。	消化器・神経内科学
26	先天性代謝障害	糖質、脂質、アミノ酸、銅などの代謝異常による神経疾患について、特徴的な疾患について概説できる。	消化器・神経内科学
27	末梢神経障害 (1)	1) ニューロパチーの原因（栄養障害、中毒、遺伝性、免疫性）と病態を分類できる。 2) ギランバレー症候群、ビタミン欠乏性ニューロパチー、アミロイドニューロパチー、ヘルペス麻痺の症候、診断を説明できる。	消化器・神経内科学
28	末梢神経障害 (2)	1) ニューロパチーの原因（栄養障害、中毒、遺伝性、免疫性）と病態を分類できる。 2) ギランバレー症候群、ビタミン欠乏性ニューロパチー、アミロイドニューロパチー、ヘルペス麻痺の症候、診断を説明できる。	消化器・神経内科学
29	精神療法・認知行動療法	代表的な精神療法を挙げられ、特徴を述べることができる。	精神神経医学
30	てんかん (成人)	てんかんを発作症状や成因との関連で分類し、診断と治療法について述べられる。	精神神経医学
31	精神科医療の法と倫理	精神保健福祉法（とくに強制入院）と倫理的問題について述べられる。	精神神経医学
32	中枢神経系の病理学 (講義)	1) 中枢神経系感染症とプリオン病の病理を説明できる。 2) 脱髄疾患の病理を説明できる。 3) 中枢神経系の代謝異常疾患の病理を理解できる。	炎症病理学

33	特別講義		炎症病理学
34	中枢神経系の病理学 (実習)	1) 大脳皮質の切片を見て正常の大脳皮質の構造を理解し説明できる。 2) 脳梗塞の切片を見て病理学的に説明できる。 3) プリオン病の切片を見て病理学的に説明できる。 4) アルツハイマー病の切片を見て病理学的に説明できる。	炎症病理学
35	症状精神病の概念と診断	症状精神病を呈する代表的な疾患を挙げ、それらの特徴を述べられる。	精神神経医学
36	心身症 (摂食障害含む)	心身症の特徴と種類が挙げられ、心身相関について説明できる。	精神神経医学
37	気分障害 うつ病の症候と診断	うつ病の症候と診断や治療法を説明できる。	精神神経医学
38	筋疾患の病理学 (講義)	1) 筋肉に見られる疾患の種類を説明できる。 2) 筋肉に見られる重要な疾患の病理を説明できる。	炎症病理学
39	筋疾患の病理学 (実習)	1) 筋ジストロフィーの切片を見て病理学的に説明できる。 2) 神経原性筋萎縮の切片を見て病理学的に説明できる。 3) 横紋筋肉腫の切片を見て病理学的に説明できる。	炎症病理学
40	筋疾患の病理学 (実習)		炎症病理学
41	ミオパチー (3)	筋肉に見られる重要な疾患について、形態学的変化を説明できる。 1) 重症筋無力症の病態、症候、診断を説明できる。 2) 進行性筋ジストロフィー症の原因、分類、症候、診断を説明できる。 3) 周期性四肢麻痺、多発性筋炎、ミトコンドリア脳筋症を概説できる。	消化器・神経内科学
42	ミオパチー (4)		消化器・神経内科学
43	精神科面接・診断分類法	1) 精神医学的面接法の要点を説明できる。 2) 精神疾患の ICD や DSM など診断体系が述べられる。	精神神経医学
44	頭痛	1) 頭痛の原因と病態を説明できる。 2) 頭痛診断の要点と鑑別について説明できる。	消化器・神経内科
45	神経症候学	1) 脳神経障害の症状が説明できる。 2) 嚥下障害、運動麻痺・筋力低下、歩行障害、言語障害、感覚障害について、病態にもとづいて分類できる。	消化器・神経内科学
46	統合講義試験		

教科書・参考書等

教科書

炎症病理学

Robbins Pathologic Basis of Disease, (eds) Cotran, Kumar and Collins, Saunders

Greenfield' s Neuropathology, (eds) DI Graham and PL Lantos, Oxford Univ. Press

Neuropathology, (eds) D Ellison and S Love, Mosby

Escourolle and Poirier' s Manual of Basic Neuropathology, 5th edition (eds) F Gray, C Duyckaerts, and U De Girolami, Oxford Univ Press

消化器・神経内科学

ベッドサイドの神経の診かた、田崎義昭・斎藤佳雄 著、南山堂.

神経内科ハンドブック 鑑別診断と治療、第4版、水野美邦 編集、医学書院.

新・病態生理できた内科学7神経疾患、村川裕二 監修、医学教育出版.

脳神経疾患ビジュアルブック、落合滋之 監修、学研.

神経内科の外来診療、北野邦孝 著、医学書院.

Merritt' s textbook of Neurology, twelfth edition, edited by Lewis P. Rowland, Lea & Febiger.

精神神経医学講座

高橋茂樹 (著)、岸本年史 (監修)、STEP 精神科、海馬書房、2002、ISBN : 4907704186

オフィスアワー

随時対応するが、各担当講座の医局に連絡をしてアポイントメントを取ること。

授業科目名 内分泌代謝ユニット

(英文併記 Endocrinology and Metabolism)

科目区分 統合講義

授業コード 760090

DPコード bcxM

単位数 3 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授	村尾 孝児 (内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学 ディレクター)
教授	中村 隆範 (分子細胞機能学)
教授	上田 夏生 (生化学)
教授	上野 正樹 (炎症病理学)
教授	柴田 徹 (放射線腫瘍学)
教授	三宅 実 (歯科口腔外科学)
准教授	大西 平 (生化学)
准教授	紺谷 桂一 (呼吸器・乳腺内分泌外科学)
准教授	西 望 (総合生命科学研究センター)
准教授	井町 仁美 (内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)
助教	高橋 重雄 (放射線腫瘍学)
助教	吉本 卓生 (内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)
助教	菊池 史 (内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)
助教	福長 健作 (内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)
副部長	橋本 理恵 (臨床栄養部)
理学療法士	森田 伸 (リハビリテーション部)
非常勤講師	竹谷 豊 (徳島大学教授)
非常勤講師	佐藤 誠 (佐藤内科クリニック)
非常勤講師	米井 泰治 (よねいクリニック)

授業の概要

内分泌代謝ユニットは内分泌系と栄養・代謝系を対象領域として内分泌系、栄養・代謝系の授業から構成されている。内分泌系ではホルモンを構造から分類し、それぞれの分泌調節機構とそれらの標的期間での受容体とその情報伝達機構を学習して、それぞれの作用が説明できることが必要である。各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙でき、それらの相互関係が説明できて、フィードバック調節を理解する。各種ホルモンの分泌異常（過剰あるいは欠乏）にもとづく病態の変化が理解でき、その是正方略が説明できることが必要である。代謝・栄養系では、生体の恒常性維持の重要性とその調節機序が理解できて、生体機能や体内環境のリズム性変化を説明できる。生体物質（糖、脂質、タンパク質、アミノ酸、核酸など）の代謝動態を、酵素やホルモン作用の面から学習する。糖尿病、脂質代謝異常症を独立した疾患ではなくて、生活習慣にもとづく症候群の一部として理解できることが必要である。主な症候・病態の原因・分類・診断・治療の概要を性別・発達、成長、加齢ならびに生活習慣と遺伝子の関連から理解できることが重要である。

授業の目的

内分泌系と栄養・代謝系の構造と生理機能を理解し、主な疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。

達成目標

各授業にそれぞれ到達すべき内容を設定している。基本的に医学教育モデル・コアカリキュラム-教育内容ガイドライン-に掲げられている『内分泌・栄養・代謝系』および『乳房』等の項を参照する。

(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

成績評価の方法と基準

授業の出席状況及び試験成績で評価する。

病理組織実習の修了認定を受けていない者は、本試験受験資格は与えられない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

回	項目	内容	担当者
1 2 3	内分泌細胞の機能 I～III	1) ホルモン分泌の調節機構を説明できる。 2) ホルモン受容体の構造と情報伝達、ならびに作用を説明できる。 3) 生体の恒常性維持と内分泌臓器	分子細胞機能学
4 5	ホルモンと受容体 I～II	ホルモン受容体の機能が説明できる。	分子細胞機能学
6	内分泌代謝検査	1) 内分泌疾患独自の負荷試験について説明できる。 2) ホルモンの過剰または欠乏がもたらす身体症状を説明できる。 3) 血中ホルモン濃度に影響を与える因子を列挙できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
7	特別講演	下垂体機能低下症	非常勤講師
8	下垂体後葉疾患	下垂体後葉疾患について概説できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
9	下垂体機能亢進症	末端肥大症について概説できる。 プロラクチノーマについて概説できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
10 11	甲状腺機能の病態と疾患 I～II	1) 甲状腺ホルモン異常の疾患の病態と診断について概説できる。 2) 甲状腺腫を分類し、その特徴と疾患を列挙できる。 3) 甲状腺機能亢進症の病態・診断と治療を説明できる。 4) 甲状腺炎を概説できる。 5) 甲状腺機能低下症の症候・診断と治療を説明できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学

12	甲状腺疾患の外科治療	甲状腺疾患の外科的治療の適応と合併症を説明できる。	乳腺内分泌外科学
13	副甲状腺疾患	1) 副甲状腺をカルシウム代謝異常と関連づけて説明できる。 2) 副甲状腺機能亢進症と機能低下症の原因・病態・症候と診断を説明できる。 3) 偽副甲状腺機能低下症を概説できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
14	骨粗鬆症	骨粗鬆症の病態・診断・治療について説明できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
15	副腎の基礎	1) 副腎皮質ホルモンの構造と代謝を説明できる。 2) 副腎髄質ホルモンの代謝を説明できる。	生化学
16 17	副腎疾患Ⅰ～Ⅱ	1) クッシング症候群の病態・症候と診断・治療を説明できる。 2) アルドステロン過剰症を概説できる。 3) 褐色細胞腫を概説できる。 4) 二次性高血圧症について概説できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
18 19	消化管ホルモンⅠⅡ	1) 消化管ホルモンが説明できる。 2) ガストリン分泌機構を説明できる。 3) ゴリンジャーエリソン症候群を概説できる。 4) 消化管ホルモン過剰症による病態生理・症候・診断と治療を説明できる。 5) NET について概説できる。	分子細胞機能学/ 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
20 21	甲状腺・副甲状腺他病理学	甲状腺腫を分類し、バセドウ病、甲状腺炎、甲状腺腫瘍、褐色細胞腫の病理像を説明できる。	炎症病理学
22 23	甲状腺・副甲状腺他病理学 (実習)	バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍、副甲状腺腫瘍、褐色細胞腫の病理実習	炎症病理学
24	多発性内分泌腺腫症	1) 多発性内分泌腺腫症について病因・診断・検査・治療について説明できる。 2) 遺伝性内分泌疾患について概説できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
25	乳癌の診断と治療	1) 乳房腫瘍の画像診断（乳房撮影、超音波検査、CT）を概説できる。 2) 乳房腫瘍に対する細胞・組織診断法を概説できる。 3) 良性乳腺疾患の種類を列挙し診断・治療法を説明できる。 4) 乳癌の危険因子、症候、診断、治療と予後を説明できる。	乳腺内分泌外科学

26	乳癌に対する放射線治療	1) 放射線治療の原理、目的、方法について説明できる。 2) 代表的な疾患に対する治療方針と治療成績を説明できる。 3) 放射線治療による急性期、晩期有害事象について説明できる。	放射線腫瘍学
27	乳腺の病理学	1) 乳房腫瘍に対する細胞・組織診断を概説できる。 2) 良性乳腺疾患や乳癌の組織像を概説できる。	炎症病理学
28 29	乳腺の病理学(実習)	乳腺症、線維腺腫、乳癌の病理実習	炎症病理学
30 31	特別講演	栄養学総論 I II	非常勤講師
32 33	ビタミンの基礎 I ~ II	1) 水溶性ビタミンの役割が説明できる。 2) 油溶性ビタミンの役割が説明できる。	生化学
34	糖代謝	糖代謝が説明できる。	生化学
35 36 37 38 39 40	糖尿病 I ~ VI	1) 糖尿病の原因・病態生理・症候・診断を説明できる。 2) 糖尿病の急性・慢性合併症を説明できる。 3) 糖尿病の治療を概説できる。 4) 低血糖を概説できる。 5) チーム医療について理解する。 6) 糖尿病と地域医療について理解する。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
41	核酸代謝・痛風	1) 核酸代謝およびその異常として痛風が説明できる。 2) 高尿酸血症・痛風の病因と病態について説明できる。	生化学/内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
42	ポルフィリン代謝とポリフィリア	ポルフィリン代謝を理解し、その異常ポリフィリアを説明できる。	生化学/内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
43	アミロイドーシス	アミロイドによる疾病を説明できる。	生化学/内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
44 45 46	脂質代謝・動脈硬化 I ~ III	1) 脂質代謝が説明できる。 2) 動脈硬化のメカニズムを説明できる。 3) 脂質異常症(高脂血症)の分類、病因と病態を説明できる。	生化学/内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
47	肥満とやせ	1) 肥満・やせを定義し、それぞれの原因を列挙できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
48	症例検討	1) 内分泌疾患・代謝性疾患の実症例から学ぶ。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学

教科書・参考書等

教科書

内分泌・栄養・代謝学 : Textbook of Endocrinology; Williams; Endocrinology and Metabolism, Frohman; Joslin's Diabetes Mellitus, Marble et al.;

内科学 : Textbook of Medicine, Cecil; Principles of Internal Medicine, Harrison; Internal Medicine, Stein; The Principles and Practice of Medicine,

外科学 : Textbook of Surgery, Davis-Christopher; Principles of Surgery, Schwartz; Hardy's Textbook of Surgery, James Hardy;

参考書

オフィスアワー

授業科目名

麻酔ユニット

(英文併記 Anesthesiology)

科目区分 統合講義

授業コード 706130

DPコード bcx M

単位数 0.5 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

非常勤講師

教授 白神 豪太郎 (ディレクター, 麻酔学)

穴吹大介 (回生病院部長)

講師 浅賀 健彦 (集中治療部)

小野純一郎 (KKR 高松病院部長)

講師 山上 有紀 (麻酔・ペインクリニック科)

田家諭 (坂出市立病院部長)

助教 武田 敏宏 (麻酔学)

野萱純子 (回生病院部長)

授業の概要

本講では医学生にとって必要な麻酔・周術期医学の基礎について学ぶ。苦痛緩和、侵襲からの生体防御、生理機能制御など全身管理学としての麻酔・周術期医学を学ぶ上で必要な解剖学、生理学、薬理学、病理学、内科学、外科学、医用工学など関連諸分野の知識についても必要に応じて解説する。さらに、麻酔科医が直面する臨床的諸問題、他の各診療科や医療従事者とのチームワークの重要性、倫理的問題などについても解説する。

授業の目的

麻酔・周術期医学の基礎的知識を習得し、臨床実習で円滑に学習が行えるようにする。

(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

各授業にそれぞれ到達目標を設定している。

成績評価の方法と基準

講義終了後に筆記試験を行い、可否を判定する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

麻酔・周術期医学の領域は極めて広く、短期間でこれらを網羅することは不可能である。講義内容は医師として知っておいてもらいたい麻酔・周術期医学の基礎的知識習得に重点をおくが、ある程度、細かい専門用語の羅列となるのはやむを得ない。講義では、図・表・写真等を用いて概念・用語の解説を試みるが、「百聞は一見にしかず」、臨床実習で、実際に目で見て確認し、知識を身につけてほしい。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	麻酔・周術期医学①	麻酔・周術期医学総論	麻酔・周術期医学とは、気道確保法、麻酔器、吸入麻酔薬、回復室管理	白神

2	麻酔・周術期医学②	痛み医学	ペインクリニック，慢性痛，癌性痛	野萱
3	麻酔・周術期医学③	局所・区域麻酔	局所麻酔薬，局所浸潤麻酔，脊髄くも膜下／ 硬膜外麻酔，末梢神経ブロック	小野
4	麻酔・周術期医学④	周術期全身管理	呼吸・循環・代謝管理，輸液と輸血	山上
5	麻酔・周術期医学⑤	集中治療医学①総論	集中治療医学とは，人工呼吸，院内感染症	田家
6	麻酔・周術期医学⑥	集中治療医学②重症 患者管理	多臓器不全，ARDS，敗血症，ショック，急性 腎不全	浅賀
7	麻酔・周術期医学⑦	麻酔薬理学	静脈麻酔薬，筋弛緩薬，オピオイドおよび非 オピオイド鎮痛薬	穴吹
8	麻酔・周術期医学⑧	特殊麻酔	小児麻酔，産科麻酔，老年麻酔	武田

教科書・参考書等

Basics of Anesthesia 6th ed, Miller RD, Pardo Jr MC eds, Elsevier Saunders, 2011

TEXT 麻酔・蘇生学，土肥修司 他編，南山堂，2014

周術期麻酔管理ハンドブック：理論から実践まで／救急から緩和まで，小栗顕二 他編，金芳堂，2008

周術期管理チームテキスト第2版，日本麻酔科学会，2011

集中治療専門医テキスト 第2版 総合医学社 2015年

Textbook of Critical Care, 6th Edition, Vincent JL, Elsevier 2011

オフィスアワー

在室時は随時対応するので，あらかじめ麻酔・周術期医学のアポイントを取ってください。

授業科目名

救急ユニット

(英文併記 Acute and Critical Care Medicine)

科目区分 統合講義 授業コード 706130 DPコード bcx M

単位数 0.5 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

非常勤講師

教授 黒田 泰弘 (ディレクター, 救命災害医学)

大友康裕 (東京医科歯科大学教授)

准教授 河北 賢哉 (救命救急センター)

講師 一二三 亨 (救命救急センター)

病院助教 高野耕志郎 (救命救急センター)

病院助教 篠原奈都代 (救命救急センター)

授業の概要

本講では医学生にとって必要な救急災害医学の基礎について学ぶ。急性生体侵襲に対する制御・蘇生学、集中治療医学を中心とした救急災害医学を学ぶ上で必要な解剖学、生理学、薬理学、病理学、内科学、外科学、医用工学など関連諸分野の知識についても必要に応じて解説する。さらに、救急科医が直面する臨床的諸問題、他の各診療科や医療従事者とのチームワークの重要性、倫理的問題などについても解説する。

授業の目的

救急災害医学の基礎的知識を習得し、臨床実習で円滑に学習が行えるようにする。

(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

各授業にそれぞれ到達目標を設定している。

成績評価の方法と基準

講義終了後に筆記試験を行い、可否を判定する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

救急災害医学の領域は極めて広く、短期間でこれらを網羅することは不可能である。講義内容は医師として知っておいてもらいたい救急災害医学の基礎的知識習得に重点をおくが、ある程度、細かい専門用語の羅列となるのはやむを得ない。講義では、図・表・写真等を用いて概念・用語の解説を試みるが、「百聞は一見にしかず」、臨床実習で、実際に目で見て確認し、知識を身につけてほしい。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	救急災害医学①	総論、救急集中治療	救命救急蘇生学とは、集中治療医学とは、病院前救急医療、災害医療、ショックと蘇生	黒田
2	救急災害医学②	多発外傷	多発外傷疫学、外傷性ショック、初期治療、根本治療	一 二 III ／篠原
3	救急災害医学③	脳神経外科救急疾患	頭部外傷、脳卒中、意識障害、神経集中治療	河北
4	救急災害医学④	熱傷の病態と治療	重症熱傷総論、熱傷ショックとその治療	黒田
5	救急災害医学⑤	心停止・心肺脳蘇生	心肺停止の疫学、心脳蘇生法	高野
6	救急災害医学⑥	災害医療	災害医療総論、各論	黒田
7	救急災害医学⑦	中毒	急性中毒に対する総論、各論	黒田

教科書・参考書等

救急診療指針 改訂第4版 日本救急医学会 へるす出版 2011年
 集中治療専門医テキスト 第2版 総合医学社 2015年
 急性中毒診療レジデントマニュアル 医学書院 2012年
 DMAT 完全マニュアル 大友康裕 メディカ出版 2009年
 Textbook of Critical Care, 6th Edition, Vincent JL, Elsevier 2011

オフィスアワー

在室時は随時対応するので、あらかじめ救急災害医学のアポイントを取ってください。

授業科目名

放射線ユニット

(英文併記 Integrated Lecture in Radiology)

科目区分 統合講義 授業コード 706150 DPコード bcdM

単位数 1 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授	西山 佳宏	(放射線医学)	教授	柴田 徹	(放射線腫瘍学)
准教授	山本 由佳	(放射線医学)	助教	高橋 重雄	(放射線腫瘍学)
講師	木村 成秀	(放射線医学)	非常勤講師	笹川 泰弘	(放射線部)
学内講師	福田 有子	(放射線医学)			
学内講師	室田 真希子	(放射線医学)			
学内講師	佐野村 隆行	(放射線医学)			
助教	奥田 花江	(放射線医学)			
病院助教	則兼 敬志	(放射線医学)			

授業の概要

放射線ユニットは画像診断、核医学、interventional radiology (IVR)、放射線治療、放射線障害・防護・安全管理を対象とした領域である。

画像診断、核医学では総論や胸部・腹部などの領域別に代表的疾患あるいは病態について、単純X線写真・CT・MRI・核医学検査等の読影法と鑑別疾患の考え方を講義する。

IVRは低侵襲性医療が叫ばれる今日、必要不可欠な治療法として目覚ましい発展・普及を遂げている分野である。IVRの概念および基本的手技とその適応について概説する。

放射線治療（放射線腫瘍学）の分野は放射線生物学や医学物理学の進歩を礎として発展し、全身の様々な腫瘍性疾患に対する集学的治療の三本柱（手術療法、化学療法、放射線治療）のひとつを担っている。各ユニットで扱う疾患毎の放射線治療の各論を理解するために、総論として放射線腫瘍学、放射線生物学の講義を行う。放射線治療の臨床を理解する上で重要となる放射線治療計画に関しても取り扱う。

放射線診療は、患者を対象として意図的に放射線をヒトに照射する。この行為が社会的に容認される理由は、放射線照射が患者の健康向上に直接的な利益が期待できるからである。このような医療における放射線の利用の特徴を理解して、患者のために安全に放射線を用いなければならず、放射線障害・防護・安全管理について講義する。

授業の目的

単純X線写真・CT・MRI・核医学検査等の基礎を理解し、代表的疾患あるいは病態について検査の適応、読影法と鑑別疾患について学ぶ。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

IVRの基礎、基本的手技とその適応について学ぶ。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

放射線治療の原理、方法、治療の適応と役割、臨床的意義について学ぶ。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題

探求能力」に対応)

放射線障害、防護、安全管理について理解する。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応)

達成目標

- 1) 単純 X 線写真、CT、MRI、核医学検査の原理を説明できる。
- 2) 単純 X 線写真、CT、MRI、核医学検査の読影の原理を説明できる。
- 3) IVR の原理、適応を説明できる。
- 4) 放射線治療の原理を説明し、主な放射線治療法を列挙できる。
- 5) 放射線診断・治療による副作用と障害を説明できる。
- 6) 放射線防護と安全管理を説明できる。

成績評価の方法と基準

授業の出席状況、ユニット最終日に行う試験成績で評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

回	項目	内容	担当
1	診断総論	画像診断の進め方について学ぶ。	放射線医学
2	X 線検査総論	X 線検査の基本について学ぶ。	放射線医学
3	核医学検査総論	核医学検査の基本について学ぶ。	放射線医学
4	放射線腫瘍学 I	放射線治療の原理、方法、治療の適応と役割、臨床的意義について学ぶ。	放射線腫瘍学
5	放射線腫瘍学 II	放射線治療の対象となる悪性腫瘍の生物学的、腫瘍学的特性を理解する。	放射線腫瘍学
6	放射線生物学	生体と放射線の物理学的な相互作用、分子レベルから細胞レベルまでの生物学的効果について理解する。	放射線腫瘍学
7	放射線治療計画総論	標的体積の設定方法、線量分布図を理解する。	放射線腫瘍学
8	MRI 検査総論	MRI 検査の基本について学ぶ。	放射線医学
9	胸部画像解剖	胸部の画像解剖について学ぶ。	放射線医学
10	頭部画像解剖	頭部の画像解剖について学ぶ。	放射線医学
11	腹部画像解剖	腹部の画像解剖について学ぶ。	放射線医学
12	画像診断 (心臓・脈管)	心臓・脈管の画像診断について学ぶ。	放射線医学
13	画像診断 (消化管)	消化管の画像診断について学ぶ。	放射線医学
14	核医学 1	核医学の画像診断について学ぶ。	放射線医学
15	放射線障害・防護・安全管理	放射線障害、防護、安全管理について学ぶ。	放射線部
16	画像診断 (副腎・女性器)	副腎・女性器の画像診断について学ぶ。	放射線医学
17	画像診断 (肝・胆・膵・脾)	肝・胆・膵・脾の画像診断について学ぶ。	放射線医学
18	IVR	IVR の各手技と適応について学ぶ。	放射線医学
19	画像診断 (脳・脊髄)	脳・脊髄の画像診断について学ぶ。	放射線医学

20	画像診断（頭頸部）	頭頸部の画像診断について学ぶ。	放射線医学
21	画像診断（胸部 1）	胸部の画像診断について学ぶ。	放射線医学
22	画像診断（胸部 2）	胸部の画像診断について学ぶ。	放射線医学
23	画像診断（腎・尿路・男性器）	腎・尿路・男性器の画像診断について学ぶ。	放射線医学
24	核医学 2	核医学の画像診断について学ぶ。	放射線医学
25	核医学 3	核医学の画像診断について学ぶ。	放射線医学

教科書・参考書等

1. 西谷 弘、他：標準放射線医学（医学書院）
2. 井上 俊彦、他：放射線治療学 改訂 5 版（南山堂）
3. 青山 喬、他：放射線基礎医学 改訂 12 版（金芳堂）
4. 日本放射線腫瘍学会編：放射線治療計画ガイドライン 2016 年版（金原出版）

オフィスアワー

随時対応するが、各担当講座の医局に連絡をしてアポイントメントを取ること。

授業科目名

呼吸器系

(英文併記 Respiratory Medicine)

科目区分 統合講義 授業コード 705040 DPコード bcxM

単位数 3 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

非常勤講師

教授 今井田克己 (腫瘍病理学)

多田慎也 (香川労災病院 院長)

教授 横見瀬裕保 (呼吸器・乳腺内分泌外科学)

教授 柴田 徹 (放射線腫瘍学)

講師 呉 哲彦 (呼吸器・乳腺内分泌外科学)

講師 坂東修二 (血液・免疫・呼吸器内科学)

講師 張 性洙 (呼吸器・乳腺内分泌外科学)

助教 石井知也 (血液・免疫・呼吸器内科学)

助教 金地伸拓 (血液・免疫・呼吸器内科学)

助教 垂水晋太郎 (呼吸器・乳腺内分泌外科学)

助教 中島成泰 (呼吸器・乳腺内分泌外科学)

助教 中野貴之 (呼吸器・乳腺内分泌外科学)

助教 渡邊直樹 (血液・免疫・呼吸器内科学)

授業の概要

呼吸器系ユニットは呼吸器疾患を対象とする。呼吸器の解剖、生理を理解し、疾患の症候、画像診断、検査法、組織病理等を理解する。呼吸生理、血液ガス分析及び病理の実習を行う。病態、診断、治療について内科学、外科学及び病理学の視点から呼吸器疾患の総合的な理解のための講義を行う。腫瘍、感染、アレルギー、職業性、血管性、先天性、外傷など多岐にわたる疾患の基礎的知識を習得する。

授業の目的

呼吸器の構造と機能を理解し、疾患の病態生理、原因、症候、診断、治療を学ぶ。自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。情報を重要性と必要性にしたがって取捨選択し、その要点を論理的に整理し、分かりやすく表現する能力を身につける。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

各回の授業にはそれぞれ医学教育モデル・コアカリキュラムに準じた到達すべき目標を設定している。必要な課題を自ら発見し、重要性・必要性に照らして順位づけすることができる。課題を解決する具体的な方法を発見し、他の学習者や教員と協力してよりよい解決方法を見出しながら課題を解決することができる。適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。(各授業における達成目標は授業計画表を参照)

成績評価の方法と基準

出席点、総合試験の成績、病理実習試験の成績をあわせて評価する。病理組織実習の修了認定を受けていないもの、または出席不足であるものは総合試験を受けることができない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

講義に於いては講義前に教科書を読み疑問点をはっきりさせてから授業に臨むこと。自分で学習しそれを解決していく態度が必要である。

回	項目	達成目標	担当講座
1	呼吸生理・血液ガス分析	<ul style="list-style-type: none"> 肺機能検査の実際的な解釈について理解できる。 血液ガス分析の実際的な解釈について理解できる。 呼吸中枢を介する呼吸調節の機序を説明できる。 	血液免疫呼吸器内科学
2	呼吸器感染症	<ul style="list-style-type: none"> 各疾患での特徴、病態生理、臨床経過、治療について理解できる。 呼吸器感染症について説明できる。 	血液免疫呼吸器内科学
3	呼吸器感染症の病理	<ul style="list-style-type: none"> 肺の感染症とその鑑別疾患が説明できる。 	腫瘍病理学
4	実習（呼吸器感染症）	<ul style="list-style-type: none"> 代表的感染症の病理形態学的特徴が理解できる。 	腫瘍病理学
5	呼吸器感染症の外科	<ul style="list-style-type: none"> 肺化膿症と膿胸を概説できる。 肺結核・非結核性抗酸菌症の外科的治療を説明できる。 膿胸、肺化膿症、気管支拡張症の外科的治療を説明できる。 	呼吸器・乳腺内分泌外科学
6	拘束性肺疾患・間質性肺炎	<ul style="list-style-type: none"> 拘束性換気障害を来す疾患を説明できる。 間質性肺炎の病態生理、診断、および治療について理解できる。 	血液免疫呼吸器内科学
7	閉塞性肺疾患・COPD	<ul style="list-style-type: none"> 閉塞性換気障害を来す疾患を説明できる。 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の病態生理、診断、治療について理解できる。 	血液免疫呼吸器内科学
8	喘息・アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> 気管支喘息の病態生理、診断、および治療について理解できる。 	血液免疫呼吸器内科学
9	職業性肺疾患・塵肺	<ul style="list-style-type: none"> もっとも頻度の高い塵肺である珪肺について、その病態、画像診断、肺機能検査、および治療方法などが理解できる。 アスベストの吸入によって惹起される石綿肺の病態、画像所見、および治療方法が理解できる。また急増しつつある中皮腫の臨床像についても理解できる。 	血液免疫呼吸器内科学
10	呼吸・循環器障害	<ul style="list-style-type: none"> 肺血管系の疾患について説明できる。 肺血栓塞栓症の病態、診断、および治療について理解できる。 	血液免疫呼吸器内科学

11	閉塞性拘束性疾患	閉塞性拘束性疾患の病理について説明できる。	腫瘍病理学
12	実習（閉塞性拘束性疾患）	各々の換気障害の病理形態学的特徴が理解できる。	腫瘍病理学
13	喫煙と健康被害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 喫煙に関連する疾患を列挙することが出来る。 ・ 受動喫煙のリスクについて説明することが出来る。 禁煙の利点とその方法を説明できる。	血液免疫呼吸器内科学
14	びまん性肺疾患	サルコイドーシス、びまん性汎細気管支炎など間質性肺炎以外のびまん性肺疾患の病態生理、診断、および治療について理解できる。	血液免疫呼吸器内科学
15	肺癌の内科療法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肺癌の化学療法を小細胞癌、および非小細胞癌に分けて理解できる。 肺癌の分子標的療法について理解できる。肺癌化学療法について学ぶ。	血液免疫呼吸器内科学
16	肺癌の病理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肺癌の分類と代表的組織型の病理が説明できる。 	腫瘍病理学
17	実習（肺癌）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 肺癌の形態学的表現型が理解できる。 	腫瘍病理学
18	肺癌の外科療法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 呼吸器外科的治療と周術期管理の基本を学ぶ。 ・ 組織、病期別に肺癌の治療法を説明できる。 ・ 主な呼吸器術後合併症を列挙し、その予防の基本を説明できる。 	呼吸器・乳腺内分泌外科学
19	胸膜疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縦隔と胸膜腔の構造を説明できる。 ・ 胸膜炎の原因、症候、診断と治療を説明できる。 ・ 気胸の原因、症候、診断と治療を説明できる。 ・ 胸膜中皮腫を概説できる。 胸水の原因と病態を説明でき胸水を呈する疾患の要点を説明できる。	呼吸器・乳腺内分泌外科学
20	気管支鏡・胸腔鏡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 呼吸器疾患で使用する内視鏡の原理と診断と治療の基本を学ぶ。 ・ 気管支鏡検査の意義を説明できる。 ・ 気管支鏡の手技、所見が理解できる。 ・ 胸腔鏡の意義について説明でき、種類、適応、合併症を理解できる。 ・ ステント療法について説明でき、種類、適応、合併症を理解できる。 レーザー療法について説明でき、種類、適応、合併症を理解できる。	呼吸器・乳腺内分泌外科学
21	縦隔疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縦隔の解剖、区分を理解できる。 ・ それぞれの縦隔腫瘍について、病態、治療を理解できる。 	呼吸器・乳腺内分泌外科学
22	良性肺腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> ・ 良性肺腫瘍（気管・気管支腫瘍を含む）について理解できる。 ・ それぞれの良性肺腫瘍について、病態、治療を理解できる。 	呼吸器・乳腺内分泌外科学
23	呼吸不全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 呼吸不全の病態、および病型について理解できる。また病型に応じた治療方法に関して理解できる。 	血液免疫呼吸器内科学

24	異常呼吸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異常呼吸の病態、および治療方法を理解できる。また睡眠時無呼吸症候群、過換気症候群の診断、および治療方法について理解できる。 	血液免疫呼吸器内科学
25	肺癌の放射線療法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放射線治療の原理、目的、方法について説明できる。 ・ 肺癌に対する放射線治療の適応、治療効果について説明できる。 ・ 放射線治療による急性期、晩期有害事象について説明できる。 	放射線腫瘍学
26	実習試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 	腫瘍病理学
27	総合試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 	血液免疫呼吸器内科学
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 	

教科書・参考書等

腫瘍病理学

1. エッセンシャル病理学第5版 医歯薬出版
2. 感染症病理アトラス 文光堂
3. 肺癌取扱規約 金原出版
4. 腫瘍鑑別診断アトラス 文光堂
5. 外科病理学 文光堂
6. Pathologic Basis of Disease, Ribbins, W.B Saunders Company
Atlas of tumor pathology (vol.13, vol.21), AFIP

呼吸器・乳腺内分泌外科学

1. 出月康夫：new 外科学, 南光堂
2. 人見滋樹：呼吸器外科手術の手技と方法, 金芳堂
3. 臨床呼吸器外科 第二版 医学書院
4. 呼吸器外科の実際 130 の手術症例に学ぶ 金芳堂
5. 気管支鏡 臨床医のためのテクニックと画像診断 医学書院
6. 呼吸器外科学 南山堂

血液・免疫・呼吸器内科

1. フレイザー呼吸器病学エッセンス、清水英治/藤田次郎 監訳、西村書店
2. 病気が見える vol.4 呼吸器、メディックメディア
3. マクギーの身体診断学 エビデンスにもとづくグローバル・スタンダード、診断と治療社
4. Bate's Guide to Physical Examination and History Taking, International Edition, Lippincot Williams & Wilkins
4. EBM の手法による肺癌診療ガイドライン 2016年版 日本肺癌学会編 金原出版

放射線腫瘍学

1. 西谷 弘、他：標準放射線医学 第7版（医学書院）
2. 井上俊彦、他：放射線治療学 改訂5版（南山堂）
3. 日本放射線腫瘍学会：放射線治療計画ガイドライン 2016年版
(URL:<http://www.jastro.or.jp/guideline/child.php?eid=00007>)

オフィスアワー

相談のある学生は各教員にアポイントを取って日時を決定

授業科目名

循環器ユニット

(英文併記 Cardiovascular Disease Lecture)

科目区分 統合講義 授業コード 706020 DPコード bce M

単位数 3 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授 南野 哲男 (循環器・腎臓・脳卒中内科学) (ディレクター)

教授 堀井 泰浩 (心臓血管外科学) 准教授 山下 洋一 (心臓血管外科学) (サブディレクター)

教授 上野 正樹 (炎症病理学) 講師 千葉 陽一 (炎症病理学)

助教 村上 龍太 (炎症病理学)

講師 野間 貴久 (循環器・腎臓・脳卒中内科学) 学内講師 村上 和司 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)

学内講師 辻 哲平 (循環器・腎臓・脳卒中内科学) 学内講師 石澤 真 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)

病院助教 三宅 祐一 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)

学内講師 石川かおり (循環器・腎臓・脳卒中内科学) (サブディレクター)

病院助教 松永 圭司 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)

非常勤講師

大山 英郎 (おさか脳神経外科病院 循環器内科)

授業の概要

当ユニットでは呼吸器疾患に続き、循環器疾患の講義を同時期に行われる病理学の講義とリンクさせて効率的に学習できるように配置した。循環器疾患の進歩はめざましく、虚血性心疾患の成立機序、心不全の分子機序、不整脈の成立機序などが次々に明らかにされている。同時に診断手段としての画像診断が飛躍的に進歩したため、心・血管形態のダイナミックな機能が臨床現場で非侵襲的に把握できるようになり、病態診断の向上が得られている。また、治療手段としての非薬物療法の進歩も目覚ましい。虚血性心疾患・脳血管・末梢血管に対するカテーテル治療、不整脈診療におけるアブレーション治療、弁膜症・先天性心疾患に対するカテーテル治療は、従来の開心術の適応を変えている。また、心不全に対するペースメーカー・補助人工心臓などデバイス治療の技術開発に加え、心不全治療に対する心臓リハビリテーションが普及し始めている。

当ユニットでは、先に診断と検査の講義を配置し、基礎講座による講義の復習と各論への橋渡しとした。また、各論では虚血性心疾患・先天性心疾患・弁膜症・不整脈・心膜心筋疾患について循環器内科・心臓血管外科がそれぞれ専門的な立場から講義を行う。小活的に、これらの共通症候である心不全の病態・診断・治療について講義を行う。また、血管疾患として、動脈疾患と深部静脈血栓症およびその連続病態である肺塞栓症についての講義、および高血圧についての講義を行う。さらに、脳血管障害の内科的各論についての講義を追加した。

授業の目的

主な循環器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を理解する。

(DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「地域理解」に相当)

達成目標

次に示すように、各授業にそれぞれ到達すべき目標を設定している。これらには、医学教育モデル・コアカリキュラムに掲げられた循環器系で学習すべき到達目標について説明することができる。

成績評価の方法と基準

講義の出席および筆記試験の成績をあわせて評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

循環器系の恒常性を保つための正常構造（解剖学）・機能および調節機構（生理学）を先ず完全に理解するよう努める。それは、病態あるいは疾患、すなわち、生体の恒常性が破綻した状態についての理解を促進するからである。また、これらの知識は臨床応用可能でなければならない。正常解剖、生理、臨床画像については先の講義で学習しているものとして、このユニットでは、講義の内容を、概ね、循環器臨床検査、疾患各論（内科・外科）の順に配した。また、同時期に病理学の講義（心疾患、血管疾患）があり、これも効率的な学習を期待して、臨床各論の進行をできるだけ同期した配置とした。したがって、講義毎に設定された行動目標を、聴講と自主学習により達成していくことで、ユニットの一般目標に効率的に到達できる。情報収集手段としては、並行する講義、講義での配付資料、教科書、論文検索、インターネット、さらにはリソースパーソンを十分に活用されたい。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	循 環 器 ユ ニ ッ ト	診断と検査	循環器疾患検査値 1) 循環器疾患の血液生化学検査項目を列挙し、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 2) 動脈血ガス分析の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
2		診断と検査	心臓CT・MRI・核医学 心臓の画像検査の意義、方法、代表的疾患の所見を概説できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
3		診断と検査	心電図 心電図検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
4				
5		診断と検査	心臓・血管超音波検査 断層心エコー図から心臓・大血管の画像診断を説明できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
6		心カテーテル検査	心カテーテル検査 心カテーテル検査（心内圧、心機能評価、シャント率の測定）と結果を説明し、解釈できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科

7 8 9	疾患 虚血性心疾患	虚血性心疾患 1) 安定狭心症（労作性、冠攣縮性）の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。 2) 不安定狭心症の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。 3) 急性心筋梗塞の病態生理、症候、診断と合併症を説明し、治療を概説できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
10	循環器外科総論	循環器外科の特徴を概説できる。	心臓血管外科学
11	虚血性心疾患外科治療	虚血性心疾患の外科治療を概説できる。	心臓血管外科学
12	疾患 動脈疾患・外傷	動脈疾患・外傷 1) 大動脈解離と大動脈瘤を概説できる。 2) 閉塞性動脈硬化症とバージャー病を概説できる。 3) 大動脈炎症候群を概説できる。 4) 血管疾患の外科的治療を概説できる。	心臓血管外科学
13	疾患 末梢動脈疾患	大動脈・末梢動脈疾患 1) 動脈硬化症の危険因子、病態生理と合併症を説明できる。 2) 大動脈解離と大動脈瘤を概説できる。 3) 閉塞性動脈硬化症とバージャー病を概説できる。 4) 大動脈炎症候群を概説できる。 5) 血管疾患の内科的治療を概説できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
14 15	疾患 弁膜症	弁膜症 主な弁膜症（僧帽弁疾患、大動脈弁疾患）の原因、病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
16	感染性心内膜炎	感染性心内膜炎・リウマチ熱 感染性心内膜炎・リウマチ熱の原因、症候と診断を説明し、治療を概説できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
17 18 19	心不全	心不全 1) 心不全の定義と重症度分類を説明できる。 2) 心不全の原因疾患と病態生理を説明できる。 3) 左心不全と右心不全の診断を説明し、治療を概説できる。 4) 急性心不全と慢性心不全の診断を説明し、治療を概説できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科

20	疾患	不整脈	循環器・腎臓・脳卒中内科
21	不整脈	1) 主な頻脈性不整脈（期外収縮、WPW 症候群、発作性頻拍）の、心電図上の特徴を説明できる。	
22		2) 主な徐脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）の心電図上の特徴を説明できる。	
		3) 致死的不整脈の心電図上の特徴を説明できる。	
		4) 不整脈の治療（抗不整脈薬、電氣的除細動、ペースメーカー療法）を概説できる。	
23	疾患	高血圧の病態・診断・治療	循環器・腎臓・脳卒中内科
24	高血圧症	高血圧症の疫学、診断、合併症と予後を説明し、治療を概説できる。	
	高血圧と心臓	高血圧性心疾患など	
		高血圧合併症としての心疾患の病態を説明できる。	
25	補講		
26	疾患	先天性心疾患	心臓血管外科学
	先天性心疾患	先天性心疾患の外科治療の概略を説明できる。	
27	心臓・血管病理	心疾患の病理	炎症病理
28		1) 狭心症、心筋梗塞等の病因論、形態学的変化について説明できる。	
29		2) 心不全患者の全身的变化について説明できる。	
30			
31	心臓・血管病理	心疾患の病理	炎症病理
32		1) 心内膜炎、心筋炎、心筋症の病因論、形態学的変化について説明できる。	
		2) 血管の腫瘍を分類し、説明できる。	
	心臓・血管病理	1) 心筋症の肉眼的組織像を観察し異常を説明できる。	炎症病理
		2) ウィルス性心筋炎の組織像を観察し異常を説明できる。	
		3) 血管の腫瘍の組織像を説明できる。	
33	疾患	先天性心疾患	循環器・腎臓・脳卒中内科
	先天性心疾患	主な先天性心疾患（心房中隔欠損、心室中隔欠損、動脈管開存、ファロー四徴）の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。	
34	心臓・血管病理	血管の病理	炎症病理
35		1) 粥状硬化の病因論、形態学的変化について説明できる。	
36		2) 細動脈硬化症について説明できる。	
37	心臓・血管病理	1) 大動脈の粥状硬化を組織学的に観察し異常を説明できる。	炎症病理
38		2) 腎動脈硬化症の腎臓の組織像を観察し異常を説明できる。	
39		3) 種々の血管病理像を説明できる。	

40	疾患	弁膜症	心臓血管外科学
41	弁膜症	主な弁膜症の外科治療について概説できる。	
42	疾患 静脈・リンパ管疾患	静脈・リンパ管疾患 1) 深部静脈血栓症の治療を概説できる。 2) 下肢静脈瘤の治療を概説できる。	心臓血管外科
43	疾患 静脈・リンパ管疾患	静脈・リンパ管疾患 1) 深部静脈血栓症の原因と症候を説明できる。 2) 上大静脈症候群の原因と症候を説明できる。 3) 下肢静脈瘤を概説できる。 4) リンパ浮腫の原因を列挙できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
45	疾患 心筋・心膜疾患	心筋・心膜疾患 1) 心筋症と特定心筋疾患の定義・概念と病態生理を説明できる。 2) 心筋炎の原因と症候を説明できる。 3) 急性心膜炎の症候を説明できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
47	疾患	心筋・心膜疾患 心タンポナーデの原因と診断を説明し、治療を概説できる。	心臓血管外科学
48	脳血管障害（総論）	虚血性脳血管障害の病態生理を理解できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
49	脳血管障害（各論）	虚血性脳血管障害の局在とそれに関連した症状を理解し、説明できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
50	特別講演		循環器・腎臓・脳卒中内科
51			
52			
	試験		

教科書

1. Braunwald, Eugene. Bonow, Robert O. et al., eds. Braunwald's heart disease: a textbook of cardiovascular medicine. 9th ed., Saunders, 2012, (Expert consult).
2. Lilly, Leonard S. 編. 心臓病の病態生理: ハーバード大学テキスト. 川名正敏, 川名陽子訳. 第2版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2004.
3. 堀正二, 永井良三 編. 循環器疾患 最新の治療 2016-2017. 南江堂, 2016.
4. ステッドマン医学大辞典編集委員会編. ステッドマン医学大辞典: 英和・和英. 改訂第6版, メジカルビュー社, 2008.

オフィスアワー

9:00～17:00 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)

授業科目名

課題実習

(英文併記 Research Lab Training)

科目区分 統合講義 授業コード 703725 DPコード cbaM

単位数 2 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

荒木 伸一 (コーディネーター)

配属先の教員 (ガイドブック参照)

授業の概要

医学科全講座およびその他の研究室にそれぞれ1～4名配属し、基礎医学・臨床医学研究を中心とした実習を行います。また、徳島文理大学香川薬学部(3大学連携事業による)、ブルネイ・ダルサーラム大学の研究室における実習のほか、学外医療機関での地域医療に関する実習も予定しています。

平成29年度は2月5日(月)～3月2日(金)に行ない、この期間中は他の授業はいっさいありません。

配属先はひとり1ヶ所で、3年次の学生代表が中心になって学生が自主的に決定します。同一講座、研究室に募集人数を越える配属希望者がいる場合は学生間で自主調整を行いません。

授業の目的

近年、若手医師の臨床志向に伴って医学研究を志向する医師が減少し、将来の我が国における医学教育、研究の質の低下が懸念されている。医学・医療の高度化の基盤を担う優れた研究医を養成するためには、早期に研究現場を体験し、医学研究の意義、重要性を知るとともに、研究の魅力、面白さを体感してもらうことが重要である。この実習では、各分野での研究方法、実験手技を学ぶとともに、課題探求能力、リサーチマインドを培う。

(DP「問題解決・課題探求能力」、「知識・理解」、「言語運用能力」に対応)

達成目標

- ・各講座、部内、グループで行われている研究内容を理解し、最先端の研究に触れることができる。

成績評価の方法と基準

出席状況、実習態度、レポート、研究倫理教育に関するeラーニングなどにより総合的に判断する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

各講座、部内、グループにより異なる。内容は、ガイドブックに記載されている。配属先が決定したら、実習期間が始まる前に配属先へ打ち合わせに行き、指示を受けること。

授業計画

各講座、部内、グループにより異なる。

教科書・参考書等

オフィスアワー

シラバス

4 年次生

衛生学

公衆衛生学

法医学

膠原病ユニット

生殖系ユニット

小児科ユニット

感染症ユニット

腎・泌尿器ユニット

血液系ユニット

皮膚感覚系ユニット

PBL チュートリアル

医療管理学・診断学

医学実習 I（臨床実習実施要項参照）

授業科目名

衛生学

(英文併記 Hygiene)

科目区分 社会医学 授業コード 704400 DPコード cbdM

単位数 2 時間割 通年 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

准教授 宮武 伸行

非常勤講師

教授 平尾 智広 (公衆衛生学)

浅川 富美雪 (倉敷芸術科学大学)

助教 依田 健志 (公衆衛生学)

須那 滋 (香川県立保健医療大学)

特命助教 鈴木 裕美 (公衆衛生学)

菅沼 成文 (高知大学)

河島 昌典 (はしもとじんクリニック)

竹内 靖人 (中央労働災害防止協会)

坂野 紀子 (岡山大学)

片山 昭彦 (四国学院大学)

倉藤 利早

授業の概要

衛生学は、人間が健康である状態（「生」＝生命および生活の健全な保持）を守る（「衛る」＝疾病予防、健康増進）ための知識と技術の体系です。19世紀後半に確立された医学の重要な一分野である「Hygiene」を明治の先人達が「莊子」を引用して衛生学と訳したものです。したがって、衛生学には生理学などの基礎医学の分野である自然科学的な面と人文社会科学的な面が含まれ、両者を統合したものとして学問体系が作られています。同様な学問的意義を有する「公衆衛生学」とは、有機的に連携し、役割分担されているので、両者を学ぶことで、学習の目的が達せられます。

衛生学では、集団および個人の健康と疾病（事故を含む）について、基礎医学および臨床医学や社会科学などの知識と技術を応用し、宿主要因（host）および病因（agent）、環境要因（environment）の3方面から総合的に理解し、健康の保持・増進と疾病・異常の成立過程を明らかにし、疾病の防止対策を実践できるための基礎的知識と技術を修得します。

そのために集団および個人を取り巻く自然環境（物理、化学、生物学的）および生活環境（住居、食生活など）や社会環境（地域、産業など）の各種環境が及ぼす身体的・精神的影響について、その基礎的知識を修得します。また、集団における健康水準と疾病異常を測定する基礎的知識と技術を修得するとともに疾病予防対策の立案、評価に必要な基礎的知識と技術を疫学（epidemiology）として学習します。

健康福祉及び生活環境に関連する学外機関・施設の見学・体験学習をすることにより、健全な社会生活の維持に果たすこれら機関・施設の衛生的意義と役割についても学習します。

授業の目的

医師として、全ての国民が健康である状態を守るために、以下のことを理解、習得する。（DP「問題解決・課

題探求能力」「知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)

- 1 自然環境および生活環境や社会環境とヒトとのかかわりあいや、これらの環境の人体に及ぼす影響
- 2 環境因子による人体影響や疾病異常の対策および環境因子の制御に関する基礎的知識
- 3 各種環境要因の基礎的測定および評価法
- 4 疫学概念とその応用
- 5 集団の健康水準と疾病異常の基礎的測定および評価法

達成目標

- 1 各種環境要因とヒトとのかかわりについて論述することができる。
- 2 各種環境要因の人体影響について論述することができる。
- 3 働く人の健康管理について論述することができる。
- 4 疫学的手法を用いて、集団の健康水準や疾病異常を測定・評価することができる。
- 5 健康増進や疾病予防の方策を立案し、評価することができる。

成績評価の方法と基準

- 1 評価方法
試験、学習態度（出席等）、レポート等を総合して評価します。
- 2 試験
講義、実習の最後に実施します。

授業計画並びに授業及び学習の方法

大学全体のカリキュラム編成上、衛生学が分担できる授業時間は多くありません。しかしながら、講義、実習は、衛生学を学習するにあたっての「基礎」であり、「出発点」です。講義、実習では基本的な「事柄」と「考え方」を学習し、各人で応用していただくことが必要となります。講義された内容と考え方だけが、総てではありませんので、講義項目のより深い理解には図書館等に準備されている関連書籍などによる自主的学習を適宜行ってください。出席せずに、単位認定試験目的で他人のノートを複写するというような態度は厳に慎んでください。衛生学は人間を集団として扱うことが多い学問領域ですが、将来基礎研究や臨床を行っていく上で必ず必要となります。また、そういう視点でも学習していくことが必要です。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	疫学	オリエンテーション、疫学（1）	疫学概念、事例から学ぶ疫学の基礎	宮武
2		疫学（2）	疫学理論（1）率と比、スクリーニング、感度、特異度、相対頻度、罹患率、有病率、死亡率、致命率、人年法、標準化死亡比、年齢調整死亡率など	宮武
3		疫学（3）	疫学理論（2）疫学調査、サンプリング、記述疫学、生態学的研究、Case-control study など	宮武
4		疫学（4）	疫学理論（3）Cohort study, RCT (Randomized Controlled Trial) など	宮武
5		疫学（5）	疫学理論（4）メタアナリシス、臨床試験、生存分析	宮武

6	疫学	疫学（6）	代表値、確率分布、推定、検定、相関、回帰	宮武
7		疫学（7）	事例をとおして（1-7）の理解を深める	宮武 倉藤
8		疫学（8）	事例をとおして（1-7）の理解を深める	宮武 倉藤
9		疫学（9）	事例をとおして（1-4）の理解を深める	宮武 倉藤
10		疫学（10）	疫学特論（薬剤開発の実際、熱帯医学など）	河島
11	保健統計	人口・保健統計	人口、人口の現状と動き、国勢調査、人口静態統計調査、人口動態統計調査出生、死産、死亡、合計特殊出生率、人口再生産、生命表、生命関数と平均余命、国民生活基礎調査、患者調査、国際疾病分類（ICD）など	宮武
12～ 13	食品保健	栄養・食品保健	健康増進法、国民栄養、栄養所要量、特定保健用食品、食品衛生法、食品衛生行政と自主管理、食中毒、食中毒の動向と関連事項、食中毒原因調査と対策、食品の安全性、食品添加物、輸入食品、遺伝子組換え食品など	須那
14	環境保健	環境保健（1）	概論、生態系の成り立ち、地球環境問題と健康影響、環境基本法、化学的環境要因、廃棄物、ダイオキシン類など	坂野
15		環境保健（2）	公害、環境汚染（大気、水）、環境基準と環境影響評価、生活環境と健康（シックハウス症候群）など	浅川
16		環境保健（3）	有害化学物質による健康影響、化学物質のリスク管理、作業環境管理など	竹内
17	産業保健	産業保健（1）	産業保健概論、産業医など	宮武
18		産業保健（2）	職業性肺疾患	菅沼
19 20 21	環境実習	環境測定実習	予め用意した環境測定機器を用いて、グループごとに各種環境測定、結果の考察を行う。	宮武 竹内 坂野
22 23 24 25	社会医学活動 の実際	実地見学	香川県環境保健研究センターを訪問し、環境保健を中心に見学し、理解を深める。	宮武
26～ 37	社会医学実習	実習	グループごとに、保健、医療、福祉、環境に関するテーマを選択し、文献学習、情報収集、実地訪問調査（フィールドワーク）等を行い、それぞれのテーマについて理解を深める。	全員
38 39 40		実習発表会	グループごとに行った学習内容、調査研究成果を発表し、ディスカッションを行う（全体発表会）。	全員
41		試験	衛生学試験	試験を行う。

教科書等

- 1 教科書：とくに指定しません。
- 2 講義は教員の作成したスライド、プリントに基づいて行います。

参考書

「国民衛生の動向（最新版）」他、総合的な衛生学書，講義項目別の分野別図書，国試対策用図書，人文科学関係図書など多数図書館に準備されていますので、用途に応じて自主的に使用してください。

オフィスアワー

適宜、衛生学事務室に連絡をとってください。Email: eisei@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

公衆衛生学

(英文併記 Public Health)

科目区分 社会医学 授業コード 704410 DPコード cbdM

単位数 2 時間割 通年 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授	平尾 智広	非常勤講師
講師	依田 健志	實成 文彦 (香川大学名誉教授)
助教	神田 かなえ	星川 洋一 (香川県健康福祉部)
特命助教	鈴木 裕美	万波 俊文 (麻田総合病院)
准教授	宮武 伸行 (衛生学)	住友 正幸 (徳島県立三好病院)
准教授	小澤 久仁男 (法学部)	鈴江 毅 (静岡大学)
		大谷 昌裕 (臨床教授 ; 香川県予防医学協会)

授業の概要

公衆衛生学は人々の健康生活を守り増進することを目的とした、包括的、学際的かつ集学的な学問体系です。医師法には、医師の責務として「医療および保健指導を掌ることによって、公衆衛生の向上および増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保する」ことが明記されており、医師は公衆衛生活動の中核を担うことが期待されています。このため、公衆衛生学においては、多要因から成る健康の成り立ちを理解し、健康的な生活の保持増進と疾病の予防のために、広い視野に立って考え行動することができるように、知識と技術および方法論を修得します。なお、衛生学とは同様の学問的意義を有するために完全に連携し、役割分担しており、両者を修得することによって学習目的が達成されます。

授業は講義、グループワークを中心に行い、知識や理論の学習、ケースに基づいたディスカッション、学外での体験学習・訪問調査を組み合わせ理解を深めます。

まず「社会医学総論」として、健康の概念、健康及び病気と社会との関係、わが国の保健医療制度、社会保障、関係する行政と法規、社会医学・医療の倫理などの基本的事項について学習します。さらに「社会医学各論」として、母子保健、学校保健、高齢者保健・福祉、精神保健、地域保健、「疾病対策」として、がん、循環器疾患、感染症の対策、「特論」として、地域医療、国際保健、健康危機管理、災害と公衆衛生、医療の質について学習します。

実習は学外での体験学習を重視し、施設等の見学訪問により実際の活動に接するとともに、スモールグループ・ディスカッションを行い理解を深めます。また、希望者には行政機関、医療機関等における保健活動の実際を体験する機会を提供します。

授業の目的

医師として、広い視野に立って、人々の健康的な生活の保持増進と疾病予防のために考え行動することができるように、以下のことを修得します。

- 1) 健康事象を人と社会・環境の相互作用として捉え、疫学および生態学的に理解する。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)
- 2) 人間集団の観察技術を身につけ、社会集団や地域における健康問題を分析し、考察する。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応)
- 3) 広い社会的視野を持ち、社会変動と健康の関係を洞察し、病者、住民および社会のニーズを的確に判断し、適切に対応する。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応)

達成目標

- 1) 健康事象の成り立ちを疫学および生態学的な観点より分析し述べることができる。
- 2) 社会変動と健康の関係について具体的事例を挙げて述べるができる。
- 3) 社会医学のプロセスについて具体的事例を挙げて説明することができる。
- 4) わが国の医療制度について述べるができる。
- 5) 社会保障の概念とわが国の状況について述べるができる。
- 6) 各論的事項(母子保健・学校保健・高齢者保健・高齢者福祉・精神保健・地域保健・国際保健等)について要点を説明することができる。
- 7) 疾病対策について要点を説明することができる。
- 8) 公衆衛生活動の現状を述べ、これらについて論じることができる。
- 9) 病者、住民および社会のニーズを把握し、解決策を考えることができる。

授業及び学習の方法

講義内容、配布資料を中心に授業を進めますが、これまでに習得した臨床医学や基礎医学の知識、経験を活用し、医療の現場で役に立つ知識や思考法を身につけてください。受講にあたっては推薦参考書やインターネット、新聞を利用した予習、復習が望まれます。また、今年度より e-Learning による事前学習を導入します。詳細はオリエンテーションにて説明します。

ポイント

- 1) 臨床医学を支える基礎理論として基礎医学と社会医学があり、良き臨床を行うためには社会医学(公衆衛生学、衛生学)の知識と実践が必要不可欠です。
- 2) 基礎医学は主に生物学的医学で、人体を細分化しミクロの方向へ探求するのに対し、社会医学では人を集団として捉え、主に人体の外部、すなわち自然環境や社会環境との関係性を探求します。「社会」は具体的に手に取って見ることはできませんが、蓋然と存在しています。本科目の履修の過程でその捉え方、考え方を習得してください。
- 3) 実習では実社会の問題を取り上げます。実社会の問題は机上の理論とは異なり、単純に正解は導かれません。考えられるベストの解決を図るには、多くの情報を統合し人知を結集する必要があります。実習の成果をあげるためには、各人の熱意と積極的な行動が期待されます。また学生間、教員等とのディスカッションは、社会医学のダイナミックな理解の上で大変有意義です。大に行ってください。
- 4) インターネット、新聞、テレビの活用は社会の動きを知り、社会医学のダイナミックな理解の上で大変有用です。最近の例としては、新型インフルエンザ、自殺、メタボリック・シンドローム対策、医療崩壊、少子化対策、環境問題等があげられます。

成績評価の方法と基準

1. 授業参加の程度
2. 講義、実習時のレポート
3. 社会医学実習の取り組み姿勢及び発表内容
4. 筆記試験
5. 上記を総合して可否の判定を行います。

授業計画

回	大項目	項目	内容	担当者
1	社会医学総論	オリエンテーション 社会医学概説	講義・実習の位置づけ、学習上の留意事項 実習オリエンテーション、社会医学の位置づけ	平尾
2		健康と政策（1）	健康の定義、歴史、医学・医療の社会的適用、健康及び病 気と社会との関係、患者・家族との関係	平尾
3		健康と政策（2）	ライフステージと健康問題、集団へのアプローチ、ヘルス プロモーションの概念、医療の質の評価	平尾
4		医療制度	わが国の医療制度、医療需要、供給体制、地域医療再生	平尾
5		社会保障	社会保障の概念と機能、わが国の社会保障	平尾
6		医療保障	医療ファイナンス、医療保険制度、国民医療費、診療 報酬・薬価、包括評価	平尾
7		医療関連法規	医師の法的責任、医師法、医療法、その他保健衛生関係法 規	小澤
8		医の倫理	医療と倫理、医師の職業倫理、社会医学と倫理、生物医学 研究における倫理、インフォームド・コンセント、患者の 権利	依田
9	高齢者の保健 と福祉	高齢者保健・福祉	高齢者の特徴、ねたきり、認知症、ADL、介護保険、介 護施設、在宅介護、介護予防、在宅医療 地域における高齢者保健・福祉の展開、高齢者保健・福祉 関連法規、現状と課題	平尾
10	成人保健・健康 増進	成人保健・健康増進	健康増進施策、健康増進法、健康日本 21、身体活動・運動・ 休養・栄養	神田
11	児童・母子の保 健と福祉	母子保健・福祉	母子の健康管理、主な健康問題とその要因、母子保健統計、 制度・施策、労働と母性保護、先天異常、障害児	鈴木
12		学校保健・福祉	学校保健の意義と仕組み、学校医の職務、学齢期好発疾患 と健康管理、体力・体格・発育、発達障害、健康診断、健 康相談、学校安全教育、学校給食、学校伝染病	鈴木
13	精神保健・福祉	精神保健・福祉	精神保健の意義と仕組み、精神保健福祉法、精神障害者の 医療、社会復帰と社会参加、精神保健福祉センター、自殺 予防、メンタルヘルス対策	鈴江

14	地域保健・福祉	地域保健・福祉	地域保健の意義と仕組み、地域保健法、保健所、保健センター、健康づくり対策、NPO、難病	依 田
15	疾病対策	生活習慣病対策	糖尿病・脂質異常症・高血圧の疫学、メタボリックシンドローム、死の四重奏、特定健康診査、特定保健指導	大 谷
16		がん対策	がんの疫学、がん予防、がん対策基本法、がん検診、がん診療拠点病院、禁煙指導	依 田
17		循環器の疫学	心疾患、脳血管疾患の疫学、リスクファクター、予防対策	万 波
18		感染症対策	感染症予防法、検疫、届出義務、予防接種、感染症サーベイランス、結核対策、HIV 対策、ウイルス肝炎対策	依 田
19		地域医療	地域医療の現状と課題、医療の質の確保、医療連携	住 友
20	社会医学特論	国際保健	国家・社会間の健康格差、プライマリーヘルスケア、国際社会の対応、わが国の国際保健医療協力、新興・再興感染症、健康転換、難民・人道援助・災害救援	依 田
21		行政医師の仕事	行政職としての医師の役割、地域保健行政、行政医師の仕事の実際	星 川
22		災害・危機対応と公衆衛生	大規模災害における行政と医療の連携、避難民の健康管理、医療資源の活用、リスクマネジメント	平 尾
23		医療の質	医療安全、医療事故、病院機能評価、クリニカルパス、リスク管理、プロセス管理、臨床指標、患者満足度	平 尾
24		社会医学実習	実習	グループごとに、保健・医療・福祉に関するテーマを選択し、文献学習、情報収集、実地訪問調査等を行い、それぞれのテーマについて理解を深める。(グループワーク)
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				
36				
37				
38				
39				
40				
41				
42				

43		実習発表会	グループごとに行なった学習内容、調査研究成果を発表し、ディスカッションを行なう。(全体発表会)	全 員
44				
45				
46		公衆衛生学試験		全 員

教科書

とくに指定しません。

参考書

国民衛生の動向<2016/2017> 厚生労働統計協会 2016. 厚生指標増刊.

国民の福祉と介護の動向<2016/2017> 同上 2016. 厚生指標増刊.

保険と年金の動向<2016/2017> 同上 2016. 厚生指標増刊.

総合的な衛生学・公衆衛生学書，分野別図書等多数あるので，用途に応じて用いてください。

オフィスアワー

随 時 公衆衛生学事務室、または教員に連絡をとってください。

授業科目名

法医学

(英文併記 Forensic Medicine)

科目区分 社会医学

授業コード 704421

DPコード bcdM

単位数 2 時間割 通年 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授	木下 博之	非常勤講師
教授	芳地 一 (薬剤部)	飴野 清 (香川大学 前准教授)
講師	田中 直子	及川恵美子 (厚生労働省 国際分類分析官)
助教	モストファ ジャーナル	北村 修 (杏林大学 教授)
助教	伊藤明日香	瀬戸 康雄 (科学警察研究所 法科学第三部 部長)
		西村 明儒 (徳島大学大学院 教授)
		山田 良広 (神奈川歯科大学 教授)

授業の概要

法医学は、法律を運用するうえで医学的判断を必要とする様々な事項について対応する。法医学の領域は自然科学から社会科学まで多種多様であり、医学においても基礎医学のみならず社会医学や臨床医学全般にわたる幅広い知識の修得が求められる。

患者の診療や死体の検査（死体検案）に関して、医師は司法や行政機関などから種々の医学的判断を求められることがある。これらに対し的確に対処するためには法医学的知識が必要である。また、医師は独自の判断（裁量）で治療を行い、書類（各種診断書）を作成することができるが、場合により法的あるいは道徳的規制を受けなければならないことがあることを知る必要がある。

医師の診療を受けずに死亡した人や事故、自殺、他殺により死亡した人（これらを異状死体という）の大部分は、一部の地域を除き臨床医により検案が行われているのが現状である。正しい死亡時刻や死因を判断し、隠された犯罪死体や中毒死体を見逃さぬためには、死後に起こる種々の変化や損傷の詳細な観察法を身につけ、さらに疾病についての十分な知識をふまえ死体検案する能力を習得する必要がある。患者の診療においても、各種の損傷、中毒物質の毒性や症状についての知識は診断・治療の質の向上につながる。さらに血液型については、ABO式やRh式血液型のみならず、それ以外の多数の血液型の存在を知り、それらの検査法、遺伝形式及び臨床上問題となる点を理解する。またDNA検査による個人識別の現状を理解する。

講義中に呈示される多くの例から、医学的知識の習得だけでなく、幅広い教養の必要性を感じ取り、医の倫理を身につけることの重要性を認識する。

授業の目的

法律に関わる医学的諸問題を広く取り扱い、これらに対し医学的に公平な判断を下すため、人の死にかかわる重要事項を認識し、さらには医療に関連する法律を把握した上で、個人の基本的人権を擁護し、社会の安全に寄与できる基礎的知識を習得する。（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応）

さらに、外傷の患者や薬毒物中毒の患者についての的確で迅速な治療を行うため、損傷の性状を十分に把握し、また薬毒物に対する生体側の反応を正確に評価する方法を身につける。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応)

達成目標

1. 死体現象から死後の経過時間を判断することができる。
2. 創傷の性状とその成因を具体的に述べることができる。
3. 中毒物質の作用メカニズムについて説明することができる。
4. 血液型の遺伝形式、DNA 検査、各種検査法の原理を述べることができる。
5. 窒息の特徴的所見を説明することができる。
6. 環境要因による死亡について、その成因やメカニズムを説明することができる。
7. 社会における医学・医療の位置づけと関連法規について説明することができる。
8. 実習における実験結果をまとめ、その内容について発表・討議することができる。

成績評価の方法と基準

1. 講義、実習の出欠、試験の扱いについては、香川大学医学部履修要項に従う。
2. 講義の出席状況、受講態度も評価の対象とする。
3. 実習期間中に実習レポートを提出し、時間内に試問、討論するなど理解度を評価する。
4. 実習中の取り組み方、実習態度についても評価の対象とする。
5. 講義および実習終了後、試験を行う。
6. 上記の評価を総合して可否の判定を行う。

授業計画並びに授業及び学習の方法

法医学の範囲は広いため、講義は医師として知っておいてもらいたい項目を重点的に行うので、講義中にしっかりと覚える習慣を身につけることを要望する。また法医学特有の用語も多く、言葉の説明のみでは十分に理解できないものも多いので、講義ではできるだけ多くの写真や図を提示する。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	法医学総論	総 論	法医学とは、歴史的背景	木 下
2			解剖、死体検案	木 下
3			死の判定、異状死	木 下
4	法医学各論	死体現象	早期死体現象	木 下
5			晩期死体現象、特殊な死体現象	木 下
6		損 傷	損傷総論	木 下
7			創傷の観察	木 下
8			損傷各論 1 (鋭器損傷)	木 下
9			損傷各論 2 (銃器損傷)	木 下
10			損傷各論 3 (鈍器損傷)	木 下

11		損傷各論 4 (交通事故損傷)	木 下
12	窒 息	窒息総論	木 下
13		窒息各論 1 (縊死、絞死、扼死)	木 下
14		窒息各論 1 (溺死、その他の窒息)	木 下
15	血液型・個人識別	A B O型、R h式	田 中
16		D N A型による個人識別	山 田
17		歯による個人識別	山 田
18		歯による個人識別	山 田
19	中 毒	中毒総論	飴 野
20		医薬品	飴 野
21		アルコール	飴 野
22		有機溶剤、工業製品	田 中
23		C O中毒	田 中
24		農薬	飴 野
25		濫用薬物	飴 野
26		科学捜査	瀬 戸
27		科学捜査	瀬 戸
28		科学捜査	瀬 戸
29	法医病態	中枢神経系の法病理	北 村
30		中枢神経系の法病理	北 村
31		中枢神経系の法病理	北 村
32	内因死	内因性急死	木 下
33	小児の法医学	嬰兒殺	木 下
34		児童虐待	木 下
35	異常環境	焼死	木 下
36		凍死、低体温、感電	田 中
37	法医学と社会	大災害と法医学	西 村
38		大災害と法医学	西 村
39		大災害と法医学	西 村
40		検案の実際	木 下
41		死亡診断書・死体検案書	木 下
42		国際疾病分類 (ICD)	及 川
43		国際疾病分類 (ICD)	及 川
44		矯正医療	木 下
45		薬害	芳 地
46		血液製剤	木 下

47		医療関連法規	医師法、刑法、その他	木 下
48		実 習	血液型学（血液型検査）	全 員
49			薬毒物・血痕検査（アルコール、催眠薬など）	全 員
50			中毒学（CO、シンナー、パラコート）	全 員
51			死亡診断書（死体検案書）作成演習	全 員

教科書・参考書等

- | | | | |
|---|--|---------------------|-------|
| 1 | 石津日出雄、高津光洋 監修 | 標準法医学（第7版） | 医学書院 |
| 2 | 高取健彦 監修 | NEW エッセンシャル法医学（第5版） | 医歯薬出版 |
| 3 | 福島弘文 編 | 法医学（改訂3版） | 南山堂 |
| 4 | 勾坂 馨 編 | 法医学小辞典 | 南山堂 |
| 5 | P. J. Saukko, B. Knight, Knight' s Forensic Pathology (3 rd ed), Hodder Arnold | | |
| 6 | J. Payne-James, R. Jones, S.B.Karch, J. Manlove, Simpson' s Forensic Medicine (13 th ed), Hodder Arnold | | |

オフィスアワー

在室時は随時対応する。あらかじめメール等でアポイントを取ってください。

授業科目名

膠原病ユニット

(英文併記 Connective tissue disease)

科目区分 統合講義 授業コード 706110 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

講師 土橋 浩章

助教 亀田 智広

病院助教 泉川 美晴

病院助教 中島 崇作

授業の概要

膠原病・リウマチ性疾患は複数の臓器が同時に障害される全身性の自己免疫疾患である。そのため、常に様々な臓器に起こりうる病態を正しく理解することが極めて重要である。また、膠原病・リウマチ性疾患の診断には、詳細な問診と身体所見を正確に取得する事が極めて重要な鍵になる。それぞれの疾患について幅広い知識に加えて内科医としてのスキルが求められる。

膠原病は免疫異常によって起こるため、免疫系の基本的な知識の復習と自己免疫疾患が発症するメカニズムを理解する事が膠原病学を学ぶ第一歩である。また、膠原病の代表的な症候である発熱（不明熱）や関節痛はその鑑別が重要であり、全ての診療科においてベッドサイドで直面する症候である。一方、膠原病の診断法の一つに間接蛍光抗体法による抗核抗体検査がある。抗核抗体は、多くの膠原病で陽性になることからスクリーニング検査として用いられる。さらに、抗核抗体検査を理解することは、膠原病の病態を把握することにつながる。膠原病には、関節リウマチや全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎などがあり、それぞれ病態が異なる。それぞれの疾患の臨床的特徴を把握し理解を深めることで、膠原病に対してより一層興味を持つことができる。さらに、獲得免疫の異常により起こる自己免疫疾患に対して、自然免疫の異常により起こる自己炎症性疾患について理解を深める。自己炎症性疾患は、近年注目されている炎症性疾患で自己免疫疾患と臨床症状が類似することからその鑑別が困難な事が多い。自己炎症性疾患の正しい理解は、膠原病診療のみならず多くの炎症性疾患において重要なポイントとなる。

膠原病領域は診断法や治療法が飛躍的に向上し、その進歩は目を見張るものがある。講義を通じて、膠原病の理解を深め全身を評価できる知識を習得する。

授業の目的

膠原病の考え方を理解し、代表的な臨床症状について鑑別疾患を含め学習する。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

さらに、各疾患についての病態生理・症候・診断および治療法を学ぶ。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

1. 獲得免疫と自然免疫について説明できる。
2. 膠原病の考え方について説明できる。
3. 不明熱の鑑別疾患を列挙し、診断することができる。
4. 関節痛の鑑別疾患を列挙し、診断することができる。
5. 抗核抗体の意味や検査方法について説明できる。
6. 膠原病・リウマチ性疾患疾患について疫学・病態生理・症候・診断・治療法について説明できる。
7. 自己炎症性疾患の病態について説明できる。

成績評価の方法と基準

1. 講義の出席状況、受講態度を評価する。
2. ユニット終了後に本試験を行う。
3. 上記の評価を総合して合否判定を行う。
4. 病理組織実習の終了認定を受けていないものは、本試験受験資格は与えられない。
5. 最終的な合否判定は年度末の進級会議に掛けられる。

授業計画並びに授業及び学習の方法

膠原病領域は範囲が広く、講義の時間のみで全てを習得することは困難である。講義以外に参考図書の中から自分に適した成書を選び、一通り通読し理解を深める。また、言葉や文字のみでの理解は難しいので、講義ではできるだけ写真や図を用いて説明する。講義毎に知識の確認のため小テストを行うが評価には使用しない。

回	項目	内容	担当者
1	自己抗体	自己抗体の種類と臨床的意義を説明できる	血液・免疫・呼吸器内科
2	リウマチ性疾患総論	免疫系の基本的な知識の復習と自己免疫疾患が発症するメカニズムを理解する。	血液・免疫・呼吸器内科
3	症候学：関節痛	関節痛・関節腫脹を機構と鑑別診断が説明できる	血液・免疫・呼吸器内科
4	RA(1)	関節リウマチの病態生理、症候、診断と治療を説明できる	血液・免疫・呼吸器内科
5	RA(2)	関節リウマチの関節外症状、悪性関節リウマチの症状、診断と治療を説明できる。	血液・免疫・呼吸器内科
6	悪性関節リウマチ・成人発症スチル病	悪性関節リウマチの症状、診断と治療の説明ができる。成人スチル病の症状、診断、治療を説明できる。	血液・免疫・呼吸器内科
7	混合性結合組織病・シェーグレン症候群	混合性結合組織病の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。シェーグレン症候群、ベーチェット病を概説できる	血液・免疫・呼吸器内科
8	強皮症	強皮症の病態生理、症候診断、臓器病変（特に肺・腎）と治療を説明できる	血液・免疫・呼吸器内科

9	脊髄関節炎	脊椎関節炎の症状、診断、治療を説明できる。	血液・免疫・呼吸器内科
10	自己炎症症候群・ベーチェット病	自己炎症症候群の病態・症候・診断について説明できる	血液・免疫・呼吸器内科
11	SLE (1)	全身エリトマトーデスの病態、症候、症状と合併症（中枢神経ループス、ループス腎炎）を説明できる	血液・免疫・呼吸器内科
12	SLE (2)	全身エリトマトーデスの治療を説明できる。抗リン脂質抗体症候群の病態生理、症候、診断と治療の説明ができる	血液・免疫・呼吸器内科
13	血管炎症群 (1)	血管炎症候群の病態を説明できる	血液・免疫・呼吸器内科
14	血管炎症群 (2)	血管炎症候群の症候・診断と治療を説明できる	血液・免疫・呼吸器内科
15	症候群：不明熱	不明熱の鑑別について説明できる	血液・免疫・呼吸器内科
16	多発性筋炎・皮膚筋炎	皮膚筋炎・多発性筋炎の症候、診断と治療を説明できる	血液・免疫・呼吸器内科

教科書

1. 宮坂信之（編） 最新膠原病・リウマチ学 朝倉書店
2. 山中寿（編） Evidence based medicineを活かす 膠原病・リウマチ診療
メジカルビュー社
3. 松本功（編） 分子標的/Bio時代のリウマチ・膠原病治療ストラテジー 文光堂
4. Gary S. Firestein. KELLY' S Textbook of Rheumatology,
ELSEVIER-Health Sciences Division
5. Johannes WJ Bijlsma. EULAR Textbook on Rheumatic Diseases. 2nd edition.
INGRAM INTERNATIONAL INC.

オフィスアワー

授業科目名

生殖系ユニット

(Obstetrics, Gynecology and Reproductive Science)

科目区分 統合講義 授業コード 706080 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授 秦 利之 (周産期学婦人科学) 非常勤講師 佐藤 明 (高松平和病院 病理部長、臨床教授)

教授 上野 正樹 (炎症病理学) 非常勤講師 松山 毅彦 (厚仁病院 院長、臨床教授)

講師 千葉 陽一 (炎症病理学)

助教 高橋 重雄 (放射線腫瘍学)

その他担当教員 (周産期学婦人科学)

授業の概要

周産期学婦人科学

女性生殖器系では、臨床的な診察法、性器出血や無月経などの症候からの原因、病態生理、診断についての理解から始まり、子宮頸部、子宮体部、卵巣と女性生殖器全般の良性、悪性疾患を中心に病態生理、診断および治療について学習する。また、不妊症についても原因、治療に加え最新の生殖医療技術について理解し、妊娠中の異常や様々な疾患の合併妊娠、分娩時異常について病態生理、管理について理解する。

炎症病理学

男性生殖器系では、陰茎、精巣、前立腺の炎症性および腫瘍性疾患の病理像を学ぶ。

女性生殖器系では、子宮頸部、子宮体部、卵巣の炎症性および腫瘍性疾患の病理像を学ぶ。

放射線腫瘍学

婦人科腫瘍に対する放射線治療について、放射線ユニットで講義した内容と関連付けながら、概説する。

授業の目的

周産期学婦人科学

1. 生殖系の構造と機能を理解し、生殖器疾患の診断と治療に関する知識を学ぶ。(DP「知識・理解」「問題解決・課題探究能力」に対応)
2. 妊娠、分娩と産褥期の管理に必要な基礎知識とともに、母子保健、生殖医療のあり方を学ぶ。(DP「知識・理解」「問題解決・課題探究能力」に対応)

炎症病理学

男性および女性生殖器系疾患の病理病態を学ぶ。(DP「知識・理解」「問題解決・課題探究能力」に対応)

放射線腫瘍学

婦人科腫瘍に対する放射線治療に関する知識を学ぶ。(DP「知識・理解」に対応)

達成目標

周産期学婦人科学

各授業で設定されている到達目標について説明することができる。

炎症病理学

上記疾患の病理病態について説明することができる。

放射線腫瘍学

各授業で設定されている到達目標について説明することができる。

成績評価の方法と基準

講義出席状況および筆記試験の成績により、評価する。また、病理学（等）実習の終了の認定を受けていない場合、筆記試験の受験資格は与えられない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

回	項目	内 容	担当者
1	症候	女性生殖器 不正性器出血、乳汁漏出、膣分泌物異常、性交障害をきたす疾患 について説明できる。	周産期学婦人科学
2	診断と検査	産婦人科の問診及び診察法 1) 女性患者の問診 2) 婦人科領域の診察法 3) 婦人科領域の検査法	周産期学婦人科学
3	診断と検査	婦人科疾患の診断	周産期学婦人科学
4		1) 子宮頸部・内膜の細胞診と組織診の所見が概説できる。	
5		2) 腫瘍マーカーの測定値の意味を説明できる。 3) 骨盤内臓器、腫瘍の画像所見を概説できる。	
6	疾患	女性生殖器疾患	周産期学婦人科学
7		女性生殖器の悪性疾患の症候、診断と治療が概説できる。	
8		1) 子宮頸部腫瘍	
9		2) 子宮体部腫瘍 3) 卵巣腫瘍 4) 絨毛性疾患	
10	疾患	外陰部・膣疾患・膣と骨盤内感染症の症候、診断と治療が概説できる。	周産期学婦人科学
11	正常妊娠・分娩・産褥	1) 正常妊娠の診断、生理、経過について説明できる。	周産期学婦人科学
12		2) 胎児・胎盤系の機能、形態、検査法について説明できる。	
13		3) 胎児出生前診断（超音波検査法）所見について概説できる。	
14		4) 正常分娩の経過について概説できる。 5) 正常産褥経過について概説できる。	

15	疾患	異常妊娠	周産期学婦人科学
16		1) 妊娠初期の異常の診断・治療を説明できる。	
17		2) 妊娠中・後期の異常の診断・治療を説明できる。	
18		3) 多胎妊娠の診断・管理について説明できる。 血液型不適合妊娠の診断・管理について説明できる。	
19	更年期	更年期障害の機序と診療を説明できる。	周産期学婦人科学
20			
21	疾患	異常妊娠・産褥	周産期学婦人科学
22		1) 主な合併症妊娠の病態、管理および治療を説明できる。	
		2) 妊娠高血圧症候群の診断・管理を説明できる。	
		3) 産科感染症の診断と治療について説明できる。	
		4) 主な異常産褥の病態を説明できる。	
23	疾患	男性生殖器（陰茎・精巣・前立腺）疾患の病理について概説できる。	炎症病理学
24			
25	実習	男性生殖器疾患の病理実習	炎症病理学
26			
27	疾患	異常分娩・産褥	周産期学婦人科学
28		1) 異常分娩の管理と処置について説明できる。 2) 胎児機能不全の診断と処置について説明できる。	
29	疾患	異常分娩・産褥	周産期学婦人科学
30		1) 主な産科手術について概説できる。 産科救急（ショック・DIC）の病態と治療を説明できる。	
31	疾患	不妊症の病態および治療について説明できる。	周産期学婦人科学
32			
33			
34	疾患	女性生殖器（子宮・卵巣）疾患の病理について概説できる。	炎症病理学
35			
36			
37	実習	女性生殖器疾患の病理実習	炎症病理学
38			
39			
40	婦人科腫瘍 に対する放 射線治療	1) 放射線治療の原理、目的、方法について説明できる。 2) 代表的な疾患に対する治療方針と治療成績を説明できる。 3) 放射線治療による急性期、晩期有害事象について説明できる。	放射線腫瘍学

教科書・参考書等

周産期学婦人科学

Novs' s Gynecology 13th ed. Bepferk Lippincott Williams and wilkins
Williams Obstetrics 21th ed. McgrawHill Medical Pablising Division
最新産科学 正常編、異常編 荒木勉 文光堂

炎症病理学

ロビンス基礎病理学 Vinay Kumar et al. 丸善出版
組織病理アトラス 小池盛雄 他 文光堂

放射線腫瘍学

放射線治療計画ガイドライン (2016年版) 日本放射線腫瘍学会 金原出版
標準放射線医学 (第7版) 西谷弘、他 医学書院
放射線治療学 (改訂5版) 井上俊彦、他 南山堂

オフィシアワー

授業科目名

小児ユニット

(英文併記 Pediatrics)

科目区分 統合講義

授業コード 760050

DPコード bcxM

単位数 3 時間割 前期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授	日下 隆 (小児科学)	准教授	下野 隆一 (小児外科学)
准教授	岡田 仁 (小児科学)	講師	岩瀬孝志 (小児科)
講師	安田真之 (総合周産期母子医療センター)		
助教	小谷野耕佑 (総合周産期母子医療センター)		
助教	西庄佐恵 (小児科学)	助教	中村信嗣 (小児科)
助教	小西行彦 (小児科学)	助教	近藤健夫 (小児科)
病院	加藤育子 (小児科)	助教	田中 彩 (小児外科学)
助教	藤井喬之 (小児外科学)		

その他担当講座教員、非常勤講師

授業の概要

小児ユニットは、小児科、小児成育外科が担当して行います。

「子どもは大人の縮図ではない」と表現されるように、小児期の特有な発達生理、病態生理学的見地に基づいた理解が重要です。小児に特異的に認められる疾患や現象が起こるのは、小児が全身の臓器組織が分裂や分化を活発に行う、成長及び発達の途上にあり、極めて動的で不安定なバランス上にいるためです。このため、胎児・新生児・乳児・幼児・学童・思春期・AYA (Adolescence and Young Adult) 世代等、成長・発達の異なる時期について、その特徴・問題点について学習を進めていく必要があります。

この成長・発達の特徴を理解したうえで、小児の救急疾患、急性期疾患、慢性期疾患について、成人とは違った点や問題点を知る必要があります。臓器別疾患においても、小児期の疾患の病態生理や治療の特徴や問題点について理解を深めていく必要があります。さらに、小児の外科疾患も、内科的治療とは違った観点から理解を深める必要があります。

近年、小児を取り巻く環境は、数年前と比べ大きく変化しています。小児保健を含む社会的な問題点も変化しており、新しい診断的検査法や治療法も導入されてきています。学習の基礎となる部分は、研究やエビデンスの積み重ねにより成り立っており、各講義は、教科書や文献等での既知の知識を再度確認することと、新しい知見を踏まえた内容で行います。

授業の目的

1. 胎児・新生児・乳幼児・学童期から思春期にかけての生理的成長・発達とその異常、特徴を学ぶ。
2. 小児保健をはじめ小児を取り巻く社会的な問題について学ぶ。

3. 小児の救急に関する特徴・問題点について学ぶ。
4. 成人とは違った臓器別疾患について、小児の特徴・問題点について学ぶ。
5. 小児の外科的疾患について学ぶ。

(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

各授業で設定された内容について説明することができる。

成績評価の方法と基準

授業の出席と、本ユニット最終日に行う試験成績をもって評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

各講義内容を理解する上で効率良い方法を取る。授業を中心に行う。

回	項目	内容
1	小児科学・新生児学	総論 小児の成長と発達、栄養について概説できる
2	新生児学	1) 出生の適応生理について概説できる
3		2) 新生児の診察について概説できる
4		2) 新生児黄疸について概説できる
5		3) 新生児呼吸障害について概説できる
6		4) 胎児・新生児の循環について概説できる
7		5) 垂直感染症・新生児感染症について概説できる
8		6) 周生期脳障害について概説できる
9		
10		7) 新生児消化器疾患について概説できる
11		小児科学： 先天異常・遺伝
12		
13		
14	小児科学：薬物代謝	小児領域の薬物代謝について概説できる
15	小児科学： 小児保健	1) マスクリーニング・統計について概説できる
16		2) 母子相互作用・母乳育児について概説できる
17		3) 予防接種について概説できる
18		4) 乳幼児健診・育児相談について概説できる
19	小児科学：	1) プライマリケア・小児救急について概説できる
20	小児救急	2) SIDS・虐待について概説できる
21	小児科学： 精神・神経	1) 乳児の発達について概説できる
22		2) 小児の発達障害について概説できる
23		3) 心身症について概説できる

24		4) 熱性けいれんについて概説できる
25		5) 脳炎・脳症・髄膜炎について概説できる
26		6) 小児のてんかんについて概説できる
27		7) 筋疾患について概説できる
28		1) 下垂体疾患について概説できる 成長ホルモン療法適応疾患について概説できる
29	小児科学：	2) 甲状腺、副甲状腺、Ca、P代謝疾患について概説できる
30	内分泌・代謝	3) 副腎・性腺疾患について概説できる
31		4) 糖代謝・小児糖尿病について概説できる
32		5) 先天代謝異常症について概説できる
33		1) 学校検尿について概説できる
34	小児科学：腎疾患	2) 腎・尿路系の先天異常症について概説できる
35		3) ネフローゼ症候群・IgA腎症について概説できる
36		1) 先天性心疾患について概説できる
37	小児科学：循環器	2) 学校検診（心電図異常）について概説できる
38		3) 後天性心疾患（心筋炎など）について概説できる
39	小児科学：感染症	小児発疹性疾患について概説できる
40		1) 川崎病について概説できる
41	小児科学：	2) 膠原病・自己免疫疾患について概説できる
42	免疫・アレルギー	3) 食物アレルギーについて概説できる
43		4) 先天性免疫不全症候群について概説できる
44	小児科学：	1) 遺伝性血液疾患（血友病など）について概説できる
45	血液・がん	2) 小児造血器腫瘍について概説できる
46		3) 小児がん（固形腫瘍）について概説できる
47	小児科学：呼吸器	1) 呼吸器感染症について概説できる
48		2) 気管支喘息について概説できる
49		1) 消化器疾患症候論について概説できる
50	小児科学：消化器	2) 肝胆膵疾患について概説できる
51		3) 消化管疾患の内科的治療について概説できる
52	小児科学：国際貢献	小児領域の国際医療について概説できる

小児成育外科

1		1) 小児外科学総論について概説できる
2		2) 基本的診療技術・技能について概説できる
3		3) 上部消化管疾患について概説できる
4	小児成育外科	4) 下部消化管疾患について概説できる
5		5) 新生児の外科的疾患について概説できる
6		6) 肝胆膵疾患について概説できる
7		7) 呼吸器疾患について概説できる

8		8) 小児がん（固形腫瘍）について概説できる
9		9) 外科的救急疾患について概説できる

教科書

小児科学

1. 小児科学 大関、近藤総編集、第3版 医学書院
2. 小児科 診断・治療指針 遠藤文夫 総編集 中山書店
3. 講義録 小児科学 佐地 勉 編集 Medical view
4. 新生児学 小川、多田ら編集 メディカ出版
5. ネルソン小児科学 衛藤 衛監修 原著第19版 エルゼビア・ジャパン

小児外科学

1. 標準小児外科学、第6版 医学書院

授業科目名

感染症ユニット

(英文併記 Infectious Diseases)

科目区分 統合講義 授業コード 706140 DPコード bcxM

単位数 1 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授	桑原知巳 (分子微生物学:テイルクター)	非常勤講師
教授	門脇則光 (血液免疫呼吸器内科)	山本雅裕 (大阪大学微生物病研究所 教授)
教授	秦 利之 (周産期学婦人科学)	江口 洋 (近畿大学医学部附属堺病院 准教授)
教授	星野克明 (免疫学)	
教授	窪田良次 (地域包括医療学)	客員准教授
准教授	新井明治 (国際医動物学)	横田恭子
准教授	田中宏和 (周産期学婦人科学)	
講師	坂東修二 (血液免疫呼吸器内科)	
講師	今滝 修 (血液免疫呼吸器内科)	
講師	今大路治之 (分子微生物学)	

授業の概要

感染症は全身のあらゆる臓器に発生しうる疾患であり、常に鑑別疾患として念頭に置く必要がある。感染症には特徴的な症状を呈するものもあるが、軽度な発熱のみで、確定診断が困難な場合も多い。感染症を適切に診断し、治療するためには、日常診療の中で遭遇する頻度の高い感染症について、その疫学、病原体の特徴、感染経路、特徴的な身体所見、診断法及び治療法を十分に整理しておく必要がある。また、高度先進医療の発展や高齢化にともない、易感染性宿主に発生する感染症についても十分な知識が要求される。細菌感染症の治療では抗菌化学療法が主体となるが、代表的な抗菌薬についての基礎的知識とともに、各感染症に対する抗菌薬の適正使用に関する考え方を理解する必要がある。不適切な抗菌薬の使用は、多剤耐性菌の発生リスクを増加させる。現在、医療現場では多剤耐性菌対策が急務となっている。これら多剤耐性菌の病院内および市中での蔓延を防止するためには、感染経路別予防策に対する正確な知識と実践が不可欠である。感染症ユニットでは、日常診療で遭遇する頻度の高い感染症として、血流感染、ブドウ球菌・連鎖球菌感染症についての講義を横田客員准教授が担当し、かぜ症候群及びインフルエンザについて血液免疫呼吸器内科が概説する。また、身近な感染症としてコンタクトレンズ装用に関連した前眼部感染症の講義を分子微生物学が担当する。抗菌化学療法については分子微生物学が主要抗菌薬の作用機序を説明し、感染症診療における実際的な抗菌化学療法について横田客員准教授が概説する。現在、医療現場で問題となっている代表的な多剤耐性菌に関する解説や感染対策の基礎と実際について分子微生物学が講義を担当する。結核は依然として重要な感染症であり、その臨床症状・診断・治療および予防法について分子微生物学が講義を行う。免疫抑制状態下での感染症の理解のため、病原体に対する生体防御システムについての講義を免疫学が担当し、免疫抑制患者における発熱性好中球減少症や感染対策についての臨床講義を血液免疫呼吸器内科が担当する。細菌・ウイルス以外の重要な病原体とその感染症として、真菌感染症については分

子微生物学が解説し、寄生虫感染症についての講義を国際医動物学が担当する。性行為感染症に関しては、病原体の特徴の解説を分子微生物学が担当し、周産期学婦人科学が STD の臨床症状・診断・治療および予防法について概説する。HIV/エイズの臨床に関する講義は地域包括医療学が担当する。近年、致死性の高いウイルス感染症の世界的流行が危惧されている。感染症法において 1 類感染症に分類されるエボラ出血熱などのウイルス性出血熱に関する講義を分子微生物学が担当する。

上述のように感染症ユニットは基礎・臨床両面から、代表的な感染症の特徴を理解できるよう編成されている。

授業の目的

感染症の原因となる病原体は多岐にわたる。感染症ユニットでは、統合講義を受講する医学部生が、日常診療において遭遇する頻度が高い感染症について、その臨床症状・診断・治療及び予防法に関する十分な知識を習得し、感染症診療を実践できる能力を養成することを目的としている。ある症例が提示され、感染症の鑑別診断が必要になった場合、感染臓器を推定し、可能性の高い原因微生物を列挙できるようになることが重要である。その臨床推論にもとづき、確定診断に必要な検査・有効な治療・二次感染を予防する対策を想起できるようになることが、本ユニットの主目的である。“発熱＝抗菌薬”のような適切な臨床推論を欠いた医療行為は、多剤耐性菌の出現リスクを上げ、様々な診療分野での治療に影響を及ぼし、医療経済にも大きな負担となる。代表的な多剤耐性菌が出現した背景やその出現メカニズムを理解し、適切な抗菌薬治療とは何かを講義を通じて理解して欲しい。また、多剤耐性菌は医療現場のみならず市中にも拡散しつつあり、その伝播を防止するための感染対策を理解し、実践できるようになることが重要である。健常人が発症する市中感染症と抗がん剤治療を受けている患者やエイズ患者のような易感染性宿主における日和見感染症では、その原因微生物や臨床経過に大きな違いがある。免疫防御機構の破綻のメカニズムを理解し、臨床的背景にもとづいて起炎菌の推定や治療法の選択ができることも本ユニットでの到達目標である。また、性行為感染症 (STD) については、梅毒など急増しているものもあり、各 STD の臨床症状・診断・治療および予防法に関する知識を習得する機会を設けた。HIV 感染症/エイズは感染症診療における重要な鑑別疾患であり、その基礎・臨床についての理解を深めなければならない。その他、診療上遭遇する頻度の比較的高い真菌症や寄生虫感染症について解説する講義を設けている。特徴的な症状から真菌感染症や寄生虫疾患を疑い、適切な検査を実施して診断・治療へと至るプロセスを理解して欲しい。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

- ・一般臨床で遭遇する代表的な感染症の臨床症状・診断・治療のポイントを理解する。
- ・抗菌薬の副作用について説明できる。
- ・代表的な抗菌薬の作用機序と耐性機構を説明できる。
- ・医療現場で問題となっている多剤耐性菌を列挙できる。
- ・深在性真菌症の原因となる真菌を列挙できる。
- ・代表的な抗真菌薬の作用機序について説明できる。
- ・感染の 3 要素について説明できる。
- ・空気感染・飛沫感染・接触感染について説明できる。
- ・標準予防策・空気感染予防策・飛沫感染予防策・接触感染予防策について説明できる。
- ・結核の臨床症状・診断・治療および予防法について説明できる。
- ・細菌感染やウイルス感染に対する免疫応答を説明できる。

- ・免疫抑制患者に合併しやすい日和見感染症について、その背景にある免疫病態をもとに概説できる。
- ・発熱性好中球減少症について説明できる。
- ・発熱性好中球減少症の初期対応について説明できる。
- ・かぜ症候群の臨床的特徴と関与する微生物について述べるができる。
- ・インフルエンザ感染症の診断と治療について述べるができる。
- ・代表的な寄生虫疾患の感染経路・病態・症候・診断・治療について説明できる。
- ・性器クラミジア感染症の病原体の特徴を説明できる。
- ・梅毒の病原体・感染経路・病態・症候・診断・治療について説明できる。
- ・性行為感染症 (STD) を列挙できる。
- ・STD の診断・治療・予防法が説明できる。
- ・HIV 感染症/エイズの疫学・病態・症候・治療について説明できる。
- ・ウイルス性出血熱について説明できる。

成績評価の方法と基準

講義への出席状況、受講態度およびユニット終了後のテスト成績により総合的に判断する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

授業計画は以下の通りである。各講義では必要に応じて講義資料を配布するが、講義に出席して聴講しなければその内容を理解することは不可能である。各講義の前にはあらかじめ講義内容についての予習を行い、聴講後は速やかに参考図書や資料を活用して知識を整理し、十分な自主学習を行うことが重要である。

回	項目	内容	担当者
1	感染症学概論	感染症ユニットでの講義概要を説明する。	分子微生物学
2	血流感染症	血流感染をきたす感染症を中心に重症感染症について概説する。	横田
3	ブドウ球菌・連鎖球菌感染症	ブドウ球菌・連鎖球菌による代表的な感染症について概説する。	横田
4	抗菌薬基礎	代表的な抗菌薬の作用機序について概説する。	分子微生物学
5	多剤耐性菌	現在問題となっている多剤耐性菌の薬剤耐性機構について概説する。	分子微生物学
6	感染免疫①	感染症について、病原体が感染する仕組みと、感染した時の生体防御反応について概説する。	免疫学
7	感染免疫②		免疫学
8	感染症診療における抗菌剤の使用法①	臨床現場における抗菌薬の使用法を理解する。	横田
9	感染症診療における抗菌剤の使用法②		横田
10	消化器系寄生虫症	遭遇する頻度が高い寄生虫疾患について概説する。	国際医動物学
11	消化器系以外の寄生虫症		国際医動物学
12	真菌感染症①	カンジダ症・アスペルギルス症・クリプトコッカス症・ニューモシスチス肺炎について概説する。	分子微生物学
13	真菌感染症②		分子微生物学
14	クラミジア・スピロヘータ	性行為感染症に関連するクラミジア・スピロヘータの細菌学的特徴について概説する。	分子微生物学
15	角膜感染症	コンタクトレンズ関連感染症を中心に、角結膜感	分子微生物学

		染症について概説する。	
16	ウイルス性呼吸器疾患①	かぜ症候群について概説する。	血液免疫呼吸器内科
17	ウイルス性呼吸器疾患②	インフルエンザ感染症について概説する。	血液免疫呼吸器内科
18	性感染症 (STD)	性行為感染症 (STD) の概念およびSTDの診断・治療・予防について概説する。	周産期学婦人科学
19	感染対策の基礎	病院感染対策の基礎と実際について、事例を用いながら概説する。	分子微生物学
20	感染対策の実際		分子微生物学
21	発熱性好中球減少症	がん化学療法後に起こる好中球減少に伴う発熱の対策について概説する。	血液免疫呼吸器内科
22	免疫抑制患者の感染症	造血幹細胞移植を受ける免疫抑制状態患者での感染症対策について概説する。	血液免疫呼吸器内科
23	HIV 感染症/エイズ	HIV 感染症/エイズについて最新の知見を概説し、HIV 感染症/エイズの基礎・臨床について概説する。	地域包括医療学
24	結核	結核の臨床症状・診断・治療および予防法について概説する。	分子微生物学
25	ウイルス性出血熱	エボラ出血熱ウイルスなど、1類感染症に分類されるウイルス性出血熱について概説する。	分子微生物学

教科書・参考図書

- ・ 微生物学 -基礎から臨床へのアプローチ- (神谷 茂、河野 茂 監訳) メディカルサイエンスインターナショナル
- ・ 感染症まるごと この一冊 (矢野晴美 著、南山堂)
- ・ 吉田幸雄ほか. 図説人体寄生虫学. 第8版, 南山堂, 2011.
- ・ 発熱性好中球減少症 (FN) 診療ガイドライン
- ・ 造血幹細胞移植患者の日和見感染予防のためのガイドライン
- ・ レジデントのための感染症診療マニュアル (青木 眞 著、医学書院)
- ・ 絶対わかる抗菌薬はじめの一步 (矢野晴美 著、羊土社)
- ・ 熊ノ郷淳ほか. 「免疫学コア講義, 改訂3版」. 南山堂, 2012.

オフィスアワー

担当教員にアポイントメントを取ること。

授業科目名

腎泌尿器ユニット

(英文併記 Urology・Nephrology unit)

科目区分 統合講義 授業コード 706040 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授 笥 善行 (泌尿器科学)

教授 今井田克己 (腫瘍病理学)

教授 柴田 徹 (放射線治療科)

准教授 杉元 幹史 (泌尿器科学)

講師 祖父江 理 (循環器・腎臓・脳卒中内科学) (ディレクター)

学内講師 西島 陽子 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)

助教 常森 寛行 (泌尿器科学) (チーフディレクター)

担当講座のその他の教員

授業の概要

腎・尿路系は、尿生成の場である腎臓から尿管、膀胱、尿道への尿排泄経路をカバーする。臨床系授業では、腎臓に関連して、発生異常に始まり、糸球体疾患、尿細管機能異常、間質性腎疾患、腫瘍および糖尿病、膠原病など全身性疾患による腎障害に言及し、最後に腎不全治療として透析医療と腎移植をとり上げている。また尿路疾患については、尿路の腫瘍・外傷、結石、感染症などが解説される。さらに、腎臓は水・電解質の交換の場であることから、体液・電解質バランスの調節機構も重要な学習課題である。症候論としては、検尿異常、肉眼的血尿、排尿障害を取り上げ、内科的、泌尿器科的観点からの講義が予定されている。

授業の目的

腎臓・尿路系の構造と機能を理解し、主な疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。

(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

各授業にそれぞれ到達すべき目標を設定している。これらには、医学教育モデル・コアカリキュラムに掲げられた腎・尿路系で学習すべき到達目標に加えて独自の目標が設定されている。

成績評価の方法と基準

講義終了後のペーパー試験と病理実習試験にて評価する。

腎尿路系実習試験 7月18日

腎尿路系試験 9月4日

授業計画並びに授業及び学習の方法

回	項目	内容	担当者
1	女性泌尿器疾患	1) 過活動膀胱の症候、診断と治療を説明できる。 2) 尿失禁の分類、症候、診断と治療を説明できる。 3) 骨盤臓器脱の症候、診断と治療を説明できる。 4) 間質性膀胱炎を概説できる。	泌尿器科
2	男性不妊・ED	男性不妊・EDの原因、診断と治療を説明できる。	泌尿器科
3	急性腎不全	急性・慢性腎不全 急性・慢性腎不全の鑑別、急性腎不全の原因、症候、診断と治療を説明できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
4	腫瘍 (1) 前立腺癌	前立腺癌の症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科
5	腫瘍 (2) 腎癌、尿路上皮癌	1) 腎癌の症候、診断と治療を説明できる。 2) 尿路上皮癌の症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科
6	腎泌尿器腫瘍に対する 放射線療法	1) 放射線治療の原理、目的、方法について説明できる。 2) 泌尿器系の悪性腫瘍に対する放射線治療の適応について説明できる。 3) 代表的な疾患に対する治療効果や治療成績について説明できる。 4) 放射線治療による急性期、晩期有害事象について説明できる。	放射線治療科
7	尿路結石	尿路結石の成因、症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科
8	STD	性行為感染症の原因、症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科
9	腎移植	1) 腎移植の適応、治療と合併症を説明できる。 2) 改正臓器移植法を説明できる。	泌尿器科
10	病理診断	腎・尿路系の病理	腫瘍病理学
11		腎癌、膀胱癌の組織分類とその代表的組織型及び各々の補助的診断法について説明できる。	
12			
13	病理診断	腎・尿路系の病理実習	腫瘍病理学
14		腎細胞癌、腎芽腫および膀胱癌の病理組織学的特徴を説明できる。	
15			
16	全身疾患による腎障害	全身性疾患による腎障害 1) 糖尿病と腎臓病の発症、進展機序を説明できる。 2) 高血圧と腎臓病の発症、進展機序を説明できる。 3) ループス腎炎の症候、診断と治療を説明できる。 4) アミロイド腎の症候、診断と治療を説明できる。 5) 紫斑病性腎炎を概説できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
17	排尿障害	排尿障害の原因、症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科

18	肉眼的血尿	1) 肉眼的血尿の原因を列举できる。 2) 肉眼的血尿を来たした患者の診断の要点を説明できる。	泌尿器科学
19	腫瘍 (3) 副腎腫瘍、精巣腫瘍 陰茎癌	1) 副腎腫瘍の症候、診断と治療を説明できる。 2) 精巣腫瘍の症候、診断と治療を説明できる。 3) 陰茎癌の症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科学
20	尿路感染症	尿路感染症の原因、症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科学
21	外傷	腎外傷の症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科学
22	疾患	電解質代謝異常	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
23	水電解質異常/ 酸・塩基平衡	1) 水電解質の調節機構を概説できる。 2) 高・低ナトリウム血症を概説できる。 3) 高・低カリウム血症を概説できる。 4) 高・低カルシウム血症を概説できる。 5) 高・低リン血症と高・低クロール血症を概説できる。 アシドーシス・アルカローシス 1) 酸・塩基平衡の調節機構を概説できる。 2) アシドーシス・アルカローシスの定義、病態生理と診断を説明できる。 3) アシドーシス・アルカローシスの治療を概説できる	
24	慢性腎不全・腎代替療法	慢性腎不全 慢性腎不全の治療（透析）を説明できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
25	尿細管機能異常	尿細管機能異常 1) 尿細管性アシドーシスの分類、病態生理、診断と治療を説明できる。 2) 尿細管障害を呈する疾患について、症候と診断を説明できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
26	症候論 検尿異常(血尿・蛋白尿)	血尿・蛋白尿（検尿異常） 1) タンパク尿の原因と病態を説明できる。 2) タンパク尿を呈する患者の診断の要点を説明できる。 3) 血尿の原因を列举できる。 4) 血尿を来たした患者の診断の要点を説明できる。	循環器腎臓脳 卒中内科学 泌尿器科学
27	休講		
28	病理診断	腎・尿路系の病理	腫瘍病理学
29		慢性糸球体腎炎、腎盂腎炎及び萎縮腎の組織像を観察し、それぞれの特徴を説明できる。	
30			
31	病理診断	腎・尿路系の病理実習	腫瘍病理学
32		1) 原発性糸球体疾患の形態学的分類とその特徴について説明できる。	
33		2) 腎盂腎炎や腎不全等の原因とそれに伴う形態学的変化について説明できる。	

34	病理診断	腎・尿路系の病理	腫瘍病理学
35		糖尿病性腎症、ループス腎炎の組織像を観察し、各々の特徴を説明できる。	
36			
37	病理診断	腎・尿路系の病理実習	腫瘍病理学
38		糖尿病性腎症、エリテマトーデス腎症およびD I Cの腎の病理組織学的所見を説明できる。	
39			
40	病理診断	腎・尿路系の病理実習 予備	腫瘍病理学
41	休講		
42	原発性糸球体疾患	原発性糸球体疾患	循環器腎臓脳
43		1) 急性糸球体腎炎症候群の原因、症候、診断と治療を説明できる。 2) 慢性糸球体腎炎 (IgA 腎症を含む) の症候、診断と治療を説明できる。 3) 急速進行性腎炎症候群を概説できる。 4) 腎生検の適応と禁忌を説明できる	卒中内科学・ 泌尿器科学
44	ネフローゼ症候群	ネフローゼ症候群	循環器腎臓脳
		1) ネフローゼ症候群の分類、症候、診断と治療を説明できる。 2) 微少変化型ネフローゼ症候群の症候、診断と治療を説明できる。 3) 膜性腎症の症候、診断と治療を説明できる。 4) 巣状糸球体硬化症の症候、診断と治療を説明できる	卒中内科学・ 泌尿器科学
45	休講		
46			
47	実習試験		腫瘍病理学
48	腎・泌尿器試験		泌尿器科学他

教科書・参考書等

辞 書

1. ドーランド図説医学大辞典 廣川書店
2. ステッドマン医学大辞典 メディカルビュー社
3. コスタンゾ著 明解生理学 エルゼビア社

成 書

1. 一目でわかる 水電解質 (第二版) 飯野 靖彦 メディカル・サイエンス・インターナショナル
2. 腎疾患治療のエビデンス. 黒川清監修、吉村吾志夫、南学正臣編集、文光堂
3. 黒川清 著. 水・電解質と酸塩基平衡—Step by step で考える (Short seminars). 南江堂, 2004

オフィスアワー

随時対応するが、事前に各担当講座に連絡してアポイントメントを取ることを。

授業科目名

血液系ユニット

(英文併記 Hematology)

科目区分 統合講義 授業コード 706100 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 後期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授 門脇 則光 (血液・免疫・呼吸器内科学)

教授 上野 正樹 (炎症病理学)

講師 今滝 修 (血液・免疫・呼吸器内科学)

助教 植村麻希子 (血液・免疫・呼吸器内科学)

非常勤講師 大西 宏明 (高松赤十字病院 副院長 血液内科部長)

非常勤講師 川上 公宏 (香川県立中央病院 院長補佐 血液・腫瘍内科部長)

非常勤講師 中村 洋之 (坂出市立病院 副院長 呼吸器内科部長)

非常勤講師 小川 高史 (東海大学医学部 講師)

授業の概要

血液系ユニットでは、血液疾患の病態・診断・治療と、これらを理解するのに必要な造血系・リンパ系の生理学と病理学を学ぶ。

血液病学総論の後、血液細胞の3系統をなす赤血球、白血球、血小板の順に授業を構成し、赤血球では種々の貧血性疾患、白血球では白血病・悪性リンパ腫などの造血器腫瘍、血小板では液性因子を含めた凝固・線溶系を主体に講義する。これらと並行して、造血器腫瘍を主体とした血液病理の講義と実習を行う。このように理論と形態の両面から血液疾患の理解を深める。

血液疾患は全身疾患であり、その病態は多様である。また血液や骨髄液の得やすさから研究が進み、形態学とともに免疫学のおよび分子生物学的手法が、病態解析や診断に広く取り入れられている。さらに、これらが新たな分子標的薬や抗体医薬の開発に直結している。

また、造血器腫瘍に特有の治療法である造血幹細胞移植は、抗腫瘍薬と抗腫瘍免疫反応によって難治性の造血器腫瘍を治癒に導く究極の治療であるとともに、様々な合併症を伴う。とりわけ、原疾患やそれに対する強力な治療による免疫能の低下は重篤な感染症を引き起こす。したがって、感染症治療は血液診療の重要な要素である。

このように診断・治療において多様な側面をもつ血液疾患を、総論、疾患各論、病理学、抗腫瘍薬物療法、造血幹細胞移植、感染対策というコンポーネントに分けて解説し、血液疾患の全体像を把握できるように授業を進める。

内科的治療のみで悪性腫瘍を治癒に導ける希少な領域であるとともに、造血異常や凝固異常という多面性も兼ね備えた血液病学の面白さを学生諸君に伝えたい。

授業の目的

血液疾患の背景にある生理学と病理学をベースとして、腫瘍性疾患と非腫瘍性疾患（造血異常・凝固異常）、形態学・免疫学・分子生物学に基づく診断、化学療法薬・分子標的薬・造血幹細胞移植などの治療法という病態・診断・治療の枠組みを理解し、実地臨床に向けた基盤を固める。（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応）

達成目標

1. 造血系・リンパ系の正常構造と機能を説明できる。
2. 各血球の形態と機能を説明できる。
3. 血球の発生・分化と造血因子の種類・機能を説明できる。
4. 貧血（の疾患名）を成因に基づいて分類・列挙できる。
5. 貧血の診断・治療を成因に関連づけて説明できる。
6. 造血器腫瘍のWHO分類の趣旨が理解できる。
7. 急性白血病におけるFAB分類とWHO分類の概念の違いが理解できる。
8. 造血器腫瘍における主要な染色体異常・分子遺伝学的異常を説明できる。
9. 造血器腫瘍の治療法を列挙できる。
10. 各造血器腫瘍の治療方針が理解できる。
11. 主要な化学療法薬を作用機序に基づいて分類できる。
12. 化学療法薬の主要な副作用を列挙できる。
13. 主要な分子標的薬を列挙し、作用機序を説明できる。
14. 造血幹細胞移植の治療理念と方法を説明できる。
15. 止血・凝固・線溶過程に必要な因子と機能を説明できる。
16. 止血・凝固・線溶に関する検査を列挙できる。
17. 止血・凝固・線溶異常疾患名を病因に基づいて列挙できる。
18. 止血・凝固・線溶異常の予防・治療法を列挙できる。

成績評価の方法と基準

1. 講義の出席状況を評価する。
2. 病理組織実習の修了認定を受けていない者は、本試験受験資格は与えられない。
3. 講義・実習の終了後、本試験を行う。
4. 上記の評価を総合して可否の判定を行う。

授業計画並びに授業及び学習の方法

講義の進め方は担当者によってある程度異なるが、前回の講義の復習小テストを行うとともに、今回の講義のポイントを記載したプリントを配布するなど、理解を助ける工夫を取り入れる。

授業中に血液病学のすべてを網羅することはできない。講義内容を軸に適切なテキストで復習し、授業のポイントとその周辺事項を頭に定着させるよう自学自習する。

回	項目	内容	担当者
1	総論	血液病学総論	門脇
2	血液病理	リンパ筋炎の病理	上野
3		特別講義 骨髄疾患の病理 (1)	小川 (東海大学)
4	白血球	造血器腫瘍総論	門脇
5	赤血球	貧血 (1)	今滝
6		貧血 (2)	今滝
7	血液病理	悪性リンパ腫の病理	上野
8		骨髄疾患の病理 (2)	上野
9	赤血球	再生不良性貧血・発作性夜間血色素尿症	今滝
10		溶血性貧血	今滝
11	白血球	急性白血病 (1)	門脇
12		急性白血病 (2)	門脇
13		骨髄異形成症候群	門脇
14		骨髄増殖性腫瘍	門脇
15	感染対策	特別講義 院内感染対策と抗菌薬の適正使用 (1)	中村 (坂出市立病院)
16		特別講義 院内感染対策と抗菌薬の適正使用 (2)	中村 (坂出市立病院)
17	造血幹細胞移植	特別講義 造血幹細胞移植 (1)	大西 (高松日赤)
18		特別講義 造血幹細胞移植 (2)	大西 (高松日赤)
19	白血球	成熟リンパ系腫瘍：悪性リンパ腫 (1)	門脇
20	抗腫瘍薬物療法	特別講義 血液がんに対する薬物療法 (1)	川上 (香川県中)
21		特別講義 血液がんに対する薬物療法 (2)	川上 (香川県中)
22	白血球	成熟リンパ腫瘍：悪性リンパ腫 (2)	門脇
23		成熟リンパ腫瘍：悪性リンパ腫 (3) CLL, ATL	門脇
24		成熟リンパ腫瘍：多発性骨髄腫と類縁疾患	門脇
25	血液病理	血液病理実習	炎症病理
26		血液病理実習	炎症病理
27		血液病理実習	炎症病理
28	凝固系	症候学：出血傾向	植村
29		止血・凝固 (1)	植村
30		止血・凝固 (2)	植村

教科書

Wintrobe's Clinical Hematology (Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia)

Williams Hematology (McGraw-Hill, New York)

WHO Classification of Tumours of Haematopoietic and Lymphoid Tissues 4th ed. (WHO PRESS, Geneva)

ハーバード大学テキスト 血液疾患の病態生理 (奈良信雄 訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル)

STEP SERIES 内科 ②感染症・血液（高橋茂樹 著、海馬書房）

病気がみえる vol.5 血液（MEDIC MEDIA）

血液細胞アトラス 第5版（三輪史朗・渡辺陽之輔 著、文光堂）

オフィスアワー

在室時は随時対応します。あらかじめメールでアポイントを取って下さい。

血液・免疫・呼吸器内科医局 ichinai@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

皮膚感覚系ユニット

(英文併記 Dermatology-esthematology unit)

科目区分 統合講義 授業コード 706120 DPコード bcxM

単位数 4 時間割 後期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授	今井田 克己 (腫瘍病理学)	准教授	横平 政直 (腫瘍病理学)
教授	窪田 泰夫 (皮膚科学)	助教	森上 純子 (皮膚科学)
講師	森上 徹也 (皮膚科学)	講師	中井 浩三 (皮膚科学)
教授	永竿 智久 (形成外科学)	助教	濱本 有祐 (形成外科学)
助教	玉井 求宜 (形成外科学)	助教	木暮 鉄邦 (形成外科学)
准教授	廣岡 一行 (眼科学)	講師	白神 千恵子 (眼科学)
助教	山下 彩奈 (眼科学)	助教	藤田 智純 (眼科学)
助教	新田 恵里 (眼科学)	助教	小野 葵 (眼科学)
教授	星川 広史 (耳鼻咽喉科学:ディレクター)	准教授	宮下 武憲 (耳鼻咽喉科学)
講師	印藤 加奈子 (耳鼻咽喉科学)	助教	岸野 毅日人 (耳鼻咽喉科学)
助教	森 照茂 (耳鼻咽喉科学)	助教	秋山 貢佐 (耳鼻咽喉科学)
助教	稲本 隆平 (耳鼻咽喉科学)	非常勤講師	荻野 敏 (耳鼻咽喉科学)
非常勤講師	日比野 浩 (耳鼻咽喉科学)		
教授	柴田 徹 (放射線腫瘍学)	助教	高橋 重雄 (放射線腫瘍学)
教授	三宅 実 (歯科口腔外科学)	准教授	大林 由美子 (歯科口腔外科学)
学内講師	小川 尊明 (歯科口腔外科学)	助教	岩崎 昭憲 (歯科口腔外科学)
助教	中井 史 (歯科口腔外科学)		

授業の概要

皮膚科関連領域では、皮膚が内外環境の様々な刺激や感染を常に受け、また身体内部の機能異常が反映する臓器であることから、主要な皮膚疾患の病因と病態、検査と診断、治療ならびに内臓病変との関連を理解することが重要となる。形成外科学関連領域では、人体発生や解剖生理の知識を基礎に、身体表面に現れた先天的・後天的変形により生じる不利益を理解し、形態的・機能的回復を図るための治療方法について学習する。眼科関連領域では、一般の医師として必要な眼科学の知識と技能を修得することにある。眼はきわめて微細な構造をして精密な機能を有する器官であることを認識し、眼科固有の疾患および他臓器と関連する眼疾患を理解する。耳鼻咽喉科関連領域では、耳科学・鼻科学・咽喉頭科学および頭頸部外科学に関して、初期医療に必要な基礎的な知識の習得や診療技術を獲得することにある。歯科口腔外科関連領域では、食物摂取、咀嚼、味覚、発音など多くの機能に関与する口腔の構造および機能の把握により健康保持増進のための口腔の役割を理解したうえで主要疾患について学習する。

授業の目的

皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系の構造と機能を理解し、主な疾患の病態生理、原因、症候、診断および治療について学ぶ。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)

達成目標

各授業にそれぞれ到達すべき目標を設定している。これらには、医学教育モデル・コアカリキュラムに掲げられた皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系で学習すべき到達目標が含まれている。皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系に関連する症候については医学教育モデル・コアカリキュラムの項 (WEB シラバス) を参照する。

(耳鼻・咽喉・口腔系：D-14-1～4, F-1-9, 19)

成績評価の方法と基準

総合試験は、(1) 皮膚科／形成外科、(2) 眼科／耳鼻咽喉科／放射線治療科／歯科口腔外科 (3) 腫瘍病理学 (実習) に分けて行う。再試験は全科で実施する。各科目および全体を通じて3分の2の出席が必要である。もし3分の2以上の出席がない場合は、総合試験も再試験も受験できない。したがって、留年ということになり、進級できない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

各科の講義において配布するプリントや症例等の提示、マルチメディアによる情報提示等により学習をする。実習においてはこの他に実技実習やプレパラート観察等での学習を行う。特に皮膚科ではスライドによる皮膚疾患の臨床像の提示が多いので注目してほしい。多くの疾患が限られた時間に紹介される。各科とも予習が重要である。

回数	項目	達成目標	担当者
1	皮膚の構造と機能	1) 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 2) 皮膚の細胞動態と角化、メラニン形成の機構を説明できる。 3) 皮膚の免疫防御能を説明できる。 4) 皮脂分泌・発汗・経皮吸収を説明できる。	皮膚科 (中井)
2	発疹学と皮膚科検査	1) 発疹の性状を診断し、記載する。原発疹と続発疹を区別する。 2) 皮膚検査法 (硝子圧法、皮膚描記法、ニコルスキー現象、ツアング試験、皮脂測定法、生検法など) を概説できる。 3) 皮膚アレルギー検査法 (プリックテスト、皮内反応、パッチテスト) を説明できる。 4) 微生物検査法 (検体採取法、苛性カリ検鏡法、細菌・真菌培養法) を概説できる。	皮膚科 (窪田)
3	皮膚癌とメラノーマ	1) 皮膚癌ならびに悪性黒色腫の病態、症候と治療法を説明できる。	皮膚科 (沼原)
4	母斑、良性腫瘍と色素異常	1) 母斑・母斑症の種類を列挙できる。 2) 尋常性白斑の種類と病態を説明できる。 3) 皮膚良性腫瘍、前癌状態の種類と見分け方を説明できる。 4) 皮膚悪性リンパ腫、血管肉腫と組織球症を説明できる。	皮膚科 (森上徹)

5	皮膚附属器疾患	1) 皮膚附属器疾患（脱毛症、ざ瘡）の病態、症候と治療法を説明できる。	皮膚科（白髭）
6	乾癬と角化症	1) 尋常性乾癬、扁平苔癬とジベルばら色ひ糠疹の病態、症候と治療を説明できる。 2) 角化症の病態、症候と治療を説明できる。	皮膚科（窪田）
7	水疱症と膿疱症	1) 自己免疫性水疱症の原因、病態と分類を説明できる。 2) 膿疱症の種類と病態を説明できる。 3) 水疱症鑑別のための検査法を説明できる。 4) 先天性表皮水疱症の種類と病態を説明できる。	皮膚科（森上徹）
8	湿疹・皮膚炎群、薬疹・蕁麻疹、紅斑症	1) 湿疹反応を説明できる。 2) 湿疹・皮膚炎群の疾患（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、貨幣状皮膚炎、皮脂欠乏性湿疹）を列挙し、概説できる。 3) 薬疹や薬物障害の発生机序、症候と治療を説明できる。 4) 蕁麻疹の病態、診断と治療を説明できる。 5) 紅斑症の病態、診断と治療を説明できる。	皮膚科（窪田）
9	紫斑と血管炎、肉芽腫、代謝異常症	1) 皮膚血流障害と紫斑、血管炎の原因、症候と病態を説明できる。 2) 肉芽腫性疾患、代謝異常症の病態、症候を説明できる。	皮膚科（窪田）
10	皮膚感染症 1	1) 皮膚表在性と深在性真菌症の症候と病型、治療法を説明できる。 2) 皮膚ウイルス感染症の症候と病型、治療法を説明できる。	皮膚科（森上純）
11	皮膚感染症 2	1) 皮膚細菌感染症（伝染性膿痂疹、せつ、よう、毛囊炎、丹毒、ぶどう球菌性熱傷様皮膚症候群）を列挙し、概説できる。 2) 皮膚結核、ハンセン病の症候、病型と原因菌を説明できる。 3) 梅毒の症候、病期と合併症を説明できる。	皮膚科（窪田）
12	膠原病／全身と皮膚	1) 皮膚所見からみた膠原病の診断と治療について説明できる。 2) 内科疾患と皮膚病変（デルマドローム）について説明できる。	皮膚科（中井）
13	形成外科総論 基本的手技	形成外科で用いる基本手技について概説し、基本的な手技を行える。	形成外科（永竿）
14	四肢・体幹部・その他	1) 四肢・体幹部における形成外科的疾患を列挙できる。 2) 形成外科で扱う主な四肢・体幹部疾患を説明できる。 3) 褥瘡・リンパ浮腫・熱傷・その他形成外科的疾患について理解する。	形成外科（永竿）
15	顔面の発生・先天異常	1) 鰓弓・鰓嚢の分化と頭・頸部と顔面・口腔の形成過程を概説できる。 2) 顔面の先天性疾患を列挙できる。 3) 形成外科で扱う主な顔面の先天性疾患を説明できる。	形成外科（玉井）

16	顔面外傷・顔面骨折	顔面外傷、顔面骨折の症候、診断と治療法を説明できる。	形成外科（玉井）
17	皮膚腫瘍・母斑・血管腫	形成外科で扱う代表的な皮膚腫瘍の症候、診断と治療を説明できる。	形成外科（木暮）
18	腫瘍切除後再建	形成外科的再建方法について概説できる	形成外科（濱本）
19	組織の再生・創傷治癒	1) 組織の再生の機序を説明できる。 2) 組織の再生と創傷治癒について理解する。 3) 瘢痕とケロイドについて理解する。	形成外科（濱本）
20	美容外科	1) 美容外科について理解する 2) 主な美容外科手技について概説できる	形成外科 （永竿・他）
21	皮膚の病理 1（講義）	皮膚の母斑および腫瘍の代表的疾患を列挙し、その組織学的特徴を説明できる。	腫瘍病理学 （今井田・他）
22			
23			
24	皮膚の病理 1（実習）	1) 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 2) 皮膚病理学的用語を列挙し、説明できる。	腫瘍病理学 （今井田・他）
25			
26			
27	皮膚の病理 2（講義）	皮膚の母斑および腫瘍の代表的疾患を列挙し、その組織学的特徴を説明できる。	腫瘍病理学 （今井田・他）
28	皮膚の病理 2（実習）	1) 皮膚の組織学的構造を図示して説明できる。 2) 皮膚病理学的用語を列挙し、説明できる。	腫瘍病理学 （今井田・他）
29	眼科総論 1	眼球と付属器の構造と機能を説明できる。	眼科（廣岡）
30	眼科総論 2	眼球と付属器の構造と機能を説明できる。	眼科（廣岡）
31	眼科総論 3	対光反射、輻輳反射、角膜反射の機能について説明できる。	眼科（廣岡）
32	眼科各論 1	網膜疾患、黄斑疾患の代表的疾患を列挙し、その症候、診断、治療ができる。	眼科（白神）
32	眼科各論 2	糖尿病網膜症の症候、診断、治療が詳細に説明できる。	眼科（藤田）
34	眼科各論 3	化学外傷の症候と救急処置を説明できる。	眼科（藤田）
35	皮膚科・形成外科試験		皮膚科・形成外科
36	眼科各論 4	全身疾患に合併する眼異常を列挙できる。	眼科（白神）
37	眼科各論 5	白内障の成因、症候、診断と治療を詳細に説明できる。	眼科（新田）
38	眼科各論 6	緑内障の成因を列挙し、それらの発生机序、症候と治療を説明できる。	眼科（廣岡）
39	頭頸部腫瘍の病理 （講義）	1) 頭頸部領域に発生する腫瘍を列記できる。	腫瘍病理学 （今井田・他）

40	頭頸部腫瘍の病理 (講義)	2) 部位別に特徴ある腫瘍を説明できる。	腫瘍病理学 (今井田・他)
41	頭頸部腫瘍の病理 (実習)	1) 聴器及び鼻咽腔に発生する腫瘍を列記できる。	腫瘍病理学 (今井田・他)
42		2) 部位別に特徴ある腫瘍を説明できる。 3) 臨床的な特徴と病理学的な特徴を併せて説明できる。	
43	眼科各論 7	伝染性結膜疾患、角膜炎の症候、診断、治療を説明できる。	眼科 (山下)
44	眼科各論 8	ぶどう膜炎の原因疾患を列挙でき、その症候と治療を説明できる。	眼科 (新田)
45	耳科領域 1 (耳科総論)	1) 外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。 2) 聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 3) 平衡感覚機構を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。 4) 聴力検査と平衡機能検査を説明できる。	耳鼻咽喉科 (宮下)
46	耳科領域 2 (中耳疾患 1)	1) 難聴をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。 2) 外耳道に代表的な異物を説明し、除去法を説明できる。	耳鼻咽喉科 (宮下)
47	耳科領域 3 (中耳疾患 2)	滲出性中耳炎、急性中耳炎と慢性中耳炎の原因、診断と治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (宮下)
48	耳科領域 4 (内耳疾患 1)	伝音難聴と感音難聴、迷路性と中枢性難聴を病態から鑑別し、治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (稲本)
49	耳科領域 5 (内耳疾患 2)	1) めまいの原因と病態生理を説明できる。 2) めまいをきたす疾患 (群) を列挙し、診断の要点を説明で 3) めまいがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 4) 末梢性めまいと中枢性めまいを鑑別し、治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (稲本)
50	鼻科領域 1 (鼻科総論)	1) 鼻腔・副鼻腔の構造を図示できる。 2) 嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 3) 嗅覚検査を説明できる。	耳鼻咽喉科 (秋山)
51	鼻科領域 2 (鼻副鼻腔疾患 1)	1) 鼻出血をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。 2) 鼻出血の好発部位と止血法を説明できる。 鼻腔の代表的な異物を説明し、除去法を説明できる。	耳鼻咽喉科 (秋山)
52	鼻科領域 3 (鼻副鼻腔疾患 2)	副鼻腔炎 (急性、慢性、その他) の病態と治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (寒川)
53	咽喉頭領域 1 (咽喉頭総論)	1) 口腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。 2) 喉頭の機能と神経支配を説明できる。 3) 味覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。	耳鼻咽喉科 (森)
54	咽喉頭領域 2 (咽喉頭疾患 1)	1) 咽頭痛をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。 2) 扁桃の炎症性疾患の病態と治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (森)

		3) 気管切開の適応を説明できる。	
55	咽喉頭領域 3 (言語障害・構音障害)	1) 言語障害と構音障害の違いを説明できる。 2) 障害に対する訓練や治療法を説明できる。	耳鼻咽喉科 (印藤)
56	咽喉頭領域 4 (嚥下障害)	1) 嚥下困難・障害をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 2) 嚥下困難・障害がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 3) 咽頭、喉頭、食道に代表的な異物を説明し、除去法を説明できる。	耳鼻咽喉科 (印藤)
57	頭頸部領域 1 (頭頸部の画像診断)	1) 外耳・中耳・内耳の構造を画像で判断できる。 2) 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を画像で判断できる。 3) 頸部の構造を画像で判断できる。	耳鼻咽喉科 (星川)
58	頭頸部領域 2 (頭頸部腫瘍総論)	頭頸部腫瘍の疫学、病理、診断、治療の概略を説明できる。	耳鼻咽喉科 (星川)
59	腫瘍病理学	実習試験	腫瘍病理
60	頭頸部腫瘍 3 (頭頸部疾患 1)	鼻・副鼻腔、咽頭、口腔癌について、病因、病気分類、検査所見、画像所見、病理所見、治療法を説明できる。	耳鼻咽喉科 (森)
61	頭頸部腫瘍 4 (頭頸部疾患 2)	1) 喉頭癌について、病因、病気分類、検査所見、画像所見、病理所見、治療法を説明できる。 2) 唾液腺疾患を列挙できる。	耳鼻咽喉科 (岸野)
62	頭頸部癌に対する 放射線治療	1) 放射線治療の原理、目的、方法について説明できる。 2) 代表的な疾患に対する治療方針と治療成績を説明できる。 3) 放射線治療による急性期、晩期有害事象について説明できる。	放射線治療科 (柴田)
63	鼻科特論 (免疫アレルギー)	アレルギー性鼻炎の発症機構を説明できる。	耳鼻咽喉科 (荻野)
64	耳科特論 (聴覚生理の最先端)	聴覚生理の最先端研究を理解し、説明できる。	耳鼻咽喉科 (日比野)
65	歯科口腔外科総論 1 (歯学概論・歯の発生・ う蝕症)	1) 医学における歯科医学の関連を説明できる。 2) 歯の発生、歯の発育異常、硬組織疾患について概説できる。	歯科口腔外科 (三宅)
66	歯科口腔外科総論 2 (咀嚼障害・嚥下障害)	1) 咀嚼障害や嚥下障害の成因を説明できる。 2) 歯科口腔外科領域の咀嚼障害や嚥下障害を説明できる。	歯科口腔外科 (中井)
67	歯科口腔外科各論 1 (歯周疾患と口腔清掃)	歯周疾患の原因と治療について概説できる。	歯科口腔外科 (大林)
68	歯科口腔外科各論 2	歯原性腫瘍および非歯原性腫瘍について発生、分類、治療法の概要	歯科口腔外科

	(良性腫瘍)	を説明できる。	(三宅)
69	歯科口腔外科各論 3 (外傷・顎関節・顎変形症)	歯の外傷・顎骨骨折、顎関節症を説明できる。歯列不正・顎骨の発育異常について説明できる。	歯科口腔外科 (三宅・他)
70	歯科口腔外科各論 4 (口腔内診査)	口腔内の諸器官、歯列について診査を行い、その状態や異常を把握できる。	歯科口腔外科 (小川)
71	歯科口腔外科各論 5 (歯性炎症)	歯性炎症の経過を説明できる。顎骨骨膜炎と顎骨骨髓炎を鑑別し、治療法を説明できる。	歯科口腔外科 (岩崎)
72	歯科口腔外科各論 6 (唾液腺疾患・嚢胞・神経疾患)	顔面神経麻痺・三叉神経痛の特徴を説明できる。唾液腺疾患、歯源性嚢胞の種類を説明できる	歯科口腔外科 (大林)
73	歯科口腔外科各論 7 (咀嚼障害—歯科インプラントによる噛み合わせの回復—)	歯科インプラントを使った補綴方法について概略を理解する。	歯科口腔外科 (三宅・他)
74	歯科口腔外科各論 8 (粘膜疾患・悪性腫瘍)	口腔粘膜疾患についてその特徴や頻度、治療の概要が説明できる。口腔悪性腫瘍の発生や組織型、治療法を説明できる。	歯科口腔外科 (三宅)
75	歯科口腔外科各論 9 (病院歯科における口腔外科臨床)	地域の病院における口腔外科的疾患の治療の役割と現状を説明できる。	歯科口腔外科 (三宅・他)
76	眼科・耳鼻科・口腔外科試験		眼科・耳鼻科・ 口腔外科

教科書

【腫瘍病理学】

1. ロビンス基礎病理学 廣川書店
2. 標準病理学 医学書院
3. Lever's Histopathology of the Skin (8th edition)

【皮膚科】

1. 池田重雄 他 編集 標準皮膚科学 医学書院 (6版)
2. Rook, Wilkinson & Ebling Textbook of Dermatology (sixth edition)
3. Fitzpatrick, et al Dermatology in General Medicine (third edition)
4. Elder, et al "Lever's Histopathology of the Skin" (eighth edition)

【形成外科】

1. Plastic Surgery William C. Grabb, James W. Smith Little, Brown and Comp.
2. TEXT 形成外科学 第2版 南山堂

【眼科】

1. 現代の眼科 所敬・吉田晃敏・谷原秀信編集 金原出版
2. 標準眼科学 木下茂・中澤満編集 医学書院

【耳鼻咽喉科】

1. 切替一郎他. 新耳鼻咽喉科学. 第10版, 東京, 南山堂, 2004年, 764ページ, 978-4-525-37020-6
2. 喜多村健、森山寛. NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学. 改訂第2版, 東京, 南江堂, 2007年, 326ページ, 978-4-524-23999-3
3. 森満保. イラスト耳鼻咽喉科. 第3版, 東京, 文光堂, 2004年, 978-4-8306-3327-0
4. 八木聡明他. 新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座. 第1巻～第5巻, 東京, メディカル・ビュー社, 2000年～2001年, 978-4-89553-848-0 他
5. 洲崎春海他. SUCCESS 耳鼻咽喉科. 第1版, 東京, 金原出版, 2007年, 232ページ, 978-4-307-37085-1
6. Kerr, Alan G. Scott-Brown's Otolaryngology. Sixth Edition, Butterworth Heinemann Medical, 9780750619356

【放射線治療科】

1. 日本放射線腫瘍学会：放射線治療計画ガイドライン 2016年版
(URL: <http://www.jastro.or.jp/guideline/child.php?eid=00007>)
2. 標準放射線医学 (第7版) 西谷 弘、他 医学書院
3. 放射線治療学 (改訂5版) 井上俊彦、他 南山堂
4. 頭頸部のCT、MR 多田・黒崎編 メディカル・サイエンス・インターナショナル
5. 頭頸部臨床画像診断学 尾尻博也著 南江堂

【歯科口腔外科】

1. 口腔外科学 白砂兼光、古郷幹彦編 医歯薬出版 東京
2. 最新 口腔外科学 総論・各論 塩田重利、富田喜内監 医歯薬出版 東京
3. 口腔顎顔面外科治療学 塩田重利監 永末書店 東京
4. 日本老年歯科医学会監修 口腔ケアガイドブック 下山和弘、他編 口腔保険協会 東京

【放射線医学】

1. 頭頸部のCT、MR 多田・黒崎編 メディカル・サイエンス・インターナショナル
2. 頭頸部臨床画像診断学 尾尻博也著 南江堂

オフィスアワー

【腫瘍病理学】

あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応
ichibyou@med.kagawa-u.ac.jp

【皮膚科】

あらかじめ担当各教員にアポイントをとれば、ユニット期間以外でもいつでも対応は可能

(内線 2665)

【形成外科学】

相談のある学生は各教員にアポイントを取って、日時を決定

(内線 2811)

【眼 科】

相談のある学生は医局まで連絡し、各教員にアポイントを取って、日時を決定

(内線 2852)

【耳鼻咽喉科】

相談のある学生は各教員にアポイントを取って、日時を決定

(内線 2873)

【放射線治療科】

相談のある学生は医局まで連絡し、各教員にアポイントを取って、日時を決定

(内線 2881)

【歯科口腔外科】

三宅 実:dentmm@med.kagawa-u.ac.jp

大林由美子:yumiko@med.kagawa-u.ac.jp (メールでアポイントをお願いします。いつでも対応可能です。)

授業科目名

PBL チュートリアル

(英文併記 PBL tutorial)

科目区分 統合講義 授業コード DPコード bcxM

単位数 統合講義に含める 時間割 前・後期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

医学教育学講座 (岡田)

臨床系講座教員

授業の概要

臓器別ユニットの複数にまたがるような愁訴・兆候を有する疾患について、その診断について、PBL (problem based learning) チュートリアル形式でグループ学習を行う。

授業の目的

統合講義では個々の疾患についてその病態生理、症候、診断方法および治療法について学習するが、実際の医療の場では、何らかの症状や兆候を訴えて受診する。従って、これらの症候とその臨床経過から診断名を「推論」することが必要となる。この推論過程を、グループ学習を通じて自己学習することを目的とする (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応する)。

達成目標

- ・患者が訴える症候について、医療面接を行い、その経過や詳細な症候についての情報を収集することができる。
- ・それらの情報からその症候が生じうる疾患 (群) を想起できる
- ・診断のための筋道を説明できる (重点を置く診察や必要な検査等)
- ・提示された検査結果を基に、その症例の鑑別診断 (differential diagnosis) を行うことができる。

成績評価の方法と基準

授業への出席と個人のレポートとを元に成績を評価する

授業計画並びに授業及び学習の方法

平成 29 年度は 4 回予定しているが、それぞれの担当ユニットと取りまとめユニットとは次の通りである。

	期 間	担当ユニット	取りまとめユニット
第 1 回	5 月 8 日～1 1 日	内分泌・代謝、精神・神経、脳外科、整形	総合内科
第 2 回	6 月 2 6 日～2 9 日	消化器、呼吸器、膠原病	消化器

第3回	8月28日～31日	小児科、感染症、 生殖系、循環器	小児科
第4回	10月16日～19日	血液、腎泌尿器、 皮膚感覚系	血液

※担当ユニット：課題作成、チューターの配置および評価

※4日間の実施様式はそれぞれの回の担当ユニットに委ねる。

教科書・参考書等

- ・内科診断学 改訂第17版 武内重五郎著、谷口興一、杉本恒明改訂、南光堂、2011年
- ・内科診断学 第2版 福井次矢、奈良信雄編著、医学書院、2008年
- ・鑑別診断 ロジカルシンキング、後藤英司、奈良信雄、藤代健太郎編著、メジカルレビュー社、2011年
- ・臨床推論ダイアログ、杉本元信編著、医学書院、2010年
- ・臨床推論 EBMと病態生理から症例を考える、後藤英司編著、メジカルレビュー社、2004年
- ・ティアニー先生の診断学入門 第2版、ローレンス・ティアニー著、松村正巳訳、医学書院、2011年

オフィスアワー

特に設けない

授業科目名

医療管理学・診断学

(英文併記 Health Care Management and Practices of Medical Diagnosis)

科目区分 臨床医学 授業コード 704711 DPコード cbdM

単位数 2 時間割 通年 対象年次及び学科 4, 5 医学科

教員名

教授 横井英人 (医療情報部)
教授 岡田宏基 (医学教育学)
准教授 坂東修二 (医学教育学)
教授 舩形尚 (総合内科)
病院助教 泉川美晴 (血液・免疫・呼吸器内科学)
非常勤講師 乗松尋道 (香川大学医学部名誉教授、四国医療専門学校)
中島弘 (大阪府立成人病センター特別研究員)
池田正行 (高松少年鑑別所、香川大学医学部客員研究員)

授業の概要

<電子カルテ使用方法の習得>

学生用電子カルテの使用方法について概説し、以後の実習において、各自がそれを利用できるように準備をします。

<医療管理学>

医療管理学は、医療システムとそのマネジメントに関する応用科学で、臨床医学、社会医学、政策工学、経営学などを含んだ学際的領域を形成しています。21世紀初頭から続く国家的構造変革のなか、限られた資源で最高の医療が求められており、国民の多くが何らかの慢性疾病を抱える高齢社会では、従来のシステムではうまく機能しなくなっています。また臨床の現場では、医療の質に対する国民的関心に答えるべく様々な活動やシステム変革が展開されており、個々の医療従事者が身につけるべきコンピテンシー (患者中心の医療サービスの提供、EBMに準拠した診療、質改善技術、情報関連技術、他職種とチームとして協働) の重要性が指摘されています。本講ではこのような問題に対応するための理論と具体的方法論について学習を行います。

授業は講義を中心に行い、適宜グループワークを織り交ぜる予定です。その内容は、医療安全対策、慢性疾患管理、リハビリテーション特講、医師のキャリア形成および医療倫理からなり、将来医師になる者に必要な知識、技術、態度を習得します。

<診断学>

4年生統合講義までの総まとめとしてCBTを受験し、それに合格すると4年次1月からの医学実習に進むこととなりますが、その時点では、それまでに身につけた医学的知識はまだ断片的で、主訴から医療面接を経て鑑別診断に至る過程が十分にトレーニングされているとは言えません。統合講義では、チュートリアルとして、ユニット内の課題については診断トレーニングを行います。複数のユニットにまたがるような課題には対応できていません。そこで、診断学としては、特にユニット横断的な愁訴に焦点を合わせた診断実習を行う予定です。

診断学実習は、臨床実習の月曜日午後に行い、実習での小グループ単位が各回代表として担当教員とPBL形式でやりとりして診断に至る演習を行う予定です。さらに、非常勤講師池田正行先生による診断学に関する特別講義も予定しています。

授業の目的

<医療管理学>

良質の医療を実践するために、患者安全、医療の標準化の方法を理解し、適切な問題対応能力の基礎を身につける（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応）。

<診断学>

患者の愁訴に応じて、適切な医療面接ができ、必要な検査を選択し、それらを総合して正しい診断に至る能力を習得する（DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応）。

達成目標

- (1) 学生用電子カルテを使うことができる。
- (2) カルテの記載方法を説明でき実践できる
- (3) 患者安全の基礎と実際について説明できる。
- (4) 特に生活習慣病における患者管理の方法について説明できる。
- (5) 現代の医療に求められている医療倫理について概説し、それに対して自分の考えを述べることができる。
- (6) 医師のキャリア形成について理解し、自分自身のこととして考えることができる。
- (7) 愁訴から適切な診断過程を構築し、正しい診断に至ることができる。

成績評価の方法と基準

1. 授業参加の程度
2. 講義、実習時のレポート
3. 診断学実習への参加状況
4. 上記を総合して可否の判定を行います。

授業計画並びに授業及び学習の方法

講義内容、配布資料を中心に学習を行います。これまでに習得した臨床医学や社会医学の知識、経験を活用し、医療の現場で役に立つ知識や手法を身につけてください。また受講にあたっては推薦参考書やインターネットを利用した予習、復習が強く望まれます。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	電子カルテ説明		学生用電子カルテについての概説	横井
2	カルテの記載		カルテの記載方法について、英語での表記も併せて説明	岡田
3	医療管理学	医療安全	ジェネラルリスクマネージャーの立場からの医療安全概説	舛形
4		リハビリテーション 特講	リハビリテーション全般についての特別講義	乗松

5		慢性疾患管理	患者管理とは、呼吸器系・循環器系疾患の管理	岡田、舛形
6		医療倫理	現代医療に求められる医療倫理；具体例を通じて	中島
7		医師のキャリア形成	生涯を通じた医師のキャリア形成について	泉川
8	診断学	診断学総論	診断学についての基本的考え方、学び方	岡田
9		診断学特別講義	神経疾患を中心とした診断学特別講義	池田
10～ 23		診断学実習 1～14	症例に基づいた診断学実習	岡田、坂東

教科書

人は誰でも間違える 日本評論社 米国医療の質委員会 他著

医療の質—谷間を越えて 21 世紀システムへ 日本評論社 米国医療の質委員会著

医療事故—なぜ起こるのか、どうすれば防げるのか 朝日新聞社 山内桂子・山内隆久著

EBM の道具箱 EBM ライブラリー 中山書店 ダグラス・バデノック著

誰も教えてくれなかった診断学 医学書院 野口善令、福原俊一

内科診断学 金芳堂 吉利 和、黒川 清ら編著

内科診断学 医学書院 福井次矢編著

オフィスアワー

随 時

シラバス

5 年次生

児童精神医学Ⅱ

臨床病理検討会

医療管理学・診断学

医学実習Ⅰ （臨床実習実施要項参照）

（年度末に統合試験を課す）

※6年次生と合同で「薬害被害者の声を直接聞く特別講義」を臨床講義棟2階で実施する。

授業科目名

児童精神医学Ⅱ

(英文併記 ChildpsychiatryⅡ)

科目区分 総合保健福祉医療学

授業コード 703831

DPコード abcM

単位数 1 時間割 後期 対象年次及び学科 5 医学科

教員名

非常勤講師 平尾 文雄 (精神神経医学講座)

” 根来 秀樹 (”)

” 江尻 真樹 (”)

助教 木戸 瑞江 (”)

授業の概要

児童精神医学Ⅱは、実際の臨床での応用段階を展開学習する。

授業の目的

子どもの心の診療を担う医師は主として、精神医学を修練する中で児童精神医学に興味をもつようになった児童精神科医と、小児医学を修練するなかで子どもの心身症や中枢神経の発達的な障害に焦点をあててきた小児科医である。近年、「子どもの心の診療」についてのニーズが高まり、児童精神科医だけ、小児科医だけで担うことが困難になりつつあり、それら医師同士の連携はもとより、学校・園や行政、福祉などとの幅広いネットワークを構築することが必要となってきた。この授業ではこのような、幅広い視野を持つ医師を育てるための講義を行う。

達成目標

子どもの心を支えるための幅広い知識を身につけ、どの科の医師になっても、子どもの精神面に対し適切な対応ができる。

成績評価の方法と基準

出席および提出されたレポートにみられる理解度、講義内小テストおよび学期末試験で評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

<総論>

子どもの面接・診断・評価の進め方

子どもの心の障害の治療

1. 精神療法の適応と留意点
2. 薬物療法
3. 家族への介入と他機関との連携

4. 入院治療

<各論>

気分障害（双極性障害、うつ病など）

統合失調症

神経発達症（発達障害）（自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症（ADHD）など）

摂食障害

パーソナリティ障害

神経症（不安症、強迫症、身体症状症、PTSDなど）

神経習癖（チック症、夜尿など）

不登校

虐待

自傷行為

教科書・参考書等

R. グットマン, S. スコット. 氏家武ら監訳. 必携 児童精神医学. 岩崎学術出版社, 2010

青木省三・村上伸治編集. 専門医から学ぶ児童・青年期患者の診方と対応. 医学書院, 2012

根来秀樹. お母さんのための児童精神医学. じほう, 2010

齊藤万比古総編集. 子どもの心の診療シリーズ 1～8. 中山書店, 2009

高宮静男、渡邊直樹編集. 青春期精神医学. 診断と治療社, 2010

齊藤万比古編. 注意欠如・多動症—ADHD—の診断・治療ガイドライン 第4版 . じほう, 2016

オフィスアワー

特に設けていない

授業科目名

臨床病理検討会（5・6年）

（英文併記 Clinical Pathological Conference ）

科目区分 臨床医学 授業コード 704700 DPコード bcdM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 5・6 医学科

教員名

病理学講座

教授	今井田 克己	准教授	横 平 政 直
教授	上 野 正 樹	講 師	千 葉 陽 一
准教授	羽 場 礼 次（病理診断科・病理部） （病院教授）	講 師	串 田 吉 生（病理診断科・病理部）
		助 教	橋 本 希

助 教 門 田 球 一（病理診断科・病理部）

臨床講座

助 教 村 上 龍 太
病院助教 香 月 奈穂美（病理診断科・病理部）

授業の概要

原則5・6年生を対象として必修科目として設けられている授業科目である。

医学部全体の講義としての性格を有するものであるが、学生の臨床教育とともに病理解剖診断が最終結論として提示される関係上、病理が主体となって実施する。

また、病理解剖に関する基本的な知識、概略や、臨床病理検討会（CPC）の重要性についても併せて説明する。

授業の目的

各種の疾患の実態を病理解剖された症例について臨床所見、解剖所見を通じて学び、疾患を総合的に把握する。

（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応）

達成目標

1. 臨床所見より考えられる診断を列挙することができる。
2. 臨床所見、考えられる診断より当該症例における疑問点を説明することができる。
3. 病理解剖所見を説明することができる。
4. 病理解剖所見より、臨床上の疑問点に解答をすることができる。

成績評価の方法と基準

出席を重視し、必要に応じてペーパーテストを実施する。

炎症病理学の担当回では検討会に先だってレポートを提出することも評価の対象となる。

授業計画並びに授業及び学習の方法

剖検症例を中心にして前もって臨床経過、検査結果等を含む資料を学生に配布しておき、当日は病理担当医、主治医、特別助言者等よりなる教官と担当する学生が中心となって質疑応答を行う。臨床面ではカルテの記述理解、検査成績の分析、診断に至る思考過程、鑑別診断等について学生の習熟を図る。病理側からは剖検時の肉眼所見、病変の組織学的所見および最終的な病理解剖診断を提示する。これらを踏まえて生前の診断推定が正しかったかどうか、治療の適否と効果、副作用、気付かなかった病変の有無等を討論し検討する。

回	大項目	項目	内容	担当者
1			剖検症例の検討	腫瘍病理学
2			〃	炎症病理学
3			〃	病理診断科・病理部
4			〃	腫瘍病理学
5			〃	炎症病理学
6			〃	病理診断科・病理部
7			〃	腫瘍病理学
8			〃	炎症病理学

教科書・参考書等

オフィスアワー

随 時

授業科目名

医療管理学・診断学

(英文併記 Health Care Management and Practices of Medical Diagnosis)

科目区分 臨床医学 授業コード 704711 DPコード cbdM

単位数 2 時間割 通年 対象年次及び学科 5 医学科

教員名

教授 横井英人 (医療情報部)
教授 岡田宏基 (医学教育学)
准教授 坂東修二 (医学教育学)
教授 舩形尚 (総合内科)
病院助教 泉川美晴 (血液・免疫・呼吸器内科学)
非常勤講師 乗松尋道 (香川大学医学部名誉教授、四国医療専門学校)
中島弘 (大阪府立成人病センター特別研究員)
池田正行 (高松少年鑑別所、香川大学医学部客員研究員)

授業の概要

<電子カルテ使用方法の習得>

学生用電子カルテの使用方法について概説し、以後の実習において、各自がそれを利用できるように準備をします。

<医療管理学>

医療管理学は、医療システムとそのマネジメントに関する応用科学で、臨床医学、社会医学、政策工学、経営学などを含んだ学際的領域を形成しています。21世紀初頭から続く国家的構造変革のなか、限られた資源で最高の医療が求められており、国民の多くが何らかの慢性疾病を抱える高齢社会では、従来のシステムではうまく機能しなくなっています。また臨床の現場では、医療の質に対する国民的関心に答えるべく様々な活動やシステム変革が展開されており、個々の医療従事者が身につけるべきコンピテンシー (患者中心の医療サービスの提供、EBMに準拠した診療、質改善技術、情報関連技術、他職種とチームとして協働) の重要性が指摘されています。本講ではこのような問題に対応するための理論と具体的方法論について学習を行います。

授業は講義を中心に行い、適宜グループワークを織り交ぜる予定です。その内容は、医療安全対策、慢性疾患管理、リハビリテーション特講、医師のキャリア形成および医療倫理からなり、将来医師になる者に必要な知識、技術、態度を習得します。

<診断学>

4年生までの総まとめとしてCBTを受験し、それに合格すると5年次に進級できることとなりますが、その時点では、それまでに身につけた医学的知識はまだ断片的で、主訴から医療面接を経て鑑別診断に至る過程が十分にトレーニングされているとは言えません。統合講義では、チュートリアルとして、ユニット内の課題については診断トレーニングを行いますが、複数のユニットにまたがるような課題には対応できていません。そこで、診断学としては、特にユニット横断的な愁訴に焦点を合わせた診断実習を行う予定です。診断学実習は、臨床実

習の月曜日午後に行い、実習での小グループ単位が各回代表として担当教員とPBL形式でやりとりして診断に至る演習を行う予定です。一部は反転授業形式を用いて行います。さらに、非常勤講師池田正行先生による診断学に関する特別講義も予定しています。

授業の目的

<医療管理学>

良質の医療を実践するために、患者安全、医療の標準化の方法を理解し、適切な問題対応能力の基礎を身につける（DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応）。

<診断学>

患者の愁訴に応じて、適切な医療面接ができ、必要な検査を選択し、それらを総合して正しい診断に至る能力を習得する（DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応）。

達成目標

- (1) 学生用電子カルテを使うことができる。
- (2) カルテの記載方法を説明でき実践できる
- (3) 患者安全の基礎と実際について説明できる。
- (4) 特に生活習慣病における患者管理の方法について説明できる。
- (5) 現代の医療に求められている医療倫理について概説し、それに対して自分の考えを述べることができる。
- (6) 医師のキャリア形成について理解し、自分自身のこととして考えることができる。
- (7) 愁訴から適切な診断過程を構築し、正しい診断に至ることができる。

成績評価の方法と基準

1. 授業参加の程度
2. 講義、実習時のレポート
3. 診断学実習への参加状況
4. 上記を総合して可否の判定を行います。

授業計画並びに授業及び学習の方法

講義内容、配布資料を中心に学習を行います。これまでに習得した臨床医学や社会医学の知識、経験を活用し、医療の現場で役に立つ知識や手法を身につけてください。また受講にあたっては推薦参考書やインターネットを利用した予習、復習が強く望まれます。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	電子カルテ説明		学生用電子カルテについての概説	横井
2	カルテの記載		カルテの記載方法について、英語での表記も併せて説明	岡田
3	医療管理学	医療安全	ジェネラルリスクマネージャーの立場からの医療安全概説	舩形
4		リハビリテーション 特講	リハビリテーション全般についての特別講義	乗松

5		慢性疾患管理	患者管理とは、呼吸器系・循環器系疾患の管理	岡田、舛形
6		医療倫理	現代医療に求められる医療倫理；具体例を通じて	中島
7		医師のキャリア形成	生涯を通じた医師のキャリア形成について	泉川
8	診断学	診断学総論	診断学についての基本的考え方、学び方	岡田
9		診断学特別講義	神経疾患を中心とした診断学特別講義	池田
10～ 23		診断学実習 1～14	症例に基づいた診断学実習	岡田、坂東

教科書

人は誰でも間違える 日本評論社 米国医療の質委員会 他著

医療の質—谷間を越えて 21 世紀システムへ 日本評論社 米国医療の質委員会著

医療事故—なぜ起こるのか、どうすれば防げるのか 朝日新聞社 山内桂子・山内隆久著

EBM の道具箱 EBM ライブラリー 中山書店 ダグラス・バデノック著

誰も教えてくれなかった診断学 医学書院 野口善令、福原俊一

内科診断学 金芳堂 吉利 和、黒川 清ら編著

内科診断学 医学書院 福井次矢編著

オフィスアワー

随 時

シラバス

6 年次生

医学実習Ⅱ（医学実習Ⅱガイドブック参照）

医療総合講義

臨床病理検討会（5年次生シラバス参照）

以下の科目について卒業試験を課す

- ・内科学
- ・小児科学
- ・精神神経科学
- ・皮膚科学
- ・放射線医学
- ・放射線腫瘍学
- ・外科学
- ・脳神経外科学
- ・整形外科学
- ・形成外科学
- ・泌尿器科学
- ・眼科学
- ・耳鼻咽喉科学
- ・周産期学婦人科学
- ・小児外科学
- ・麻酔学
- ・救急災害医学
- ・歯科口腔外科学
- ・臨床検査医学
- ・総合診療医学
- ・地域医療学

卒業試験期間（9月5日（月）～11月11日（金））

※5年次生と合同で「薬害被害者の声を直接聞く特別講義」を臨床講義棟2階で実施する。

授業科目名

医療総合講義

(英文併記 Introduction to Clinical Medicine)

科目区分 臨床医学 授業コード 704900 DPコード bcdM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 6 医学科

教員名

本学教員, 特別講演講師, 非常勤講師

授業の概要

臨床医学における各専門分野の進歩に伴い, 専門領域が分化する一方で, 臨床各科にまたがる学際的領域の統合, 集学的治療の必要性が指摘されている。また, 新しい技術開発, 新たな疾患の発見等により登場する臨床各科に関連する課題に対しても, 医学教育は迅速に対応する必要がある。

専門分化により生ずる医学教育上の谷間を埋め, 再統合による疾患に対する総合的視野を広めるとともに, up-to-date なトピックスへも十分に対応できる授業科目として, 医療総合講義を実施する。

企画・運営

学務委員会 臨床系部会世話人

授業の目的

達成目標

成績評価の方法と基準

講義出席状況による。

授業計画並びに授業及び学習の方法

[1 学期]

日時	時 限	講 義 項 目	テ ー マ	責任講座
7月3日(月)	1		薬の消失半減期を求める	小児科
7月3日(月)	2		新生児に薬を使用する	小児科
7月3日(月)	3		小児消化機能	小児外科
7月3日(月)	4		小児栄養	小児外科

日時	時 限	講 義 項 目	テ ー マ	責任講座
7月4日(火)	2	JPTEC	内容提示とデモンストレーション	救急災害医学
7月4日(火)	3		糖尿病	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
7月4日(火)	4		甲状腺	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
7月5日(水)	1		脳神経外科の最近の話題	脳神経外科
7月5日(水)	2	臓器移植	腎移植	泌尿器科学
7月5日(水)	3・4		腫瘍学総論	臨床腫瘍学
7月6日(木)	1		安全管理(1)	手術部
7月6日(木)	2		安全管理(2)	手術部
7月6日(木)	3		血液製剤の使い方	輸血部
7月6日(木)	4		婦人科領域における画像診断	周産期婦人科学
7月7日(金)	2		婦人科悪性腫瘍の診断と治療	周産期学婦人科学
7月7日(金)	3		地域に求められる医師像 ～在宅医療・高齢者医療を中心に～	地域医療教育支援センター
7月10日(月)	1・2		臨床研究総論	臨床腫瘍学
7月11日(火)	2		C型肝炎の病態と治療	消化器・神経内科
7月11日(火)	3		血液浄化療法	循環器・腎臓・脳卒中内科
7月11日(火)	4		心不全の治療	循環器・腎臓・脳卒中内科
7月12日(水)	2		肺癌の遺伝子治療	呼吸器・乳腺内分泌外科
7月12日(水)	3		急性放射線障害・被ばく管理	救急災害医学
7月12日(水)	4		若き俊英育成と医学の未来	消化器・神経内科
7月13日(木)	1・2		人工臓器	整形外科
7月13日(木)	3		感染対策	手術部

日時	時 限	講 義 項 目	テ ー マ	責任講座
7月14日(木)	4		グリア細胞の機能と病態	消化器・神経内科
7月14日(金)	2		気道確保と人工呼吸	麻酔科
7月14日(金)	3		栄養療法が変えていくこれからのがん治療 ～Quality of Survival を維持するための栄養管理～	耳鼻咽喉科
7月14日(金)	4		東日本震災から学ぶ救急災害医学の 重要性と医師のありかた	救急災害医学
8月28日(月)	1・2		医療連携	臨床腫瘍学
8月28日(月)	3		関節リウマチにおける リハビリテーションの実際	
8月28日(月)	4		胎盤・臍帯に関する最近の話題	周産期婦人科学
8月29日(火)	4		肝癌の内科学的治療の進歩	消化器・神経内科学
8月30日(水)	4	難治癌の集学的治療	膵癌の集学的治療	周産期学婦人科学
8月31日(木)	1		消化管・腹壁・腹膜・消化管出血	消化器・神経内科
8月31日(木)	2		女性と漢方	消化器・神経内科
8月31日(木)	3		急性肝不全	消化器・神経内科
8月31日(木)	4		医事紛争	歯科口腔外科
9月1日(金)	1・2		チーム医療学	臨床腫瘍学
9月1日(金)	3	救急治療・処置	熱傷治療	形成外科学
9月1日(金)	4		B型肝炎の治療	消化器・神経内科学

教科書・参考書等

オフィスアワー

講義・実習時間割表

平成29年度 講義・実習時間割 1年次生

1学期

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月3日 月	10:00～入学式 (幸町キャンパス) 10:30～12:00全学共通科目ガイダンス		13:30～医学部ガイダンス (医学部キャンパス) 大学入門ゼミ用紙配布		
4月5日 水	情報メディアガイダンス、個別修学相談会、ドリームキャンパス・履修登録説明、時間割作成、履修登録 (医学部キャンパス)				
4月7日 金	新入生修学相談会・定期健康診断 (幸町キャンパス)				
4月12日 水	大学入門ゼミ	医学概論 臨2 医療に携わった先輩からのメッセージ (長尾省吾 学長)	早期体験学習 (チュートリアル)		図書館医学部分館ガイダンス (看護学科教育研究棟2階 マルチメディア実習室)
4月14日 金	医用物理学 はじめに (久富)	医用化学 I 概論 (和田)	医用物理学 一般力学 (久富)	医科生物学 イントロダクション 山本 (融)	微分積分学 イントロダクションとLandau記号 (上原)
4月19日 水	大学入門ゼミ	医学概論 医の倫理 (今井田克己 医学部長)	早期体験学習 (チュートリアル)		
4月21日 金	医用物理学 一般力学 (久富)	医用化学 I 量と単位 (和田)	医用物理学 一般力学 (久富)	医科生物学 細胞の基本構造 山本 (融)	微分積分学 微分 (上原)
4月26日 水	大学入門ゼミ	医学概論 臨2 (遠隔) チーム医療 (横見瀬裕保 病院長)	微分積分学 微分 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル)	
4月28日 金	医用物理学 一般力学 (久富)	医用化学 I 原子の構造と性質 (1) (和田)	医用物理学 一般力学 (久富)	医科生物学 生命の成り立ち 山本 (融)	微分積分学 微分 (上原)
5月2日 火 (金曜振替)	医用物理学 固体変形 (久富)	医用化学 I 原子の構造と性質 (2) (和田)	医用物理学 流体力学 (久富)	医科生物学 生体物質 山本 (融)	
5月3日 水	憲法記念日				
5月5日 金	こどもの日				
5月10日 水	大学入門ゼミ	医学概論 臨2 (遠隔) 医療従事者に求められるもの (豊嶋克美 看護部長)	微分積分学 平均値の定理 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル)	
5月12日 金	医用物理学 流体力学 (久富)	医用化学 I 原子から分子へ (1) (和田)	医用物理学 流体力学 (久富)	医科生物学 タンパク質の構造 山本 (融)	
5月17日 水	大学入門ゼミ	医学概論 臨2 乱用薬物の基礎知識 (芳地 一 薬剤部長)	微分積分学 積分 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル)	
5月19日 金	医用物理学 振動と波動 (久富)	医用化学 I 原子から分子へ (2) (和田)	医用物理学 振動と波動 (久富)	医科生物学 エネルギー産生 山本 (融)	
5月24日 水	大学入門ゼミ	医学概論 臨2 大学生のジェンダー意識と互いの性の尊重 (村上弥生 男女共同参画推進室)	微分積分学 積分 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル)	
5月26日 金	医用物理学 振動と波動 (久富)	医用化学 I 様々な結晶と半導体 (和田)	医用物理学 音波 (久富)	医科生物学 核酸の構造 山本 (融)	
5月31日 水	大学入門ゼミ	医学概論 臨2 医学部生の心と体の健康 (永尾 幸・高田 純 保健管理センター)	微分積分学 前半のまとめと中間試験 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル)	
6月2日 金	医用物理学 音波 (久富)	医用化学 I 気体 (和田)	医用物理学 振動と波動 (久富)	医科生物学 中間テスト 山本 (融)	

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月7日 水	大学入門ゼミ	医学概論 医療と地域社会 (岩井敏恭 香川県へき地医療支援セ)	微分積分学 偏微分と全微分 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル)	
6月9日 金	医用物理学 振動と波動 (久富)	医用化学 I 液体と固体 (和田)	医用物理学 熱と熱力学 (久富)	医科生物学 これまでのまとめ 山本 (融)	
6月14日 水	大学入門ゼミ	医学概論 医師としての生涯設計 (松原修司 卒後臨床研修センター)	微分積分学 極値問題 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル)	
6月16日 金	医用物理学 熱と熱力学 (久富)	医用化学 I 熱力学の基礎 (1) (和田)	医用物理学 熱と熱力学 (久富)	医科生物学 遺伝子の構造 山本 (融)	
6月21日 水	大学入門ゼミ	医学概論 楽しくなければ小児科でない -こどもと共に成長する- (日下 隆 小児科)	微分積分学 極値問題 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル)	
6月23日 金	医用物理学 熱と熱力学 (久富)	医用化学 I 熱力学の基礎 (2) (和田)	医用物理学 電磁気学 (久富)	医科生物学 遺伝情報の複製 山本 (融)	
6月28日 水	大学入門ゼミ	医学概論 国際化する医学教育：香川大学の現状と展開 (徳田雅明 副学長(国際戦略担当))	微分積分学 二重積分 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル)	
6月30日 金	医用物理学 電磁気学 (久富)	医用化学 I 化学平衡 (1) (和田)	医用物理学 電磁気学 (久富)	医科生物学 遺伝情報の発現 1 山本 (融)	
7月5日 水	大学入門ゼミ	医学概論 I T と医療 (横井英人 医療情報部長)	微分積分学 二重積分 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル)	
7月7日 金	医用物理学 電磁気学 (久富)	医用化学 I 化学平衡 (2) (和田)	医用物理学 原 子 (久富)	医科生物学 遺伝情報の発現 2 山本 (融)	
7月12日 水	大学入門ゼミ	医学概論 医療安全 (舩形 尚 医療安全管理部)	微分積分学 線積分 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル)	
7月14日 金	医用物理学 原 子 (久富)	医用化学 I 酸と塩基 (和田)	医用物理学 原 子 (久富)	医科生物学 遺伝情報の発現 3 山本 (融)	
7月19日 水	大学入門ゼミ	医学概論 安楽死と尊厳死 (木下博之 法医学)	微分積分学 Gauss-Greenの定理 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル)	
7月21日 金	医用物理学 原 子 (久富)	医用化学 I 中間まとめ (和田)	医用物理学 原 子 (久富)	医科生物学 遺伝情報の修飾 山本 (融)	
7月26日 水	大学入門ゼミ	医学概論 インフォームドコンセントと臓器移植 (鈴木康之 消化器外科)	微分積分学 まとめと演習 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル)	
7月28日 金	学期末試験期間				
8月2日 水	学期末試験期間				
10月3日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
10月4日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I オリエンテーション/病気を知ろう 1 岡田		早期医学実習 I A コース (自由科目)		情報リテラシー
	病気を知ろう 2 岡田		医用統計学 統計学 確率分布 上原		
10月6日 金	早期医学実習 I B コース (自由科目)		医療心理学 オリエンテーション		医科生物学 前期のまとめ 山本 (融)
	全学共通科目 (幸町キャンパス)		黒河内		

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月10日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)				
10月11日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 高齢者の介護福祉施設 川口 (MSW)	実習場所の説明 岡田	医用統計学 統計学 確率分布 上原	情報リテラシー	
10月13日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)	医療と法 (全学共通科目)	医療心理学 知覚 黒河内	医科生物学 細胞内情報伝達 1 山本 (融)	医用化学 I 酸化と還元 和田
10月17日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)				
10月18日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習場所の選択 岡田・住谷他		医用統計学 統計学 確率分布 上原	情報リテラシー	
10月20日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)	医療と法 (全学共通科目)	医療心理学 3 記憶 黒河内	医科生物学 細胞内情報伝達 2 山本 (融)	医用化学 I 原子の構造と化学結合 和田
10月24日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)				
10月25日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I GW:医療安全・プライバシー シニア保護・接遇について	GW:学外実習で何を学ぶか	医用統計学 統計学 確率分布 上原	情報リテラシー	
10月27日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)	医療と法 (全学共通科目)	医療心理学 学習① 黒河内	医科生物学 細胞内情報伝達 3 山本 (融)	医用化学 I アルカン (1) 和田
10月31日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)				
11月1日 水 (金曜振替)	早期医学実習 I Bコース (自由科目)	医療と法 (全学共通科目)	医療心理学 学習② 黒河内	医科生物学 細胞骨格形成と制御 1 山本 (融)	医用化学 I アルカン (2) 和田
11月3日 金	文化の日 (大学祭前夜祭)				
11月7日 火	月曜振替				
11月8日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習 1-1		医用統計学 統計学 確率分布 上原	情報リテラシー	
11月10日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)	医療と法 (全学共通科目)	医療心理学 認知・思考 黒河内	医科生物学 細胞骨格形成と制御 2 山本 (融)	医用化学 I アルケンとアルキン (1) 和田
11月14日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)				
11月15日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習 1-2		医用統計学 統計学 確率分布 上原	情報リテラシー	
11月17日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)	医療と法 (全学共通科目)	医療心理学 動機づけ 黒河内	医科生物学 細胞周期と細胞分裂 1 山本 (融)	医用化学 I アルケンとアルキン (2) 和田
11月21日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)				

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月22日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I ワーク・ライフバランス 泉川	情報リテラシー	医用統計学 統計学 前半のまとめ と中間試験 上原	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 海外の学術調査について 村主	
11月24日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)	医療と法 (全学共通科目)	医療心理学 ストレス① 黒河内	医科生物学 細胞周期と細胞分裂 2 山本 (融)	医用化学 I 芳香族化合物 (1) 和田
11月28日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
11月29日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習 2-1		早期医学実習 I Aコース (自由科目)	医用統計学 推測統計学 推定と検定 上原	情報リテラシー
12月1日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)	医療と法 (全学共通科目)	医療心理学 ストレス② 黒河内	医科生物学 非対称細胞分裂 山本 (融)	医用化学 I 芳香族化合物 (2) 和田
12月5日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
12月6日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習 2-2		早期医学実習 I Aコース (自由科目)	医用統計学 推測統計学 推定と検定 上原	情報リテラシー
12月8日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)	医療と法 (全学共通科目)	医療心理学 人格① 黒河内	医科生物学 細胞間相互作用 山本 (融)	医用化学 I 有機化合物の立体化学 (1) 和田
12月12日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
12月13日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習のまとめ 岡田他	法医学から見た孤独死 木下	医用統計学 推測統計学 推定と検定 上原	情報リテラシー	
12月15日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)	医療と法 (全学共通科目)	医療心理学 人格② 黒河内	医科生物学 山本 (融)	医用化学 I 有機化合物の立体化学 (2) 和田
12月19日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
12月20日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 中山間地域の地域包括医療 菅原	法医学から見た孤独死 乗松	医用統計学 推測統計学 推定と検定 上原	情報リテラシー	
12月22日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)	医療と法 (全学共通科目)	医療心理学 発達① 黒河内	医科生物学 初期発生 山本 (融)	医用化学 I ハロゲン化アルキル (1) 和田
1月9日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
1月10日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 補完医療としての鍼灸 大麻	スポーツ医学 花房	医用統計学 推測統計学 推定と検定 上原	情報リテラシー	
1月12日 金	センター試験会場設営 (臨時休業)				
1月16日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
1月17日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 在宅医療の現状と実践例 三宅		早期医学実習 I Aコース (自由科目)	医用統計学 推測統計学 推定と検定 上原	情報リテラシー

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月19日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)		医療心理学 発達②	医科生物学 群集と生態系	医用化学 I ハロゲン化アルキル(2)
	医療と法 (全学共通科目)				
	全学共通科目 (幸町キャンパス)		黒河内	山本 (融)	和田
1月23日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)				
1月24日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I	国際交流・渡航医学	医用統計学 推測統計学 推定と検定	情報リテラシー	
	学外実習発表準備 岡田・住谷他	和田・新井・依田	上原		
1月26日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)		医療心理学 対人関係①	医科生物学 創薬科学	医用化学 I アルコール, フェノール, エーテル(1)
	医療と法 (全学共通科目)				
	全学共通科目 (幸町キャンパス)		黒河内	山本 (融)	和田
1月30日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)				
1月31日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I	学外実習発表会 2	医用統計学 推測統計学 推定と検定	情報リテラシー	
	学外実習発表会 1	岡田・住谷他	上原		
2月2日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)		医療心理学 対人関係②	医科生物学 漢方医学概論	医用化学 I アルコール, フェノール, エーテル(2)
	医療と法 (全学共通科目)				
	全学共通科目 (幸町キャンパス)		黒河内	永尾	和田
2月6日 火	学期末試験期間				
2月7日 水	学期末試験期間				
2月9日 金	学期末試験期間				

平成29年度 講義・実習時間割 2年次生

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月3日 月			授業ガイダンス	分子遺伝学 遺伝情報伝達のしくみ (竹崎)	医用化学Ⅱ 概論 (和田)
4月4日 火	分子生物学 アミノ酸とタンパク質の一次構造 アミノ酸の化学とペプチド (神島)	解剖学Ⅱ 解剖学講義 解剖学総論 荒木	解剖学Ⅱ 骨学講義 椎骨・胸郭 荒木	解剖学Ⅱ 骨学実習 椎骨・胸郭 荒木他	
4月5日 水	分子生物学 タンパク質の高次構造 (神島)	分子遺伝学 遺伝情報と表現型Ⅰ 竹崎	医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅱ オリエンテーション 岡田	行動医学概説 岡田	
4月6日 木	細胞生物学 イントロダクション 山本(融)	医用化学Ⅱ アルデヒドとケトン (和田)	自然科学実習 説明会(物理・化学・生物) (久富, 和田, 山本(融))		
4月7日 金		細胞生物学 初期発生Ⅰ 山本(融)	早期医学実習Ⅱ		

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月10日 月	分子遺伝学 遺伝情報と表現型Ⅱ 竹崎	医用化学Ⅱ カルボン酸とその誘導体(1) (和田)	自然科学実習 1の1(化学・物理) (久富, 和田)		
4月11日 火	分子生物学 タンパク質のフォールディング (神島)	解剖学Ⅱ 骨学講義 上肢帯・上肢骨 荒木	解剖学Ⅱ 骨学実習 上肢帯・上肢骨 荒木他		
4月12日 水	分子生物学 核酸の構造 DNAらせん, 染色体の構造 (神島)	分子遺伝学 細胞分裂 竹崎	定期健康診断(休講)		
4月13日 木	細胞生物学 初期発生Ⅱ 山本(融)	医用化学Ⅱ カルボン酸とその誘導体(2) (和田)	自然科学実習 1の2(物理・生物) (久富, 山本(融))		
4月14日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マカハ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 形態形成Ⅰ 山本(融)	早期医学実習Ⅱ		

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月17日 月	分子遺伝学 ヒトの染色体 竹崎	医用化学Ⅱ カルボニル化合物(1) (和田)	自然科学実習 1の3(生物・化学) (山本(融), 和田)		
4月18日 火	分子生物学 タンパク質の機能 ミオグロビンとヘモグロビン, 筋肉収縮, 抗体 (神島)	解剖学Ⅱ 骨学講義 下肢帯・下肢骨 荒木	解剖学Ⅱ 骨学実習 下肢帯・下肢骨 荒木他		
4月19日 水	分子生物学 DNA:複製, 修復, 組換え(1) DNA複製の諸酵素 (吉田)	分子遺伝学 染色体異常 竹崎	医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅱ メディカルパフォーマンスⅠ 西村		
4月20日 木	細胞生物学 形態形成Ⅱ 山本(融)	医用化学Ⅱ カルボニル化合物(2) (和田)	自然科学実習 2の1(化学・物理) (和田, 久富)		
4月21日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マカハ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 組織形成Ⅰ 山本(融)	早期医学実習Ⅱ		

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月24日 月	分子遺伝学 突然変異 竹崎	医用化学Ⅱ アミン (和田)	自然科学実習 2の2 (物理・生物)	(久富, 山本(融))	
4月25日 火	分子生物学 単糖と多糖 単糖, 多糖, 糖タンパク質 (神島)	解剖学Ⅱ 骨学講義 頭蓋 荒木	解剖学Ⅱ 骨学実習 頭蓋 荒木他		
4月26日 水	分子生物学 DNA: 複製, 修復, 組換え(2) 原核・真核細胞のDNA複製 (吉田)	分子遺伝学 集団の遺伝情報の変化 竹崎	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ メディカルパフォーマンス2 西村		
4月27日 木	細胞生物学 組織形成2 山本(融)	医用化学Ⅱ 構造決定(1) (和田)	自然科学実習 2の3 (生物・化学)	(山本(融), 和田)	
4月28日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マクラン, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 組織の維持 山本(融)	早期医学実習Ⅱ		

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月1日 月	分子遺伝学 集団進化とヒトの進化 竹崎	医用化学Ⅱ 構造決定(2) (和田)	自然科学実習 予備日	(久富, 和田, 山本(融))	
5月2日 火 (金曜授業振替)	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マクラン, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 補講(予備日)	早期医学実習Ⅱ		
5月3日 水	憲法記念日				
5月4日 木	みどりの日				
5月5日 金	こどもの日				

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月8日 月	分子遺伝学 中間テスト 竹崎	医用化学Ⅱ 炭水化物 (和田)	自然科学実習 3の1 (化学・物理)	(和田, 久富)	
5月9日 火	分子生物学 脂質と生体膜 脂質の化学, 生体膜, 膜タンパク質 (神島)	解剖学Ⅱ 骨学講義 頭蓋 荒木	解剖学Ⅱ 骨学実習 頭蓋 荒木他		
5月10日 水	分子生物学 DNA: 複製, 修復, 組換え(3) DNAの修復と組換えと可動遺伝子要素 (吉田)	分子遺伝学 補講	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ 看護・介護論 清水	カウンセリングの概要 竹森	
5月11日 木	細胞生物学 生殖系列 山本(融)	医用化学Ⅱ アミノ酸 (和田)	自然科学実習 3の2 (物理・生物)	(久富, 山本(融))	
5月12日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マクラン, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 細胞内物質輸送1 山本(融)	早期医学実習Ⅱ		

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月15日 月	分子遺伝学 連鎖解析の基礎 岩間	医用化学Ⅱ 脂質と核酸 (和田)	自然科学実習 3の3 (生物・化学) (山本(融), 和田)		
5月16日 火	分子生物学 膜輸送 能動輸送, 受動輸送 (神鳥)	解剖学Ⅱ 骨学実習 頭蓋 荒木他			
5月17日 水	分子生物学 転写とRNAプロセッシング(1) タンパク合成におけるRNAの役割, RNAポリメラーゼ (吉田)	分子遺伝学 連鎖解析の応用 岩間	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ コミュニケーション1 瀬戸		
5月18日 木	細胞生物学 細胞内物質輸送2 山本(融)	医用化学Ⅱ 代謝(1) (和田)	自然科学実習 4の1 (化学・物理) (和田, 久富)		
5月19日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マクハ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 細胞内物質輸送3 山本(融)	早期医学実習Ⅱ		

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月22日 月	分子遺伝学	医用化学Ⅱ 代謝(2)	自然科学実習 4の2 (物理・生物) (久富, 山本(融))		
5月23日 火	分子生物学 予備日	解剖学Ⅱ 骨学実習 復習 荒木他			
5月24日 水	分子生物学 転写とRNAプロセッシング(2) 転写制御と転写後修飾 (吉田)	分子遺伝学 自習	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ コミュニケーション2 瀬戸		
5月25日 木	細胞生物学 細胞内物質輸送4 山本(融)	医用化学Ⅱ 総論 (和田)	自然科学実習 予備日 (久富, 和田, 山本(融))		
5月26日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マクハ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 予備日	早期医学実習Ⅱ		

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月29日 月	解剖学Ⅱ 自習		解剖学Ⅱ 骨学実習試験 担当教員全員		
5月30日 火	生理学Ⅰ 神経系総論Ⅰ 神経生理学イントロダクション 徳田	解剖学Ⅰ 解剖学総論 人体の構造(1) 鈴木	解剖学Ⅰ 中枢神経学 総論 鈴木	解剖学Ⅰ 脳実習①	全員
5月31日 水	分子生物学 翻訳(1) 遺伝暗号, 転移RNA, リボソーム (吉田)	分子遺伝学 量的形質座位(QTL) 岩間	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ 病院オリエンテーション① 病院オリエンテーション②		
6月1日 木	分子生物学 中間テスト (大C, 大D教室使用) (神鳥・吉田)	生理学Ⅱ 自律機能① 平野	自然科学実習 4の3 (生物・化学) (山本(融), 和田)		
6月2日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マクハ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	解剖学Ⅰ 解剖学総論 献体と倫理 三木	解剖学Ⅰ 中枢神経学 大脳 太田	早期医学実習Ⅱ	

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月5日 月	生化学 生化学と医学 上田	生化学 生体物質(1) 宇山			医用化学Ⅱ 試験 (和田)
6月6日 火	生理学Ⅰ 神経系総論Ⅱ 神経回路の特性 徳田	解剖学Ⅰ 中枢神経学 大脳 太田	解剖学Ⅰ 中枢神経学 脳室と脈管 鈴木	解剖学Ⅰ 脳実習②	全員
6月7日 水	分子生物学 翻訳(2) 酵素の一般的性質と触媒反応機構 (吉田)	分子遺伝学 多因子疾患 岩間	医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅱ チーム医療実習① 徳島文理大学		二宮他
6月8日 木	分子生物学 遺伝子発現の調節(1) 原核生物の遺伝子発現調節 (吉田)	生理学Ⅱ 自律機能② 平野	自然科学実習 5の1(物理・化学・生物)		(久富, 和田, 山本(融))
6月9日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マクハ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	解剖学Ⅰ 解剖学総論 人体の構造(2) 太田	解剖学Ⅰ 解剖学総論 人体の構造(3) 太田	早期医学実習Ⅱ	

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月12日 月	生化学 生体物質(2) 宇山	生化学 生体物質(3) 宇山	自然科学実習 5の2(物理・化学・生物)		(久富, 和田, 山本(融))
6月13日 火	生理学Ⅰ 神経系総論III 神経系のシグナル伝達 徳田	解剖学Ⅰ 中枢神経学 間脳 太田	解剖学Ⅰ 中枢神経学 脳幹(1) 三木	解剖学Ⅰ 脳実習③	全員
6月14日 水	分子生物学 遺伝子発現の調節(2) 真核生物の遺伝子発現調節 (吉田)	分子遺伝学 遺伝様式/リスク評価 岩間	医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅱ チーム医療実習② 県立保健医療大学		塩田他
6月15日 木	分子生物学 遺伝子操作 組換えDNA技術とバイオテクノロジー (吉田)	生理学Ⅱ 細胞情報伝達① 平野	自然科学実習 6の1(物理・化学・生物)		(久富, 和田, 山本(融))
6月16日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マクハ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 品質管理 山本(融)	早期医学実習Ⅱ		

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月19日 月	生化学 生体物質(4) 宇山	生化学 酵素(1) 大西	自然科学実習 6の2(物理・化学・生物)		(久富, 和田, 山本(融))
6月20日 火	生理学Ⅰ 神経系総論IV 神経系のシグナル伝達 徳田	解剖学Ⅰ 中枢神経学 脳幹(2) 三木	解剖学Ⅰ 中枢神経学 小脳 三木	解剖学Ⅰ 脳実習④	全員
6月21日 水	分子生物学 酵素触媒 酵素の一般的性質と触媒反応機構 (神島)	分子遺伝学 多数小家系の遺伝解析 岩間	医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅱ 病院オリエンテーション③ 病院オリエンテーション④		
6月22日 木	分子生物学 酵素反応速度論 反応速度, 酵素の阻害 (神島)	生理学Ⅱ 細胞情報伝達② 平野	自然科学実習 7の1(物理・化学・生物)		(久富, 和田, 山本(融))
6月23日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マクハ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 細胞の形態形成と移動1 山本(融)	早期医学実習Ⅱ		

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月26日 月	生化学 酵素(2) 大西	生化学 酵素(3) 大西	自然科学実習 7の2(物理・化学・生物) (久富, 和田, 山本(融))		
6月27日 火	生理学 I 神経系総論V 神経系のシグナル伝達 徳田	解剖学 I 中枢神経学 伝導路 鈴木	解剖学 I 中枢神経学 脊髄 鈴木・太田	解剖学 I 脳実習⑤	全員
6月28日 水	医療プロフェッショナリズムの実践 II 附属病院見学実習①		医療プロフェッショナリズムの実践 II チーム医療講義・実習 中田		
6月29日 木	分子生物学 シグナル伝達 ホルモン, 受容体タンパク質 (神鳥)	生理学 II 細胞情報伝達③ 平野	自然科学実習 総論(物理・化学・生物) (久富, 和田, 山本(融))	自然科学実習 予備 (久富, 和田, 山本(融))	
6月30日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マクハシ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 細胞の形態形成と移動 2 山本(融)	早期医学実習 II		

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月3日 月	生化学 酵素(4) 大西	生化学 生体エネルギー・ 代謝概説(1) 大西	生理学 II 環境と生体① 平野	生理学 II 環境と生体② 平野	
7月4日 火	生理学 I 神経系総論VI 神経伝達物質 徳田	特別講義 未定	解剖学 I 脳実習⑥		全員
7月5日 水	医療プロフェッショナリズムの実践 II 附属病院見学実習②		医療プロフェッショナリズムの実践 II 附属病院見学実習 発表準備 岡田・住谷他		
7月6日 木	分子遺伝学 ハ ⁺ ロタイ ⁺ と連鎖不平衡 岩間	生理学 II 血液① 平野	生理学 I 神経系総論VII 静止膜電位 山口	生理学 I 神経系総論VIII 活動電位 山口	
7月7日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マクハシ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 生命科学の方法論 山本(融)	早期医学実習 II		

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月10日 月	解剖学 I 予備	解剖学 I 中枢神経学試験・脳実習試験			全員
7月11日 火	生化学 生体エネルギー・ 代謝概説(2) 大西	生化学 生体エネルギー・ 代謝概説(3) 大西	生理学 II 血液② 平野	生理学 II 血液③ 平野	
7月12日 水	分子生物学 予備日	分子遺伝学 関連解析と SNP 岩間	医療プロフェッショナリズムの実践 II 病院見学実習発表会 附属病院看護部・岡田・住谷他		
7月13日 木	分子遺伝学 ゲノムワイドな解析 岩間	生理学 II 血液④ 平野	生理学 I 感覚生理総論 I 感覚の種類、感覚受容体の分類 山口	生理学 I 感覚生理総論 II 感覚の種類、感覚受容体の分類 山口	
7月14日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, マクハシ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 まとめ 山本(融)	早期医学実習 II		

全学共通科目英語は7月21日(金)授業を行います。

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月4日 月	前期定期試験				
9月5日 火	前期定期試験				
9月6日 水	前期定期試験				
9月7日 木	前期定期試験				
9月8日 金	前期定期試験				

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月11日 月	前期定期試験				
9月12日 火	前期定期試験				
9月13日 水	前期定期試験				
9月14日 木	前期定期試験				
9月15日 金	前期定期試験				

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月18日 月	敬老の日				
9月19日 火	前期定期試験				
9月20日 水	前期定期試験				
9月21日 木	前期定期試験				
9月22日 金	前期定期試験				

19	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月2日 月	授業ガイダンス	生理学Ⅱ 消化器① 平野	解剖学Ⅰ 脈管学 総論・体表の脈管 鈴木	解剖学Ⅰ 脈管学 上肢・下肢の脈管 鈴木	
10月3日 火	生理学Ⅱ 消化器② 平野	生理学Ⅱ 消化器③ 平野	生化学 糖代謝(1) 上田	生化学 糖代謝(2) 上田	
10月4日 水	生理学Ⅰ 大脳皮質の区分と構造 機能局在 徳田	解剖学Ⅰ 筋学 総論 太田	解剖学Ⅰ 系統解剖実習①		全員
10月5日 木	生理学Ⅰ 大脳皮質の区分と構造 男の脳・女の脳 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義 組織学総論序 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 細胞① 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 細胞・標本チェック 荒木他	
10月6日 金	生化学 糖代謝(3) 上田	解剖学Ⅱ 予備	午後休講(前夜祭)		

20	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月9日 月	体育の日				
10月10日 火	生理学Ⅱ 消化器④ 平野	生理学Ⅱ 消化器⑤ 平野	生化学 糖代謝(4) 上田	生化学 糖代謝(5) 上田	
10月11日 水	生理学Ⅰ 大脳連合野 大脳連合野の機能、優位半球 徳田	解剖学Ⅰ 脈管学 胸部の脈管 鈴木	解剖学Ⅰ 系統解剖実習②		全員
10月12日 木	生理学Ⅰ 自律神経系の働き 交感神経系と副交感神経系 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義 細胞② 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 細胞③ 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 細胞②③ 荒木他	
10月13日 金	生化学 糖代謝(6) 上田	解剖学Ⅱ 組織学講義 上皮組織 江上	解剖学Ⅱ 組織学講義 上皮組織 江上	解剖学Ⅱ 組織学実習 上皮組織 江上他	

21	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月16日 月	生理学Ⅱ 呼吸器①	生理学Ⅱ 呼吸器②	生理学Ⅱ 呼吸器③	生理学Ⅱ 呼吸器④	
10月17日 火	解剖学Ⅰ 脈管学 心臓の構造 鈴木	解剖学Ⅰ 脈管学 リンパ系・腹部の脈管(1) 鈴木	生化学 糖代謝(7) 防災訓練 上田	生化学 糖代謝(8) 上田	
10月18日 水	生理学Ⅰ 視床下部の働きⅠ 本能行動と辺縁系 徳田	解剖学Ⅰ 脈管学 腹部の脈管(2) 鈴木	解剖学Ⅰ 系統解剖実習③		全員
10月19日 木	生理学Ⅰ 視床下部の働きⅡ 摂食行動、飲水、性行動 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義 結合組織① 川合	解剖学Ⅱ 組織学講義 結合組織① 川合	解剖学Ⅱ 組織学実習 結合組織① 川合他	
10月20日 金	生化学 糖代謝(9) 上田	解剖学Ⅱ 組織学講義 結合組織② 川合	解剖学Ⅱ 組織学講義 結合組織② 川合	解剖学Ⅱ 組織学実習 結合組織② 川合他	

22	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月23日 月	生化学 試験B	生化学 実習(1)			
10月24日 火	補講	生化学 実習(2)			
10月25日 水	生理学 I 特別講義 食欲調節機構 矢田	解剖学 I 脈管学 頭頸部の脈管 鈴木	解剖学 I 系統解剖実習④ 全員		
10月26日 木	生理学 I 研究トピックス 希少糖 徳田	解剖学 II 組織学講義 軟骨組織 川合	解剖学 II 組織学講義 軟骨組織 川合	解剖学 II 組織学実習 軟骨組織 川合他	
10月27日 金	生化学 脂質代謝(1) 上田	解剖学 II 組織学講義 骨組織 川合	解剖学 II 組織学講義 骨組織 川合	解剖学 II 組織学実習 骨組織 川合他	

23	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月30日 月	補講	生化学 実習(3)			
10月31日 火	補講	生化学 実習(4)			
11月1日 水	生理学 I 研究トピックス 癌と希少糖 徳田	解剖学 I 内臓学 循環器系 三木	解剖学 I 系統解剖実習⑤ 全員		
11月2日 木	生理学 I 大脳辺縁系の働き 大脳辺縁系の解剖と機能 徳田	解剖学 II 組織学講義 筋組織 荒木	解剖学 II 組織学講義 筋組織 荒木	解剖学 II 組織学実習 筋組織 荒木他	
11月3日 金	文化の日				

24	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月6日 月	補講	生化学 実習(5)			
11月7日 火	生理学 II 先端研究①	生化学 実習(6)			
11月8日 水	生理学 I 視覚の生理 山口	解剖学 I 内臓学 呼吸器系 三木	解剖学 I 系統解剖実習⑥ 全員		
11月9日 木	生理学 I 脳波と睡眠 脳波と睡眠 徳田	解剖学 II 組織学講義 神経組織 荒木	解剖学 II 組織学講義 神経組織 荒木	解剖学 II 組織学実習 神経組織 荒木他	
11月10日 金	生化学 脂質代謝(2) 上田	解剖学 II 組織学講義 血液 荒木	解剖学 II 組織学講義 血液 荒木	解剖学 II 組織学実習 血液 荒木他	

25	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月13日 月	解剖学 I 脈管学試験	生化学 脂質代謝 (3) 上田	生化学 脂質代謝 (4) 上田	生化学 特別講義 (1) 伊藤	
11月14日 火	生理学 II 先端研究②	生化学 脂質代謝 (5) 上田	生化学 特別講義 (2) 佐々木	生化学 特別講義 (3) 佐々木	
11月15日 水	生理学 I 脳波と睡眠 網様体賦活系、概日リズム 徳田	解剖学 I 内臓学 消化器系 (1) 三木	解剖学 I 系統解剖実習⑦ 全員		
11月16日 木	生理学 I 特別講義 概日リズム 池田	解剖学 II 組織学講義 骨髄 荒木	解剖学 II 組織学講義 骨髄 荒木	解剖学 II 組織学実習 骨髄 荒木他	
11月17日 金	生化学 脂質代謝 (6) 大西	解剖学 II 予備	午後休講 (入試)		

26	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月20日 月	解剖学 II 組織学総論試験 担当教員全員	生化学 実習 (7)			
11月21日 火	生理学 II 先端研究③	生化学 実習 (8)			
11月22日 水	生理学 I 特別講義 概日リズム 池田	解剖学 I 内臓学 消化器系 (2) 三木	解剖学 I 系統解剖実習⑧		全員
11月23日 木	勤労感謝の日				
11月24日 金	生化学 脂質代謝 (7) 大西	解剖学 II 組織学講義 脈管 荒木	解剖学 II 組織学講義 脈管 荒木	解剖学 II 組織学実習 脈管 荒木他	

27	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月27日 月	生理学 II 腎臓①	生理学 II 腎臓②	生理学 II 腎臓③	生理学 II 腎臓④	
11月28日 火	解剖学 I 末梢神経学 脊髄神経 太田	解剖学 I 発生学 総論 (1) 三木	生化学 実習 (9)		
11月29日 水	生理学 I 高次神経活動 I 学習と記憶 I 徳田	解剖学 I 内臓学 尿路系 三木	解剖学 I 系統解剖実習⑨		全員
11月30日 木	生理学 I 高次神経活動 II 学習と記憶 II 徳田	解剖学 II 組織学講義 防御系 江上	解剖学 II 組織学講義 防御系 江上	解剖学 II 組織学実習 防御系 江上他	
12月1日 金		解剖学 II 組織学講義 消化器系① 荒木	解剖学 II 組織学講義 消化器系① 荒木	解剖学 II 組織学実習 消化器系① 荒木他	

28	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
12月4日 月	生化学 試験 F	生化学 試験 F	生理学Ⅱ 酸塩基平衡①	生理学Ⅱ 酸塩基平衡②	
12月5日 火	解剖学Ⅰ 末梢神経学 脊髄神経 太田	解剖学Ⅰ 末梢神経学 脊髄神経 太田	生化学 脂質代謝(8) 大西	生化学 脂質代謝(9) 大西	
12月6日 水	生理学Ⅰ 聴覚と平衡覚の生理 山口	解剖学Ⅰ 末梢神経学 脳神経 太田	解剖学Ⅰ 系統解剖実習⑩ 全員		
12月7日 木	生理学Ⅰ 嗅覚と味覚の生理 山口	解剖学Ⅱ 組織学講義 消化器系② 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 消化器系② 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 消化器系② 荒木他	
12月8日 金	生化学 (予備)	解剖学Ⅱ 組織学講義 消化器系③ 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 消化器系③ 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 消化器系③ 荒木他	

29	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
12月11日 月	生理学Ⅱ 後期中間試験 平野	生理学Ⅱ 後期中間試験 平野	解剖学Ⅰ 発生学 総論(2) 太田	解剖学Ⅰ 発生学 総論(3) 三木	
12月12日 火	生理学Ⅱ 体液性調節① 平野	生理学Ⅱ 体液性調節② 平野	生化学 特別講義(4) 高橋	生化学 特別講義(5) 高橋	
12月13日 水	生理学Ⅰ 体性感覚の生理 山口	解剖学Ⅰ 末梢神経学 脳神経 太田	解剖学Ⅰ 系統解剖実習⑪ 全員		
12月14日 木	生理学Ⅰ 研究トピックス 董	解剖学Ⅱ 組織学講義 消化器系④ 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 消化器系④ 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 消化器系④ 荒木他	
12月15日 金	生化学 (予備)	解剖学Ⅱ 組織学講義 呼吸器系 三宅	解剖学Ⅱ 組織学講義 呼吸器系 三宅	解剖学Ⅱ 組織学実習 呼吸器系 荒木他	

12/18(月) 組織学各論 中間試験

30	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月1日 月	冬季休業				
1月2日 火	冬季休業				
1月3日 水	冬季休業				
1月4日 木	生化学 試験 C	解剖学Ⅱ 組織学講義 内分泌系 三宅	解剖学Ⅱ 組織学講義 内分泌系 三宅	解剖学Ⅱ 組織学実習 内分泌系 荒木他	
1月5日 金	生理学Ⅰ 特別講義 未定	解剖学Ⅱ 組織学講義 泌尿器系① 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 泌尿器系① 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 泌尿器系① 荒木他	

31	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月8日 月	成人の日				
1月9日 火	生理学Ⅱ 後期中間試験追再試験 平野	生理学Ⅱ 後期中間試験追再試験 平野	生化学 アミノ酸代謝(1) 大西	生化学 アミノ酸代謝(2) 大西	
1月10日 水	生理学Ⅰ 筋肉生理学Ⅰ 筋肉収縮の生理Ⅰ 山口	解剖学Ⅰ 末梢神経学 脳神経 太田	解剖学Ⅰ 系統解剖実習⑫ 全員		
1月11日 木	生理学Ⅰ 筋肉生理学Ⅱ 筋肉収縮の生理Ⅱ 山口	解剖学Ⅱ 組織学講義 泌尿器系② 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 泌尿器系② 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 泌尿器系② 荒木他	
1月12日 金	生化学 アミノ酸代謝(3) 大西	生化学 アミノ酸代謝(4) 大西	センター試験設営(午後休講)		

32	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月15日 月	補講	生理学Ⅱ 体液性調節③ 平野	解剖学Ⅰ 内臓学 生殖器系 三木	解剖学Ⅰ 発生学 各論(1) 三木	解剖学Ⅰ 解剖学総論 臨床解剖学(1) 三木
1月16日 火	生理学Ⅱ 体液性調節④ 平野	生理学Ⅱ 体液性調節⑤ 平野	生化学 アミノ酸代謝(5) 大西	生化学 アミノ酸代謝(6) 大西	
1月17日 水	生理学Ⅰ 脊髄の運動機能と反射 筋紡錘、 γ 運動系 徳田	解剖学Ⅰ 発生学 各論(2) 三木	解剖学Ⅰ 系統解剖実習⑬ 全員		
1月18日 木	生理学Ⅰ 脊髄の運動機能と反射 伸張反射、屈曲反射 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系① 江上	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系① 江上	解剖学Ⅱ 組織学実習 生殖器系① 江上他	
1月19日 金	生化学 ポルフィリン代謝 大西	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系② 江上	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系② 江上	解剖学Ⅱ 組織学実習 生殖器系② 江上他	

33	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月22日 月	生化学 核酸代謝(1) 大西	生理学Ⅱ 循環器① 平野	解剖学Ⅰ 発生学 各論(3) 三木	解剖学Ⅰ 発生学 各論(4) 三木	解剖学Ⅰ 解剖学総論 臨床解剖学(2) 三木
1月23日 火	生理学Ⅱ 循環器② 平野	生理学Ⅱ 循環器③ 平野	生化学 核酸代謝(2) 大西	生化学 核酸代謝(3) 大西	
1月24日 水	生理学Ⅰ 脳幹の運動機能 徳田	解剖学Ⅰ 末梢神経学 脳神経 太田	解剖学Ⅰ 系統解剖実習⑭ 全員		
1月25日 木	生理学Ⅰ 大脳運動野の働き 運動前野、補足運動野の働き 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系③ 江上	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系③ 江上	解剖学Ⅱ 組織学実習 生殖器系③ 江上他	
1月26日 金	生化学 ビタミン(1) 上田	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系④ 江上	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系④ 江上	解剖学Ⅱ 組織学実習 生殖器系④ 江上他	

34	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月29日 月	解剖学 I 内臓学試験	生理学 II 循環器④ 平野		解剖学 I 発生学 各論(5) 三木	
1月30日 火	生理学 II 循環器⑤ 平野	生理学 II 循環器⑥ 平野	生化学 ビタミン(2) 上田	生化学 ビタミン(3) 上田	
1月31日 水	生理学 I 大脳基底核の働き 大脳基底核の機能 徳田	解剖学 I 末梢神経学 脳神経 太田	解剖学 I 系統解剖実習⑮ 全員		
2月1日 木	生理学 I 大脳基底核の働き 大脳基底核の機能 徳田	解剖学 II 組織学講義 皮膚 荒木	解剖学 II 組織学講義 皮膚 荒木	解剖学 II 組織学実習 皮膚 荒木他	
2月2日 金	生化学 ビタミン(4) 上田	解剖学 II 組織学講義 感覚器① 荒木	解剖学 II 組織学講義 感覚器① 荒木	解剖学 II 組織学実習 感覚器① 荒木他	

35	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月5日 月	補講	生理学 II 循環器⑦ 平野	解剖学 I 発生学 各論(6) 三木	解剖学 I 系統解剖実習⑯ 全員	
2月6日 火	生理学 II 予備日	生理学 II 循環器⑧ 平野	生化学 特別講義(6) 富田	生化学 特別講義(7) 富田	
2月7日 水	解剖学 I 予備	解剖学 I 末梢神経学試験・系統解剖実習試験			全員
2月8日 木	生理学 I 小脳の働き 小脳の機能 徳田	解剖学 II 組織学講義 感覚器② 荒木	解剖学 II 組織学講義 感覚器② 荒木	解剖学 II 組織学実習 感覚器② 荒木他	
2月9日 金	生化学 フリーラジカルと 活性酵素 上田	解剖学 II 復習			

36	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月12日 月	振替休日				
2月13日 火	後期定期試験				
2月14日 水	後期定期試験				
2月15日 木	後期定期試験				
2月16日 金	後期定期試験				

3/	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月19日 月	後期定期試験				
2月20日 火	後期定期試験				
2月21日 水	後期定期試験				
2月22日 木	後期定期試験				
2月23日 金			個別学力試験準備		

平成29年度 講義・実習時間割 3年次生

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月3日 月	授業ガイダンス 大B	病理学 I 病理学概論 今井田	内分泌学 序論 中村 内分泌学実習ガイダンス	微生物学 微生物学の歴史 桑原	
4月4日 火	生理学・薬理学実習 説明	医学英語 I Introductions 大B・大D Willey, McCrohan	生理学・薬理学実習:1-1 (第3・第4実習室)		
4月5日 水	微生物学 細菌の分類と遺伝 鈴木	免疫学 免疫学の基礎 星野	生理学・薬理学実習:1-2 (第3・第4実習室)		
4月6日 木	病理学 II 病理学総論 序説 上野	医動物学 医動物学総論 新井	内分泌学実習:1 中村・西・小川・野中		
4月7日 金	薬理学 薬理学とは 西山	薬理学 臨床薬理学総論 西山	内分泌学実習:2 中村・西・小川・野中		

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月10日 月	免疫学 自然免疫 星野	病理学 I 病理学概論 今井田	内分泌学 ホルモンの分類 中村	微生物学 細菌の形態と構造 鈴木	全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
4月11日 火	医動物学 線虫類総論 線虫類(1) 新井	医学英語 I PEIUM 大B・大D Willey, McCrohan	定期健康診断(午後休講)		
4月12日 水	微生物学 細菌の増殖と代謝 桑原	免疫学 自然免疫の反応 財賀	生理学・薬理学実習:1-3 (第3・第4実習室)		
4月13日 木	病理学 II 炎症(1) 上野	医動物学 線虫類(2) 新井	内分泌学実習:3 中村・西・小川・野中		
4月14日 金	薬理学 薬の作用様式と 作用機序 中野	薬理学 麻薬性鎮痛剤 中野	内分泌学実習:4 中村・西・小川・野中		

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月17日 月	免疫学 B細胞受容体、T細胞 受容体による抗原認識 仁木	病理学 I 病理学総論 細胞傷害・修復 今井田	内分泌学 ホルモンの 生合成と分泌 中村	微生物学 滅菌と消毒 鈴木	全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
4月18日 火	医動物学 線虫類(3) 新井	医学英語 I PEIUM 大B・大D Willey, McCrohan	生理学・薬理学実習:2-1 (第3・第4実習室)		
4月19日 水	微生物学 抗菌薬の構造と作用 桑原	免疫学 抗原受容体の レパートリー形成1 仁木	生理学・薬理学実習:2-2 (第3・第4実習室)		
4月20日 木	病理学 II 炎症(2) 上野	病理学 II 炎症(3) 上野	内分泌学実習:5 中村・西・小川・野中		
4月21日 金	薬理学 交感神経作動薬 人見	薬理学 交感神経遮断薬 人見	内分泌学実習:6 中村・西・小川・野中		

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月24日 月	免疫学 抗原受容体の レバートリー形成2 仁木	病理学 I 病理学総論 細胞傷害・修復 今井田	内分泌学 ホルモン受容体 1 中村	微生物学 薬剤感受性と薬剤耐性 桑原	全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
4月25日 火	医動物学 線虫類(4) 新井	医学英語 I PEIUM 大B・大D Willey, McCrohan	生理学・薬理学実習(予備) (第3・第4実習室)		
4月26日 水	微生物学 グラム陽性球菌 桑原	免疫学 T細胞への抗原提示1 仁木	生理学・薬理学実習:2-3 (第3・第4実習室)		
4月27日 木	医動物学 線虫類(5) 新井	医動物学 線虫類(6) 新井	内分泌学実習:7 中村・西・小川・野中		
4月28日 金	薬理学 薬物の容量と反応 吉栖先生	薬理学 薬物の体内動態 吉栖先生	内分泌学実習:8 中村・西・小川・野中		

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月1日 月	免疫学 T細胞への抗原提示2 仁木	病理学 I 病理学総論 染色体異常と遺伝子疾患(1) 今井田	内分泌学 ホルモン受容体 2 中村	微生物学 グラム陽性芽胞形成菌 鈴木	
5月2日 火	医動物学 吸虫類総論 吸虫類(1) 新井	医学英語 I PEIUM 大B・大D Willey, McCrohan	生理学・薬理学実習(予備) (第3・第4実習室)		
5月3日 水	憲法記念日				
5月4日 木	みどりの日				
5月5日 金	こどもの日				

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月8日 月	免疫学 T細胞受容体とB細胞 受容体のシグナル 星野	病理学 I 病理学総論 染色体異常と遺伝子疾患(2) 今井田	内分泌学 ホルモンの定量法 中村	微生物学 グラム陽性無芽胞桿菌 今大路	全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
5月9日 火	医動物学 吸虫類(2) 新井	医学英語 I PEIUM 大B・大D Willey, McCrohan	生理学・薬理学実習:3-1 (第3・第4実習室)		
5月10日 水	微生物学 腸内細菌科 鈴木	免疫学 リンパ球の発生・分化 と維持1 星野	生理学・薬理学実習:3-2 (第3・第4実習室)		
5月11日 木	医動物学 吸虫類(3) 新井	医動物学 吸虫類(4) 新井	生理学・薬理学実習:3-3 (第3・第4実習室)		
5月12日 金	薬理学 副交感神経作動薬 人見	薬理学 副交感神経遮断薬 人見			

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月15日 月	免疫学 リンパ球の発生・分化 と維持2 星野	病理学 I 病理学総論 腫瘍学 今井田	内分泌学 膵内分泌 1 西	微生物学 ビブリオ・バステラ科 鈴木	全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
5月16日 火	医動物学 原虫類総論 原虫類(1) 新井	医学英語 I Mid-term test 大B・大D Willey, McCrohan	病理学 I 病理学総論 腫瘍学 横平	医動物学 原虫類(2) 新井	
5月17日 水	微生物学 グラム陰性非発酵菌 今大路	免疫学 B細胞の免疫応答 仁木	補講	補講	
5月18日 木	病理学 II 炎症(4) 上野	病理学 II 循環障害(1) 阪本	微生物学実習:1		
5月19日 金	薬理学 漢方医学総論レビュー(1) 小路	薬理学 漢方医学総論レビュー(2) 小路	微生物学実習:2		

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月22日 月	免疫学 獲得免疫のダイナミクス 星野	病理学 I 病理学総論 腫瘍学 今井田	内分泌学 膵内分泌 2 西	微生物学 ウイルスの基本性状 桑原	全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
5月23日 火	医動物学 原虫類(3) 新井	医学英語 I PEIUM 大B・大D Willey, McCrohan	病理学 I 病理学総論 腫瘍学 横平	医動物学 原虫類(4) 新井	
5月24日 水	微生物学 ウイルスの増殖 桑原	免疫学 粘膜免疫1 星野	補講	補講	
5月25日 木	病理学 II 循環障害(2) 阪本	病理学 II 循環障害(3) 阪本	微生物学実習:3		
5月26日 金	薬理学 抗腫瘍薬(1) 小坂	薬理学 抗腫瘍薬(2) 小坂	微生物学 グラム陰性球菌 今大路	微生物学実習:4	

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月29日 月	免疫学 粘膜免疫2 星野	病理学 I 病理学総論 腫瘍学 横平	内分泌学 膵内分泌 3 西	微生物学 DNAウイルス① 桑原	全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
5月30日 火	微生物学 DNAウイルス② 小山	医学英語 I PEIUM 大B・大D Willey, McCrohan	免疫学 T細胞の免疫1 (特別講義) 田中	免疫学 T細胞の免疫2 (特別講義) 田中	
5月31日 水	医動物学 原虫類(5) 新井	免疫学 免疫学実習の説明 星野	免疫学実習:1 リンパ組織の観察1、プラークアッセイ1 星野、仁木、財賀		
6月1日 木	医動物学 原虫類(6) 新井	医動物学 原虫類(7) 新井	免疫学実習:2 リンパ球のフローサイトメトリー解析1、赤血球凝集反応1 星野、仁木、財賀		
6月2日 金	薬理学 抗炎症薬・パーキン ソン病治療薬 中野	薬理学 神経節遮断薬・神経 筋接合部作用薬 中野	補講	補講	

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月5日 月	免疫学 宿主防御機構 の破綻1 星野	病理学 I 病理学総論 腫瘍学 橋本	内分泌学 甲状腺 1 中村	内分泌学 甲状腺 2 中村	全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
6月6日 火	医動物学 Advanced Parasitology 田中	医学英語 I PEIUM 大B・大D Willey, McCrohan	免疫学 B細胞の免疫1 (特別講義) 前田	免疫学 B細胞の免疫2 (特別講義) 前田	
6月7日 水	微生物学 DNAウイルス③ 小山	免疫学 宿主防御機構 の破綻2 星野	免疫学実習:3 リンパ組織の観察2、プラークアッセイ2 星野、仁木、財賀		
6月8日 木	病理学 II 免疫と疾患(1) 上野	病理学 II 免疫と疾患(2) 上野	免疫学実習:4 リンパ球のフローサイトメトリー解析2、赤血球凝集反応2 星野、仁木、財賀		
6月9日 金	薬理学 抗精神病薬 大野	薬理学 抗うつ薬 ・抗けいれん薬 大野	内分泌学 副甲状腺 中村	内分泌学 生殖腺 1 中村	

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月12日 月	免疫学 アレルギー 財賀	病理学 I 病理学総論 腫瘍学 橋本	内分泌学 副甲状腺 中村	内分泌学 生殖腺 1 中村	全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
6月13日 火	医動物学 条虫類総論 条虫類(1) 新井	医学英語 I PEIUM 大B・大D Willey, McCrohan	医動物学実習:1 線虫類 新井・田中		
6月14日 水	微生物学 RNAウイルス③ 桑原	微生物学 RNAウイルス④ 桑原	補講	補講	
6月15日 木	病理学 II 免疫と疾患(3) 上野	医動物学 条虫類(2) 新井	病理学 I 病理学総論 腫瘍学 橋本	病理学 I 特別講義 大石	
6月16日 金	薬理学 レニン・アンジオテンシン アルドステロン系(1) 西山	薬理学 レニン・アンジオテンシン アルドステロン系(2) 西山	微生物学 RNAウイルス⑤ 岡崎	微生物学 RNAウイルス⑥ 岡崎	

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月19日 月	免疫学 自己免疫 仁木	病理学 I 病理学総論 腫瘍学 横平	内分泌学 生殖腺 2 中村	内分泌学 副腎(皮質・髄質)1 中村	全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
6月20日 火	医動物学 条虫類(3) 新井	医学英語 I PEIUM 大B・大D Willey, McCrohan	医動物学実習:2 吸虫類 新井・田中		
6月21日 水	微生物学 肝炎ウイルス① 桑原	微生物学 肝炎ウイルス② 桑原	病理学 II 実習:1		
6月22日 木	病理学 II 免疫と疾患(4) 上野	病理学 II 環境と疾患 上野	病理学 II 実習:2		
6月23日 金	薬理学 消化器薬理 西堀	薬理学 ヒスタミン 西堀	医動物学 衛生動物総論 衛生動物各論(1) 新井	医動物学 衛生動物各論(2) 新井	症候論 ガイダンス

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月26日 月	免疫学 移植免疫 仁木	病理学 I 特別講義 竿尾	内分泌学 副腎(皮質・髄質)2 中村	内分泌学 ステロイドホルモン 産生の調節機構 水谷	全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
6月27日 火	医動物学 検査法 新井	医学英語 I PEIUM 大B・大D Willey, McCrohan	医動物学実習:3 原虫類 新井・田中		
6月28日 水	微生物学 レトロウイルス① 桑原	微生物学 レトロウイルス② プリオン 桑原	病理学 II 実習:3		
6月29日 木	病理学 II 食物、栄養と疾患 上野	病理学 II まとめ 上野	病理学 II 実習:4		
6月30日 金	薬理学 漢方医学各論レビュー(1) 小路	薬理学 漢方医学各論レビュー(2) 小路	医動物学 寄生虫感染免疫 新井	医動物学 予備	

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月3日 月	免疫学 免疫応答の 人為的操作 星野	病理学 I 特別講義 船本	内分泌学 視床下部・下垂体 中村	内分泌学 内分泌と分子異常 東海林	全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
7月4日 火	免疫学 予備日	医学英語 I PEIUM 大B・大D Willey, McCrohan	病理学 I 試験		
7月5日 水	微生物学 偏性細胞内寄生細菌 今大路	微生物学 らせん菌 スピロヘータ 今大路	実習補講ワク		
7月6日 木	病理学 II 予備	病理学 II 予備	医動物学実習:4 条虫類・衛生動物 新井・田中		
7月7日 金	薬理学 腎・泌尿器薬理(1) 齊藤	薬理学 腎・泌尿器薬理(2) 齊藤	薬理学 腎臓病創薬 西山	実習補講	

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月10日 月					全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
7月11日 火		医学英語 I Notebook collection 大B・大D Willey, McCrohan			
7月12日 水					
7月13日 木					
7月14日 金					

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月17日 月	海の日				
7月18日 火	前期定期試験				
7月19日 水	前期定期試験				
7月20日 木	前期定期試験				全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey
7月21日 金	前期定期試験				

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月24日 月					全学共通科目 Academic English I 医学部キャンパス 大B Willey

平成29年度 講義・実習時間割 3年次生

	I 8:30-9:30	II 9:40-10:40	III 10:50-11:50	IV 12:50-13:50	V 14:00-15:00	VI 15:10-16:10	VII 16:20-17:20
8月28日 月	前期定期試験						
8月29日 火	前期定期試験						
8月30日 水	前期定期試験						
8月31日 木	前期定期試験						
9月1日 金	前期定期試験						

	I 8:30-9:30	II 9:40-10:40	III 10:50-11:50	IV 12:50-13:50	V 14:00-15:00	VI 15:10-16:10	VII 16:20-17:20
9月4日 月	前期定期試験						
9月5日 火	前期定期試験						
9月6日 水	前期定期試験						
9月7日 木	前期定期試験						
9月8日 金	前期定期試験						

I	I 8:30-9:30	II 9:40-10:40	III 10:50-11:50	IV 12:50-13:50	V 14:00-15:00	VI 15:10-16:10	VII 16:20-17:20
9月11日 月	臨床総論 医の原則・医療における 安全性確保 総合内科	臨床総論 コミュニケーションとチーム医療 総合内科	臨床総論 基本的診療知識:内視 鏡を用いる診断と治療 総合内科	臨床総論 基本的診療知識 緩和医療 非常勤講師	臨床総論 腫瘍 症候および診断 消化器・神経内科学	臨床総論 基本的診療知識 臨床検査(1) 先端医療・臨床検査医学	臨床総論
9月12日 火	臨床総論 基本的診療知識 臨床検査(2) 先端医療・臨床検査医学	臨床総論 小児科学総論 小児科学	臨床総論 外科学総論 消化器外科学	臨床総論 腫瘍:手術療法および 集学的治療 消化器外科学	医学英語II 1 14:00-15:15 Willey, McCrohan (大B, 大D)		臨床総論
9月13日 水	臨床総論 基本的外科診断法 呼吸器・乳腺甲状腺 呼吸器・乳腺内分泌外科学	臨床総論 基本的診療知識 医用機器と人工臓器 心血管外科学	臨床総論 小児外科学総論 小児外科学	臨床総論 外傷学総論 整形外科	臨床総論 基本的診療知識:東洋 医学漢方医学総論(1) 非常勤講師	臨床総論 基本的診療知識:東洋 医学漢方医学総論(2) 非常勤講師	臨床総論
9月14日 木	臨床総論 腫瘍 支持療法および 緩和療法 非常勤講師	臨床総論 基本的診療知識 移植 泌尿器科学	臨床総論 病因と病態 炎症と創傷治療 形成外科学	臨床総論 専門医制度(1) 非常勤講師	臨床総論 専門医制度(2) 非常勤講師	臨床総論 基本的診療知識:超音 波を用いる診断と治療 周産期学婦人科学	臨床総論
9月15日 金	臨床総論 口腔の構造・機能・生 理 歯科口腔外科学	臨床総論 基本的診療知識 薬物療法の基本原理 薬剤部	臨床総論 薬物体内動態:TDM 薬剤部	臨床総論 麻薬の取り扱い 薬剤部	臨床総論 病理組織診断学 病理診断科	臨床総論 細胞診断学 病理診断科	臨床総論

2	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
9月18日 月	敬老の日						
9月19日 火	臨床総論 基本的診察知識 輸血 輸血部	臨床総論 基本的診察知識 リハビリテーション リハビリテーション部	臨床総論 医療情報とは・医療情報 の扱い方 医療情報部	臨床総論 遠隔診断システム・医療 情報初7-7 医療情報部	医学英語II 2 14:00-15:15 Willey, McCrohan (大B, 大D)		臨床総論
9月20日 水	臨床総論 物理・化学的因子による 疾患 法医学	臨床総論 人の死・死と法 法医学	臨床総論 臨床腫瘍学 臨床腫瘍学	臨床総論 地域医療のススメ 地域医療教育支援センター	臨床総論 漢方の実際 (1) 非常勤講師	臨床総論 漢方の実際 (2) 非常勤講師	臨床総論
9月21日 木	臨床総論 未定 地域包括医療学	臨床総論	臨床総論	臨床総論	臨床総論	臨床総論	臨床総論
9月22日 金	臨床総論	臨床総論 試験予定日	臨床総論	臨床総論	臨床総論	臨床総論	臨床総論

3	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
9月25日 月	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論
9月26日 火	症候論	症候論	症候論	症候論	医学英語II 14:00-15:15 PEIUM Willey, McCrohan (大B, 大D)		症候論
9月27日 水	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論
9月28日 木	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論
9月29日 金	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論

4	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
10月2日 月	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	16:20-17:50 大B 全学共通科目 Academic English II 医学部キャンパス Willey
10月3日 火	症候論	症候論	症候論	症候論	医学英語II 14:00-15:15 PEIUM Willey, McCrohan (大B, 大D)		症候論
10月4日 水	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論
10月5日 木	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論	症候論
10月6日 金	症候論	症候論	症候論	医学部祭 (午後休講)			

精神神経、内分泌代謝ユニット 第1週

5	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
10月9日 月	体育の日						
10月10日 火	症候論 試験予定日	精神神経、内分泌代謝ユニット 副腎の基礎 生化学	精神神経、内分泌代謝ユニット 副腎疾患 I 村尾 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	精神神経、内分泌代謝ユニット 副腎疾患 II 村尾 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	医学英語 I 14:00-15:15 PEIUM Willey, McCrohan (大B, D)	精神神経、内分泌代謝ユニット アミロイドーシス 生化学/井町 生化学/内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	
10月11日 水	精神神経、内分泌代謝ユニット 内分泌細胞の機能 I 分子細胞機能学	精神神経、内分泌代謝ユニット 内分泌細胞の機能 II 分子細胞機能学	精神神経、内分泌代謝ユニット 内分泌細胞の機能 III 分子細胞機能学	精神神経、内分泌代謝ユニット 内分泌検査 吉本 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	精神神経、内分泌代謝ユニット ホルモンと受容体 I 分子細胞機能学	精神神経、内分泌代謝ユニット ホルモンと受容体 II 分子細胞機能学	精神神経、内分泌代謝ユニット 下垂体機能低下症 特別講義 佐藤 誠
10月12日 木	精神神経、内分泌代謝ユニット 脂質代謝・動脈硬化 I 生化学	精神神経、内分泌代謝ユニット 脂質代謝・動脈硬化 II 生化学	精神神経、内分泌代謝ユニット 糖代謝 生化学	精神神経、内分泌代謝ユニット 乳癌の診断と治療 紺谷 乳腺・内分泌外科	精神神経、内分泌代謝ユニット 甲状腺疾患の外科治療 紺谷 乳腺・内分泌外科	精神神経、内分泌代謝ユニット 脂質代謝・動脈硬化 III 村尾 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	精神神経、内分泌代謝ユニット ホルフィン代謝とホルフィリア 生化学/井町 先端医療・臨床検査医学
10月13日 金	精神神経、内分泌代謝ユニット 栄養学総論 I 特別講義 竹谷 豊	精神神経、内分泌代謝ユニット 栄養学総論 II 特別講義 竹谷 豊	精神神経、内分泌代謝ユニット ビタミンの基礎 I 生化学	精神神経、内分泌代謝ユニット ビタミンの基礎 II 生化学	精神神経、内分泌代謝ユニット 下垂体後葉疾患 村尾 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	精神神経、内分泌代謝ユニット 下垂体疾患の病態と診断 村尾 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	精神神経、内分泌代謝ユニット 消化管ホルモン I 分子細胞機能学

精神神経、内分泌代謝ユニット 第2週

6	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
10月16日 月	内分泌代謝ユニット 甲状腺機能の病態と診断 I 村尾 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	内分泌代謝ユニット 甲状腺機能の病態と診断 II 村尾 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	内分泌代謝ユニット 副甲状腺疾患 吉本 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	内分泌代謝ユニット 糖尿病 I 村尾 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	内分泌代謝ユニット 糖尿病 II 村尾 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	内分泌代謝ユニット 糖尿病 III 村尾 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	16:20-17:50 大B 全学共通科目 Academic English II 医学部キャンパス Willey
10月17日 火	内分泌代謝ユニット 甲状腺病理 講義 炎症病理学	内分泌代謝ユニット 甲状腺病理 講義 炎症病理学	内分泌代謝ユニット 甲状腺病理 実習 炎症病理学	内分泌代謝ユニット 甲状腺病理 実習 炎症病理学	医学英語 II 14:00-15:15 PEIUM Willey, McCrohan (大B, D)	内分泌代謝ユニット (実習予備) 炎症病理学	
10月18日 水	内分泌代謝ユニット 消化管ホルモン II 井町 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	内分泌代謝ユニット 核酸代謝・痛風 生化学/井町 生化学/内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	内分泌代謝ユニット 多発性内分泌腺腫症 井町 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	内分泌代謝ユニット 乳腺 講義 炎症病理学	内分泌代謝ユニット 乳腺 実習 炎症病理学	内分泌代謝ユニット 乳腺 実習 炎症病理学	内分泌代謝ユニット (実習予備) 炎症病理学
10月19日 木	精神神経、内分泌代謝ユニット	内分泌代謝ユニット 骨粗鬆症 菊池 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	内分泌代謝ユニット 糖尿病 IV 特別講義 米井 泰治	内分泌代謝ユニット 乳癌に対する放射線治療 高橋 放射線腫瘍学	精神神経、内分泌代謝ユニット	精神神経、内分泌代謝ユニット	内分泌代謝ユニット 肥満とやせ 井町 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
10月20日 金	精神神経、内分泌代謝ユニット	内分泌代謝ユニット 糖尿病 V 福長 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	内分泌代謝ユニット 糖尿病 VI チーム医療 臨床薬理/リハビリテーション部/産科/産科検査学	精神神経、内分泌代謝ユニット	内分泌代謝ユニット 症例検討 米崎/山地 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	精神神経、内分泌代謝ユニット	精神神経、内分泌代謝ユニット

精神神経、内分泌代謝ユニット 第3週

7	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
10月23日 月	精神神経ユニット 診断と検査の基本 消化器・神経内科学	精神神経ユニット 神経感染症・中毒 (1) 消化器・神経内科学	精神神経ユニット 神経感染症・中毒 (2) 消化器・神経内科学	精神神経ユニット 精神医学的徴候と状態像 精神神経医学	精神神経ユニット 神経心理学的徴候・ 脳の局在症状 精神神経医学	精神神経ユニット 気分障害 双極性の徴候と診断 精神神経医学	16:20-17:50 大B 全学共通科目: 3 Academic English II 医学部キャンパス Willey
10月24日 火	精神神経ユニット 変性疾患および認知症 (1) 消化器・神経内科学	精神神経ユニット 神経病理 講義 炎症病理学	慰霊祭 (予定)				
10月25日 水	精神神経ユニット 神経病理 講義 炎症病理学	精神神経ユニット 神経病理 講義 炎症病理学	精神神経ユニット 統合失調症 (急性期) 精神神経医学	精神神経ユニット 統合失調症 (慢性期) 精神神経医学	精神神経ユニット 児童精神医学 精神神経医学	精神神経ユニット アルコール・薬物依存の 病態と診断 精神神経医学	精神神経ユニット 不随意運動の診断と治療 (特別講義) 消化器・神経内科学
10月26日 木	精神神経、内分泌代謝ユニット	精神神経ユニット 神経感染症・中毒 精神神経医学	精神神経ユニット 変性疾患および認知症 (3) 消化器・神経内科学	精神神経ユニット ミオパチー (1) 消化器・神経内科学	精神神経ユニット 認知症 精神神経医学	精神神経ユニット 変性疾患および認知症 (2) 消化器・神経内科学	精神神経ユニット ミオパチー (2) 消化器・神経内科学
10月27日 金	精神神経、内分泌代謝ユニット	精神神経、内分泌代謝ユニット	精神神経、内分泌代謝ユニット	精神神経ユニット 不安性障害・ 解離性障害 精神神経医学	精神神経ユニット コンサルテーション・ リエゾン精神医学 精神神経医学	精神神経ユニット 脱髄疾患 消化器・神経内科学	精神神経ユニット 脊髄・脊椎疾患 消化器・神経内科学

精神神経、内分泌代謝ユニット 第2週

8	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
10月30日 月	精神神経ユニット 先天性代謝障害 消化器・神経内科学	精神神経ユニット 末梢神経障害(1) 消化器・神経内科学	精神神経ユニット 末梢神経障害(2) 消化器・神経内科学	精神神経ユニット 精神療法・ 認知行動療法 精神神経医学	精神神経ユニット てんかん(成人) 精神神経医学	精神神経ユニット 精神科医療の法と倫理 精神神経医学	16:20-17:50 大B 全学共通科目 Academic English II 医学部キャンパス Willey
10月31日 火	精神神経ユニット 神経病理 講義 炎症病理学	精神神経ユニット 神経病理 特別講義 炎症病理学	精神神経ユニット 神経病理 実習 炎症病理学	精神神経ユニット 神経病理 実習 炎症病理学	医学英語II 14:00-15:15 PEIUM (Mid-term exam) Willey, McCrohan (大B, 大D)		精神神経、内分泌代謝ユニット (実習予備) 炎症病理学
11月1日 水	精神神経ユニット 症状精神病の概念と診断 精神神経医学	精神神経ユニット 心身症(摂食障害含む) 精神神経医学	精神神経ユニット 気分障害 うつ病の症候と診断 精神神経医学	精神神経ユニット 筋病理 講義 炎症病理学	精神神経ユニット 筋病理 実習 炎症病理学	精神神経ユニット 筋病理 実習 炎症病理学	精神神経ユニット (実習予備) 炎症病理学
11月2日 木	精神神経、内分泌代謝ユニット	精神神経ユニット ミオパチー(3) 消化器・神経内科学	精神神経ユニット ミオパチー(4) 消化器・神経内科学	精神神経ユニット 精神科面接・ 診断分類法 精神神経医学	精神神経、内分泌代謝ユニット	精神神経ユニット 頭痛 消化器・神経内科学	精神神経ユニット 神経症候学 消化器・神経内科学
11月3日 金	文化の日						

脳神経筋骨格、消化器ユニット 第1週

9	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
11月6日 月	精神神経、内分泌代謝ユニット 試験予定日	精神神経、内分泌代謝ユニット 試験予定日	精神神経、内分泌代謝ユニット 試験予定日	消化器ユニット 食道静脈瘤、 食道悪性腫瘍 消化器・神経内科学	消化器ユニット 大腸癌 消化器・神経内科学	消化器ユニット 潰瘍性大腸炎、 クローン病 消化器・神経内科学	消化器ユニット 食道炎・ 食道アカラシア 消化器・神経内科学
11月7日 火	消化器ユニット 消化器外科総論 消化器・神経内科学	消化器ユニット 大腸の外科治療 消化器・神経内科学	消化器ユニット 食道疾患の外科治療 消化器・神経内科学	消化器ユニット 胆膵その他 消化器・神経内科学	医学英語II 14:00-15:15 PEIUM Willey, McCrohan (大B, 大D)		16:20-17:50 大B 全学共通科目 Academic English II 医学部キャンパス Willey
11月8日 水	消化器ユニット 胃疾患の外科治療 消化器外科	消化器ユニット 小腸、虫垂、 肛門病変の外科治療 消化器外科	腫瘍病理学 消化管の病理1	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学
11月9日 木	消化器ユニット 胃炎、消化性潰瘍 消化器・神経内科学	消化器ユニット 消化器作用薬 消化器・神経内科学	消化器ユニット 自己免疫性肝炎、 原発性胆汁性胆管炎 消化器・神経内科学	消化器ユニット 肝疾患総論 消化器・神経内科学	消化器ユニット 胆道腫瘍 消化器・神経内科学	消化器ユニット 大腸の炎症性疾患 消化器・神経内科学	消化器ユニット 大腸ポリープ 消化器・神経内科学
11月10日 金	脳神経筋骨格、消化器ユニット	消化器ユニット 胃良性腫瘍、 胃悪性腫瘍 消化器・神経内科学	消化器ユニット 消化器内視鏡学 消化器・神経内科学	消化器ユニット 消化器内視鏡治療 消化器・神経内科学	消化器ユニット 膵腫瘍 消化器・神経内科学	消化器ユニット 特別講義 消化器・神経内科学	消化器ユニット 低侵襲下外科治療 消化器外科

脳神経筋骨格、消化器ユニット 第2週

10	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
11月13日 月	消化器ユニット 腸壁、横隔膜疾患 消化器外科	消化器ユニット 過敏性腸症候群、 大腸憩室 消化器・神経内科学	消化器ユニット 消化器疾患に対する 放射線治療 放射線腫瘍学	消化器ユニット ウイルス性肝炎I 消化器・神経内科学	消化器ユニット 胆道感染症 消化器・神経内科学	消化器ユニット 小腸疾患 消化器・神経内科学	16:20-17:50 大B 全学共通科目 Academic English II 医学部キャンパス Willey
11月14日 火	消化器ユニット 膵・胆道疾患の 外科治療I 消化器外科	消化器ユニット 急性腹症、腸閉塞 消化器外科	消化器ユニット 肝、脾、門脈の 外科治療I 消化器外科	消化器ユニット 肝、脾、門脈の 外科治療II 消化器外科	医学英語II 14:00-15:15 PEIUM Willey, McCrohan (大B, 大D)		消化器ユニット 肝硬変 消化器・神経内科学
11月15日 水	消化器ユニット 膵・胆道疾患の 外科治療II 消化器外科	消化器ユニット 膵・胆道疾患の 外科治療III 消化器外科	腫瘍病理学 消化管の病理2	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学
11月16日 木	消化器ユニット 急性膵炎、慢性膵炎 消化器・神経内科学	消化器ユニット 肝胆膵の超音波検査 消化器・神経内科学	消化器ユニット 劇症肝炎 消化器・神経内科学	消化器ユニット 原発性肝癌 消化器・神経内科学	消化器ユニット 症候I(黄疸、 腹部膨隆、腹部腫瘍) 消化器・神経内科学	消化器ユニット 症候II(腹痛、吐血、 下血、悪心、嘔吐) 消化器・神経内科学	消化器ユニット 急性肝炎、慢性肝炎 消化器・神経内科学
11月17日 金	消化器ユニット 消化器外科における 術前術後管理 消化器外科	脳神経筋骨格、消化器ユニット	脳神経筋骨格、消化器ユニット	推薦入試準備(予定)			

脳神経筋骨格、消化器ユニット 第3週

11	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
11月20日 月	消化器ユニット 肝移植と膵移植 消化器外科	消化器ユニット ウイルス性肝炎Ⅱ 消化器・神経内科学	消化器ユニット その他肝疾患 消化器・神経内科学	脳神経筋骨格ユニット 先天奇形 脳神経外科学(畠山)	脳神経筋骨格ユニット 頭部外傷 脳神経外科学(新堂)	脳神経筋骨格ユニット 脳出血・AVM・AVF 脳神経外科学(新堂)	16:20-17:50 大B 全学共通科目 Academic English II 医学部キャンパス Willey
11月21日 火	脳神経筋骨格ユニット 先天奇形病理 講義 炎症病理学	脳神経筋骨格ユニット 脳腫瘍病理 講義 炎症病理学	脳神経筋骨格ユニット 脳腫瘍病理 実習 炎症病理学	脳神経筋骨格ユニット 脳腫瘍病理 実習 炎症病理学	医学英語II 14:00-15:15 PEIUM Willey, McCrohan (大B, 大D)		脳神経筋骨格ユニット (実習予備) 炎症病理学
11月22日 水	脳神経筋骨格ユニット 診断と検査の基本 整形外科(森)	脳神経筋骨格ユニット 診断と検査の基本 脳神経外科学(田宮)	腫瘍病理学 消化管の病理3	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学
11月23日 木	勤労感謝の日						
11月24日 金	脳神経筋骨格ユニット 後頭蓋高腫瘍 脳神経外科学(三宅)	脳神経筋骨格ユニット 髄膜腫 脳神経外科学(三宅)	腫瘍病理学 消化器実習試験	脳神経筋骨格ユニット 脳腫瘍の分類 Glinoma 脳神経外科学(田宮)	脳神経筋骨格ユニット 鞍上部・松果体腫瘍 脳神経外科学(田宮)	脳神経筋骨格ユニット 脊髄・脊椎疾患 脳神経外科学(岡田)	脳神経筋骨格ユニット 特別講義 脳神経外科学

脳神経筋骨格、消化器ユニット 第4週

12	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
11月27日 月	脳神経筋骨格ユニット 関節疾患論 整形外科(真柴)	脳神経筋骨格ユニット 上肢の外傷 整形外科(中村)	脳神経筋骨格ユニット	脳神経筋骨格ユニット 骨関節病理 講義 炎症病理学	脳神経筋骨格ユニット 骨関節病理 実習 炎症病理学	脳神経筋骨格ユニット 骨関節病理 実習 炎症病理学	16:20-17:50 大B 全学共通科目 Academic English II 医学部キャンパス Willey
11月28日 火	脳神経筋骨格ユニット 脊椎・脊髄疾患(1) 整形外科(小松原)	脳神経筋骨格ユニット 骨関節病理 講義 炎症病理学	脳神経筋骨格ユニット 骨関節病理 実習 炎症病理学	脳神経筋骨格ユニット 骨関節病理 実習 炎症病理学	医学英語II 14:00-15:15 PEIUM Willey, McCrohan (大B, 大D)		脳神経筋骨格、消化器ユニット (実習予備) 炎症病理学
11月29日 水	脳神経筋骨格ユニット 中枢神経腫瘍に対する放射線治療 放射線腫瘍学(高橋)	脳神経筋骨格ユニット 抹消神経疾患 整形外科(加地)	脳神経筋骨格ユニット 上肢疾患 整形外科(加地)	脳神経筋骨格ユニット 骨関節病理 講義 炎症病理学	脳神経筋骨格ユニット 骨関節病理 実習 炎症病理学	脳神経筋骨格ユニット 骨関節病理 実習 炎症病理学	脳神経筋骨格ユニット (実習予備) 炎症病理学
11月30日 木	脳神経筋骨格ユニット 変性疾患 (機能的脳神経外科) 脳神経外科学(三宅)	脳神経筋骨格ユニット リウマチ性疾患 整形外科(今泉)	脳神経筋骨格ユニット 骨軟部腫瘍(1) 整形外科(山本)	脳神経筋骨格ユニット 骨軟部腫瘍(2) 整形外科(山本)	脳神経筋骨格ユニット 膝・足関節疾患 整形外科(真柴)	脳神経筋骨格ユニット 下肢の外傷 整形外科(真柴)	脳神経筋骨格ユニット 股関節疾患 整形外科(岩田)
12月1日 金	脳神経筋骨格ユニット 脊椎・脊髄疾患(2) 整形外科(小松原)	脳神経筋骨格ユニット 頭蓋内圧亢進症・脳ヘルニア 脳神経外科学(岡内)	脳神経筋骨格ユニット 脳梗塞Ⅰ 脳神経外科学(川西)	脳神経筋骨格ユニット 脳梗塞Ⅱ 脳神経外科学(川西)	脳神経筋骨格ユニット くも膜下出血 脳神経外科学(川西)	脳神経筋骨格ユニット 肩関節疾患 整形外科(中溝)	脳神経筋骨格ユニット 骨代謝疾患 整形外科(岩田)

麻酔、救急災害ユニット 第1週

13	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
12月4日 月	脳神経筋骨格、消化器ユニット 試験予定日	脳神経筋骨格、消化器ユニット 試験予定日	脳神経筋骨格、消化器ユニット 脳神経筋骨格ユニット試験	救急災害ユニット 救急集中治療医学① 総論 黒田	救急災害ユニット 救急集中治療医学② 重症外傷 一三 黒田	麻酔ユニット 麻酔・周術期医学総論 白神	16:20-17:50 大B 全学共通科目 Academic English II 医学部キャンパス Willey
12月5日 火	麻酔ユニット 痛み医学 野葦	麻酔ユニット 局所・区域麻酔 小野	救急災害ユニット 救急集中治療医学③ 脳神経外科急患 河北	救急災害ユニット 救急集中治療医学④ 重症熱傷 黒田	医学英語II 14:00-15:15 PEIUM Willey, McCrohan (大B, 大D)		麻酔、救急災害ユニット
12月6日 水	麻酔、救急災害ユニット	麻酔、救急災害ユニット	麻酔、救急災害ユニット	救急災害ユニット 救急集中治療医学⑤ 心停止・心肺脳蘇生 高野	麻酔ユニット 周術期全身管理 山上	麻酔、救急災害ユニット	救急災害ユニット 救急集中治療医学⑥ 災害医学・災害医療 黒田
12月7日 木	麻酔ユニット 集中治療医学① 総論 田家	麻酔、救急災害ユニット	麻酔、救急災害ユニット	麻酔、救急災害ユニット	救急災害ユニット 集中治療医学② 重症患者管理 浅賀	麻酔、救急災害ユニット	救急災害ユニット 救急集中治療医学⑦ 中毒総論・各論 黒田
12月8日 金	麻酔、救急災害ユニット	麻酔ユニット 麻酔薬理学 穴吹	麻酔ユニット 特殊麻酔 武田	麻酔、救急災害ユニット	麻酔、救急災害ユニット	麻酔、救急災害ユニット	麻酔、救急災害ユニット

呼吸器ユニット 第1週

14	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
12月11日 月	麻酔、救急災害ユニット 試験予定日	麻酔、救急災害ユニット 試験予定日	麻酔、救急災害ユニット 試験予定日	呼吸器ユニット	呼吸器ユニット	呼吸器ユニット	16:20-17:50 大B 全学共通科目 Academic English II 医学部キヤンパス Willey
12月12日 火	呼吸器ユニット 呼吸生理・血液ガス分析 血液免疫呼吸器内科 石井知也	呼吸器ユニット 呼吸器感染症 血液免疫呼吸器内科 渡邊直樹	呼吸器ユニット 呼吸器感染症 血液免疫呼吸器内科 渡邊直樹	呼吸器ユニット 呼吸器感染症 血液免疫呼吸器内科 渡邊直樹	医学英語II 14:00-15:15 Willey, McCrohan (大B, D)		呼吸器ユニット
12月13日 水	呼吸器ユニット	呼吸器ユニット	腫瘍病理学 呼吸器・感染症の病理	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学
12月14日 木	呼吸器ユニット 呼吸器感染症の外科 呼吸器・乳腺内分泌外科 張性洙	呼吸器ユニット 呼吸器感染症の外科 呼吸器・乳腺内分泌外科 張性洙	呼吸器ユニット 拘束性肺疾患・間質性肺炎 血液免疫呼吸器内科 金地伸拓	呼吸器ユニット 閉塞性肺疾患・COPD 血液免疫呼吸器内科 金地伸拓	呼吸器ユニット 閉塞性肺疾患・COPD 血液免疫呼吸器内科 金地伸拓	呼吸器ユニット	呼吸器ユニット
12月15日 金	呼吸器ユニット 喘息・アレルギー 血液免疫呼吸器内科 坂東修二	呼吸器ユニット 喘息・アレルギー 血液免疫呼吸器内科 坂東修二	呼吸器ユニット 喘息・アレルギー 血液免疫呼吸器内科 坂東修二	呼吸器ユニット 職業性肺疾患・塵肺 血液免疫呼吸器内科 香川芳炎 多田慎也	呼吸器ユニット 職業性肺疾患・塵肺 血液免疫呼吸器内科 香川芳炎 多田慎也	呼吸器ユニット	呼吸器ユニット

呼吸器ユニット 第2週

15	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
12月18日 月	呼吸器ユニット	呼吸器ユニット 呼吸・循環器障害 血液免疫呼吸器内科 金地伸拓	腫瘍病理学 呼吸器・閉塞性拘束性疾患	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	16:20-17:50 大B 全学共通科目 Academic English II 医学部キヤンパス Willey
12月19日 火	呼吸器ユニット 喫煙と健康被害 血液免疫呼吸器内科 坂東修二	呼吸器ユニット 喫煙と健康被害 血液免疫呼吸器内科 坂東修二	呼吸器ユニット びまん性肺疾患 血液免疫呼吸器内科 金地伸拓	呼吸器ユニット びまん性肺疾患 血液免疫呼吸器内科 金地伸拓	医学英語II 14:00-15:15 PEIUM Willey, McCrohan (大B, D)		呼吸器ユニット
12月20日 水	呼吸器ユニット 肺癌の内科療法 血液免疫呼吸器内科 石井知也	呼吸器ユニット 肺癌の内科療法 血液免疫呼吸器内科 石井知也	腫瘍病理学 呼吸器・肺癌の病理	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学
12月21日 木	呼吸器ユニット 肺癌の外科療法 呼吸器・乳腺内分泌外科 横見瀬裕保	呼吸器ユニット 肺癌の外科療法 呼吸器・乳腺内分泌外科 横見瀬裕保	呼吸器ユニット 胸膜疾患 呼吸器・乳腺内分泌外科 中島成泰	呼吸器ユニット 気管支鏡・胸腔鏡 呼吸器・乳腺内分泌外科 吳 哲彦	呼吸器ユニット 縦隔疾患 呼吸器・乳腺内分泌外科 垂水晋太郎	呼吸器ユニット 良性肺腫瘍 呼吸器・乳腺内分泌外科 中野貴之	呼吸器ユニット
12月22日 金	呼吸器ユニット 呼吸不全 血液免疫呼吸器内科 坂東修二	呼吸器ユニット 呼吸不全 血液免疫呼吸器内科 坂東修二	呼吸器ユニット 異常呼吸 血液免疫呼吸器内科 坂東修二	呼吸器ユニット 肺癌の放射線療法 放射線腫瘍学 柴田 徹	腫瘍病理学 呼吸器実習試験	呼吸器ユニット	呼吸器ユニット

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
1月1日 月	冬期休業						
1月2日 火	冬期休業						
1月3日 水	冬期休業						
1月4日 木	冬期休業						
1月5日 金	冬期休業						

循環器ユニット 第1週

16	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
1月8日 月	成人の日						
1月9日 火	呼吸器ユニット 試験予定日	呼吸器ユニット 試験予定日	呼吸器ユニット 試験予定日	循環器ユニット 診断と検査 循環器検査値 (循・腎・脳内科)	医学英語II 14:00-15:15 Final projects due Willey, McCrohan (大B, 大D)	循環器ユニット 診断と検査 放射線診断 (CT/MRI/RI) (循・腎・脳内科)	
1月10日 水	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット
	診断と検査 心電図 (循・腎・脳内科)		診断と検査 超音波 (循・腎・脳内科)	診断と検査 心臓カ テーター検査 (循・ 腎・脳内科)	虚血性心疾患 (循・腎・脳内科)		
1月11日 木	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット
	循環器外科総論 (心臓血管外科)	虚血性心疾患 外科治療 (心臓血管外科)	動脈疾患・外傷 (心臓血管外科)	末梢動脈疾患 (循・腎・脳内科)	心臓弁膜症の病態・診断 (循・腎・脳内科)		感染性心内膜炎 (循・腎・脳内科)
1月12日 金	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	センター試験準備			
	心不全 (循・腎・脳内科)						

循環器ユニット 第2週

17	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
1月15日 月	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	16:20-17:50 大B 全学共通科目 Academic English II 医学部キャンパス Willey
	不整脈 (循環器内科)			高血圧の病態・診断・治療/心臓と高血圧 (循・腎・脳内科)			
1月16日 火	循環器ユニット 先天性心疾患の 外科治療 (心臓血管外科)	循環器ユニット 心血管病理 講義 炎症病理学	循環器ユニット 心血管病理 講義 炎症病理学	循環器ユニット 心血管病理 講義 炎症病理学	循環器ユニット 心血管病理 講義 炎症病理学	循環器ユニット 心血管病理 講義 炎症病理学	循環器ユニット 心血管病理 講義 炎症病理学
1月17日 水	循環器ユニット 成人先天性心疾患 (循・腎・脳内科)	循環器ユニット 心血管病理 講義 炎症病理学	循環器ユニット 心血管病理 講義 炎症病理学	循環器ユニット 心血管病理 講義 炎症病理学	循環器ユニット 心血管病理 講義 炎症病理学	循環器ユニット 心血管病理 講義 炎症病理学	循環器ユニット 心血管病理 講義 炎症病理学
1月18日 木	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット
	弁膜症の外科治療 (心臓血管外科)		静脈・リンパ管疾患 (上大静脈症候群・下肢 静脈瘤・リンパ浮腫) (心臓血管外科)	静脈疾患 (深部静脈血栓症・肺塞栓症・ 肺高血圧症) (循・腎・脳内科)		心膜・心筋疾患 (循・腎・脳内科)	
1月19日 金	循環器ユニット 心膜・心筋疾患 腫瘍外科 (心臓血管外科)	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット	循環器ユニット
	脳血管障害 (循・腎・脳内科)			特別講義 (予定)			

18	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
1月22日 月	循環器ユニット 試験予定日	循環器ユニット 試験予定日	循環器ユニット 試験予定日	放射線ユニット 診断総論	放射線ユニット X線検査総論	放射線ユニット 核医学検査総論	16:20-17:50 大B 全学共通科目: 13 Academic English II 医学部キャンパス Willey
1月23日 火	放射線ユニット 放射線腫瘍学 I 放射線腫瘍学	放射線ユニット 放射線腫瘍学 II 放射線腫瘍学	放射線ユニット 放射線生物学 放射線腫瘍学	放射線ユニット 放射線治療計画総論 放射線腫瘍学	放射線ユニット MRI 検査総論 放射線医学	放射線ユニット 胸部画像解剖 放射線医学	放射線ユニット
1月24日 水	放射線ユニット 頭部画像解剖 放射線医学	放射線ユニット 腹部画像解剖 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (心臓・脈管) 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (消化管) 放射線医学	放射線ユニット 核医学 1 放射線医学	放射線ユニット 放射線障害・防護 ・安全管理 放射線部	放射線ユニット
1月25日 木	放射線ユニット 画像診断 (副腎・女性器) 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (肝・胆・膵・脾) 放射線医学	放射線ユニット I V R 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (脳・脊髄) 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (頭頸部) 放射線医学	放射線ユニット	放射線ユニット
1月26日 金	放射線ユニット 画像診断 (胸部 1) 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (胸部 2) 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (腎・尿路・男性器) 放射線医学	放射線ユニット 核医学 2 放射線医学	放射線ユニット 核医学 3 放射線医学	放射線ユニット	放射線ユニット

放射線ユニット 第1週

19	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
1月29日 月	放射線ユニット	放射線ユニット 試験予定日	放射線ユニット	予備日	予備日	予備日	16:20-17:50 大B 全学共通科目 Academic English II 医学部キャンパス Willey
1月30日 火	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日
1月31日 水	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日
2月1日 木	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日
2月2日 金	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日	予備日

課題実習 第1週

20	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
2月5日 月	課題実習						16:20-17:50 大B 全学共通科目 Academic English II 医学部キャンパス Willey
2月6日 火	課題実習						
2月7日 水	課題実習						
2月8日 木	課題実習						
2月9日 金	課題実習						

課題実習 第2週

21	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
2月12日 月	振替休日						
2月13日 火	課題実習						
2月14日 水	課題実習						
2月15日 木	課題実習						
2月16日 金	課題実習						

課題実習 第3週

22	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
2月19日 月	課題実習						
2月20日 火	課題実習						
2月21日 水	課題実習						
2月22日 木	課題実習						
2月23日 金	課題実習						

課題実習 第4週

23	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
2月26日 月	課題実習						
2月27日 火	課題実習						
2月28日 水	課題実習						
3月1日 木	課題実習						
3月2日 金	課題実習						

平成29年度 講義・実習時間割 4年次生

膠原病、生殖系ユニット第1週

1	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
4月3日 月	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病ユニット 自己抗体 血液・免疫・呼吸器内科 亀田	膠原病ユニット リウマチ性疾患総論 血液・免疫・呼吸器内科 土橋	膠原病、生殖系ユニット
4月4日 火	膠原病ユニット 症候学：関節痛 血液・免疫・呼吸器内科 亀田	膠原病ユニット RA(1) 血液・免疫・呼吸器内科 土橋	膠原病ユニット RA(2) 血液・免疫・呼吸器内科 土橋	膠原病ユニット MRA/AOSD 血液・免疫・呼吸器内科 亀田	膠原病ユニット MCTD/SS 血液・免疫・呼吸器内科 亀田	膠原病ユニット 強皮症 血液・免疫・呼吸器内科 中島	膠原病、生殖系ユニット
4月5日 水	膠原病ユニット 脊椎関節炎 血液・免疫・呼吸器内科 泉川	膠原病ユニット 自己炎症候群・ベーチェット病 血液・免疫・呼吸器内科 泉川	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病ユニット SLE(1) 土橋	膠原病ユニット SLE(2) 土橋	膠原病、生殖系ユニット
4月6日 木	生殖系ユニット1 症候(女性生殖器) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット2 診断と検査(産婦人科の問診及び診察法) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット3 診断と検査(婦人科疾患の診断) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット4 診断と検査(婦人科疾患の診断) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット5 診断と検査(婦人科疾患の診断) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット6 疾患(女性生殖器疾患) 周産期学婦人科学	膠原病、生殖系ユニット
4月7日 金	公衆衛生学 オリエンテーション・総論 平尾	公衆衛生学 健康と政策(1) 平尾	公衆衛生学 健康と政策(2) 平尾	衛生学 オリエンテーション・疫学(1) 宮武	衛生学 疫学(2) 宮武	公衆衛生学 生活習慣病対策 大谷	

膠原病、生殖系ユニット第2週

2	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
4月10日 月	生殖系ユニット7 疾患(女性生殖器疾患) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット8 疾患(女性生殖器疾患) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット9 疾患(女性生殖器疾患) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット10 疾患(女性生殖器疾患) 周産期学婦人科学	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット
4月11日 火	生殖系ユニット11 正常妊娠・分娩・産褥 周産期学婦人科学	生殖系ユニット12 正常妊娠・分娩・産褥 周産期学婦人科学	生殖系ユニット13 正常妊娠・分娩・産褥 周産期学婦人科学	生殖系ユニット14 正常妊娠・分娩・産褥 周産期学婦人科学	生殖系ユニット15 疾患(異常妊娠) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット16 疾患(異常妊娠) 周産期学婦人科学	膠原病、生殖系ユニット
4月12日 水	定期健康診断			膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット
4月13日 木	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病ユニット 血管炎症候群(1) 血液・免疫・呼吸器内科 土橋	膠原病、生殖系ユニット 血管炎症候群(2) 血液・免疫・呼吸器内科 土橋	膠原病、生殖系ユニット
4月14日 金	公衆衛生学 医療制度 平尾	公衆衛生学 社会保障 平尾	衛生学 疫学(3) 宮武	衛生学 疫学(4) 宮武	衛生学 疫学(5) 宮武	衛生学 疫学(6) 宮武	衛生学・公衆衛生学

膠原病、生殖系ユニット第3週

3	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
4月17日 月	生殖系ユニット17 疾患(異常妊娠) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット18 疾患(異常妊娠) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット19 更年期 周産期学婦人科学	生殖系ユニット20 更年期 周産期学婦人科学	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット
4月18日 火	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病ユニット 不明熱 血液・免疫・呼吸器内科 中島	膠原病ユニット 血液・免疫・呼吸器内科 中島	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット
4月19日 水	生殖系ユニット21 疾患(異常妊娠・産褥) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット22 疾患(異常妊娠・産褥) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット23 男性生殖器 講義 炎症病理学	生殖系ユニット24 男性生殖器 講義 炎症病理学	生殖系ユニット25 男性生殖器 実習 炎症病理学	生殖系ユニット26 男性生殖器 実習 炎症病理学	生殖系ユニット (実習予備) 炎症病理学
4月20日 木	生殖系ユニット27 疾患(異常分娩・産褥) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット28 疾患(異常分娩・産褥) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット29 疾患(異常分娩・産褥) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット30 疾患(異常分娩・産褥) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット31 疾患(不妊症) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット32 疾患(不妊症) 周産期学婦人科学	生殖系ユニット33 疾患(不妊症) 周産期学婦人科学
4月21日 金	公衆衛生学 医療保障 平尾	公衆衛生学 高齢者保健 平尾	公衆衛生学 成人保健と健康増進 神田	衛生学 疫学(7) 宮武	衛生学 疫学(8) 宮武	衛生学 疫学(9) 宮武	衛生学・公衆衛生学

膠原病、生殖系ユニット第4週

4	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
4月24日 月	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット
4月25日 火	生殖系ユニット34 女性生殖器 (特別講義) 炎症病理学	生殖系ユニット35 女性生殖器 (特別講義) 炎症病理学	生殖系ユニット36 女性生殖器 (特別講義) 炎症病理学	生殖系ユニット37 女性生殖器 (実習) 炎症病理学	生殖系ユニット38 女性生殖器 (実習) 炎症病理学	生殖系ユニット39 女性生殖器 (実習) 炎症病理学	生殖系ユニット (実習予備) 炎症病理学
4月26日 水	膠原病、生殖系ユニット	生殖系ユニット40 婦人科腫瘍に対する 放射線治療 放射線腫瘍学	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット
4月27日 木	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット	膠原病、生殖系ユニット
4月28日 金	公衆衛生学 がん対策 依田	公衆衛生学 感染症対策 依田	衛生学 環境保健(1) 浅川	衛生学 産業保健(1) 菅沼	衛生学 産業保健(2) 宮武	衛生学・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学

5	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
5月1日 月	膠原病、生殖系ユニット 試験予定日	膠原病、生殖系ユニット 試験予定日	膠原病、生殖系ユニット 試験予定日				
5月2日 火							
5月3日 水	憲法記念日						
5月4日 木	みどりの日						
5月5日 金	こどもの日						

PBLチュートリアル

6	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
5月8日 月	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
5月9日 火	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
5月10日 水	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
5月11日 木	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
5月12日 金	衛生学 栄養・食品保健(1) 須那	衛生学 栄養・食品保健(2) 須那	衛生学 環境保健センター 宮武他	衛生学 環境保健センター 宮武他	衛生学 環境保健センター 宮武他	衛生学 環境保健センター 宮武他	衛生学・公衆衛生学

小児科、感染症ユニット第1週

7	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
5月15日 月	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 小児科学・新生児学 総論・小児の成長と発達 小児科	小児科ユニット 新生児学 垂直感染症・新生児感染症 小児科	小児科ユニット 消化器 肝胆臓疾患 小児科	小児科ユニット 小児保健 乳幼児健診・育児相談 小児科	小児科ユニット 小児外科 総論 小児成育外科	小児科、感染症ユニット
5月16日 火	感染症ユニット 感染症学概論 分子微生物学	感染症ユニット 血流感染症 横田	感染症ユニット ブドウ球菌感染症 連鎖球菌感染症 横田	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 新生児学 新生児消化器疾患 小児科	小児科ユニット 循環器 先天性心疾患 小児科	小児科、感染症ユニット
5月17日 水	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 小児保健 マスキリーニング・統計 小児科	小児科ユニット 小児保健 母子相互作用・母乳育児 小児科	小児科ユニット 免疫・アレルギー 先天性免疫不全症候群 小児科	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 小児外科 基本的診療技術 小児成育外科	小児科、感染症ユニット
5月18日 木	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 精神・神経 熱性けいれん 小児科	小児科ユニット 免疫・アレルギー 膠原病・自己免疫疾患 小児科	小児科ユニット 免疫・アレルギー 川崎病 小児科	小児科ユニット 消化器 消化器疾患症候論 小児科	小児科ユニット 小児外科 基本的臨床技術 小児成育外科	小児科、感染症ユニット
5月19日 金	公衆衛生学 地域保健 依田	公衆衛生学 母子保健 鈴木	公衆衛生学 精神保健 鈴江	公衆衛生学 地域医療 住友	公衆衛生学 行政医師の仕事 星川	衛生学・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学

小児科、感染症ユニット第2週

8	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
5月22日 月	感染症ユニット 抗菌薬基礎 分子微生物学	感染症ユニット 多剤耐性菌 分子微生物学	小児科ユニット 小児科 小児の栄養 小児科	小児科ユニット 内分泌・代謝 副腎・性腺疾患 小児科	感染症ユニット 感染免疫① 免疫学	感染症ユニット 感染免疫② 免疫学	小児科、感染症ユニット
5月23日 火	感染症ユニット 感染症診療における 抗菌薬の使用法① 横田	感染症ユニット 感染症診療における 抗菌薬の使用法② 横田	小児科ユニット 小児救急 ブライマリーケア・小児救急 小児科	小児科ユニット 消化器 消化管疾患 小児科	小児科ユニット 小児領域の国際医療 小児科	小児科ユニット 新生児学 出生の適応生理・新生児仮死 小児科	小児科、感染症ユニット
5月24日 水	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 新生児学 周生期脳障害① 小児科	小児科ユニット 新生児学 周生期脳障害② 小児科	小児科ユニット 内分泌・代謝 糖代謝・小児糖尿病 小児科	小児科ユニット 内分泌・代謝 下垂体疾患 小児科	小児科ユニット 小児外科 小児の上部消化器疾患 小児成育外科	小児科、感染症ユニット
5月25日 木	小児科ユニット 新生児 新生児黄疸 小児科	小児科ユニット 精神・神経 小児てんかん 小児科	小児科ユニット 小児保健 予防接種 小児科	感染症ユニット 消化器系寄生虫症 国際動物学	感染症ユニット 消化器系以外の寄生虫症 国際動物学	小児科ユニット 小児外科 小児の下部消化器疾患 小児成育外科	小児科ユニット
5月26日 金	公衆衛生学 医の倫理 依田	公衆衛生学 医療関連法規 小澤	衛生学 人口・保健統計 宮武	衛生学 環境保健(2) 坂野	衛生学 環境保健(3) 竹内	公衆衛生学 循環器の疫学 万波	衛生学・公衆衛生学

小児科、感染症ユニット第3週

9	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
5月29日 月	感染症ユニット 真菌感染症① 分子微生物学	感染症ユニット 真菌感染症② 分子微生物学	小児科ユニット 精神・神経 乳児の発達 小児科	小児科ユニット 精神・神経 小児の発達障害 小児科	小児科ユニット 小児科学 小児領域の薬物代謝 小児科	小児科ユニット 新生児学 新生児の診察 小児科	小児科、感染症ユニット
5月30日 火	小児科、感染症ユニット	感染症ユニット クラミジア・スピロヘータ 分子微生物学	感染症ユニット 角膜炎感染症 分子微生物学	感染症ユニット ウイルス性呼吸器疾患① 血液免疫呼吸器内科	感染症ユニット ウイルス性呼吸器疾患② 血液免疫呼吸器内科	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット
5月31日 水	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 新生児学 胎児・新生児の循環 小児科	小児科ユニット 循環器 学校検診(心電図異常など) 小児科	小児科ユニット 循環器 後天性心疾患(心筋炎など) 小児科	感染症ユニット 性感染症(STD) 周産期学婦人科学	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット
6月1日 木	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 新生児学 新生児呼吸障害 小児科	小児科ユニット 血液・がん 小児造血器腫瘍 小児科	小児科ユニット 血液・がん 小児がん(固形腫瘍など) 小児科	小児科ユニット 呼吸器 呼吸器感染症 小児科	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット
6月2日 金	衛生学 疫学(10) 薬剤開発の実際 河島	公衆衛生学 災害・危機対応と公衆衛生 平尾	公衆衛生学 学校保健 鈴木	衛生学 環境測定実習(1) 宮武他	衛生学 環境測定実習(2) 宮武他	衛生学 環境測定実習(3) 宮武他	衛生学・公衆衛生学

小児科、感染症ユニット第4週

10	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
6月5日 月	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 精神・神経 心身症 小児科	小児科ユニット 呼吸器 気管支喘息 小児科	小児科ユニット 免疫・アレルギー 食物アレルギー 小児科	感染症ユニット 感染対策の基礎 分子微生物学	感染症ユニット 感染対策の実際 分子微生物学	小児科、感染症ユニット
6月6日 火	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 内分泌・代謝 先天代謝異常症① 小児科	小児科ユニット 内分泌・代謝 先天代謝異常症② 小児科	小児科ユニット 腎疾患 学校検尿 小児科	小児科ユニット 腎疾患 ネフローゼ症候群・IgA腎症 小児科	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット
6月7日 水	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	感染症ユニット 発熱性好中球減少症 血液免疫呼吸器内科	感染症ユニット 免疫抑制患者の感染症 血液免疫呼吸器内科	小児科、感染症ユニット
6月8日 木	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 精神・神経 脳炎・脳症・髄膜炎 小児科	小児科ユニット 精神・神経 筋疾患 小児科	感染症ユニット HIV感染症 地域包括医療学	小児科ユニット 血液・がん 遺伝性血液疾患（血友病など） 小児科	小児科ユニット 小児外科 新生児医の外科的疾患 小児成育外科	小児科、感染症ユニット
6月9日 金	公衆衛生学 国際保健 依田	公衆衛生学 医療の質 平尾	公衆衛生学 社会医学実習班分け 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	衛生学・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学

小児科、感染症ユニット第5週

11	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
6月12日 月	感染症ユニット 結核 分子微生物学	感染症ユニット ウイルス性出血熱 分子微生物学	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 小児科学 染色体異常 小児科	小児科ユニット 小児科学 遺伝性疾患 小児科	小児科ユニット 小児外科 肝胆膵疾患 小児成育外科	小児科、感染症ユニット
6月13日 火	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 内分泌・代謝 甲状腺、副甲状腺、Ca、P代謝疾患 小児科	小児科ユニット 小児科救急 SIDS・虐待 小児科	小児科ユニット 腎疾患 腎・尿路系の先天異常症 小児科	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット
6月14日 水	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 小児外科 呼吸器疾患 小児成育外科	小児科ユニット 小児外科 外的救急疾患 小児成育外科	小児科、感染症ユニット
6月15日 木	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 感染症 小児発疹性疾患 小児科	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科ユニット 小児外科 小児外科呼吸器疾患 小児成育外科	小児科、感染症ユニット
6月16日 金	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員

小児科、感染症ユニット第6週

12	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
6月19日 月	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット
6月20日 火	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット
6月21日 水	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット
6月22日 木	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット	小児科、感染症ユニット
6月23日 金	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員

PBLチュートリアル

13	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
6月26日 月	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
6月27日 火	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
6月28日 水	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
6月29日 木	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
6月30日 金	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員

血液系、腎泌尿器ユニット第1週

14	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
7月3日 月	小児科、感染症ユニット 試験予定日	小児科、感染症ユニット 試験予定日	小児科、感染症ユニット 試験予定日	腎泌尿器ユニット 腎移植	腎泌尿器ユニット 男性不妊・ED	腎泌尿器ユニット 腫瘍(3)副腎腫瘍、 精巣腫瘍、陰茎癌	腎泌尿器ユニット 尿路結石
7月4日 火	腎泌尿器ユニット 腫瘍(1)前立腺癌 腎癌	腎泌尿器ユニット 腫瘍(2)尿路上皮癌 腎癌	腎泌尿器ユニット 急性腎不全	腎泌尿器ユニット 慢性腎不全	腎泌尿器ユニット STD	腎泌尿器ユニット 検尿異常	血液系、腎泌尿器ユニット
7月5日 水	腫瘍病理学 腎・尿路系の病理1	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学
7月6日 木	血液系、腎泌尿器ユニット	腎泌尿器ユニット 排尿障害	腎泌尿器ユニット 肉眼的血尿	腎泌尿器ユニット 泌尿器腫瘍に対する放射線治療	腎泌尿器ユニット 尿路感染症	腎泌尿器ユニット 外傷	血液系、腎泌尿器ユニット
7月7日 金	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員

血液系、腎泌尿器ユニット第2週

15	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
7月10日 月	腎泌尿器ユニット 水電解質異常	腎泌尿器ユニット 水電解質異常	血液系、腎泌尿器ユニット	血液系、腎泌尿器ユニット	血液系、腎泌尿器ユニット	血液系、腎泌尿器ユニット	血液系、腎泌尿器ユニット
7月11日 火	腫瘍病理学 腎・尿路系の病理2	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学
7月12日 水	腫瘍病理学 腎・尿路系の病理3	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学
7月13日 木	腎泌尿器ユニット 尿管機能異常	腎泌尿器ユニット 原発性糸球体疾患	腎泌尿器ユニット 原発性糸球体疾患	腎泌尿器ユニット ネフローゼ症候群	腎泌尿器ユニット 女性泌尿器疾患	腎泌尿器ユニット 全身疾患による腎障害	血液系、腎泌尿器ユニット
7月14日 金	公衆衛生学 社会医学実習(発表会) 全員	公衆衛生学 社会医学実習(発表会) 全員	公衆衛生学 社会医学実習(発表会) 全員	衛生学 社会医学実習(発表会) 全員	衛生学 社会医学実習(発表会) 全員	衛生学 社会医学実習(発表会) 全員	衛生学・公衆衛生学

血液系、腎泌尿器ユニット第3週

16	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
7月17日 月	海の日						
7月18日 火	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	腫瘍病理学 腎・尿路系実習試験	血液系 血液病学総論 血液免疫呼吸器 門脇	血液系、腎泌尿器ユニット リンパ筋炎の病理 炎症病理学 上野	血液系、腎泌尿器ユニット 骨髄疾患の病理(1) 特別講義(炎症病理学) 東海大学 小川	血液系 造血器腫瘍総論 血液免疫呼吸器 門脇	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備
7月19日 水	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	血液系 貧血(1) 血液免疫呼吸器 今滝	血液系 貧血(2) 血液免疫呼吸器 今滝	血液系、腎泌尿器ユニット 悪性リンパ腫の病理 炎症病理学 上野	血液系、腎泌尿器ユニット 骨髄疾患の病理(2) 炎症病理学 上野	血液系 再生不良性貧血・ 発作性夜間血色素尿症 血液免疫呼吸器 今滝	血液系 溶血性貧血 血液免疫呼吸器 今滝
7月20日 木	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	血液系 急性白血病(1) 血液免疫呼吸器 門脇	血液系 急性白血病(2) 血液免疫呼吸器 門脇	血液系 骨髄異形成症候群 血液免疫呼吸器 門脇	血液系 骨髄増殖性腫瘍 血液免疫呼吸器 門脇	血液系、腎泌尿器ユニット 院内感染対策と抗菌薬の適正使用 特別講義 坂出市立病院 中村洋之	血液系、腎泌尿器ユニット 院内感染対策と抗菌薬の適正使用 特別講義 坂出市立病院 中村洋之
7月21日 金	衛生学・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学	公衆衛生学試験 大A及び大B	衛生学試験 大A及び大B	衛生学・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学

血液系、腎泌尿器ユニット第4週

17	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
7月24日 月	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	血液系、腎泌尿器ユニット 造血幹細胞移植(1) 特別講義 高松赤十字病院 大西宏明	血液系、腎泌尿器ユニット 造血幹細胞移植(2) 特別講義 高松赤十字病院 大西宏明	血液系 成熟リンパ系腫瘍: 悪性リンパ腫(1) 血液免疫呼吸器 門脇	血液系、腎泌尿器ユニット 血液がんに対する薬物療法(1) 特別講義 香川県立中央病院 川上公宏	血液系、腎泌尿器ユニット 血液がんに対する薬物療法(2) 特別講義 香川県立中央病院 川上公宏	血液系 成熟リンパ系腫瘍: 悪性リンパ腫(2) 血液免疫呼吸器 門脇
7月25日 火	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	血液系 成熟リンパ系腫瘍: 悪性リンパ腫(3)・CLL・ATL 血液免疫呼吸器 門脇	血液系 成熟リンパ系腫瘍: 多発性骨髄腫と類縁疾患 血液免疫呼吸器 門脇	血液系、腎泌尿器ユニット 血液病理実習 炎症病理学	血液系、腎泌尿器ユニット 血液病理実習 炎症病理学	血液系、腎泌尿器ユニット 血液病理実習 炎症病理学	血液系、腎泌尿器ユニット (実習予備) 炎症病理学
7月26日 水	血液系 症候学:出血傾向 血液免疫呼吸器 植村	血液系 止血・凝固(1) 血液免疫呼吸器 植村	血液系 止血・凝固(2) 血液免疫呼吸器 植村	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備
7月27日 木	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備	血液系、腎泌尿器ユニット 休講・予備
7月28日 金							

18	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
8月21日 月	夏季休業						
8月22日 火	夏季休業						
8月23日 水	夏季休業						
8月24日 木	夏季休業						
8月25日 金	法医学 総論 法医学とは 木下	法医学 総論 解剖、死体検案 木下	法医学 総論 死の判定、異状死 木下	法医学 中毒 総論 鈴野	法医学 中毒 医薬品 鈴野	法医学 中毒 CO中毒 田中	法医学 法医学と社会 死亡診断書等 木下

PBLチュートリアル

19	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
8月28日 月	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
8月29日 火	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
8月30日 水	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
8月31日 木	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
9月1日 金	法医学 死体現象 早期死体現象 木下	法医学 死体現象 晩期死体現象 木下	法医学 損傷 損傷総論 木下	法医学 中毒 農薬 鉛野	法医学 中毒 濫用薬物 鉛野	法医学 中毒 有機溶剤、工業製品 田中	法医学 損傷 各論1 鋭器損傷 木下

皮膚感覚系ユニット第1週

20	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
9月4日 月	血液系、腎泌尿器ユニット 試験予定日	血液系、腎泌尿器ユニット 試験予定日	血液系、腎泌尿器ユニット 試験予定日	皮膚感覚系ユニット 皮膚科総論1 構造と機能 (皮膚科)	皮膚感覚系ユニット 皮膚科総論2 発疹学と検査 (皮膚科)	皮膚感覚系ユニット 皮膚科各論6 湿疹・皮膚炎群、薬疹・尋常性紅斑症 (皮膚科)	皮膚感覚系ユニット
9月5日 火	皮膚感覚系ユニット 皮膚科各論1 皮膚癌、メラノーマ (皮膚科)	皮膚感覚系ユニット 皮膚科各論2 母斑、色素異常 (皮膚科)	皮膚感覚系ユニット 皮膚科各論3 皮膚附属器疾患 (皮膚科)	皮膚感覚系ユニット 皮膚科各論10 膠原病/全身と皮膚 (皮膚科)	皮膚感覚系ユニット 皮膚科各論7 紫斑と血管炎、肉芽腫、代謝異常症 (皮膚科)	皮膚感覚系ユニット 皮膚科各論5 水疱症と膿疱症 (皮膚科)	皮膚感覚系ユニット
9月6日 水	皮膚感覚系ユニット 皮膚科各論4 乾癬、角化症 (皮膚科)	皮膚感覚系ユニット 皮膚科各論8 感染症(1) (皮膚科)	皮膚感覚系ユニット 皮膚科各論9 感染症(2)(性病も) (皮膚科)	皮膚感覚系ユニット	皮膚感覚系ユニット 形成外科 総論1 基本的手技 (形成外科)	皮膚感覚系ユニット 形成外科 各論1 四肢・体幹部・その他 (形成外科)	皮膚感覚系ユニット
9月7日 木	皮膚感覚系ユニット 形成外科 各論2 顔面の発生・先天異常 (形成外科)	皮膚感覚系ユニット 形成外科 各論3 顔面外傷・顔面骨折 (形成外科)	皮膚感覚系ユニット 形成外科 各論4 皮膚腫瘍・母斑・血管腫 (形成外科)	皮膚感覚系ユニット 形成外科 各論5 腫瘍切除後再建 (形成外科)	皮膚感覚系ユニット 形成外科 各論6 組織の再生・創傷治癒 (形成外科)	皮膚感覚系ユニット 形成外科 各論7 美容外科 (形成外科)	皮膚感覚系ユニット
9月8日 金	法医学 法医学と社会 大災害と法医学 西村	法医学 法医学と社会 大災害と法医学 西村	法医学 法医学と社会 大災害と法医学 西村	法医学 中毒 アルコール 鉛野	法医学 血液型・個人識別 ABO式・Rh式 田中	法医学 損傷 各論2 鋭器損傷 木下	法医学 損傷 各論3 鋭器損傷 木下

皮膚感覚系ユニット第2週

21	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
9月11日 月	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学
9月12日 火	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 眼科総論1 (眼科)	皮膚感覚系ユニット 眼科総論2 (眼科)	皮膚感覚系ユニット 眼科総論3 (眼科)	皮膚感覚系ユニット
9月13日 水	皮膚感覚系ユニット 眼科各論1 (眼科)	皮膚感覚系ユニット 眼科各論2 (眼科)	皮膚感覚系ユニット 眼科各論3 (眼科)	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学	腫瘍病理学
9月14日 木	皮膚感覚系ユニット 眼科各論4 (眼科)	皮膚感覚系ユニット 眼科各論5 (眼科)	皮膚感覚系ユニット 眼科各論6 (眼科)	皮膚感覚系ユニット 眼科各論7 (眼科)	皮膚感覚系ユニット 眼科各論8 (眼科)	皮膚感覚系ユニット	皮膚感覚系ユニット
9月15日 金	法医学 法医学と社会 薬害 芳地	法医学 法医学と社会 矯正医療 木下	法医学 法医学と社会 血液製剤 木下	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員

皮膚感覚系ユニット第3週

22	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
9月18日 月	敬老の日						
9月19日 火	皮膚感覚系ユニット 耳科領域1 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 耳科領域2 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 耳科領域2 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 耳科領域4 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 耳科領域5 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 鼻科領域1 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット
9月20日 水	腫瘍病理学			腫瘍病理学			
	感覚系・頭頸部腫瘍の病理			感覚系・頭頸部腫瘍の病理 (実習)			
9月21日 木	皮膚感覚系ユニット 鼻科領域2 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 鼻科領域3 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 咽喉頭領域1 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 咽喉頭領域2 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 咽喉頭領域3 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 咽喉頭領域4 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット
9月22日 金	法医学 法医学と社会 科学捜査 瀬戸	法医学 法医学と社会 科学捜査 瀬戸	法医学 法医学と社会 科学捜査 瀬戸	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員

皮膚感覚系ユニット第4週

23	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
9月25日 月	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット
9月26日 火	皮膚感覚系ユニット 皮膚科・形成外科試験	皮膚感覚系ユニット 頭頸部領域1 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 頭頸部領域2 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 頭頸部腫瘍3 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 頭頸部腫瘍4 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 頭頸部癌に対する放射線治療 (放射線治療科)	皮膚感覚系ユニット
9月27日 水	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	腫瘍病理学 実習試験	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 鼻科特論 (耳鼻科)	皮膚感覚系ユニット 耳科特論 (耳鼻科)
9月28日 木	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット
9月29日 金	法医学 損傷 各論4 交通事故損傷 木下	法医学 法医学と社会 国際疾病分類 及川	法医学 法医学と社会 国際疾病分類 及川	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員

皮膚感覚系ユニット第5週

24	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
10月2日 月	皮膚感覚系ユニット 歯科口腔外科総論1 歯学概説・歯の発生・う蝕症 (歯科口腔外科)	皮膚感覚系ユニット 歯科口腔外科総論2 嚥下障害・咀嚼障害 (歯科口腔外科)	皮膚感覚系ユニット 歯科口腔外科各論1 歯周疾患と口腔清掃 (歯科口腔外科)	皮膚感覚系ユニット 歯科口腔外科各論2 良性腫瘍 (歯科口腔外科)	皮膚感覚系ユニット 歯科口腔外科各論3 外傷・顎関節・顎変形症 (歯科口腔外科)	皮膚感覚系ユニット 歯科口腔外科各論4 頭頸部の診察(口腔内診査) (歯科口腔外科)	皮膚感覚系ユニット
10月3日 火	皮膚感覚系ユニット 歯科口腔外科各論5 歯性炎症 (歯科口腔外科)	皮膚感覚系ユニット 歯科口腔外科各論6 唾液腺・嚢胞・神経疾患 (歯科口腔外科)	皮膚感覚系ユニット 歯科口腔外科各論7 咀嚼障害—歯科インプラ (歯科口腔外科)	皮膚感覚系ユニット 歯科口腔外科各論8 粘膜疾患・悪性腫瘍 (歯科口腔外科)	皮膚感覚系ユニット 歯科口腔外科各論9 病院歯科における口腔外科臨床 (歯科口腔外科)	皮膚感覚系ユニット	皮膚感覚系ユニット
10月4日 水	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット
10月5日 木	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット 自主学習	皮膚感覚系ユニット
10月6日 金	法医学 法医病態 中枢神経系の法病理 北村	法医学 法医病態 中枢神経系の法病理 北村	法医学 法医病態 中枢神経系の法病理 北村	法医学 窒息 窒息総論 木下	法医学 窒息 各論1 絞死・絞死・扼死 木下	法医学 予備	法医学 予備

皮膚感覚系ユニット第6週

25	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
10月9日 月	体育の日						
10月10日 火	皮膚感覚系ユニット 試験予定日	皮膚感覚系ユニット 試験予定日	皮膚感覚系ユニット 試験予定日	自習	自習	自習	自習
10月11日 水	自習	自習	自習	自習	自習	自習	自習
10月12日 木	自習	自習	自習	自習	自習	自習	自習
10月13日 金	法医学 血液型・個人識別 DNA型による個人識別 山田	法医学 血液型・個人識別 歯牙による個人識別 山田	法医学 血液型・個人識別 歯牙による個人識別 山田	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員

PBLチュートリアル

26	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
10月16日 月	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
10月17日 火	PBL	PBL	PBL	防災訓練			
10月18日 水	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
10月19日 木	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL	PBL
10月20日 金	法医学 窒息 各論2 溺死、その他の窒息 木下	法医学 異常環境 焼死 木下	法医学 異常環境 凍死、低体温、感電 田中	法医学 小児の法医学 嬰兒殺 木下	法医学 小児の法医学 児童虐待 木下	法医学 内因死 内因性急死 木下	法医学 医療関係法規 医師法・刑法・その他 木下

27	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
10月23日 月	共用試験準備						
10月24日 火	共用試験準備						
10月25日 水	共用試験準備						
10月26日 木	共用試験準備						
10月27日 金		法医学 試験	法医学 試験				

28	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
10月30日 月	共用試験準備						
10月31日 火	共用試験準備						
11月1日 水	共用試験準備						
11月2日 木	共用試験準備						
11月3日 金	文化の日						

29	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
11月6日 月	共用試験準備						
11月7日 火	共用試験準備						
11月8日 水	共用試験準備						
11月9日 木	共用試験準備						
11月10日 金	共用試験準備						

30	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
11月13日 月	共用試験準備						
11月14日 火	CBT試験（予定）						
11月15日 水	臨床実習講義						
11月16日 木	臨床実習講義						
11月17日 金	臨床実習講義						

31	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
11月20日 月	臨床実習講義						
11月21日 火	臨床実習講義						
11月22日 水	臨床実習講義						
11月23日 木	勤労感謝の日						
11月24日 金	臨床実習講義						

32	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
11月27日 月	臨床実習講義						
11月28日 火	臨床実習講義						
11月29日 水	臨床実習講義						
11月30日 木	臨床実習講義						
12月1日 金	臨床実習講義						
12月2日 土	OSCE (予定)						

33	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
12月4日 月							
12月5日 火							
12月6日 水							
12月7日 木							
12月8日 金							

34	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
12月11日 月							
12月12日 火	CBT再試験（予定）						
12月13日 水	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習
12月14日 木	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習
12月15日 金	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習

35	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
12月18日 月	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習
12月19日 火	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習
12月20日 水	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習
12月21日 木	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習	臨床実習前特別講習
12月22日 金	臨床実習開始式（予定）						

平成29年度 講義・実習時間割 4年次生

	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月1日 月	冬期休業					
1月2日 火	冬期休業					
1月3日 水	冬期休業					
1月4日 木	冬期休業					
1月5日 金	冬期休業					

1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月8日 月	成人の日					
1月9日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月10日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月11日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月12日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月15日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）			医療管理学・診断学 学生用電子カルテ説明		横井
1月16日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月17日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月18日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月19日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月22日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）			医療管理学・診断学 カルテ記載について		
1月23日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月24日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月25日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月26日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月29日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）			医療管理学・診断学 慢性疾患管理 岡田・舩形		
1月30日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月31日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月1日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月2日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月5日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）			医療管理学・診断学 リハビリテーション特講 乗松		
2月6日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月7日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月8日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月9日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月12日 月	振替休日					
2月13日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月14日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月15日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月16日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

7	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月19日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）			医療管理学・診断学 診断学オリエンテーション 岡田		
2月20日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月21日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月22日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月23日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月26日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）			医療管理学・診断学 診断学講義・実習 岡田		
2月27日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月28日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
3月1日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
3月2日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

9	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
3月5日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）			医療管理学・診断学 診断学講義・実習 岡田		
3月6日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
3月7日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
3月8日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
3月9日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

10	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
3月12日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）			医療管理学・診断学 診断学講義・実習 岡田		
3月13日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
3月14日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
3月15日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
3月16日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

平成29年度 講義・実習時間割 5年次生

第1学期

第1週

1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月3日 月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 電子カルテ使用についての説明 医療情報部	
4月4日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
4月5日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
4月6日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
4月7日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第2週

2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月10日 月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 カルテの記載について 岡田	
4月11日 火	定期健康診断 (午前休講)			臨床実習 (医学実習 I)		
4月12日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
4月13日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
4月14日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第3週

3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月17日 月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 医療安全 舛形	
4月18日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
4月19日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
4月20日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
4月21日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第4週

4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月24日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 慢性疾患管理 岡田・舛形	
4月25日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月26日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月27日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月28日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第5週

5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
5月1日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月2日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月3日 水	憲法記念日					
5月4日 木	みどりの日					
5月5日 金	こどもの日					

第6週

6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月8日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					臨床病理検討会 腫瘍病理学
5月9日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月10日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月11日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月12日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第7週

7	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月15日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					臨床病理検討会 炎症病理学
5月16日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月17日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月18日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月19日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第8週

8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月22日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					臨床病理検討会 病理診断科・病理部
5月23日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月24日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月25日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月26日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第9週

9	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月29日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					臨床病理検討会 腫瘍病理学
5月30日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月31日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月1日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月2日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第10週

10	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月5日 月	臨床実習 (医学実習 I)					臨床病理検討会 炎症病理学
6月6日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
6月7日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
6月8日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
6月9日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第11週

11	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月12日 月	臨床実習 (医学実習 I)					臨床病理検討会 病理診断科・病理部
6月13日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
6月14日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
6月15日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
6月16日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第12週

12	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月19日 月	臨床実習 (医学実習 I)					臨床病理検討会 腫瘍病理学
6月20日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
6月21日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
6月22日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
6月23日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第13週

13	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
6月26日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 リハビリテーション特別講義 乗松	
6月27日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月28日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月29日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月30日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第14週

14	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
7月3日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 休講	
7月4日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月5日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月6日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月7日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第15週

15	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
7月10日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 医療倫理 中島	
7月11日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月12日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月13日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月14日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第16週

16	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
7月17日 月	海の日					
7月18日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
7月19日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
7月20日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
7月21日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第17週

17	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
7月24日 月	臨床実習 (医学実習 I)					
7月25日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
7月26日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
7月27日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
7月28日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第1週

17	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
8月21日 月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 診断学オリエンテーション 岡田	
8月22日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
8月23日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
8月24日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
8月25日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第1週

1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
8月28日 月	臨床実習 (医学実習 I)				児童精神医学 II	児童精神医学 II
8月29日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
8月30日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
8月31日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
9月1日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第2週

2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月4日 月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 岡田	
9月5日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
9月6日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
9月7日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
9月8日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第3週

3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月11日 月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 岡田	
9月12日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
9月13日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
9月14日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
9月15日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第4週

4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月18日 月	敬老の日					
9月19日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月20日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月21日 木	秋分の日					
9月22日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第5週

5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月25日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 岡田	
9月26日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月27日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月28日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月29日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第6週

6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月2日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 岡田	
10月3日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月4日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月5日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月6日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第7週

7	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月9日 月	体育の日					
10月10日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
10月11日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
10月12日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
10月13日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第8週

8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月16日 月	臨床実習 (医学実習 I)				児童精神医学 II	児童精神医学 II
10月17日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
10月18日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
10月19日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
10月20日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第9週

9	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月23日 月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 岡田	
10月24日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
10月25日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
10月26日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
10月27日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第10週

10	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月30日 月	臨床実習 (医学実習 I)				児童精神医学 II	児童精神医学 II
10月31日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
11月1日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
11月2日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
11月3日 金	文化の日					

第11週

11	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月6日 月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 特別講義 池田	
11月7日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
11月8日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
11月9日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
11月10日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第12週

12	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月13日 月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 岡田	
11月14日 火	臨床実習 (医学実習 I)					
11月15日 水	臨床実習 (医学実習 I)					
11月16日 木	臨床実習 (医学実習 I)					
11月17日 金	臨床実習 (医学実習 I)					

第13週

13	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月20日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 岡田	
11月21日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月22日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月23日 木	勤労感謝の日					
11月24日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第14週

14	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月27日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 岡田	
11月28日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月29日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月30日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月1日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第15週

15	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月4日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				児童精神医学Ⅱ	児童精神医学Ⅱ
12月5日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月6日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月7日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月8日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第16週

16	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月11日 月	体育の日				医療管理学・診断学 ワーク・ライフ・バランス 泉川他	
12月12日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月13日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月14日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月15日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第17週

17	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月18日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 岡田	
12月19日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月20日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月21日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月22日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第19週

19	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月8日 月	成人の日					
1月9日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月10日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月11日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月12日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第20週

20	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月15日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 岡田	
1月16日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月17日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月18日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月19日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第21週

21	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月22日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 岡田	
1月23日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月24日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月25日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月26日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第22週

22	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月29日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 岡田	
1月30日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月31日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月1日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月2日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第23週

23	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月5日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 岡田	
2月6日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月7日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月8日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月9日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第24週

24	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月12日 月	振替休日					
2月13日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月14日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月15日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月16日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第25週

25	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月19日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 岡田	
2月20日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月21日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月22日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月23日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

25	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月26日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 岡田	
2月27日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月28日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
3月1日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
3月2日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

平成29年度 講義・実習時間割 6年次生

第1学期

第1週

1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月3日 月	医学実習Ⅱ					
4月4日 火	医学実習Ⅱ					
4月5日 水	医学実習Ⅱ					
4月6日 木	医学実習Ⅱ					
4月7日 金	医学実習Ⅱ					

第2週

2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月10日 月	医学実習Ⅱ					
4月11日 火	医学実習Ⅱ					
4月12日 水	医学実習Ⅱ	定期健康診断				
4月13日 木	医学実習Ⅱ					
4月14日 金	医学実習Ⅱ					

第3週

3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月17日 月	医学実習Ⅱ					
4月18日 火	医学実習Ⅱ					
4月19日 水	医学実習Ⅱ					
4月20日 木	医学実習Ⅱ					
4月21日 金	医学実習Ⅱ					

※4月23日（午後）は健康診断予備日

第4週

4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
4月24日 月	医学実習Ⅱ					
4月25日 火	医学実習Ⅱ					
4月26日 水	医学実習Ⅱ					
4月27日 木	医学実習Ⅱ					
4月28日 金	昭和の日					

第5週

5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
5月1日 月						
5月2日 火						
5月3日 水	憲法記念日					
5月4日 木	みどりの日					
5月5日 金	こどもの日					

第6週

6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月8日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 腫瘍病理学
5月9日 火	医学実習Ⅱ					
5月10日 水	医学実習Ⅱ					
5月11日 木	医学実習Ⅱ					
5月12日 金	医学実習Ⅱ					

第7週

7	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月15日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 炎症病理学
5月16日 火	医学実習Ⅱ					
5月17日 水	医学実習Ⅱ					
5月18日 木	医学実習Ⅱ					
5月19日 金	医学実習Ⅱ					

第8週

8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月22日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 病理診断科・病理部
5月23日 火	医学実習Ⅱ					
5月24日 水	医学実習Ⅱ					
5月25日 木	医学実習Ⅱ					
5月26日 金	医学実習Ⅱ					

第9週

9	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月29日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 腫瘍病理学
5月30日 火	医学実習Ⅱ					
5月31日 水	医学実習Ⅱ					
6月1日 木	医学実習Ⅱ					
6月2日 金	医学実習Ⅱ					

第10週

10	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月5日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 炎症病理学
6月6日 火	医学実習Ⅱ					
6月7日 水	医学実習Ⅱ					
6月8日 木	医学実習Ⅱ					
6月9日 金	医学実習Ⅱ					

第11週

11	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月12日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 病理診断科・病理部
6月13日 火	医学実習Ⅱ					
6月14日 水	医学実習Ⅱ					
6月15日 木	医学実習Ⅱ					
6月16日 金	医学実習Ⅱ					

第12週

12	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月19日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 腫瘍病理学
6月20日 火	医学実習Ⅱ					
6月21日 水	医学実習Ⅱ					
6月22日 木	医学実習Ⅱ					
6月23日 金	医学実習Ⅱ					

13	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月26日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 炎症病理学
6月27日 火	医学実習Ⅱ					
6月28日 水	医学実習Ⅱ					
6月29日 木	医学実習Ⅱ					
6月30日 金	医学実習Ⅱ					

14	I	II	III	IV
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
7月3日 月	医療総合講義 薬の消失半減期を求める 小児科学	医療総合講義 新生児に薬を使用する 小児科学	医療総合講義 小児消化機能 小児外科	医療総合講義 小児栄養 小児外科
7月4日 火	医療総合講義 C型肝炎の病態と治療 消化器・神経内科	医療総合講義 JPTEC 内容提示とデモンストレーション 救急災害医学	医療総合講義 糖尿病 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	医療総合講義 甲状腺 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
7月5日 水	医療総合講義 脳神経外科の最近の話題 脳神経外科	医療総合講義 臓器移植 腎移植 泌尿器科学	医療総合講義 腫瘍学総論 臨床腫瘍学	医療総合講義 腫瘍学総論 臨床腫瘍学
7月6日 木	医療総合講義 安全管理(1) 手術部	医療総合講義 安全管理(2) 手術部	医療総合講義 血液製剤の使い方 輸血部	医療総合講義 婦人科領域における画像診断 周産期婦人科学
7月7日 金	医療総合講義	医療総合講義 婦人科悪性腫瘍の診断と治療 up-to-date 周産期婦人科学	医療総合講義 地域に求められる医師像 ～在宅医療・高齢者医療を中心に～ 地域医療教育支援センター	医療総合講義

15	I	II	III	IV
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
7月10日 月	医療総合講義 臨床研究総論 臨床腫瘍学	医療総合講義 臨床研究総論 臨床腫瘍学		
7月11日 火	医療総合講義	医療総合講義 C型肝炎の病態と治療 消化器・神経内科	医療総合講義 血液浄化療法 循環器・腎臓・脳卒中内科	医療総合講義 心不全の治療 循環器・腎臓・脳卒中内科
7月12日 水	医療総合講義	医療総合講義 肺癌の遺伝子治療 呼吸器・乳腺内分泌外科	医療総合講義 急性放射線障害・被ばく管理 救急災害医学	医療総合講義 若き俊英育成と医学の未来 消化器・神経内科
7月13日 木	医療総合講義 人工臓器 整形外科	医療総合講義 人工臓器 整形外科	医療総合講義 感染対策 手術部	医療総合講義 グリア細胞の機能と病態 消化器・神経内科
7月14日 金	医療総合講義	医療総合講義 気道確保と人工呼吸 麻酔科	医療総合講義 栄養療法が変えていくこれからのがん治療 ～Quality of Survivalをいじするための栄養管理～ 耳鼻咽喉科学	医療総合講義 東日本大震災から学ぶ救急災害医学の重要性と医師のありかた 救急災害医学

1	I	II	III	IV
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
8月28日 月	医療総合講義 医療連携 臨床腫瘍学	医療総合講義 医療連携 臨床腫瘍学	医療総合講義 関節リウマチにおける リハビリテーションの実態 血液・免疫・呼吸器内科学	医療総合講義(周産期婦人科学) 胎盤・臍帯に関する最新の話題 周産期婦人科学
8月29日 火	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義 肝癌の内科学的治療の進歩 消化器・神経内科
8月30日 水	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義 難治癌の集学的治療 肺癌の集学的治療 消化器外科
8月31日 木	医療総合講義 消化管・腹壁・腹膜 消化管出血 消化器・神経内科	医療総合講義 女性と漢方 周産期婦人科学	医療総合講義 急性肝不全 消化器・神経内科	医療総合講義 医事紛争 歯科口腔外科
9月1日 金	医療総合講義 チーム医療学 臨床腫瘍学	医療総合講義 チーム医療学 臨床腫瘍学	医療総合講義 救急治療・処置 熱傷治療 形成外科学	医療総合講義 B型肝炎の治療 消化器・神経内科

※卒業試験は9月4日(月)開始～11月10日(金)終了



KAGAWA
UNIVERSITY

Faculty of Medicine

2017